

博士論文

日本語の連体格助詞「の」と韓国語の冠形格助詞「의(ui)」の対照研究

林 仙雅

広島大学大学院国際協力研究科

2015年3月

日本語の連体格助詞「の」と韓国語の冠形格助詞「의(ui)」の対照研究

D102365

林 仙雅

広島大学大学院国際協力研究科博士論文

2015年3月

広島大学大学院国際協力研究科

論文名: 日本語の連体格助詞「の」と韓国語の冠形格助詞「의(ui)」の対照研究
学位の名称: 博士(学術)
学生番号: D102365
氏名: 林 仙雅

2015 年 / 月 28 日

審査委員会

委員長・准教授

深見 兼孝



教授

佐藤 暢治



教授

黒田 則博



広島大学大学院文学研究科・教授

今田 良信



広島大学名誉教授

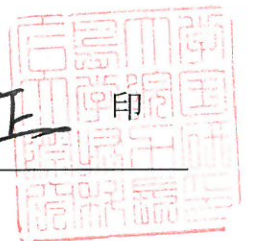
多和田 眞一郎



平成27年 2月27日

研究科長

藤原章正



目次

図および表の一覧表	iv
第1章 序論	1
1.1 研究の背景	1
1.2 研究の目的と方法	3
1.3 本論文の構成	4
第2章 関連先行研究と本研究の課題	6
2.1 「の」と「의」の研究	6
2.1.1 助詞「の」の研究	6
2.1.2 助詞「의」の研究	8
2.1.3 「の」と「의」の対照研究	11
2.2 名詞の動詞化に関する研究	15
2.3 「の」と「의」が2回以上現れる形式の研究	17
2.4 先行研究のまとめと課題および本研究の意義	20
第3章 調査	22
3.1 調査資料	22
3.2 データの分類基準	24
3.3 データの作成と手順	25
3.4 分類語彙表	26
3.5 本研究の「N ₁ のN ₂ 」と「N ₁ 의N ₂ 」の翻訳形式の結果	29
第4章 「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の動詞化	32
4.1 はじめに	32
4.2 動詞化に使われた動詞とそのタイプの分析	32
4.3 「N ₁ のN ₂ 」と「N ₁ 의N ₂ 」の動詞化タイプの比較	38
4.4 おわりに	52
第5章 「N₁のN₂」と「N₁의N₂」におけるN₁とN₂	55
5.1 はじめに	55
5.2 N ₁ が「人名詞」の場合	55
5.2.1 原作の結果	56
5.2.2 翻訳形式の結果	58

5.2.3 原作と翻訳の総合結果	59
5.2.3.1 「N ₁ のN ₂ 」の原作と翻訳との比較	59
5.2.3.2 「N ₁ 의N ₂ 」の原作と翻訳との比較	62
5.2.4 まとめ	64
5.3 N ₁ が「場所名詞」の場合	66
5.3.1 原作の結果	67
5.3.2 翻訳形式の結果	68
5.3.3 原作と翻訳の総合結果	69
5.3.3.1 「N ₁ のN ₂ 」の原作と翻訳との比較	69
5.3.3.2 「N ₁ 의N ₂ 」の原作と翻訳との比較	73
5.3.4 まとめ	76
5.4 N ₁ が「物名詞」の場合	79
5.4.1 原作の結果	79
5.4.2 翻訳形式の結果	81
5.4.3 原作と翻訳の総合結果	82
5.4.3.1 「N ₁ のN ₂ 」の原作と翻訳との比較	82
5.4.3.2 「N ₁ 의N ₂ 」の原作と翻訳との比較	89
5.4.4 まとめ	92
5.5 おわりに	95
第6章 N₁とN₂の意味関係	100
6.1 はじめに	100
6.2 N ₁ が「人名詞」の場合	100
6.2.1 「N ₁ のN ₂ 」の意味関係	100
6.2.2 「N ₁ 의N ₂ 」の意味関係	110
6.2.3 「N ₁ のN ₂ 」と「N ₁ 의N ₂ 」の意味関係の考察	119
6.3 N ₁ が「場所名詞」の場合	121
6.3.1 「N ₁ のN ₂ 」の意味関係	121
6.3.2 「N ₁ 의N ₂ 」の意味関係	125
6.3.3 「N ₁ のN ₂ 」と「N ₁ 의N ₂ 」の意味関係の考察	128
6.4 N ₁ が「物名詞」の場合	128
6.4.1 「N ₁ のN ₂ 」の意味関係	129
6.4.2 「N ₁ 의N ₂ 」の意味関係	131
6.4.3 「N ₁ のN ₂ 」と「N ₁ 의N ₂ 」の意味関係の考察	132
6.5 おわりに	133

第7章 「の」と「의」が2回以上現れる形式	136
7.1 はじめに	136
7.2 原作での「の」と「의」が2回以上現れる形式の対照	137
7.3 「の」と「의」が2回以上現れる形式の対照	139
7.4 N ₁ が「人名詞」の場合	141
7.5 N ₁ が「場所名詞」の場合	151
7.6 N ₁ が「物名詞」の場合	157
7.7 おわりに	161
第8章 結論	163
8.1 各章のまとめ	163
8.2 本研究の総合考察	168
8.3 今後の課題	169
【参考文献】	171

図および表の一覧表

<表>

<表 1> 김광해 (1981a:95) の N_1 と N_2 の分布	9
<表 2> 김광해 (1981a:95) に従った N_1 と N_2 の意味の資質分析 (林仙雅 (2014a:255))	10
<表 3> 최정룡 (1988:95) の助詞「の」と「의」の意味分類の対照表	11
<表 4> 최재웅 他 (2012) の韓日助詞「の」と「의」が 2 回以上現れる形式の回数	18
<表 5> 「Sejong」と「Kyoto」の比較	19
<表 6> 宮島 (2007) の「の」の重複	20
<表 7> 本研究の日韓の資料	23
<表 8> 「Excel」に整理していく順	25
<表 9> 国立国語研究所 (2004) 『分類語彙表』に収録した語の数	27
<表 10> 本研究で使用する国立国語研究所 (2004) 『分類語彙表』の構成	27
<表 11> 「 N_1 の N_2 」と「 N_1 의 N_2 」の翻訳形式	29
<表 12> 「 N_1 の N_2 」と「 N_1 의 N_2 」の動詞化タイプ	32
<表 13> 「 N_1 の N_2 」と「 N_1 의 N_2 」の翻訳形式「動詞化」に使われた動詞	33
<表 14> 「 N_1 の N_2 」($J \rightarrow K$)と「 N_1 의 N_2 」($K \rightarrow J$)との共通する動詞化タイプ	37
<表 15> 「名詞+에+動詞+名詞」と「名詞+に+動詞(+名詞)」に使われた動詞	39
<表 16> いわゆる広い意味で場所を表す名詞(N_1)が使われた用例	40
<表 17> 「 N_1 의 N_2 」の翻訳($K \rightarrow J$)の場合、受身的表現が使われた用例	41
<表 18> 「名詞+가/이+動詞(+名詞)」と「名詞+가+動詞(+名詞)」の動詞	42
<表 19> 「 N_1 の N_2 」と「 N_1 의 N_2 」の N_2 が動的な意味の用例	43
<表 20> 「名詞+의+動詞+名詞」と「名詞+の+動詞(+名詞)」の動詞	45
<表 21> 「名詞+의+動詞+名詞」動詞化タイプの用例	45
<表 22> 「名詞+の+動詞(+名詞)」動詞化タイプの用例(N_2 が「言語」)	46
<表 23> 「名詞+을/를+動詞(+名詞)」「名詞+을+動詞(+名詞)」の動詞	47
<表 24> 「名詞+을/를+動詞(+名詞)」「名詞+을+動詞+名詞」動詞化タイプの用例	48
<表 25> 「 N_1 의 N_2 」の N_2 が動的な意味の用例	48
<表 26> 「動詞+名詞」の動詞	49
<表 27> 動詞化タイプ「動詞+名詞」の動詞「하다/する」の用例	50
<表 28> 「名詞+動詞+名詞」の動詞	50
<表 29> 「名詞+動詞+名詞」の用例	51
<表 30> 日韓の共通する動詞化タイプに使われた意味的に対応する動詞	53
<表 31> 原作での「 N_1 の N_2 」と「 N_1 의 N_2 」における N_2 の分類(N_1 が「人名詞」)	56
<表 32> N_1 が「人名詞」のときの「 N_1 の N_2 」と「 N_1 의 N_2 」の翻訳形式	58
<表 33> N_1 が「人名詞」のときの「 N_1 の N_2 」の翻訳における N_2 の分布	60

〈表 34〉 N_1 が「人名詞」の翻訳形式「名詞+(으)+名詞」の翻訳率	61
〈表 35〉 N_1 が「人名詞」のときの「 N_1 의 N_2 」の翻訳における N_2 の分布	62
〈表 36〉 N_1 が「人名詞」の翻訳形式「名詞+の+名詞」の翻訳率	63
〈表 37〉 N_1 が「人名詞」の予想と一致した割合	66
〈表 38〉原作での「 N_1 の N_2 」と「 N_1 의 N_2 」における N_2 の分類(N_1 が「場所名詞」)	67
〈表 39〉 N_1 が「場所名詞」のときの「 N_1 の N_2 」と「 N_1 의 N_2 」の翻訳形式	69
〈表 40〉 N_1 が「場所名詞」のときの「 N_1 の N_2 」の翻訳における N_2 の分布	70
〈表 41〉 N_1 が「場所名詞」の翻訳形式「名詞+(으)+名詞」の翻訳率	71
〈表 42〉 N_1 が「場所名詞」のときの「 N_1 의 N_2 」の翻訳における N_2 の分布	74
〈表 43〉 N_1 が「場所名詞」の翻訳形式「名詞+の+名詞」の翻訳率	75
〈表 44〉 N_1 が「場所名詞」の予想と一致した割合	78
〈表 45〉原作での「 N_1 の N_2 」と「 N_1 의 N_2 」における N_2 の分類(N_1 が「物名詞」)	79
〈表 46〉 N_1 が「物名詞」のときの「 N_1 の N_2 」と「 N_1 의 N_2 」の翻訳形式	81
〈表 47〉 N_1 が「物名詞」のときの「 N_1 の N_2 」の翻訳における N_2 の分布	83
〈表 48〉 N_1 が「物名詞」の翻訳形式「名詞+(으)+名詞」の翻訳率	84
〈表 49〉 N_1 が「物名詞」のときの「 N_1 의 N_2 」の翻訳における N_2 の分布	90
〈表 50〉 N_1 が「物名詞」の翻訳形式「名詞+の+名詞」の翻訳率	91
〈表 51〉 N_1 が「物名詞」の予想と一致した割合	95
〈表 52〉予想と一致した割合	99
〈表 53〉翻訳形式「名詞+의+名詞」と「名詞+名詞」の用例(N_1 が「人名詞」)	100
〈表 54〉「 N_1 の N_2 」が対応している用例および対応していない用例(N_1 が「人名詞」)	102
〈表 55〉翻訳形式「名詞+の+名詞」の用例	110
〈表 56〉「 N_1 의 N_2 」が対応している用例および対応していない用例(N_1 が「人名詞」)	112
〈表 57〉「 N_1 の N_2 」(J→K)の意味関係(N_1 が「人名詞」)	119
〈表 58〉「 N_1 의 N_2 」(K→J)の意味関係(N_1 が「人名詞」)	119
〈表 59〉翻訳形式「名詞+의+名詞」と「名詞+名詞」の用例(N_1 が「場所名詞」)	121
〈表 60〉「 N_1 の N_2 」が対応している用例および対応していない用例(N_1 が「場所名詞」)	123
〈表 61〉翻訳形式「名詞+の+名詞」の用例(N_1 が「場所名詞」)	126
〈表 62〉「 N_1 의 N_2 」が対応している用例および対応していない用例(N_1 が「場所名詞」)	127
〈表 63〉「 N_1 の N_2 」(J→K)の意味関係(N_1 が「場所名詞」)	128
〈表 64〉「 N_1 의 N_2 」(K→J)の意味関係(N_1 が「場所名詞」)	128
〈表 65〉翻訳形式「名詞+의+名詞」と「名詞+名詞」の用例(N_1 が「物名詞」)	129
〈表 66〉「 N_1 の N_2 」が対応している用例および対応していない用例(N_1 が「物名詞」)	130
〈表 67〉翻訳形式「名詞+の+名詞」の用例(N_1 が「物名詞」)	131

〈表 68〉「N ₁ のN ₂ 」(J→K)の意味関係(N ₁ が「物名詞」)……………	133
〈表 69〉「N ₁ のN ₂ 」の意味関係が対応している用例および対応していない用例の総合・	133
〈表 70〉「N ₁ 의N ₂ 」の意味関係が対応している用例および対応していない用例の総合・	134
〈表 71〉原作での日韓のデータ結果……………	136
〈表 72〉日韓原作の共通した形式(「の」、「의」が2回現れる形式)……………	137
〈表 73〉日韓の対訳本での「の」と「의」2回現れる形式の翻訳形式……………	140
〈表 74〉「の」3回が現れる形式の翻訳形式……………	140
〈表 75〉「の」4回現れる形式の翻訳形式……………	141
〈表 76〉「の」と「의」が2回現れる形式における「N ₁ +N ₂ +N ₃ 」の組み合わせ(N ₁ は「人名詞」)……………	143
〈表 77〉日韓のN ₂ とN ₃ の比較(N ₁ が「人名詞」)……………	144
〈表 78〉日韓のN ₂ またはN ₃ のみに現れていた名詞類の比較(N ₁ が「人名詞」)……………	144
〈表 79〉N ₁ が「人名詞」の場合、「の」と「의」が2回現れる形式の翻訳形式……………	145
〈表 80〉「N ₁ のN ₂ のN ₃ 」と「N ₁ 의N ₂ 의N ₃ 」が対応し翻訳された形式(N ₁ が「人名詞」)……………	146
〈表 81〉N ₂ とN ₃ に翻訳された名詞類の項目(N ₁ が「人名詞」)……………	149
〈表 82〉N ₁ が「人名詞」の場合、「の」が3回現れる形式の翻訳形式……………	149
〈表 83〉「N ₁ のN ₂ のN ₃ のN ₄ 」が対応し翻訳された形式(N ₁ が「人名詞」)……………	150
〈表 84〉N ₁ が「人名詞」の場合、「の」が4回現れる形式の翻訳形式……………	150
〈表 85〉「N ₁ のN ₂ のN ₃ のN ₄ のN ₅ 」が対応し、翻訳された形式(N ₁ が「人名詞」)……………	150
〈表 86〉「の」と「의」が2回現れる形式における「N ₁ +N ₂ +N ₃ 」の組み合わせ(N ₁ は「場所名詞」)……………	152
〈表 87〉日韓のN ₂ とN ₃ の比較(N ₁ が「場所名詞」)……………	153
〈表 88〉日韓のN ₂ またはN ₃ のみに現れていた名詞類の比較(N ₁ が「場所名詞」)……………	153
〈表 89〉N ₁ が「場所名詞」の場合、「の」と「의」が2回現れる形式の翻訳形式……………	154
〈表 90〉「N ₁ のN ₂ のN ₃ 」と「N ₁ 의N ₂ 의N ₃ 」が対応し翻訳された形式(N ₁ が「場所名詞」)……………	155
〈表 91〉N ₂ とN ₃ に翻訳された名詞類の項目(N ₁ が「場所名詞」)……………	155
〈表 92〉N ₁ が「場所名詞」の場合、「の」が3回現れる形式の翻訳形式……………	156
〈表 93〉「N ₁ のN ₂ のN ₃ のN ₄ 」が対応し翻訳された形式(N ₁ が「場所名詞」)……………	156
〈表 94〉「の」が2回現れる形式における「N ₁ +N ₂ +N ₃ 」の組み合わせ(N ₁ は「物名詞」)……………	158
〈表 95〉日本語のN ₂ またはN ₃ のみに現れていた名詞類の比較(N ₁ が「物名詞」)……………	158
〈表 96〉N ₁ が「物名詞」の場合、「の」が2回現れる形式の翻訳形式……………	159
〈表 97〉「N ₁ のN ₂ のN ₃ 」が対応し翻訳された形式(N ₁ が「物名詞」)……………	159
〈表 98〉N ₂ とN ₃ に翻訳された名詞類の項目(N ₁ が「物名詞」)……………	160

〈表 99〉 N_1 が「物名詞」の場合、「の」が3回現れる形式の翻訳形式……………	160
〈表 100〉「 N_1 の N_2 の N_3 の N_4 」が対応し翻訳された形式(N_1 が「物名詞」)……………	160

〈図〉

〈図 1〉韓日の左枝分かれ構文(left-branching constructions)……………	2
〈図 2〉김광혜(1981:92)の樹形図(tree diagram)……………	9
〈図 3〉山梨(2004:58)の2種の所有表現……………	18
〈図 4〉「Excel」に整理した例……………	26

第1章 序論

1.1 研究の背景

日本語の連体格助詞「の」は「体言+の+体言」の形で「の」のあとに続く体言を修飾限定する(『明鏡国語辞典』)。韓国語にも「の」と同じ働きを見せる助詞「의(ui)¹」があり、冠形格助詞と呼ばれる。

강주헌(Kang Ju-heon) (2012:113)は「翻訳の際、日本語の影響を受けて、また、英語での「of」をきちんと翻訳しようとする働きがあり、最も過剰に使用される助詞が「의」である。」と述べている。また、韓国国立国語院のホームページ上の「우리말 바로 쓰기²(urimal baro sseugi) (韓国語の正しい使い方)」では「「의」の過剰使用は日本語の影響と見られるとされ、「효과적인 읽기의 방법을 이야기해 보자. (hyogwajeogin ikgiui bangbeobeul iyagihae boja) (効果的な読書の方法を話してみよう)」より、「효과적으로 읽는 방법을 이야기해 보자. (hyogwajeogeuro ingneun bangbeobeul iyagihae boja) (効果的に読む方法を話してみよう)」のように使う方が自然な韓国語である。」としている。このように日本語の影響により「의」が過剰使用されているということは、日本語の「の」と韓国語の「의」の前後に現れる名詞が似ているからであろう。

日本語の場合、助詞の中で格助詞「の」(即ち、名詞を結合する「の」)は最も使用率が高い³とされている。韓国語の場合も助詞の中で「의」は出現率が高い⁴。このように日本語と韓国語において格助詞「の」と「의」は他の助詞に比べて多く使用され、重要な役割を担っている。日本語と韓国語の対照研究の中で、助詞「の」と「의」は多く取り扱われている。その主な研究として、助詞「の」が韓国語にどのように対応するかの研究が多い。即ち、日本語から見て韓国語はどう対応するかの研究が多い。だが、韓国語から見て日本

¹ 本論文での韓国語のローマ字表記は韓国文化観光部告示、第2000-8号(2000. 7. 7.)に準ずる。表記の基本原則は韓国語の標準発音法によって記入することを原則としている。

<http://roman.cs.pusan.ac.kr/>

ハングル(한글)表記のあと、韓国語のローマ字表記に従いローマ字を併記する。ローマ字表記は初出に併記する。韓国人研究者の名前は漢字が確認できる場合は漢字表記後ローマ字を併記し、漢字が分からない場合はハングル表記後にローマ字を併記する。用例の提示にはローマ字で表記する。

² 「우리말 바로 쓰기(urimal baro sseugi) (韓国語の正しい使い方)」は韓国国立国語院の「온라인 가나다(online ganada) (オンラインカナダ)」というコーナーで提供する内容の一環である。ハングルの正しい使い方等の韓国語について知りたい点をオンライン上で質問を受けて、それを答えた内容を整理して公開している。

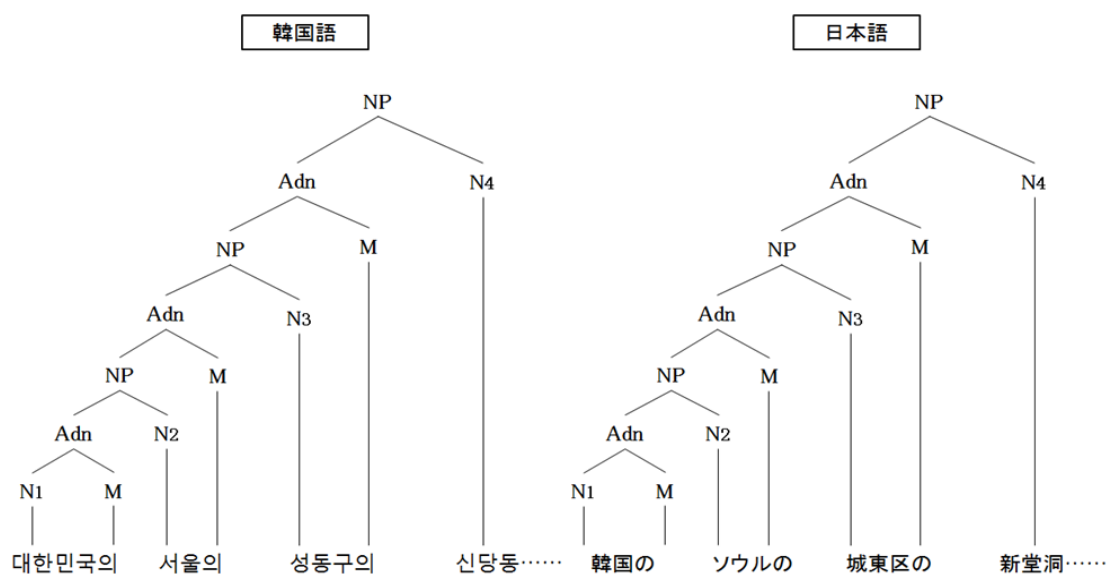
³ 奥津(1964:238)は、「国立国語研究所(1962)の『現代雑誌九十種の用語用字』第一分冊と第三分冊によると、格助詞「の」の使用率は助詞・助動詞全体の約13%、順位は1位と最も高い」としている。

⁴ 고석주(Go Seok-ju) (2008)では、韓国語の助詞の中で「을/를(eul/reul) (1位)」と「가/이(ga/i) (2位)」に続き第3位が助詞「의(ui)」である。全体の助詞の中で比率は13.785%である。

語はどう対応するかの研究、および両言語から見た対応についての研究は数少ない。さらに、助詞「の」と「의」は前後に名詞が連結されるということは共通である。その名詞と名詞の連結がし易い、連結がし難いという表れ方については述べられていない。その原因は全ての名詞の組み合わせを検証することはおそらく不可能なほど連結される名詞が広範囲に及ぶからであろう。

韓国語の助詞「의」は理論上、無限に「左枝分かれ構文⁵」の生成に関係することができる。また、日本語の助詞「の」も韓国語と同様に理論上、無限に「左枝分かれ構文」生成が可能と考えられる。김광해(Kim Gwang-hae) (1981b:12) が表している樹形図 (tree diagram) を用いて日本語を表すと両言語の助詞「の」と「의」は同じ様相であることが分かる。

〈図 1〉は김광해(1981b:12)が提示した樹形図(左側)で、これに従い日本語(右側)も同じ形式に表したものである。日本語と韓国語共に類似した形式で表現できることが確認できる。김광해(1981b:12)は最後の名詞(신당동(sindangdong))が中心部(head)または従属関係(Subordinative)を形成できると述べ、このような機能は他の助詞とは違い、主に名詞類と連結するというのは助詞「의」が持つ特徴であると述べている。同様のことは「の」についても言える。



〈図 1〉韓日の左枝分かれ構文(left-branching constructions)

⁵ 김광해(Kim Gwang-hae) (1981b:12)は、Chomsky(1965:13)の「左枝分かれ構文」を韓国語に適用して表している。김광해(1981b:12)は「左分枝構文」と翻訳されているが、安井稔訳(1970)では「左枝分かれ構文」と翻訳しており、本稿では安井稔の翻訳に従う。

Chomsky(1965:13)は、「左枝分かれ構文」は[[[…]…]…]という形を持っており、[[[[[John]’s brother]’s father]’s uncle]という例を挙げている。

このように助詞「の」と「의」によって名詞が結びつけられる構造には差がないようにも見える。しかし、これは「の」や「의」で連結される名詞については何も語っていない。

上記では、日本語の影響により、「의」が過剰使用されていることは前後に現れる名詞が似ているからであろうと述べたが、異なった言語である以上、「の」と「의」の前後に現れる名詞に何らかの違いがあるのは当然であろう。しかし、後述するようにこの点に関する研究は余り行われていないのが現状である。「の」と「의」以外の格助詞は述語との関係、格助詞の前に来る名詞等を見るが、「の」と「의」の場合は前後に現れる名詞がどのような関係であるのかを見るべきである。しかし、その名詞についての研究は数少ない。その点、「の」と「의」の対照研究は、他の格助詞の対照研究に比べ、遅れていると言わざるを得ない。

1.2 研究の目的と方法

本研究は日本語と韓国語の文学作品の原作とその翻訳本を使い分析を行う。それから、データを作成する(第3章でより詳しく説明)。名詞の分類は国立国語研究所(2004)『分類語彙表』を使用し、「1体の類」の43項目を見る。

本研究の目的は、名詞を修飾する構造を作る「の」と「의」がどのような名詞を結びつけるかについて日本語と韓国語の違いを見ることである。これには2つのケースが考えられる。まず、日本語と韓国語の語彙の結合に相違があって、「の」と「의」により結びつけられる名詞に差が生じると思われる。即ち、「の」で結びつけられる名詞に対応する名詞が韓国語に存在しないために、その部分が韓国語で欠落しているというケースである(逆の場合も当然あるであろう)。もう一つは、このような欠落がないにもかかわらず、何らかの理由で名詞が結びつかないケースである。この場合、その原因は意味の問題に帰着する可能性が高いと思われる。これにも2つのケースがあって、1つは名詞が何を表しているかによって、結びつき易い、結びつき難いという難易度があると思われる。もう1つは名詞がどのような意味で結びつくかによって、日韓の差がある可能性があると思われる。本研究はこのうち、後者の2つの側面、即ち、名詞の意味という側面から、「の」と「의」で結びつけられる名詞の違いを見ようと思う。具体的には次のことを考察する。

1)名詞を分類して、原作の出現率が0%の項目を日韓で確かめる。0%だった部分が翻訳されているかどうかを探る。

「 N_1 の N_2 」と「 N_1 의 N_2 」の原作において、 N_2 の43項目の内、出現率が0%であるものが日韓の翻訳においても翻訳率が0%であったら、その名詞の項目は N_1 との組み合わせ

が無い場合、翻訳されない可能性がある。一方、原作において、N₂の43項目の内、出現率が0%であるものが日韓の翻訳においては翻訳が現れたら、その名詞の項目は言語にあるものだが、原作において現れなかった項目と把握される。

「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の原作でのN₁とN₂の表れから見えた特徴が翻訳においても観察できるとすれば、それは、日本語や韓国語のN₁とN₂の表れ方である可能性が高い。それによって、N₁とN₂の結びつき易さ(結びつき難さ)を見ることができる。

2) N₁とN₂の意味関係において特徴を探る。

N₁とN₂の意味関係に直接起因して「N₁のN₂」と「N₁의N₂」が対応せず翻訳された用例と対応し翻訳された用例を比較し、その特徴を把握する。それによって、N₁とN₂のどの項目(「1体の類」の43項目)の意味関係が日韓で対応しないのかを把握することが期待される。

3) 「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の翻訳における「動詞化⁶」の特徴を探る。

「N₁のN₂」の翻訳(J→K)と「N₁의N₂」の翻訳(K→J)とを比較して、動詞化に使われた動詞を見る。ここで、日韓で意味的に対応する動詞があるかを探る。また、「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の動詞化をタイプ化し、日韓の動詞化の共通するタイプを分類する。その各タイプごとに見られた動詞化の要因を検討する。それによって、「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の翻訳における「動詞化」にはどのような特徴があるのかを把握することが期待される。

4) 「の」と「의」が2回以上現れる形式について名詞の組み合わせを探る。

「の」と「의」が2回以上現れる形式の名詞を分類し、名詞の組み合わせを分析する。それによって、「の」と「의」が2回以上現れる形式に使われる名詞の種類と連結の傾向を把握することが期待される。

1.3 本論文の構成

本論文は、8章で構成されている。

本章の第1章では、研究の背景および目的と方法を、第2章では、関連先行研究の検討から得られた課題と本研究の意義を述べる。第3章では、本研究の調査データの収集理由や分類方法、国立国語研究所(2004)『分類語彙表』、本研究の全体のデータから得た「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の翻訳形式等について述べる。

第4章では、「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の翻訳形式から「動詞化」を中心に分析を行う。

⁶ 本研究での「動詞化」とは、「N₁のN₂」と「N₁의N₂」が動詞を用いた形式で翻訳された用例である。既存の研究では、金恩愛(Kim Eun-ae)(2003)は「動詞表現」、林八龍(Lim Pal-yong)(1995)は「動詞表現構造」という用語を使用している。

4.1 では、動詞化の何について分析するかを提示する。4.2 では、動詞化に使われた動詞について表し、また、日韓の共通する動詞化タイプについて示す。4.3 では、日韓の共通する動詞化タイプごとに見られた特徴を述べる。4.4 では、本章をまとめて、結果を述べる。

第5章では、「 N_1 の N_2 」と「 N_1 의 N_2 」の N_1 を固定し、 N_2 を国立国語研究所(2004)『分類語彙表』に基づき分類を行い、 N_1 と N_2 の表れについて考察する。5.1 では、本章で考察することについて述べる。また、本章から予想されることについて言及する。5.2 では、「 N_1 の N_2 」と「 N_1 의 N_2 」の N_1 が「人名詞」の場合、原作での N_1 と N_2 の表れ、翻訳形式、原作と翻訳の総合について考察する。5.3 では、「 N_1 の N_2 」と「 N_1 의 N_2 」の N_1 が「場所名詞」の場合、原作での N_1 と N_2 の表れ、翻訳形式、原作と翻訳の総合について考察する。5.4 では、「 N_1 の N_2 」と「 N_1 의 N_2 」の N_1 が「物名詞」の場合、原作での N_1 と N_2 の表れ、翻訳形式、原作と翻訳の総合について考察する。5.5 では、本章で見られた結果を総合して述べる。

第6章では、「 N_1 の N_2 」と「 N_1 의 N_2 」の N_1 と N_2 にどのような意味関係が見られるか、 N_2 の各項目ごとに検討する。6.1 では、 N_1 と N_2 の意味関係に直接起因すると思われる場合を分析することについて述べる。6.2 では、 N_1 が「人名詞」の場合について、「 N_1 の N_2 」と「 N_1 의 N_2 」における N_1 と N_2 の意味関係を分析する。6.3 では、 N_1 が「場所名詞」の場合について、「 N_1 の N_2 」と「 N_1 의 N_2 」における N_1 と N_2 の意味関係を分析する。6.4 では、 N_1 が「物名詞」の場合について、「 N_1 の N_2 」と「 N_1 의 N_2 」における N_1 と N_2 の意味関係を分析する。6.5 では、本章で見られた結果をまとめて述べる。

第7章では、「の」と「의」が2回以上現れる形式について分析する。7.1 では、本章で扱うデータを量的に提示して、考察することについて述べる。7.2 では、日韓の原作での対照を行い、共通のパターンについてどのような特徴が見られるかを述べる。7.3 では、「の」と「의」が2回以上現れる形式の翻訳形式について考察する。7.4 では、「 N_1 の N_2 の N_3 」と「 N_1 의 N_2 의 N_3 」の N_1 が「人名詞」の場合、 N_2 と N_3 の組み合わせについて、どのような傾向が見られるか、また、翻訳においての特徴について考察する。7.5 では、「 N_1 の N_2 の N_3 」と「 N_1 의 N_2 의 N_3 」の N_1 が「場所名詞」の場合、 N_2 と N_3 の組み合わせについて、どのような傾向が見られるか、また、翻訳においての特徴について考察する。7.6 では、「 N_1 の N_2 の N_3 」の N_1 が「物名詞」の場合、 N_2 と N_3 の組み合わせについて、どのような傾向が見られるか、また、翻訳においての特徴について考察する(この節では韓国語の該当例が見られなかった)。7.7 では、本章で見られた結果をまとめて述べる。

第8章では、本研究の総合考察と今後の課題について述べる。

第2章 関連先行研究と本研究の課題

本章では日本語と韓国語の助詞「の」と「의」に関する先行研究を検討し、本研究での課題と意義について述べる。

まず、2.1 では、日本語の助詞「の」と韓国語の助詞「의」の各々の分類についてどのような研究が行われてきたかを把握し、「の」と「의」の対照研究としてはどのような研究があるかについて述べる。次に2.2では、「動詞化」に関連する研究を見て、2.3では助詞「の」と「의」が2回以上現れた形式の研究について見る。2.4では、本研究の課題と意義をまとめる。

2.1 「の」と「의」の研究

2.1.1 助詞「の」の研究

助詞「の」については、それがいわゆる格助詞に入れるのかどうかについての議論、および「AのB」の意味についての研究がなされている。

橋本(1938:149)は助詞「の」は体言に連る修飾語をつくるのに用いるのが最も普通であるが、その外に、主語を表すために用いる事も少なくないとしている。時枝(1950)は体言に付いて所有格を表す、付属句の主語格を表す、独立格の文の主語格を表すと助詞「の」を3通りに示している。山田(1936:77)は格助詞に属するものは文語では「の」「が」「を」「に」「と」「へ」「より」「から」があると述べ、「の」を格助詞としている。奥津(1978:122)は、助詞「の」について、所有格を示す格助詞とする説が多いが、この説には賛成できないとしている。「の」は名詞について名詞を修飾するという連体修飾がその機能だから、「の」は格助詞とは大いにちがう働きを持っている」とし、さらに、「名詞+ノ+名詞」という単純な連体構造において、すべての「ノ」がそうだとは言えまいが、原則として「ノ」は連体の助詞ではなく、「ダ」の連体形であり、主語その他が省かれた最も単純な「ダ」型文、「名詞+ダ」が後続する名詞を修飾する構造と考えられる(奥津(1978:130))」と述べている。

以上のような議論がなされているが、本研究で分析している「の」は伝統的な言い方に従い、連体格助詞としておく。

「AのB」の意味について、国立国語研究所(1951)では連体格助詞としての「の」が作る「AのB」の意味を約20項目に分類している。また、森田(2007)もA、Bが名詞である時の「AのB」意味を約20項目に分類している。国立国語研究所(1951)と森田(2007)の分類は重ならない部分もあり、「AのB」の分類が困難であることを示している。

鈴木(1987:6)は、「ノ格の名詞と名詞とのくみあわせは、実際の使用の次元では、きわめて多様であって、まるで、ルールがないようではないかと思いたくなるほどであるが、場面や文脈のたすけをかりて、くみあわせの意味が分かる場合がある」と述べ、名詞をかざられとする連語のなかで、ノ格の名詞をかざりとする組み合わせには関係的なむすびつき、状況的なむすびつき、規定的なむすびつきの三種類を観察することができるとしている。この「の」の分類に従い、韓国語の「의」を分類してみると同じような分類が可能と推測され、このレベルの分類では日韓の差は見られないだろう。従って、より詳細な N_1 と N_2 の分類を行わないと「の」と「의」の連結について述べることは出来ないだろう。

寺村(1991:238)は「の」によって結び付けられた二つの名詞の意味関係は多様であるとして、「NノN」の約18種の例を提示している。「たんに意味的にレットルをはっていても、きりがないだけでなく、あまり意義があるとは思われない。多くの人がいうように、「どんな名詞でも「ノ」でつなげる、そこに規則等ない」と思いたくなるぐらいである」と述べている。この見解には筆者も同感である。

西山(2004:6)は「 NP_1 の NP_2 」についての研究は、連体修飾の研究に比して、さほど進んでいないように思われる」と述べ、 NP_1 と NP_2 の意味関係からいって、少なくとも次の5つの異なったタイプのもものが存在するとしている。

(1)タイプ[A]: NP_1 と関係Rを有する NP_2

「 NP_1 の NP_2 」という表現の典型は、修飾語 NP_1 が、主要語 NP_2 の限定詞もしくは付加詞になっており、 NP_1 と NP_2 のあいだに、〈前者が後者と関係Rを有する〉と言う意味をもつケースである。(北海道の俳優)

(2)タイプ[B]: NP_1 デアル NP_2

タイプ[B]は修飾語 NP_1 が、主要語 NP_2 の付加詞になっていうという点ではタイプ[A]と共通しているが、 NP_1 と NP_2 のあいだに「 NP_1 と関係Rを有する NP_2 」と言う意味的緊密関係は成立していないという点でタイプ[A]と異なる。(北海道出身の俳優)

(3)タイプ[C]: 時間領域 NP_1 における、 NP_2 の指示対象の断片の固定

NP_1 が特定の時間領域を表し、 NP_2 の指示対象をその領域のなかで固定するケースである。(東京オリンピック当時の君)

(4)タイプ[D]: 非飽和名詞 NP_2 とパラメータの値 NP_1

非飽和名詞はかならず「Xの」というパラメータを要求し、パラメータの値が定まらな

⁷西山(2004:33)によると、この芝居の主役、第14回ショパン・コンクールの優勝者、太郎の上司等の名詞句における主要語 NP_2 のN、はいずれもある特徴を有しているとしている。即ち、「主役」「優勝者」「上司」は、「Xの」というパラメータの値が定まらないかぎり、その単独では外延(extension)を決めることができず、意味的に充足していない名詞とし、このような名詞を「非飽和名詞」と呼んでいる。

いかぎり、意味として完結しないのである。(この芝居の主演)

(5)タイプ[E]: 行為名詞⁸句 NP₂ と項 NP₁

「NP₁のNP₂」の結びつきのなかには、修飾語 NP₁が、主要語 NP₂の補語(complement)になっているケースがある。(物理学者の研究←物理学を研究する)

ところが、「NP₁のNP₂」の名詞句だけを見ると、色々な意味の解釈ができる場合がある。西山(2004:47)も「この町の弁護士」はタイプ[A]とタイプ[D]と読むかで曖昧なケースとしている。そのため、文全体から「NP₁のNP₂」の意味関係を見ることが必要であると思われる。これは、韓国語においても同様であろう。韓国語も上記の5つのタイプに分類することが可能で、かつ、「N₁のN₂」と「N₁의 N₂」は名詞句のみだと色々な意味解釈ができる。これでは日韓の差は見られないと思われる。

以上、助詞「の」の研究から次のような疑問が生じる。どのような名詞が限定されて「の」により連結されるかの範囲が把握できない。「N₁のN₂」の名詞句のみでは色々な意味解釈が見られるため、文単位で「N₁のN₂」の意味を解釈するべきであると思われる。

2.1.2 助詞「의」の研究

김선효(Kim Seon-hyo)(2011:123)は「名詞句構成に関する助詞「의」の研究には話用論的な研究、統辞論的な研究、意味論的な研究⁹に分けて進められ、色々な観点で国語の名詞句を深く扱った」と述べている。このように、「의」は色々な観点で研究されている。

本節では意味論的な研究を中心に「의」によるN₁とN₂をどのように分類しているかを中心に概観する。助詞「의」の意味に関する研究には최현배(Choe Hyeon-bae)(1929)、김광해(Kim Gwang-hae)(1981a)、김승곤(Kim Seung-gon)(2007)等が挙げられる。

최현배(Choe Hyeon-bae)(1929)は「의」を冠形格助詞と名付けて、体言の後に付いて体言を修飾する冠形詞のようなことをする助詞と述べ、その意味を12項目¹⁰に分類している。しかし、この分類の項目の中で「所有」の例として「나의 책(私の本)」「너의 집(あなたの家)」を挙げているが、「나의 책(私の本)」の場合はN₁が書いた、作成したN₂のように「生産者(N₁)-生産物(N₂)」とも解釈が可能である。このように一つの名詞句が色々な解釈できる可能性がある。この点は日本語の「の」も変わらないだろう。

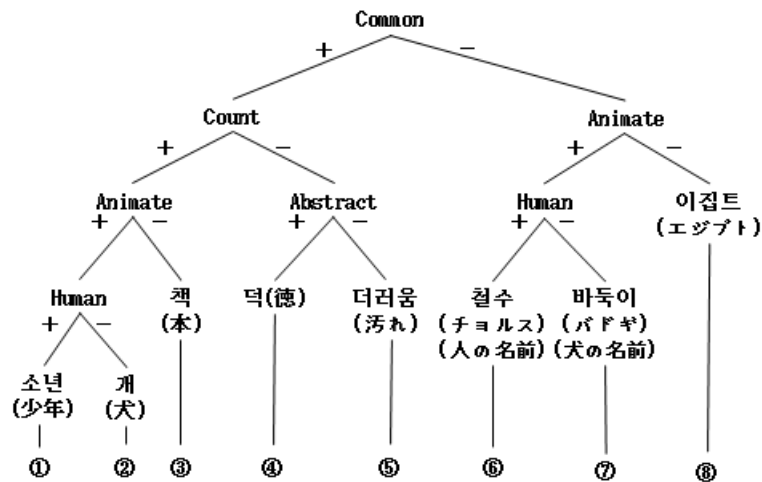
⁸ 物理学の研究、この町の破壊、パスポートの紛失等の名詞句の主要語NP₂のNはいずれも漢語サ変動詞系名詞である。この種の名詞を「行為名詞」と呼んでいる。西山(2004:40)参照。

⁹ 話用論的な研究には정희정(Jeong Hui-jeong)(2000)等が挙げられる。統辞論的な研究には서정목(Seo Jeong-mok)(1978)、김봉모(Kim Bong-mo)(1979)、최경봉(Choe Gyeong-bong)(1995)等が挙げられる。

意味論的な研究には최현배(Choe Hyeon-bae)(1929)、김광해(Kim Gwang-hae)(1981)、김승곤(Kim Seung-gon)(2007)等が挙げられる。

¹⁰ 「所有」、「関係」、「所在」、「所産」、「所起」、「比喩」、「対象」、「所成」、「名称」、「所属」、「所作」、「単純な冠形格助詞」である。

김광해 (Kim Gwang-hae) (1981a) は N_1 と N_2 の意味の資質 (semantic feature)¹¹により「의」の「必須出現の環境」と「Zero化が可能な環境」が決まるとし、名詞の資質による「의」の分布について検討を行っている。その樹形図 (tree diagram) が<図 2>である。



<図 2> 김광해 (1981a:92)의 樹形圖 (tree diagram)

김광해 (1981a) は、 N_1 と N_2 の資質によって「의」による結合には難易があることを提示して意義があるが、この 8 つの名詞の分類だけでは N_1 と N_2 の関係を説明しきれないと思われる。以下の<表 1>は 김광해 (1981a:95) の N_1 と N_2 の分布の一部を取出し、示したものである。

<表 1> 김광해 (1981a:95)의 N_1 と N_2 의 分布

	N_1	N_2	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	
김광해	①		∅	∅	∅	+	+	/	∅	/	∅ : Zero化可能 + : 必須的出現 / : 成立不可能又は用例なし ? : Zero化又は成立が疑わしい
	⑥		∅	+, ∅	∅	+	+	/	∅	?	

ここで、김광해 (1981a) で示された N_1 と N_2 の意味の資質 (semantic feature) に従って、(<図 2> と <表 1> 参照) 林仙雅 (Lim Sun-a) (2014a) は文学作品のデータ「 N_1 의 N_2 」と「 N_1 의 N_2 」を分類して用例を数えた。その結果が<表 2>である。

¹¹ Chomsky (1965 : 82, 83) に基づいて韓国語を分類している。

〈表 2〉김광해 (1981a:95) に従った N₁ と N₂ の意味の資質分析 (林仙雅 (2014a:255)¹²)

	N1	N2	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	
韓国語	①		144	6	637	47	907	0	0	0	1,741
	⑥		80	0	521	17	497	2	1	0	1,118
日本語	①		96	3	418	38	653	68	0	0	1,276
	⑥		110	2	419	10	492	1	0	4	1,038

김광해 (1981a) で「成立不可能または用例なし」とした組み合わせの内、N₁⑥－N₂⑥¹³は数こそ少ないものの用例が存在し、N₁①－N₂⑥¹⁴の場合、日本語は 68 の用例が見つかった。確かに、김광해 (1981a) と林仙雅 (2014a) は大体において一致していると言えるが、細部においては、なお当てはまらない。だが、この分類だと日韓ではっきりとした N₁ と N₂ の差があるとは言いきれないだろう。日韓で差が見られたものの、その差は大きくなく、およそ同じ傾向を示しており、韓国語と日本語との対照を行うには、対照の基盤として適当とは言えない。김광해 (1981a) は韓国語母語話者によるものではあるが、「もれ」が無いとは言いきれないという問題点は残る。やはり、一定量の書かれたデータの分析と組み合わせる必要がある。

김승곤 (Kim Seung-gon) (2007) は約 50 以上に分類しており、今まで論議されている「의」の中で一番多様な意味を提示している。「의」の意味は前後の言葉によって決まるため、確定された意味が何種類になるのかを決めることはできないと述べ、多様な例を提示し、用法を説明している。김승곤 (2007) では「의」の統語的な意味の分析はほとんど述べられていると言っても過言ではないだろう。しかし、「의」の用法をこれほど下位分類すると逆に纏まった分類が難しい。結局、「の」の状況と似たり寄ったりと言うことができるだろう。

以上の研究から次のような疑問が生じる。「의」も「の」と同じくどのような名詞が限定されて「의」により連結されるかの範囲が把握できない。そのため、どの名詞でも助詞「의」で連結されるという印象を受ける。しかし、김광해 (1981a) は、N₁ と N₂ の資質によって、「의」による結合の難易に差があることを示した点で意義が大きい。別の観点から N₁ と N₂ を分類することで、「の」と「의」の相違点が見えてくる可能性がある。

¹² 林仙雅 (2014a:255) の一部を修正した。

¹³ N₁⑥－N₂⑥の用例、「홍명희 역시 성종과 인수대비로부터 시작해 연산군의 폭정과 중종 연간 조광조 일파에게 현아닥친 기묘사화 거쳐 명종조의 문정왕후와 그의 형제들인 윤원로. (hongmyeonghui yeoksi seongjonggwa insudaebilobuteo sijaghae yeonsangunui pogjeo nggwa jungjong yeongan jogwangjo ilpaeye hyeonadagchin gimyosahwa geochyeo myeongjo ngjoui munjeongwanghuwa geuui hyeongjedeulin yunwonlo) (洪命薫も、成宗と仁粹大妃から始まり、軒此郡の暴政お酌岩ン代に、喝光哺京を追い込んだ己卯士禍を経て、明宗代の文定王后とその兄弟である要元老。) (국화꽃(菊花の香り)p. 195) 「だって朔太郎って、萩原朔太郎の朔太郎だろう。(世界の中心p. 11)」

¹⁴ N₁①－N₂⑥の用例、「長男の誠吉は大学に入るまでひたすら勉強に明け暮れていた。(ラストソングp. 102)」

2.1.3 「の」と「의」の対照研究

従来の日本語と韓国語の各々のN₁とN₂の意味関係を分析した結果を比べても日本語の「社長の田中さん」のような、いわゆる「同格」の「の」が「의」には対応しない、韓国語の「이 놈의 X」が日本語で「このXのやつ」のように名詞の位置が入れ替わると言うことを除けば、これと言った差が見い出せない。さらに、従来の対照研究ではその比較の基準がまちまちである。

「の」と「의」の対照研究には、최정룡(Choe Jeong-ryong) (1988)、박복덕(Park Bok-deok) (1988)、金善姬(Kim Seon-hui) (1993)、김인현(Kim In-hyeon) (1993)、朴在權(Park Jae-gwon) (1997)、吳玟定(O Hyeon-jeong) (1997)、洪榮珠(Hong Yeong-ju) (2006)、李惠正(Lee Hye-jeong) (2009)等がある。これらの研究についてどのように研究されているか概略に述べる。

최정룡(1988)は機能的な面では「の」は格助詞、準体助詞、並立助詞、終助詞と4種の機能を持ち、韓国語の「의」は格助詞の連体修飾の機能のみであると述べ、助詞「の」と「의」の意味分類において、日本語の25種と韓国語の16種¹⁵を対照している。それを表したのが以下の〈表3〉である。

〈表3〉최정룡(1988:95)の助詞「の」と「의」の意味分類の対照表¹⁶

	「の」の意味分類「国研」他	例(日本語)	例(韓国語)	「의」の意味分類「김승곤」他
1	所有・属性	単語の意味	자기의 집 (自身の家)	所有主
2	作成者	ベートーベンの第五交響楽	이인식의 혈의누(イインシクの「血の累(文学作品)」)	作成者
3	所属の団体	政府の官吏	부인회의 간부(婦人会の幹部)	所属
4	関係の基点	わたしたちのお客	양반의 아들(兩班の息子)	関係の基盤
5	存在の場所・位置	故郷の山水村の先生	경주의 석굴암(慶州の石窟庵)	所在
6	抽象的な場所	形式上の制約	인류사회의 생존(人類社会の生存)	発生
7	選択の範囲	楽しみのひとつ	만 이천봉 중의 최고봉(万二千の峰々中の最高峰)	選択の範囲

¹⁵ 「の」は国立国語研究所(1970:155)の分類22種と松村(1971:651)等から3種を取り上げた25種で、韓国語の「의」は김승곤(1969:65)が分類した14種と최정룡(1988)が2種を加えた16種である。최정룡(1988:89)参照。

¹⁶ 〈表3〉の例(韓国語)は筆者が日本語訳を施した。「의」の意味分類での「X」は韓国語の「의」にはこれに対応する分類がないという印である。「△」は「の」に一部対応するとしている。

8	存在の時刻・時期	十四世紀の始め	지난날의 국문학(過去の国文学)	時間・時期
9	性格・性質・状態	緑色の目	운동자의 자격(運動者の資格)	状態
10	材料	丸木のいす		X
11	数量・順序	一冊のスケッチ帳	하나의 새로운 시기(一つの新しい時期)	数量・順序
12	サ変動詞の語幹	散歩のとき		△
13	形容動詞の連体形語尾	わずかの例外		△
14	後続の体言の範囲・領域	クラス対決のバレーボール大会	초기의 크리스티교 신자(初期のキリスト教信者)	後の体言の範囲
15	目的の事物(〜のための)	旅行の準備	삶의 터전(生活の場)	必要性
16	関与物(〜に関する)	レクリエーションの問題	부모의 안부(親の鞍部)	実質の関係
17	同格	法律家の父		△
18	指示する語につく	あちらの家	다음의 두 방법(次の2通り)	指示する語につく
19	形式名詞に接続	貧しい人のため		X
20	形容を示す場合(〜のような)	夢の世の中		△
21	「であった、である」のような断定的な意味	六年生の時		X
22	主格	水の流れ	지은이의 주장(著者の主張)	主語
23	客語	海水の利用	서적의 편찬(書籍の編纂)	目的語
24	副詞+の+体言	さっそくのご返答		X
25	関係代名詞のような「の」	コーヒーの濃い		X

〈表 3〉から、韓国語の 16 種は日本語の 25 種に全て意味的に対応すると見られる。一方、残りの 9 種について、최정룡(1988)は韓国語の用例¹⁷を出し考察している。〈表 3〉の「10」「21」「25」は「의」が省略されるもの、また、「19」「24」は「의」ではなく他の語に表されるもの。さらに、「12」「13」「17」「20」は日本語の「の」に部分的に対応するものとしている。その中で、「の」に部分的に対応するもの「12」を例えると「呼吸の回数」が「호흡하는 회수(hoheubhaneun hoesu)(呼吸する回数)」「호흡의 회수(hoheubui hoesu)(呼吸の回数)」のように「의」が介在された形式のみではなく、他の表現も可能である場合としており、対応しないわけではない。9 種について挙げられている用例を見ると、ほとんどが韓国語でも見られる。日韓で比較して韓国語に見られなかった部分がたまたま比較した資料の中で抜けていたと言えるだろう。また、최정룡(1988)は日本語の 25 種と韓国語の 16 種を比較した根拠については述べていない。このように、日本語と韓国語の各々の用法を比較しても差異を見つけることは困難である。やはり、原作と翻訳の資料からお互いの対応関係を見ることにより、「の」と「의」の差異が見えてくると思える。박복덕(1988)はどのような場合に「の」と「의」が対応しているかについて、川端康成の『雪国』の例を使い考察している。박복덕(1988:145)は「日本語の「の」の表現に、決定的に対応する表現は韓国

¹⁷ 최정룡(1988)は日韓の中学教科書から用例を引用している。また、日本語に比べて韓国語に現れていなかった9種について日本語の用例を韓国語に翻訳して検証している。

語には存在しないとさえ考えられる。「の」と直感的に結びつけて考えられる「의」でさえほんの少ししか対応していないのである。逆に韓国語の「名詞+의+名詞」は全て日本語の「名詞+の+名詞」で表現できると言っても言い過ぎではないのに、日本語の「名詞+の+名詞」は韓国語に訳すとき、極めて限られた場合しか「名詞+의+名詞」で現れないのである。結局、「の」の領域が「의」より広いわけだから、「の」と「의」とは重ならないのである。従って、「の」と「의」とは厳密には一致しないと見てよいだろう」と述べている。金善姫(1993:48)は韓国語において属格助詞¹⁸が現れるときと現れないときの意味の違いを中心に、日本語の「の」と対照を行い、「의」の省略は幅広く行われるが、省略されるときと比べると、省略されないときは、N₁の意味は強調され、限定されており、「의」にはそうした役割がある一方で、N₁の意味を具体化する役割もある。これに対して、「의」を介在させない表現は、2つの名詞を組み合わせた本来の意味よりも、事物をさらに抽象的、比喩的にとらえた表現となり、合成語として定着していることが多い。また、非限定的でもある。日本語においても、「水戸の納豆」、「愛媛のみかん」のように、その地方の特産物を示すものに比べて、「水戸納豆」「愛媛みかん」は商品として理解される。このように定着語または漢語の組み合わせにおいて「の」の省略が多く見られる」と述べている。김인현(1993:137)は両語の「の」と「의」の省略と「の」の誤用等について学習上の問題点を指摘し、効果的な学習方法が必要と述べ、対照を行っている。「の」と「의」の用法と機能の対照では、「の」を33項目に分類し、それらを「의」が対応する、対応しない、部分的に対応するという3項目に再分類している。だが、「の」と「의」の用法と機能が述べられているがどのような基準で「の」を33項目に分類しているか述べられていないといった問題点が見られる。朴在權(1997)は日本語において「の」は格助詞、準体助詞、並立助詞、終助詞の4つの働きをすとし、日本語の連体格助詞「の」に当たる韓国語のそれは冠形格助詞「의」であるとしている。また、「の」の基本的な用法は連体格であるが、連体修飾節の中では主格の「가」、対象格の「가」と交替することもあり、韓国語の「의」も主格の「가/이(ga/i)」と置き換えることができ日本語と共通であると述べている。だが、日本語の対象格の「の」に当たる韓国語の「의」の用法はないと述べている。また、「の」と「의」の違いは省略の有無であり、「の」は時・場所または漢語の連結等による複合名詞の構成というごく一部の制限的な用法を際いては省略ができない。しかし、韓国語の「의」は現れないか省略されて自然な場合が多いとしている。

以上の研究で多く見受けられることは対照の基盤となる「の」と「의」の「意味用法」の分類について、妥当性を述べて分類した研究ではなく、「の」が韓国語にどのように対応するかを見た研究が多く、日本語から見た韓国語はどう対応し現れるかが大部分である。逆に韓国語から見た日本語はどう対応するかの研究および、日本語と韓国語を両方見る方

¹⁸ 김민수(1970)は「의」を「属格助詞」と呼んでいる。金善姫(1993)もその用語を使っている。

法を取った研究は数少ない。また、「の」に対応する「의」が現れない、いわば「省略」について述べられた研究がほとんどであることが見受けられる。김광해(1981a)は「의」がZero化が可能な環境について N_1 と N_2 が「所有主-被所有物の関係(例: 아들 책상(adeul chaegsang)(息子の机))」、「全体-部分の関係(例: 옷 단추(os danchu)(服のボタン))」、「親族関係(例: 주인 아들(juin adeul)(主人の息子))」を挙げている。이희자(Lee Hui-ja)他(2010)は「의」は次の3つの場合には省略が可能で、それ以外はあまり省略されないとしている。即ち、「所有-被所有物の関係を表す場合(例: 철수 의 책 (cheolsu ui chaeg) / 철수(∅) 책(cheolsu chaeg)(チョルスの本))」、「全体-部分の関係を表す場合(例: 코끼리 의 코 (kokkili ui ko) / 코끼리(∅) 코(kokkili ko)(像の鼻))」、「親族関係の関係を表す場合(例: 철수 의 엄마 (cheolsu ui eomma) / 철수(∅) 엄마(cheolsu eomma)(チョルスの母))」である。ここで、たとえば N_1 と N_2 が「所有主-被所有物の関係」にあったとして、その時「의」が省略されたとしても、この関係に変化が起こるわけではない。「 N_1 의 N_2 」と「 $N_1\emptyset N_2$ 」の N_1 と N_2 の意味的な結びつき(以下「意味関係」と呼ぶ)自体に特別な差はないと思われる。従って、日本語の「 N_1 の N_2 」が韓国語においては「名詞+名詞」の形で翻訳されてもこれが違った翻訳であるとは言えないと考えられる。また、최정룡(1988)のように日韓の各々を比較しても日韓のはっきりとした差は分からない。おそらく、「の」と「의」は似ていて差はわずかなものであると推測される。

「 N_1 の N_2 」と「 N_1 의 N_2 」の相違を明らかにするには日韓でより妥当性のある分類方法を基に研究する必要があるだろう。より妥当性のある方法で研究を行ったと見られる吳玗定(1997)、洪榮珠(2006)、李惠正(2009)を取り上げ概略する。

吳玗定(1997)は名詞と名詞の連結における「의」の出現の現象を中心に「 N_1 の N_2 」と「 N_1 의 N_2 」を対照している。その結果、「 N_1 の N_2 」と「 N_1 의 N_2 」が対応関係を成さない場合、対応関係を成す場合、「の」が必須成分で「의」が随意成分となる場合があるとしている。その中で「の」が必須成分で「의」が随意成分となる場合に N_1 と N_2 が「所有」「所属」「全体と一部」の関係にある場合を見たところ、「所有」に比べて「所属」「全体と一部」の関係にある名詞類が意味的に緊密であり、「의」が随意成分となる確率が高いと述べている。「의」が随意成分になるかどうかの議論ではあるが、吳玗定(1997)が N_1 と N_2 の名詞句の内部には意味的緊密度の差があると指摘した点は大きい。洪榮珠(2006)は「 N_1 N_2 」形態の名詞連結を対象とし、名詞連結の基底には文を想定できるという考え方から名詞連結を構成する N_1 と N_2 の意味関係を分析している。その分析方法としては、奥津(1975)の複合名詞の分析結果を、連体修飾文における意味役割関係として捉え直し、韓国語のマトリクスを作り、日本語の方の検証と共に韓国語との間に見られる異同を見ている。その結果、韓国語の名詞連結に見られる連体助詞の生起可否の現象については、意味役割による結合関係との間に一定の傾向性が観察され、「場所 対象」「出発 対象」「付加語(時間)

対象」「対象 場所」の連結は殆ど「의」の生起を許している一方、「手段 対象」「対象 目標」の結合関係では「의」の生起が難しいとしている。また、「対象 手段」「対象 付加語(時間、相対、同格)」等の結合関係では「의」の生起可能・不可能な連結が両方見られ、傾向がばらつく結合も存在しているとしている。李恵正(2009:110)は西山(1993)の「飽和名詞と非飽和名詞」の理論と意味的パラミターという概念を用いて、日本語の「N₁のN₂」の「の」に対する韓国語の「의」の表れ方を提示している。「N₁を中心にN₂が飽和名詞であればN₁とN₂の関係がさほど近いとは判定できないので「의」が介入することでその意味関係を明らかにする場合が多い。「의」はN₁がN₂を修飾する意で持つ。しかし、N₁を中心にN₂が非飽和名詞であれば、N₂はN₁を必ず必要とし、その関係は極めて近いと言える。その時は「의」が介入されないないし省略される場合が多く、この時省略される「의」はN₁がN₂の意味的限定の役割をする」と述べている。李恵正(2009)は事実上、韓国語の研究になっている。また、この結果を「의」の役割としているが、実際はN₁とN₂の特性から見られたことであり、「의」の役割とは言えないと思われる。

以上の研究では「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の分析の基準を立てて分類していることには意義がある。だが、呉玟定(1997)、洪榮珠(2006)、李恵正(2009)も「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の双方から見た研究ではないので、もれがないとは言いきれない。

2.2 名詞の動詞化に関する研究

林八龍(1995:264)は日韓両語における「表現構造」¹⁹面に焦点を合わせ、日本語の名詞的表現と、これとよい対照を成すと見られる韓国語の動詞的表現とに重点を置き、表現上の特性を探っている。その中で「行為・動作」の意味を表す表現は日本語の場合、名詞表現にしようが、動詞表現にしようが、どちらの表現でも成り立つが韓国語では、名詞表現はほとんど成立せず、動詞表現でないと安定感に欠けると述べている。

金恩愛(2003:67)は「日本語と韓国語は同じ言語場にあり、ほぼ同様の意味を表すにあたって、日本語にも韓国語にも動詞構造と名詞構造の両方が共存しているが、互いに対照してみると、日本語は相対的に名詞構造を志向する傾向が著しく、逆に韓国語は動詞構造が好まれている」と述べている。具体的には、日本語の「名詞志向構造」²⁰と韓国語の「動詞志向構造」²¹について日本語のどのような性質の名詞が、いったいいかなる構造におい

¹⁹ 林八龍(1995)は「表現構造」について、国広(1967)の「表現論」から、「表現構造の概念は、大略、表現の相違から統語構造の相違を差し引いた後になお残るものを表現構造の相違とする」を参考にしている。

²⁰ 金恩愛(2003)は体言(nominal)を名詞で代表させて「nominal-oriented structure」を「名詞志向構造」という用語を使用している。

²¹ 「名詞志向構造」の設定と同様に、用言(verb)についても、動詞(verb)で代表させて

て、いかなる機能を司るときに、韓国語にあっては動詞構造化するのを見るとき、その類型には次の5つの類型を挙げている。

(1) もともと語彙的に対応する名詞が存在しない日本語の軽名詞を、韓国語では動詞や形容詞等用言を用いて、2単語以上で分析的に表現することがもたらす動詞構造

(2) 日本語の豊富な接辞を用いた派生名詞やまた複合名詞等重名詞構造の非在やずれへの対応がもたらす動詞構造

(3) 語彙的に対応する名詞が存在していても名詞が新たな単語結合をなすとき、そうした単語結合レベルでの非在やずれへの対応がもたらす動詞構造

(4) 日本語の名詞終止文、指定詞終止文、述語のない文等、文レベルでの対応がもたらす動詞構造

(5) テキスト/ディスコースにおける、言語場にかかわる日本語の非明示的な要素を、韓国語が言語化しようとするのがもたらす動詞構造

金恩愛(2003)の研究から本研究と関連があると見られる「修飾語における名詞構造と動詞構造」²²について提示すると、修飾語として用いられる日本語の「名詞的な名詞」のうち、韓国語の翻訳書では、307例中、46例(15.0%)が動詞構造を用いて翻訳されており、そのほとんどはテキスト/ディスコースにおける言語場にかかわる日本語の非明示的な要素を、韓国語が言語化しようとするのがもたらす動詞構造化であると述べている。

また、金恩愛(2009)では日本語の「名詞+の+名詞」が韓国語でいかに現れるかの既存の先行研究ではほとんど注目されてこなかった「第3の類型」²³について表現様相論の立場から考察を行っている。「第3の類型」が全体の中でどのぐらいの割合を示すか、計量調査を行い、言語資料の全616例の内、219例、35.6%であり、第1、2の類型よりも高い割合を示しているとした。こうした第3の類型をもたらず日本語の構造には、どのようなタイプがあるのか、韓国語の現れ方に注目し、下位分類している。そのうち、本研究と関係があると思われる日本語の「名詞+の+名詞」が韓国語で「名詞+用言+名詞」で現れる場合のタイプを見ると、「同僚のみどり」のように「名詞+の+名詞」における前後の名詞の関係が「同格」の意味関係にあるタイプ、「田舎のおばあさん」のように「名詞+の+名詞」における前後の名詞の関係が「場所と存在」の意味を持つタイプ、「アルバイトの人」のように「動詞性名詞+の+名詞」タイプ、「コンクリートの高層ビル」のように日本語の

「動詞志向構造(verbal-oriented structure)」という用語を使用している。

²² 名詞が他の名詞の連体修飾語として用いられる類型を考察している。

²³ 日本語の「名詞+の+名詞」に対応する韓国語の類型として
第1の類型：「名詞+의+名詞」、第2の類型：「名詞+o+名詞」、
第3の類型：「第1の類型と第2の類型以外」と設定している。

「名詞+の+名詞」が韓国語で「名詞+되다(doeda) (lit. なる)+名詞」タイプに分類されている。(p. 163)

このように、類型をいくつか挙げている。だが、日本語を基準として韓国語にどう翻訳されているかは分析しているが、逆に韓国語を基準として日本語にどう翻訳されているかの分析は行われていない。そのため、これが翻訳による問題なのか言語の問題なのか把握がしがたい。つまり、韓国語を基準として日本語に翻訳された「動詞化」と日本語を基準として韓国語に翻訳された「動詞化」を比較して、同じタイプが存在するとしたら、それは翻訳の特徴である可能性がある。そして、同じような翻訳を重なる部分とみた場合、それ以外は韓国語の特徴であったり、日本語の特徴であると思われる。また、金恩愛(2009)は第1、2、3類型の全体的な割合を提示してはいるが、第3の類型の下位のタイプの割合を示してはいない。つまり、例文の219例がどのタイプに多く使用されているかの把握や特徴をみることは出来ない。さらに、金恩愛(2009)が分類した第3の類型と金恩愛(2003)が示した「動詞構造化」の5つの類型がどのような関係にあるかが示されていない。

2.3 「の」と「의」が2回以上現れる形式の研究

助詞「の」と「의」が2回以上現れる形式についての研究では、名詞の意味関係に関する研究、または、「の」と「의」がいくつまで連結されて現れるかの研究に分けられる。

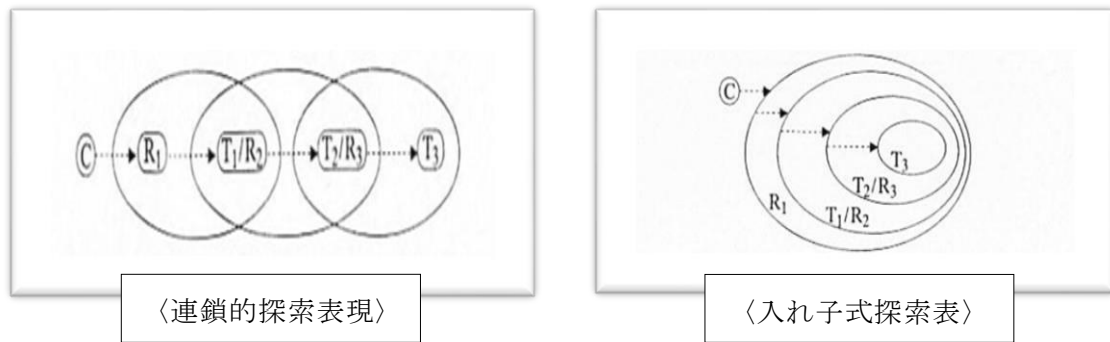
森田(2007:249)は、「村の外れの家の野菜畑の大根」は「の」が4回現れた名詞句で、村の外れにあるのは我が家の野菜畑か、我が家が村の外れにあるのか、はっきりしない。あいまい文を作る原因となるので注意が肝要だ」と述べている。だが、日本語では助詞「の」が連続して続いてもぎごちなくない。박영순(Park Yeong-sun) (1985:148)は「「의」が2回、3回連続に現れてもおかしくない」と述べている。「고향의 봄의 추억의 거리… (gohyangui bomui chueogui geoli…) (故郷の春の思い出の町…)(박영순(1985:150))」では最後の名詞が中心部(head)で、その前の全ての名詞は「의」によって属性(attribute)、または、従属(subordinate)を形成するとしている。김은아(Kim Eun-ah) (2005:37)は「無限の名詞句の形成が全ての名詞類で可能なことではない。「N₁의N₂의N₃…N_n」に理論上は形成されるが、言語が意味の伝達を行う際、このような構造はむしろ意味の把握が混乱になる。従って、日常の会話では3回以上使わないことが望ましい」と述べている。

森田(2007)と박영순(1985)では、「の」と「의」について無限の名詞句の形成が可能としている。だが、日本語の場合、助詞「の」が連続に続いてもぎごちなくないが、김은아(2005)が述べたように韓国語の場合は意味の把握が混乱になるため日常の会話では3回以上使わないことが望ましいという。これは、「の」と「의」が2回以上現れる形式に何らかの差が

あるためと考えられる。

山梨(2004:58)は広義の所有関係(possessive relation)にかかわる言語現象において、参照点とターゲットの関係は相対的な関係にあるとし、2種の所有表現のタイプを挙げている。

〈図 3〉山梨(2004:58)の2種の所有表現



それは〈図 3〉の「連鎖的所有表現」と「入れ子式所有表現」である。「連鎖的所有表現」の「彼の息子の友人の父親の姉」は左端の修飾部の参照点から被修飾部のターゲットを認知していくプロセスが線状的に左から右へと移行していくことにより、最終的に右端の主要部のターゲットの認知に至る。また、「入れ子式所有表現」の「家の台所のドアの取っ手のネジ」は左端の修飾部の参照点から被修飾部のターゲットを認知していくプロセスが「全体-部分」の入れ子式の関係に基づいて階層的に移行していくことにより、最終的に右端の主要部のターゲットの理解に至ると述べている。これは後述するように、韓国語にも見られる。この2種のタイプを参考にし、本研究のデータでも表れるか見てみる。

次に、助詞「の」と「의」が2回以上現れる形式において「の」と「의」がいくつまで現れるかを調査したものを紹介する。

〈表 4〉최재용他(2012)の韓日助詞「の」と「의」が2回以上現れる形式の回数

	최재용他(2012)			
	韓日並列コーパス		Sejong	Kyoto
	韓国語	日本語	韓国語	日本語
形態素	101,548	93,636	24,257,961	972,894
全体の冠形格	1,795	4,079	538,714	53,241
2回	44	225	10,122	2,139
3回	0	14	273	73
4回	0	1	18	3

최재웅(Choe Jae-ung)他(2012)は韓国国立国語院が提供している「21세기 세종계획(21st Century Sejong Project)」で構築されたコーパス2種²⁴と「Kyoto University Text Corpus 4.0」²⁵を用いて、「의」と「의」が2回以上現れる形式を提示している。それを筆者がまとめたのが<表4>である。まず、「韓日並列コーパス」から、「의」が2回現れる形式が44例、「의」が2回現れる形式が225例、3回現れる形式が14例、4回現れる形式が1例見つかった。また、「韓日並列コーパス」より規模が大きい「Sejong」と「Kyoto」では、「Sejong」から、「의」が2回現れる形式が10,122例、3回現れる形式が273例、4回現れる形式が18例見つかった。また、「Kyoto」から、「의」が2回現れる形式が2,139例、3回現れる形式が73例、4回現れる形式が3例見つかった。ここで、注目すべき点は日常会話では3回以上使わないことが望ましいと言われていた「의」が「Sejong」では3回現れる形式が273例、4回現れる形式が18例見つかったことである。최재웅他(2012)はこのことから「의」が2回以上現れる形式が言語の中では通用されていることがわかったと述べている。최재웅他(2012)の「Sejong」と「Kyoto」の全体の冠形格から「의」と「의」が2回、3回、4回現れた形式の比率を表したのが<表5>である(筆者が作成)。

<表5> 「Sejong」と「Kyoto」の比較

	Sejong	Kyoto
	韓国語	日本語
2回	1.88%	4.02%
3回	0.05%	0.14%
4回	0.003%	0.005%

全体の冠形格から「의」と「의」が2回現れた形式は各1.88%、4.02%である。全体の冠形格から「의」と「의」が3回現れた形式は各0.05%、0.14%である。全体の冠形格から「의」と「의」が4回現れた形式は各0.003%、0.005%である。これから、日本語の方が韓国語に比べて比率が高いことが分かった。おそらく、「의」が「의」より名詞間に介在し、連続に現れる可能性が高いかと推察される。

このように、日韓の「의」と「의」が現れる形式の頻度だけでは日韓の「의」と「의」が2回以上現れる形式に対する差異を明確に述べることは困難でだろう。データから、「의」と「의」で連結されている名詞の分析、および連結された名詞間の意味関係を考察することが必要と思われる。

²⁴ 韓国のコーパス(말뭉치)は国立国語院(2007)が構築した「21세기 세종계획(21st Century Sejong Project)」(<http://www.sejong.or.kr/>)が代表的である。その中で、최재웅他(2012)は「세종 의미분석 말뭉치(Sejong意味分析コーパス)」と「한일병렬말뭉치(韓日並列コーパス)」のコーパス2種を分析している。

²⁵ 최재웅(Choe Jae-ung)他(2012)は「Kyoto」と表記している。また、「Sejong意味分析コーパス(세종 의미분석 말뭉치)」を「Sejong」と表記している。

宮島(2007)は助詞「の」が2回以上現れる形式が現実にどのくらいあるのか、国立国語研究所(1961a)が調査した『現代雑誌九十種の用語用字』の報告書から連体修飾語の「～の」が重複²⁶している用例を数えた。それを筆者が整理したのが<表 6>である。

<表 6>宮島(2007)の「の」の重複

	宮島(2007)
	現代雑誌
	日本語
延べ度数	906,000
1回	9,281
2回	907
3回	95
4回	15

助詞「の」が2回重複は907例、3回重複は95例、4回重複は15例であった。「～の」の使用で、19%ほどは、重複使用のなかにあると言える。宮島(2007)は「突然の事故の影響」のように入れ子の形になるもの、「突然のブレーキの故障」のように修飾語がそれぞれ同じ被修飾語にかかるものと区別しなかったし、解釈の難しいものもあったと述べている。このように重複形式を分類することは難しいかと推定される。

2.4 先行研究のまとめと課題および本研究の意義

以上の先行研究の概観からは次のような問題点や課題が指摘できる。

「の」に関する研究と「의」に関する研究を直接比較しても、相違点を把握できそうにない。日本語も韓国語もどんな名詞でも「の」と「의」を介在して名詞句の形成が可能のように見られる。即ち、各言語を各々で比較しても「の」と「의」の類似点と相違点を導くことは難しいと思える。各言語を各々で比較するのではなく、「の」と「의」の対照研究を行うと日本語と韓国語の類似点と相違点が見えてくると思われる。しかし、「の」と「의」の対照研究では日本語の「N₁のN₂」は韓国語にどのように対応して翻訳されるかの研究が多数で、逆に韓国語の「N₁의N₂」は日本語にどのように対応して翻訳されるかの研究、およびこの両方を行った研究は数少ない。そのため、一方の言語から見た相手言語との差異だけではもれがあると考えられる。また、日本語の「N₁のN₂」に対応する「N₁의N₂」の「의」が省略について多く議論されていた。しかしながら、「의」の省略は韓国語自体の問題である。

²⁶ 宮島(2007)は「の」が2回以上現れる形式を「重複」と呼んでいる。

「の」と「의」の対照研究の中で「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の相違を明らかにするには日韓でより妥当性のある分類方法を基に研究する必要があると思われる。吳玟定(1997)がN₁とN₂の名詞句の内部には意味的緊密度の差があると指摘したように、日本語でも韓国語でもN₁とN₂の連結のし易い、し難いと言うのがあり、それが日本語と韓国語で異なる面もあるのではないかと推測できる。即ち、従来よりも名詞類を詳細に分類することによって、N₁とN₂の連結について語ることができると考えられる。

日本語は名詞表現と動詞表現が可能で、韓国語は日本語と比べて名詞表現より動詞表現の方がより自然な言語表現であると類推できる。従って、日本語の名詞句を韓国語に翻訳する際、動詞表現に翻訳される可能性が高いと予測される。本研究のデータからも同じように見られるか確認する。なお、先行研究では日本語の名詞句表現が韓国語でどう動詞表現で現れるかの研究は見られるが、韓国語の名詞句表現が日本語でどう動詞表現で現れるかの研究はなされていない。それに、相互対照を行っている研究は見当たらない。

助詞「の」と「의」が2回以上現れ、名詞句を形成するという事は理論上では無限に作れるが、現実的には「の」と「의」の数が多くなるにつれて用いられにくくなるのが分かった。だが、김은아(2005)の「의」と森田(2007)の「の」に対する見解の違いがある。また、先行研究では、実際の「の」と「의」が2回以上現れる形式により連結している名詞の意味関係について詳細に分析研究されていない。どのような名詞が「の」と「의」により連結されて現れるかの説明が足りないと考えられる。また、山梨(2004:58)が述べた、2種類の所有表現のタイプについて本研究でも見られるかを検証する。そして、「の」と「의」が2回以上現れる形式の研究では翻訳に関する日韓対照を行った研究は見当たらない。

以上の問題点を踏まえ、本研究は、助詞「の」と「의」により連結されるN₁とN₂の名詞類を分類し、量的に表した。それをまず、「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の原作において各言語のN₁とN₂の表れの中で見られた特徴を提示する。そして、「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の翻訳において対応し翻訳された翻訳形式と対応せずに翻訳された翻訳形式に分類する。さらに、「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の原作と「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の翻訳を照らし合わせて総合し、「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の原作で見られた特徴が翻訳でも同様に現れるかを検証する。

このように、既存の助詞「の」と「의」の対照研究では日本語から見た韓国語はどのように対応するかの研究が主流であって、本研究のように量的データから日本語と韓国語の原作においてのN₁とN₂の現れ、また、「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の翻訳、そして、原作の翻訳の総合まで見て「の」と「의」の対照を行った研究は無いに等しい点、「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の「動詞化」にどのような名詞と動詞が使われているかを見た点、さらに、「の」と「의」が2回以上現れる形式において連結された名詞の組み合わせについて考察した点等にその意義があると考えられる。

第3章 調査

3.1 調査資料

本研究のデータを収集した資料は日韓の文学作品である。ここでは、調査資料に関して考慮した部分等を述べる。

日韓の文学作品(小説)を選んだ理由は、我々が実生活で使用する言語に近いことを挙げることができる。実際、書店のベストセラー欄を見ても、人気上位は通常、文学作品(小説)が上がっている。従って、現在使用されている言語、また、実世界で身近に使われている言語に限定して考えた所、文学作品がこれに近いと筆者は考えた。韓国では日本の小説は人気でベストセラー上位にはほぼ並べられていると言っても過言ではない。それに比べ日本では韓国の小説がベストセラーに入ることは珍しいことである。だが、近年韓国の文化に関心を持つ人が増え、その関連した書籍は関心を持ち読まれている。従って、両国の文学作品(小説)は身近に接することが出来る資料と言えるだろう。研究の資料として新聞、教科書、雑誌等が浮かぶが、これらは対訳がないので研究者自ら翻訳を行うことになり得る。この場合、翻訳する人によっては異なった翻訳をする可能性もあり得る。そのため、本研究では研究者自らの翻訳は避け、資料に従い分析を行う。翻訳者によって色々な訳し方があるが翻訳作品は対訳本が既にあるので研究者(筆者)の主観的な翻訳にたよらずに翻訳作品の内容に従い分析を行うことができると考えた。また、翻訳において色々解釈される可能性を排除できないが、この問題については翻訳例のパターン化が必要であろう。こうすることによって、なぜ原作と異なった翻訳になっているか、そして、そのまま翻訳されにくい名詞句について提示できると推測される。上記に述べた資料では原作、および対訳の考察が出来ないことも本研究で扱えなかった理由でもある。

宮島(2007)が「現代」という用語は適当ではないかもしれないと述べているように、『現代雑誌九十種の用語用字』は国立国語研究所が調査した1956年度の雑誌の資料である。本研究の資料の年代は1990年以後に出版された作品を選び、なるべく今年に近いものを選択した。また、文学作品を選ぶ際、考慮したことは作家が重複しないこと、その対訳本の翻訳者も重ならないことである。作家によっては意識的に文学的な文章を好む可能性もあるので作品ごとに作家が異なるように資料を選んだ。そして、翻訳者による意識や翻訳についての癖等が生じる可能性もあるので、同じ翻訳者は避けることが望ましいと判断した。

今現在公開されている大規模なコーパスデータの中には、韓国国立国語院(한국국립국어원)の「21세기 세종계획(21st Century Sejong Project)」による「韓日並列コーパス(한일병렬말뭉치)」²⁷がある。だが、文学作品(小説)の入力情報を見ると日本

²⁷ 이한섭 (Lee Han-seop) (2007:385-512)。

の作品が出版された年代²⁸は筆者(本研究者)が必要とする 1990 年以後の作品でないので、本研究では「韓日並列コーパス」は扱えなかった。しかし、年代に拘らず対照研究を行うには公開されたコーパスの中では有利と見られる。

近年出版された文学作品からデータを収集するため、1990 年以後の文学作品を自ら日韓並列データを作成することを試みた。個人で大規模なデータを収集することは時間や金銭等多々の制約があり、大規模なデータを取り込むことは限りがある。従って、今後これ以上のデータを加算していく作業を行っていく必要があると思われる²⁹。また、資料の多角化も必要であろう。このような問題点は今後の課題とし、本研究では収集したデータ内で現れた傾向や特徴等を考察する。

注 2、3 で述べたように、本研究で扱う助詞「の」と「의」は助詞の中でも使用率が高い助詞である。このように高い頻度で出現する用例を抽出するためには文学作品全体からデータを取り出す方法が望ましいだろう。そのため、OCR ソフトウェア³⁰で文字(紙)をテキストデータ³¹にする作業を行う。全ての文学作品の原本、その対訳本を全て読み込む。

データの収集に当たり注意すべき所は文学作品(小説)には著作権³²の問題がある。日本では文化庁のホームページ³³、韓国では文化体育観光部(문화체육관광부)のホームページ³⁴に著作権に関する詳しい情報が用意されているので筆者(本研究者)は十分認識したうえで、データを収集したことを述べておく。本研究の日韓の資料は以下の<表 7>の通りである。

<表 7>本研究の日韓の資料

日本の資料	韓国の資料
奥田英朗『空中ブランコ』文藝春秋. 이영미역『공중그네』은행나무	공지영『무소의 뿔처럼 혼자서 가라』 오픈하우스. 石坂浩一訳『サイの角のようにひとりで け』新幹社

²⁸ 「韓日並列コーパス」には文学作品に当たるデータも入力されているが、その作品が公開された時期を見ると1990年以前の作品がほとんどで「韓日並列コーパス」が本研究で扱えなかった理由でもある。このように、「韓日並列コーパス」を構築にあたり原作の作者の許可があった場合、または作者が亡くなった場合はデータを公開することができるが、日韓において著作権の問題を解決することが困難であることが指摘できる。

²⁹ 本研究で収集したデータの規模は「韓日並列コーパス(韓国国立国語院提供)」のデータより多く収録されている。

³⁰ 3.3のデータの作成と手順に詳しく述べた。

³¹ 李在鎬(Lee Jae-ho)他(2012:68)参考。

³² 李在鎬(Lee Jae-ho)他(2012:74-75)では、著作権について「無断で他人のもののコピーを作り、それを著作権者の許可なく、第三者に渡してはいけない」と述べられている。

³³ 日本文化庁のホームページ <http://www.bunka.go.jp/chosakuken/>

³⁴ 韓国文化体育観光部(문화체육관광부)のホームページ

http://www.mcst.go.kr/web/s_policy/copyright/copyright.jsp

角田光代『空中庭園』文藝春秋. 임희선역『공중정원』양장.	노희경『세상에서 가장 아름다운 이별』 북로그컴퍼니. 吉川凧訳『この世でいちばん美しい別れ』 クオン.
片山 恭一『世界の中心で、愛をさけぶ』 小学館. 안중식역『세상의 중심에서 사랑을 외치다』작품.	김영하『아랑은 왜』문학동네. 森本由紀子訳『阿娘はなぜ』白帝社.
島本理生『リトル・バイ・リトル』講談社. 김난주역『리틀 바이 리틀』시공사.	김정현『어머니』자음과모음. 蓮池薫訳『母よ ヘギョンの愛した家族』 ワニブックス.
野沢尚『ラストソング』講談社. 신유희역『라스트송』소담출판사.	김하인『국화꽃 향기』생각의 나무. 宮本尚寛訳『菊花の香り』PHP 研究所.
東川篤哉『謎解きはディナーのあとで』 小学館. 현정수역『수수께끼 풀이는 저녁식사 후에』21 세기북스.	위기철『아홉살 인생』청년사. 清水由希子訳『9歳の人生』河出書房新.
村上春樹『色彩を持たない多崎つくると、 彼の巡礼の年』文藝春秋. 양억관역『색채가 없는 다자키 쓰쿠루와 그가 순례를 떠난 해』민음사.	조창인『등대지기』밝은세상. 金光英実訳『クミヨンに灯る愛』小学館.
森沢明夫『津軽百年食堂』小学館. 이수미역『쓰가루 백년 식당』샘터.	황석영『바리데기』창비. 青柳優子訳『パリデギー脱北少女の物語』 岩波書店.

3.2 데이터의分類基準

調査資料から、助詞「の」と「의」が介在した名詞句「N₁のN₂」、「N₁의N₂」および助詞「の」と「의」が2回以上現れた「N₁のN₂のN₃…」、「N₁의N₂의N₃…」の用例を資料から収集するにあたり考慮したことを述べる。

助詞「の」と「의」は名詞と名詞の間に介在し、名詞句を形成するが、日本語の場合「の」で連結された名詞があり、例えば、「髪の毛」「女の子」等は辞書をもとに一語に分類している。これらは韓国語では一語である。このような名詞の判別は辞書に基づき行った。

本研究で使用した辞典は以下の通りである。

日本語は、『広辞苑』DVD-ROM版(2008)新村出集、第六版岩波書店。

『明鏡国語辞典』(2002)北原保雄編集、大修館書店。

韓国語は、『標準国語大辞書(표준국어대사전)』<http://stdweb2.korean.go.kr>

(資料提供：韓国国立国語院。)

『エッセンス国語辞書(엣센스 국어사전)』(2011)民衆書林(민중서림)。

3.3 データの作成と手順

データの整理にあたり、まず、文学作品をスキャナーで読み込み、OCRソフト³⁵を使いテキスト化を行う(「Word」に変換)。「Word」に取りつけた文書から助詞「の」と助詞「의」をctrl+F(検索と置換)で全部探し色をつけて印しし、印を見ながら形式を含む例文を取り出し「Excel」に順番に取り付ける。〈表 8〉はこのデータを「Excel」に整理していく順を表しているものである。〈図 4〉はその一例である。

〈表 8〉「Excel」に整理していく順

①番号	②原作の文学作品のページ	③「名詞の /의(ui)名詞 …」形式	④対訳本のページ	⑤翻訳	⑥翻訳形式	⑦形式ごとの数
-----	--------------	---------------------	----------	-----	-------	---------

³⁵ 日本語は「読ん de!! ココ Ver. 13」AIsoft の OCR ソフトと「読取革命 Ver. 15」Panasonic の OCR ソフトを韓国語は「ABBYY FineReader 11」ReTIA で公式に発売されている OCR ソフトを使用した。

〈図 4〉「Excel」に整理した例

1	A	B	C	D	E	F	G
	番号	ページ	「名詞+の+名詞」用例	ページ	韓国語の翻訳	翻訳形式	回数
1	1	6	マンションの一室。宝生麗子がチャイムを鳴らすと麗子がチェーンの長さだけ細く聞き、男の顔が覗いていた。麗子の隣で風察警部がトク手帳を出す。たちまち相手の男、田代裕也の顔色が変わった。	9	아파트의 어느 집 앞. 호소 레이코가 벨을 울리자 문이 체인의 길이만큼 좁게 열리고 어떤 남자의 얼굴이 보였다. 레이코 옆에서 가자마 소리 경부가 힘차게 수첩을 꺼내 보였다. 곧바로 그 남자, 다시로 유야의 안색이 변했다.	名詞+の(ui)+名詞	1
2	2	6	マンションの一室。宝生麗子がチャイムを鳴らすと麗子がチェーンの長さだけ細く聞き、男の顔が覗いていた。麗子の隣で風察警部がトク手帳を出す。たちまち相手の男、田代裕也の顔色が変わった。	9	아파트의 어느 집 앞. 호소 레이코가 벨을 울리자 문이 체인의 길이만큼 좁게 열리고 어떤 남자의 얼굴이 보였다. 레이코 옆에서 가자마 소리 경부가 힘차게 수첩을 꺼내 보였다. 곧바로 그 남자, 다시로 유야의 안색이 변했다.	名詞+の(ui)+名詞	2
3	3	6	マンションの一室。宝生麗子がチャイムを鳴らすと麗子がチェーンの長さだけ細く聞き、男の顔が覗いていた。麗子の隣で風察警部がトク手帳を出す。たちまち相手の男、田代裕也の顔色が変わった。	9	아파트의 어느 집 앞. 호소 레이코가 벨을 울리자 문이 체인의 길이만큼 좁게 열리고 어떤 남자의 얼굴이 보였다. 레이코 옆에서 가자마 소리 경부가 힘차게 수첩을 꺼내 보였다. 곧바로 그 남자, 다시로 유야의 안색이 변했다.	名詞+の(ui)+名詞	3
4	4	6	どうやら自分たちの訪問は彼にとって予想外の出来事であり、なおかつ不愉快なものだったらしい。	9	아무래도 우리의 방문은 그 남자에 게 예상 밖의 상황이자 불쾌한 일인 듯했다.	名詞+の(ui)+名詞	4
5	5	6	まあ、それも仕方がない、と麗子は思う。警察の訪問を前もって予想する人はあまりいない。歓迎してくれる人は、さらに少ないだろう。	9	하긴 그것도 어쩔 수 없었다고 레이코는 생각했다. 경찰의 방문을 미리 예상하는 사람은 거의 없다. 환영해주는 사람은 더욱 적을 것이다.	名詞+の(ui)+名詞	5
6			「おや、その様子ですと、まだご存じな		"어라. 눈치를 보니. 아직 모르시는 것 같군요."		

3.4 分類語彙表

本研究で名詞を分類する基盤として国立国語研究所(2004)『分類語彙表』を使用している。『分類語彙表』は昭和39年に国立国語研究所資料集第6として公刊した『分類語彙表』の増補改訂版である。国立国語研究所(2004:3)『分類語彙表』の収録されている語句について載せられている。その内容は以下の通りに記載されている。

国立国語研究所(2004)『分類語彙表』に収められた語句は、文法上の自立する「単語」を基本にするが、それと同様の意味上の働きを持つ連語・接辞・慣用句等を排除しない。すべてを「語」と呼んでおくことにする。

語の採用範囲であるが、現代の日常社会で普通に用いられる語を中心に、各種語彙調査の結果その他から選定した。異なり語数は約8万語である(異なり語数とは、同一の語が何度出現しても1回と数えた場合の語数のこと)。一つの語が複数の分類項目に分類されることがあるので、収録した総語数としては約9万6千語となる。なお、耳慣れない専門用語や古語・方言、また社会生活上使用を遠慮すべき語の類は除いている。元版にあった語もその例外ではない。固有名詞については、原則として一般的な地名および人名や組織名を例として収録するにとどめたが、普通名詞的に用いられる商品名については一部収録し

た。

国立国語研究所(2004)『分類語彙表』に収録した語の数は以下の通りである。

<表 9>国立国語研究所(2004)『分類語彙表』に収録した語の数

類	延べ	異なり
体	64,457	56,131
用	21,605	16,704
相	8,879	7,357
その他	870	789
全体	95,811	79,517

国立国語研究所(2004)『分類語彙表』の分類方式は、分類番号を用いてそれぞれの分類項目の体系的位置付けを示したところに特徴がある。分類の各項目には、例えば「1.2340」のように類を整数位に置いて小数点以下4けたの「分類番号」が付されている。この数字全体あるいはその一部分が、全体の中に占める個々の分類項目の位置付けを示している。分類番号によって表される意味的範疇は、より広い概念から順に、「類」「部門」「中項目」「分類項目」となっている。

本研究では、「1体の類(名詞)」の下位分類を小数点2ケタまで、計43項目に分類したものを扱う。その43項目は<表10>である。各項目に含まれる名詞について簡略に説明および例を加えた。名詞によっては色々な意味を表すものもある。国立国語研究所(2004)『分類語彙表』は同じ名詞が色々な項目に分類されている。従って、本研究のデータの名詞は文脈を見て、その分類項目を判断した。また、韓国語も国立国語研究所(2004)『分類語彙表』に従い名詞を分類した。名詞の分類を日本語と韓国語の各々の標本を使い分類すると纏まった分析ができない。従って、本研究は同じ標本をもって分類する。

<表 10>本研究で使用する国立国語研究所(2004)『分類語彙表』の構成

1体の類			
抽象的關係		人間活動の主体	
項目	例	項目	例
1.10 事柄	こそあど、真位等	1.20 人間	人称代名詞、男女等
1.11 類	関係、因果、理由等	1.21 家族	家族、親戚等
1.12 存在	存在、出没、発生等	1.22 仲間	友達等
1.13 様相	調子、姿、特徴等	1.23 人物	人の固有名詞等

1.14 力	力、圧力、権力等	1.24 成員	職業等
1.15 作用	変化、開始、動き等	1.25 公私	家、国、固有地名等
1.16 時間	時代、季節等	1.26 社会	社会、学校、店等
1.17 空間	空間、場所、方向等	1.27 機関	機関、団体、議会等
1.18 形	形、模様等		
1.19 量	値、長短、寒暖等		
人間活動—精神および行為		生産物および用具	
項目	例	項目	例
1.30 心	感情、思考、見聞き等	1.40 物品	物品、持ち物、荷等
1.31 言語	言葉、談話、読み書き等	1.41 資材	資材、紙、燃料等
1.32 芸術	美術、音楽、映画等	1.42 衣料	衣服、寝具、履き物等
1.33 生活	文化、人生、冠婚等	1.43 食料	食料、薬品、化粧品等
1.34 行為	才能、活動、犯罪等	1.44 住居	部屋、戸、家具等
1.35 交わり	約束、参加、競争等	1.45 道具	道具、食器、楽器等
1.36 待遇	教育、請求、命令等	1.46 機械	電気器具、乗り物等
1.37 経済	金銭、価格、売買等	1.47 土地利用	道路、橋等
1.38 事業	業務、生産、調理、掃除等		
自然物および自然現象			
項目	例		
1.50 自然	光、色、におい、味等		
1.51 物質	空気、気象、天気等		
1.52 天地	空、地、川、海、島等		
1.53 生物	生物、性等		
1.54 植物	植物、枝、葉、花等		
1.55 動物	動物、哺乳類、鳥類等		
1.56 身体	身体の各名称、内臓等		
1.57 生命	生命、生、死、病気等		

3.5 本研究の「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の翻訳形式の結果

本研究の調査資料から得た全てのデータ³⁶の結果は以下の〈表 11〉の通りである。

〈表 11〉「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の翻訳形式

	日本語翻訳(J→K)			韓国語翻訳(K→J)		
	「N ₁ のN ₂ 」翻訳			「N ₁ 의N ₂ 」翻訳		
	翻訳形式	翻訳数	翻訳率	翻訳形式	翻訳数	翻訳率
1	名詞+名詞	3,801	42.01%	名詞+の+名詞	4,287	70.42%
2	名詞+의(ui)+名詞	3,329	36.79%	意識	625	10.27%
3	名詞	486	5.37%	名詞	478	7.85%
4	意識	451	4.98%	内容省略	300	4.93%
5	動詞	366	4.05%	動詞	129	2.12%
6	複合名詞	246	2.72%	文の組み換え	126	2.07%
7	文の組み換え	99	1.09%	名詞+の以外の助詞+名詞	54	0.89%
8	名詞+인(in)+名詞	79	0.87%	名詞+名詞	42	0.69%
9	名詞+의(ui)以外の助詞+名詞	67	0.74%	形容詞	24	0.39%
10	内容省略	66	0.73%	名詞+の+名詞+の+名詞	23	0.38%
11	形容詞	58	0.64%	合計	6,088	100%
	合計	9,048	100%			

「N₁のN₂」と「N₁의N₂」を文学作品から収集し、対訳本からこの名詞句構造にあたる翻訳形式³⁷を取り出して翻訳形式別に分類し、計量的に提示したものである。ここで、各翻訳形式について簡略に説明を加え、また、注目すべきところを指摘する。

まず、日本語の「N₁のN₂」の翻訳形式は「名詞+名詞」が3,801例、42.01%、「名詞+의+名詞」が3,329例、36.79%で1、2位である。これらは「N₁のN₂」のN₁とN₂が韓国語に並行して翻訳されているので対応し翻訳されていると言えるだろう。つまり、「N₁のN₂」の約8割が対応した翻訳となっていることが確認できた。

3位は「名詞」翻訳形式である。486例、5.37%で「N₁のN₂」のどちらかの名詞が文脈上省略され、名詞1つのみが翻訳されたものである。4位は「意識」翻訳形式で451例、4.98%であった。この「意識」は原作の名詞の意味に捕らわれず文全体の意味を重視して翻訳したもの、日本では通用する言葉であるがそれにあたる韓国語はなく、その言葉を説明する形で翻訳されたもの等をこの形式に分類した(逆も同様)。

5位は「動詞化」翻訳形式で366例、4.05%見られ、「N₁のN₂」の翻訳において動詞を用いて翻訳されたものである。6位は日本語の「N₁のN₂」が韓国語ではN₁とN₂が複合し

³⁶ 全ての用例は異なり語数の数え方で取り上げている。同一の単語が何度用いられていてもこれを一語とし、全体で異なる単語がいくつあるかを数えた。また、文学作品によっては出現する名詞句の数は異なるがこの問題については今後いくつかの作品を加算して検証していくことが望ましいと思われる。

³⁷ 本研究の「翻訳形式」とは、原作の日韓の助詞「の」と「의」を含む名詞句「N₁のN₂」と「N₁의N₂」がどのように翻訳されたか、そのパターンのことである。

た「複合名詞」として扱われているものである。日本では N_1 と N_2 の間に助詞「の」が必要であるが、韓国語では「複合名詞」であるものが見られた。7位は「文の組み替え」³⁸翻訳形式で99例、1.09%であった。これは「 N_1 の N_2 」が含まれた文の構成が組み替えられて翻訳されたものである。8位は「名詞+인(in)+名詞」翻訳形式で79例、0.87%見られ、日本語の「 N_1 の N_2 」が韓国語では助詞「의」ではなく「인」で対応するというものである。この助詞「인」は N_1 と N_2 が同格を表す場合である。助詞「의」には同格を表す機能がなく、日本語の助詞「の」と韓国語の助詞「의」が対応しない形式として既存の研究でも扱われているものである。9位は「名詞+의(ui)以外の助詞+名詞」翻訳形式で67例、0.74%見られた。10位は「内容省略」で韓国語の対訳本で該当する内容が省略されていたものである。11位は「形容詞化」翻訳形式で58例0.64%が見られた。この「形容詞化」は5位の「動詞化」と同様に日本語の「 N_1 の N_2 」が韓国語では形容詞を用いて翻訳されたものである。

一方、韓国語の「 N_1 의 N_2 」の翻訳形式では「名詞+の+名詞」が4,287例、70.42%の出現率が1位である。2位は「意識」で625例、10.27%であった。3位は「名詞」翻訳形式で478例、7.85%見られ、韓国語の「 N_1 의 N_2 」の名詞1つのみが翻訳されたものである。4位は「内容省略」で日本語の対訳本で該当する内容が省略されていたものである。5位は「動詞化」翻訳形式が129例、2.12%で韓国語の「 N_1 의 N_2 」の翻訳において動詞を用いて翻訳されたものである。6位は「文の組み替え」翻訳形式で126例、2.07%見られ、これも日本語の「 N_1 の N_2 」の翻訳形式と同様に、韓国語の「 N_1 의 N_2 」が含まれた文の構成が組み替えられて翻訳されたものである。7位は「名詞+の以外の助詞+名詞」翻訳形式で54例、0.89%見られた。8位は「名詞+名詞」翻訳形式で42例、0.69%見られた。9位は「形容詞」翻訳形式で24例、0.39%見られ、これは5位の「動詞」翻訳形式と同様に「 N_1 의 N_2 」の翻訳において形容詞を用いて翻訳されたものである。10位は「名詞+の+名詞+の+名詞」翻訳形式で23例、0.38%であった。

以上の「 N_1 の N_2 」と「 N_1 의 N_2 」の翻訳形式で実際のところ扱えないものがある。それは「 N_1 の N_2 」の翻訳形式においては4,10位の「意識」と「内容省略」、「 N_1 의 N_2 」の翻訳形式においても2,4位の「意識」と「内容省略」である。これらを除外してみると、次のような特徴が見られる。

日本語の「 N_1 の N_2 」の翻訳形式「名詞+의+名詞」と韓国語の「 N_1 의 N_2 」の翻訳形式「名詞+の+名詞」の出現率を比較すると2位の「名詞+의+名詞」翻訳形式が36.79%、1位の「名詞+の+名詞」翻訳形式が70.42%である。このように翻訳率に差が見られた。しかし、「 N_1 の N_2 」の翻訳形式の第1位「名詞+名詞」をあわせると、「 N_1 の N_2 」に対

³⁸ 「文の組み替え」の翻訳形式の例

- a. 興奮のせいなのか警部の発言は支離滅裂だ。(謎解きp.193)
- b. 흥분한 탓인지 경부는 지리멸렬한 발언을 했다. (수수께끼p.243)

応する翻訳形式は 78.80%で、約 80%に達することが分かる。即ち、「 N_1 の N_2 」の「 N_1 의 N_2 」もお互い対応する形式に翻訳されることが最も多いと言える。

また、日本語の「 N_1 の N_2 」の「名詞+名詞」翻訳形式は 42.01%、1 位であった。これに対して韓国語の「 N_1 의 N_2 」では 8 位の「名詞+名詞」翻訳形式が 0.69%と翻訳率に差が大きいことが確認できた。日本語も韓国語も共に N_1 と N_2 の間が「 \emptyset (zero)」の翻訳であるが日本語を韓国語に翻訳する場合の方が韓国語を日本語に翻訳するより、その翻訳率が高いことが分かった。

김광해(Kim Gwang-hae) (1981a)と이희자(Lee Hui-ja) (2010)他は「 N_1 의 N_2 」の「의」が省略可能なのは N_1 と N_2 の関係が「所有-被所有物」、「全体-部分」、「親族関係」のような場合であって、「 N_1 의 N_2 」と「 $N_1\emptyset N_2$ 」の N_1 と N_2 の意味関係に特別な差はないと思われる。従って、日本語の「 N_1 の N_2 」の「名詞+의+名詞」と「名詞+名詞」への翻訳においても意味関係それ自体には差がないと思われる。本研究では、「 N_1 の N_2 」の翻訳形式の「名詞+의+名詞」と「名詞+名詞」は対応し翻訳されたものとして扱う。即ち、この二つの翻訳形式の合計は対応し翻訳されたものと見なす。

そして、日本語の「 N_1 の N_2 」と韓国語の「 N_1 의 N_2 」の翻訳形式の中で動詞を用いて翻訳された「動詞化」翻訳形式が見られ、目につく。この翻訳形式について注目し、どのような場合であるかを検討する。その内容は次に続く第 4 章で詳細に述べる。

第4章 「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の動詞化

4.1 はじめに

3.5 で見た「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の翻訳形式「動詞化」は次のような結果であった。「N₁의N₂」では全体 9,048 例の内 366 例、即ち、4.05%が「動詞化」されていた。「N₁의N₂」では全体 6,088 例の内、129 例の 2.12%である。翻訳率が他の翻訳形式に比べてそれほど高くはないが、「内容省略」や「意識」等、本研究の用例として扱えない項目を除くと目立つ特徴と言えよう。また、「N₁のN₂」と「N₁의N₂」は名詞句であるが動詞を用いて翻訳されていることは興味深い。「N₁のN₂」の「動詞化」が 4.05%、「N₁의N₂」の「動詞化」が 2.12%と日本語を韓国語に翻訳する方が韓国語を日本語に翻訳するより動詞化される傾向が高いと考えられる。従って、この「動詞化」を分析することは「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の対照研究において重要な部分であると見られる。

本章³⁹では、翻訳本からまず、翻訳形式の色々な「動詞化」のタイプを分類し、特徴を提示し、次に「N₁のN₂」と「N₁의N₂」が動詞化された場合のその動詞、および特徴を考察する。「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の翻訳形式の中で動詞化されて翻訳される要因への足がかりを得るのではないかと考える。

4.2 動詞化に使われた動詞とそのタイプの分析

本節では、3.5 の「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の翻訳形式の結果から「動詞化」を抽出し考察する。その「動詞化」をさらに、類型化したものをまとめたのが<表 12>である。

「N₁のN₂」における「動詞化」の 366 例と「N₁의N₂」における「動詞化」の 129 例をタイプ別に使用数が多い順に並び替えた。

<表 12> 「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の動詞化タイプ

	日本語翻訳(J→K)			韓国語翻訳(K→J)		
	「N ₁ のN ₂ 」翻訳			「N ₁ 의N ₂ 」翻訳		
	動詞化タイプ	使用数	使用率	動詞化タイプ	使用数	使用率
1	名詞+에(e)+動詞+名詞	82	22.40%	名詞+가+動詞	22	17.05%
2	名詞+가/이(ga/i)+動詞+名詞	64	17.49%	名詞+に+動詞	17	13.18%
3	名詞+을/를(eul/reul)+動詞+名詞	56	15.30%	名詞+の+動詞+名詞	15	11.63%
4	動詞+名詞	49	13.39%	名詞+に+動詞+名詞	14	10.85%
5	名詞+動詞+名詞	32	8.74%	名詞+の+動詞	11	8.53%
6	名詞+을/를(eul/reul)+動詞	15	4.10%	動詞+名詞	10	7.75%
7	名詞+에서(eseo)+動詞+名詞	10	2.73%	名詞+を+動詞+名詞	9	6.98%
8	名詞+으로(eulo)+動詞+名詞	10	2.73%	名詞+を+動詞	5	3.88%
9	名詞+가/이(ga/i)+動詞	8	2.19%	名詞+動詞+名詞	4	3.10%

³⁹ 第4章は林仙雅(2013)の研究を基にデータを加算し、補完したものである。

10	名詞+로(ro)+動詞+名詞	6	1.64%	名詞+が+名詞+を+動詞	4	3.10%
11	副詞+動詞+名詞	5	1.37%	名詞+が+動詞+名詞	2	1.55%
12	名詞+의(ui)+動詞+名詞	4	1.09%	名詞+は+動詞	2	1.55%
13	名詞+은/는(eun/neun)+動詞	2	0.55%	その他	14	10.85%
14	その他	23	6.28%	合計	129	100%
	合計	366	100%			

上記の表から、翻訳形式「動詞化」には色々なタイプが現れていることが分かる。使用数が2例以上現れたタイプは何らかの要因によるものと判断して、表に提示したが、一つのタイプについて例が1例しか見つからなかった場合は「その他」に入れた。

「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の動詞化タイプの特徴として「の」と「의」以外の格助詞と動詞との組み合わせであることが目立った。

そして、「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の翻訳形式「動詞化」に使われている動詞を整理して量的に<表13>に表した。

<表13> 「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の翻訳形式「動詞化」に使われた動詞

日本語翻訳(J→K)				韓国語翻訳(K→J)			
「N ₁ のN ₂ 」の翻訳				「N ₁ 의N ₂ 」の翻訳			
	動詞	使用数	使用率		動詞	使用数	使用率
1	하다(hada) (する)	91	24.86%	1	言う	27	20.93%
2	있다(issda) (ある/いる)	56	15.30%	2	する	18	13.95%
3	오다(oda) (来る)	12	3.28%	3	ある	6	4.65%
4	되다(doeda) (なる)	11	3.01%	4	愛する	3	2.33%
5	보다(boda) (見る)	8	2.19%	5	いる	3	2.33%
6	만들다(mandeulda) (作る)	7	1.91%	6	書く	3	2.33%
7	먹다(meogda) (食べる)	7	1.91%	7	行く	2	1.55%
8	갈다(kkalda) (敷く)	6	1.64%	8	聞く	2	1.55%
9	나오다(naoda) (出る)	5	1.37%	9	責める	2	1.55%
10	이다(ida) (ある)	5	1.37%	10	話す	2	1.55%
11	살다(salda) (生きる)	5	1.37%	11	よる	2	1.55%
12	끝나다(kkeutnada) (終わる)	4	1.09%	12	あげる	1	0.78%
13	사다(sada) (買う)	4	1.09%	13	あたる	1	0.78%
14	앉다(anjda) (座る)	4	1.09%	14	あやす	1	0.78%
15	입다(ibda) (着る)	4	1.09%	15	言い張る	1	0.78%
16	걸다(geolda) (掛ける)	3	0.82%	16	行き着く	1	0.78%
17	놓다(nohda) (放す)	3	0.82%	17	勇ましい	1	0.78%
18	달다(dalda) (付ける)	3	0.82%	18	歌う	1	0.78%
19	담다(damda) (入れる)	3	0.82%	19	訴える	1	0.78%
20	대하다(daehada) (対する)	3	0.82%	20	奪う	1	0.78%
21	들다(deulda) (上げる)	3	0.82%	21	生む	1	0.78%
22	들어오다(deuleoda) (入る)	3	0.82%	22	恨む	1	0.78%
23	만나다(mannada) (会う)	3	0.82%	23	得る	1	0.78%
24	받다(badda) (受ける)	3	0.82%	24	犯す	1	0.78%
25	붙다(butda) (付く)	3	0.82%	25	怒る	1	0.78%
26	쉬다(swida) (休む)	3	0.82%	26	押さえる	1	0.78%
27	시키다(sikida) (やらす)	3	0.82%	27	思う	1	0.78%
28	짓다(jisda) (作る)	3	0.82%	28	終わる	1	0.78%
29	치다(chida) (打つ)	3	0.82%	29	掛ける	1	0.78%
30	타다(tada) (乗る)	3	0.82%	30	からかう	1	0.78%

31	피다(pida) (吸う)	3	0.82%
32	쓰다(sseuda) (書く)	2	0.55%
33	가지다(gajida) (持つ)	2	0.55%
34	관하다(gwanhada) (関する)	2	0.55%
35	그리다(geulida) (描く)	2	0.55%
36	나가다(nagada) (出る)	2	0.55%
37	나다(nada) (起きる)	2	0.55%
38	뜻하다(tteushada) (志す)	2	0.55%
39	말다(matda) (引き受ける)	2	0.55%
40	매달리다(maedallida) (ぶら下がる)	2	0.55%
41	심다(simda) (植える)	2	0.55%
42	자라다(jalada) (育つ)	2	0.55%
43	주다(juda) (あげる)	2	0.55%
44	지다(jida) (負ける)	2	0.55%
45	찍다(jjigda) (撮る)	2	0.55%
46	할퀴다(halkwida) (ひっかく)	2	0.55%
47	흐르다(heuleuda) (流れる)	2	0.55%
48	일어나다(ileonada) (起きる)	2	0.55%
49	쓰다(sseuda) (かぶる)	1	0.27%
50	가다(gada) (行く)	1	0.27%
51	가만두다(gamanduda) (そっ としておく)	1	0.27%
52	걷다(geodda) (歩く)	1	0.27%
53	고치다(gochida) (直す)	1	0.27%
54	고함치다(gohamchida) (どなる)	1	0.27%
55	구하다(guhada) (救う)	1	0.27%
56	기르다(gileuda) (養う)	1	0.27%
57	끌어당기다 (kkeuleodanggida) (引き寄せる)	1	0.27%
58	끼다(kkida) (はさむ)	1	0.27%
59	끼치다(kkichida) (及ぼす)	1	0.27%
60	널다(neolda) (干す)	1	0.27%
61	넣다(neohda) (入れる)	1	0.27%
62	다니다(danida) (通う)	1	0.27%
63	데우다(deuda) (温める)	1	0.27%
64	돌다(dolda) (回る)	1	0.27%
65	돕다(dobda) (助ける)	1	0.27%
66	뉘굴다(dwinggulda) (寝ころぶ)	1	0.27%
67	떠나다(tteonada) (去る)	1	0.27%
68	뜨다(ttuida) (目につく)	1	0.27%
69	마치다(machida) (終わる)	1	0.27%
70	망설이다(mangseolida) (ためらう)	1	0.27%
71	맏히다(maejhida) (結ばれる)	1	0.27%
72	모르다(moleuda) (知る)	1	0.27%
73	모으다(moeuda) (集める)	1	0.27%
74	바라다(balada) (願う)	1	0.27%
75	박히다(baghida) (刺さる)	1	0.27%
76	벌거벗다 (beolgeobeosda) (裸になる)	1	0.27%

31	考える	1	0.78%
32	感じる	1	0.78%
33	悔い改める	1	0.78%
34	下す	1	0.78%
35	配る	1	0.78%
36	けしかける	1	0.78%
37	ごねる	1	0.78%
38	懲らしめる	1	0.78%
39	支える	1	0.78%
40	誘う	1	0.78%
41	死ぬ	1	0.78%
42	勧める	1	0.78%
43	住む	1	0.78%
44	棲む	1	0.78%
45	頼む	1	0.78%
46	ちがう	1	0.78%
47	ちくる	1	0.78%
48	つかさどる	1	0.78%
49	付く	1	0.78%
50	告げる	1	0.78%
51	つのる	1	0.78%
52	出る	1	0.78%
53	取り押さえる	1	0.78%
54	泣く	1	0.78%
55	亡くなる	1	0.78%
56	なる	1	0.78%
57	似合う	1	0.78%
58	逃れる	1	0.78%
59	残る	1	0.78%
60	述べる	1	0.78%
61	働く	1	0.78%
62	発する	1	0.78%
63	光る	1	0.78%
64	振る	1	0.78%
65	ふるまう	1	0.78%
66	ほめる	1	0.78%
67	見る	1	0.78%
68	迎える	1	0.78%
69	呼び出す	1	0.78%
70	別れる	1	0.78%
	合計	129	100%

77	벗어나다(boseonada) (逃れる)	1	0.27%
78	베다(beda) (切る)	1	0.27%
79	보내다(bonaeda) (送る)	1	0.27%
80	부딪히다(budijhida) (ぶつ かる)	1	0.27%
81	비우다(biuda) (空ける)	1	0.27%
82	빚대다(bisdaeda) (当てこす る)	1	0.27%
83	생기다(saenggida) (生ずる)	1	0.27%
84	서다(seoda) (立つ)	1	0.27%
85	속하다(soghada) (属する)	1	0.27%
86	신다(sidda) (積む)	1	0.27%
87	쌓다(ssahda) (重ねる)	1	0.27%
88	외치다(oechida) (叫ぶ)	1	0.27%
89	웃다(usda) (笑う)	1	0.27%
90	이어받다(ieobadda) (受け継ぐ)	1	0.27%
91	이어지다(ieojida) (続く)	1	0.27%
92	저지르다(jeojileuda) (犯す)	1	0.27%
93	절다 (jeolda) (びっこをひく)	1	0.27%
94	정하다(jeonghada) (決める)	1	0.27%
95	죽다(jugda) (死ぬ)	1	0.27%
96	지나다(jinada) (過ぎる)	1	0.27%
97	지르다(jileuda) (突く)	1	0.27%
98	지우다(jiuda) (消す)	1	0.27%
99	챙기다(chaenggida) (取りまとめる)	1	0.27%
100	쳐들다(chyeodeulda) (持ち上げる)	1	0.27%
101	해내다(haenaeda) (成し遂げる)	1	0.27%
102	화내다(hwanaeda) (怒る)	1	0.27%
103	흐리다(heulida) (曇る)	1	0.27%
	合計	366	100%

「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の「動詞化」において使われた動詞は多様である。「N₁のN₂」の翻訳(J→K)では異なり数として103の動詞が使われ、「N₁의N₂」の翻訳(K→J)では異なり数として70の動詞が使われていた。「N₁のN₂」の翻訳(J→K)の用例が多いという理由もあるが、「N₁의N₂」の翻訳(K→J)に比べて「N₁のN₂」の翻訳(J→K)のほうが多様な動詞が使われていた。

「N₁のN₂」の翻訳(J→K)で最も多く使われた動詞は「하다(する)」であり、24.86%の使用率であった。「N₁의N₂」の翻訳(K→J)で最も多く使われた動詞は「言う」であり、20.93%の使用率であった。この中で意味的に対応する動詞がいくつか見られた。それは、①「하다(する)」「する」、②「있다(ある/いる)」「ある」「いる」、③「되다(なる)」「なる」、④「보다(見る)」「見る」、⑤「나오다(出る)」「出る」、⑥「끝나다(終わる)」

「終わる」、⑦「붙다(付く)」「付く」、⑧「쓰다(書く)」「書く」、⑨「가다(行く)」「行く」、⑩「죽다(死ぬ)」「死ぬ」の10種である。これらの使用率を日本語と韓国語で比較すると以下のようなものである。

①「하다(する)」「する」

「N₁のN₂」の翻訳(J→K)は24.86%、「N₁의N₂」の翻訳(K→J)は13.95%

②「있다(ある/いる)」「ある/いる」

「N₁のN₂」の翻訳(J→K)は15.30%、「N₁의N₂」の翻訳(K→J)は6.98%(4.65%+2.33%)

③「되다(なる)」「なる」

「N₁のN₂」の翻訳(J→K)は3.01%、「N₁의N₂」の翻訳(K→J)は0.78%

④「보다(見る)」「見る」

「N₁のN₂」の翻訳(J→K)は2.19%、「N₁의N₂」の翻訳(K→J)は0.78%

⑤「나오다(出る)」「出る」

「N₁のN₂」の翻訳(J→K)は1.37%、「N₁의N₂」の翻訳(K→J)は0.78%

⑥「끝나다(終わる)」「終わる」

「N₁のN₂」の翻訳(J→K)は1.09%、「N₁의N₂」の翻訳(K→J)は0.78%

⑦「붙다(付く)」「付く」

「N₁のN₂」の翻訳(J→K)は0.82%、「N₁의N₂」の翻訳(K→J)は0.78%

⑧「쓰다(書く)」「書く」

「N₁のN₂」の翻訳(J→K)は0.55%、「N₁의N₂」の翻訳(K→J)は2.33%

⑨「가다(行く)」「行く」

「N₁のN₂」の翻訳(J→K)は0.27%、「N₁의N₂」の翻訳(K→J)は1.55%

⑩「죽다(死ぬ)」「死ぬ」

「N₁のN₂」の翻訳(J→K)は0.27%、「N₁의N₂」の翻訳(K→J)は0.78%

「N₁のN₂」の翻訳(J→K)と「N₁의N₂」の翻訳(K→J)で使われた意味的に対応する動詞の使用率を比較した結果、使用率に差があった。

「N₁의N₂」の翻訳(K→J)に比べて、「N₁のN₂」の翻訳(J→K)の使用率が高かったのは①「하다(する)」「する」、②「있다(ある/いる)」「ある、いる」、③「되다(なる)」「なる」、④「보다(見る)」「見る」、⑤「나오다(出る)」「出る」、⑥「끝나다(終わる)」「終わる」、⑦「붙다(付く)」「付く」である。逆に、「N₁의N₂」の翻訳(K→J)に比べて「N₁의N₂」の翻訳(K→J)の使用率が高かったのは、⑧「쓰다(書く)」「書く」、⑨「가다(行く)」「行く」、⑩「죽다(死ぬ)」「死ぬ」であった。

以上、「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の「動詞化」に使われている動詞を整理して量的に表した結果、意味的に対応する動詞が使われていることが確認できた。しかしながら、その使用率を比較すると「N₁のN₂」の翻訳(J→K)と「N₁의N₂」の翻訳(K→J)に使われる動詞の使用率には差があった。

一方、「N₁のN₂」の動詞化タイプと「N₁의N₂」の動詞化タイプをお互い比較して見ると、同じタイプの動詞化がいくつか見られた。それを分かりやすく揃え(表 14)にて整理した。

〈表 14〉「N₁のN₂」(J→K)と「N₁의N₂」(K→J)との共通する動詞化タイプ

日韓の共通する動詞化タイプ						
	「N ₁ のN ₂ 」動詞化タイプ (J→K)	使用数	使用率	「N ₁ 의N ₂ 」の動詞化タイプ (K→J)	使用数	使用率
1	名詞+에+動詞+名詞	82	22.40%	名詞+に+動詞+名詞	14	10.85%
				名詞+に+動詞	17	13.18%
2	名詞+가/이+動詞+名詞	64	17.49%	名詞+が+動詞+名詞	2	1.55%
	名詞+가/이+動詞	8	2.19%	名詞+が+動詞	22	17.05%
3	名詞+의+動詞+名詞	4	1.09%	名詞+の+動詞+名詞	15	11.63%
				名詞+の+動詞	11	8.53%
4	名詞+을/를+動詞+名詞	56	15.30%	名詞+を+動詞+名詞	9	6.98%
	名詞+을/를+動詞	15	4.10%	名詞+を+動詞	5	3.88%
5	動詞+名詞	49	13.39%	動詞+名詞	10	7.75%
6	名詞+動詞+名詞	32	8.74%	名詞+動詞+名詞	4	3.10%

〈表 14〉の 1 から 4 までは、日本語と韓国語の類似した格助詞と動詞との組み合わせである動詞化タイプをまとめた。

ここで、「N₁のN₂」と「N₁의N₂」との共通する動詞化タイプの使用率を比較する。まず、「名詞+에+動詞+名詞」の 22.40%と、「名詞+に+動詞+名詞」と「名詞+に+動詞」を合せた 24.03%はお互い同様な使用率である。次の「名詞+가/이+動詞+名詞」と「名詞+가/이+動詞」を合せた 19.68%と、「名詞+が+動詞+名詞」と「名詞+が+動詞」を合せた 18.60%の使用率もお互い同様な使用率である。次の「名詞+의+動詞+名詞」の 1.09%と、「名詞+の+動詞+名詞」と「名詞+の+動詞」を合せた 20%はかなり大きな

差が見られた⁴⁰。韓国語から日本語への動詞化タイプの方が日本語から韓国語への動詞化タイプに比べ高い使用率であった。次に、「名詞+을/를+動詞+名詞」と「名詞+을/를+動詞」を合せた 19.40%と、「名詞+을+動詞+名詞」と「名詞+을+動詞」を合せた 10.85%の使用率を比べると、日本語から韓国語への動詞化タイプの方が韓国語から日本語への動詞化タイプに比べて高い使用率であった。次に「動詞+名詞」の 13.39%と 7.75%を比べると、日本語から韓国語への動詞化タイプの方が韓国語から日本語への動詞化タイプに比べて高い。また、「名詞+動詞+名詞」の 8.74%と 3.08%を比べると韓国語への動詞化タイプの方が日本語への動詞化タイプに比べて高い使用率を見せた。

従って、〈表 14〉の 1 と 2 の共通したタイプは、同様な使用率であったので、日本語も韓国語も同等に、この動詞化タイプに翻訳されると見られる。3 の共通したタイプは韓国語の翻訳の方が日本語の翻訳に比べて高い使用率であった。そのため、このタイプは日本語を韓国語に翻訳するときより、韓国語を日本語に翻訳する際に、より動詞化のタイプとして使わせる可能性が高いかと考えられる。一方、3 とは逆に 4、5、6 の共通したタイプは日本語の方が韓国語に比べて高い使用率であった。これらのタイプは韓国語を日本語に翻訳するときより、日本語を韓国語に翻訳する際に、より動詞化のタイプとして使われる可能性が高いかと思われる。

以上、「N₁のN₂」と「N₁의N₂」との共通する動詞化タイプを比較した結果、使用率が同様なタイプが見られた反面そうでないタイプも見受けられた。即ち、共通する動詞化タイプであってもその使用率まで同様とは言えないと思われる。

次の節ではこの共通する動詞化タイプを比較して、そこに現れている動詞にはどのようなものが使われているのかをさらに詳細に検討することによって、日本語と韓国語の両言語の「動詞化」の特徴を探りたい。

4.3 「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の動詞化タイプの比較

本節では、日韓の動詞化においての類似のタイプを比較する。この比較ではどのような動詞が使用されているか、また、日韓で類似の動詞を用いているか、日韓で使われた動詞の種類には差があるかを見る。ここでは、用例を名詞句、または動詞句のみを取り上げているが、必要に応じては文脈を提示しながら説明を加える。

「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の動詞化タイプの比較は上記の〈表 14〉の順に分析を行う。

⁴⁰ 「の」は主語を表わす。そのため、「N₁のN₂」動詞化タイプ(J→K)の「名詞+의+動詞+名詞」とは並行的な形で翻訳されていたが、その用法は異なっていると思われる。詳細な説明は 4.3 に記載した。

まず、「名詞+에+動詞+名詞」と「名詞+に+動詞(+名詞)」を比較する。この両タイプに使われている「에」と「に」は類似した助詞である。日本語の格助詞「に」に当たるものは色々あるだろうが、代表的なのは「에」である⁴¹。〈表 15〉は動詞化タイプ「名詞+에+動詞+名詞」と「名詞+に+動詞(+名詞)」に使われている動詞を量的にまとめたものである。

〈表 15〉「名詞+에+動詞+名詞」と「名詞+に+動詞(+名詞)」⁴²に使われた動詞

「N ₁ 의 N ₂ 」の翻訳(J→K)			「N ₁ 의 N ₂ 」の翻訳(K→J)		
動詞	使用数	使用率	動詞	使用数	使用率
있다(ある/いる)	44	53.66%	ある	5	16.13%
앉다(座る)	4	4.88%	する	3	9.68%
살다(住む)	3	3.66%	言う	2	6.45%
하다(する)	3	3.66%	いる	2	6.45%
달다(付ける)	2	2.44%	泣く	2	6.45%
대하다(対する)	2	2.44%	よる	2	6.45%
매달리다(ぶらさがる)	2	2.44%	あたる	1	3.23%
오다(来る)	2	2.44%	行く	1	3.23%
관하다(関する)	2	2.44%	からかう	1	3.23%
걸다(掛ける)	1	1.22%	聞く	1	3.23%
나카다(出る)	1	1.22%	支える	1	3.23%
내밀다(出す)	1	1.22%	誘う	1	3.23%
널다(干す)	1	1.22%	しかける	1	3.23%
넣다(入れる)	1	1.22%	すむ	1	3.23%
놓다(置く)	1	1.22%	頼む	1	3.23%
담다(盛る)	1	1.22%	違ふ	1	3.23%
뒹굴다(寝ころぶ)	1	1.22%	付く	1	3.23%
들다(上げる)	1	1.22%	取り押さえる	1	3.23%
뺏다(抱く)	1	1.22%	残る	1	3.23%
붙다(付く)	1	1.22%	ほめる	1	3.23%
서다(立つ)	1	1.22%	むかう	1	3.23%
심다(植える)	1	1.22%	合計	31	100%
일어나다(起きる)	1	1.22%			
질다(漬かる)	1	1.22%			
짓다(建てる)	1	1.22%			
찍다(撮る)	1	1.22%			
흐르다(流れる)	1	1.22%			
合計	82	100%			

「N₁의 N₂」の翻訳(J→K)の用例数が「N₁의 N₂」の翻訳(K→J)の用例数より多いこともあるが、日本語を韓国語に翻訳した方が韓国語を日本語に翻訳するより使われた動詞の種類が多い。その中で、「N₁의 N₂」の翻訳(J→K)では「있다(itta、ある/いる)」が全体の内、53.66%と目立つ。なお、「N₁의 N₂」の翻訳(K→J)でも「있다」と意味的に対応する「ある」と「いる」が16.13%と6.45%の合計22.58%の使用率であった。つまり、「N₁의 N₂」の翻訳(J→K)の方が「N₁의 N₂」の翻訳(K→J)に比べて使用率が高い。

⁴¹ 朴在權(Park Jae-gwon) (1997:50) 参照。

⁴² 「名詞+に+動詞+名詞」と「名詞+に+動詞」の両方のことである。

また、この動詞化タイプに使われた動詞の中で意味的に対応する動詞が上記の「있다」「ある」以外にも見受けられた。それは「N₁의 N₂」の翻訳(J→K)では「하다(する)」と「N₁의 N₂」の翻訳(K→J)では「する」である。この使用率を比較すると「하다(する)」は3.66%、「する」は9.68%である。この意味的に対応する動詞の場合、「N₁의 N₂」の翻訳(J→K)より、「N₁의 N₂」の翻訳(K→J)の方の使用率が高い。さらに、「붙다(付く)」と「付く」は意味的に対応する動詞である。この使用率を比較すると、「붙다(付く)」は1.22%、「付く」は3.23%である。この意味的に対応するの動詞の場合、「N₁의 N₂」の翻訳(J→K)より、「N₁의 N₂」の翻訳(K→J)の方の使用率が高い。

ここで、いわゆる広い意味で場所を表す名詞(N₁)が使われている用例が見られた。その一部の用例を以下の<表 16>に示した。

<表 16>いわゆる広い意味で場所を表す名詞(N₁)が使われた用例

動詞	「N ₁ 의 N ₂ 」	ページ	名詞+에+動詞+名詞	ページ	文学作品	
1	있다	わきの花屋	39	옆에 있는 꽃가게 (yeope issneun kkochgage)	45	空中庭園
2	있다	日本の教会	272	일본에 있는 교회 (ilbone issneun gyohoe)	301	空中庭園
3	있다	まわりの気配	191	주위에 있는 인기척 (juwie issneun ingicheog)	213	空中庭園
4	있다	銀座のクラブ	207	건자에 있는 술집 (ginjae issneun suljib)	238	空中ブランコ
5	있다	ロビー隅のゴミ箱	192	로비 구석에 있는 쓰레기통 (lobi guseoge issneun sseulegitong)	221	空中ブランコ
6	있다	音楽室のピアノ	77	음악실에 있는 피아노 (eumagsile issneun piano)	96	色彩
7	있다	隣の一矢	93	옆에 있던 카즈야 (yeope issdeon kajeuya)	96	ラストソング
動詞	「N ₁ 의 N ₂ 」	ページ	名詞+に+動詞+名詞	ページ	文学作品	
1	ある	위의 꽃바구니 (wiui kkochnaguni)	18	上にあったドライフラワー	20	무소의 뿔처럼
2	いる	뒷자리의 여학생 (dwisjaliui yeohagsaeng)	42	うしろにいた娘	44	무소의 뿔처럼
3	ある	연길의 사우나 (yeongilui ssauna)	115	延吉にあるサウナ	94	바리데기
4	ある	옆의 토끼장 (yeopui tokkijang)	125	となりにあるうさぎ小屋	114	아홉살인생
5	ある	산꼭대기의 집이라니! (sankkogdaegiui jibilani!)	11	山のてっぺんにある家!	10	아홉살인생
6	いる	앞의 준영 (apui junyeong)	114	前にいる준영	117	어머니
7	ある	펜스의 틈새 (penseuui teumsae)	16	펜스에 있는 틈새	16	어머니

日韓共に同じ意味的用法で使われている。だが、この動詞化タイプにおいていわゆる広い意味で場所を表す名詞である用例の数は、「N₁의 N₂」の翻訳(J→K)は全体 82 例の内、75 例の 91.46%であり、「N₁의 N₂」の翻訳(K→J)は全体 31 例の内、11 例の 35.48%の使用

率であった。従って、「N₁의N₂」の翻訳(K→J)の場合が「N₁のN₂」の翻訳(J→K)より使用率が高い。また、ここで使われている動詞を見ると、「N₁의N₂」の翻訳(K→J)の場合はほとんど存在を意味する「있다」が使われ、「N₁のN₂」の翻訳(J→K)の場合も「있다」と意味的に対応する「ある/いる」が使われていた。

一方、「N₁의N₂」の翻訳(K→J)の場合、受身的表現が多く見受けられた。だが、「N₁의N₂」の翻訳(J→K)では見られなかった。「N₁의N₂」の翻訳(K→J)の場合、受身的表現で翻訳された一部の用例は以下の<表 17>である。

<表 17> 「N₁의N₂」の翻訳(K→J)の場合、受身的表現が使われた用例

	「N ₁ 의N ₂ 」	ページ	名詞+に+動詞+名詞	ページ	文学作品
1	미주의 권유 (mijuui gwonyu)	49	미주에誘われて	41	국화꽃 향기
2	정 소장의 반대 (jeong sojangui bandae)	231	정소장에게反對されても	268	등대지기
3	난희의 울음 (nanhuiui uleum)	214	난희に泣かれる	248	등대지기
4	식구들의 마중 (siggudeului majung)	245	가족にむかえられる	251	무소의 뿔처럼
5	엄마의 칭찬 (eommaui chingchan)	20	母にほめられ	15	세상에서
6	기생의 부축 (gisaengui buchug)	143	妓生に支えられて	155	아랑은 왜
7	어사의 재촉 (eosau jaechog)	236	御史にまた催促されて	257	아랑은 왜
8	친구녀석의 놀림 (chingunyeoseogui nollim)	201	友だちにからかわれて	181	아홉살인생

しかしながら、この用法における「に」は動作主を表す。即ち、主語(翻訳でのN₁)に準じるものとして扱うべきである。受身的表現が使われた用例は 15 例あった。

以上、「名詞+에+動詞+名詞」と「名詞+に+動詞(+名詞)」の動詞化タイプを比較した結果、意味的に対応する動詞が見られた。それは、「있다(ある/いる)」「ある/いる」、「하다(する)」「する」、「붙다(付く)」「付く」である。これらの使用率を比較すると「있다(ある/いる)」「ある/いる」は「N₁의N₂」の翻訳(K→J)に比べて「N₁의N₂」の翻訳(J→K)の方が使用率が高い。一方、「하다(する)」「する」と「붙다(付く)」「付く」は「N₁의N₂」の翻訳(J→K)に比べて「N₁의N₂」の翻訳(K→J)の方が使用率が高い。さらに、この動詞化タイプではいわゆる場所を表す名詞(N₁)が主に使われた用例が多く見受けられた。これは、「N₁의N₂」の翻訳(J→K)の方が「N₁의N₂」の翻訳(K→J)に比べて使用率が高かった。つまり、「N₁의N₂」の翻訳(K→J)は「N₁의N₂」の翻訳(J→K)よりかなり少ない。

また、「N₁의N₂」の翻訳(K→J)において、受身的表現を使い翻訳された用例が多く見

られた。

次は、「N₁のN₂」の「名詞+가/이+動詞(+名詞)」動詞化タイプと「N₁의N₂」の「名詞+가+動詞(+名詞)」動詞化タイプを比較する。

まず、使われている助詞「가/이⁴³」と「가」は格助詞であり、主格として分類されると思われる。主格であるため、述語が表す動作・状態・存在等の主体を表す場合⁴⁴であると予想される。以下の〈表 18〉は使われた動詞をまとめたものである。

〈表 18〉「名詞+가/이+動詞(+名詞)⁴⁵」と「名詞+가+動詞(+名詞)⁴⁶」の動詞

「N ₁ のN ₂ 」の翻訳(J→K)			「N ₁ 의N ₂ 」の翻訳(K→J)		
動詞	使用数	使用率	動詞	使用数	使用率
하다(する)	20	27.78%	言う	6	25.00%
갈다(敷く)	6	8.33%	する	5	20.83%
되다(になる)	5	6.94%	ある	1	4.17%
있다(ある/いる)	5	6.94%	生む	1	4.17%
만들다(作る)	3	4.17%	終わる	1	4.17%
끝나다(終わる)	2	2.78%	書く	1	4.17%
오다(来る)	2	2.78%	考える	1	4.17%
할퀴다(ひっかく)	2	2.78%	感じる	1	4.17%
흐르다(流れる)	2	2.78%	聞く	1	4.17%
가만두다(そっとしておく)	1	1.39%	ごねる	1	4.17%
걸다(歩く)	1	1.39%	死ぬ	1	4.17%
고함치다(どなる)	1	1.39%	ちくる	1	4.17%
그리다(描く)	1	1.39%	告げる	1	4.17%
나다(起こる)	1	1.39%	亡くなる	1	4.17%
놓다(置く)	1	1.39%	怒る	1	4.17%
다니다(通う)	1	1.39%	合計	24	100.00%
달다(付ける)	1	1.39%			
담다(入れる)	1	1.39%			
맡다(引き受ける)	1	1.39%			
모이다(集まる)	1	1.39%			
바라다(願う)	1	1.39%			
박히다(さし込まれる)	1	1.39%			
보다(見る)	1	1.39%			
빚대다(当てつける)	1	1.39%			
속하다(属する)	1	1.39%			
시키다(やらす)	1	1.39%			
심다(植える)	1	1.39%			

⁴³ 韓国語の場合助詞の前に位置する名詞の子音の有無により「가/이(ga/i)」を分けて使われる。

名詞が子音で終わる場合は「이(i)」を母音で終わる場合は「가(ga)」を使用する。

以下の「은/는(eun/neun)」「을/를(eul/reul)」も同様である。

名詞が子音で終わる場合は「은(eun)」「을(eul)」を母音で終わる場合は「는(neun)」「를(reul)」を使用する。

⁴⁴ 『明鏡国語辞典』(2002)参照。韓国語も同様の用法に分類される。(朴在權(Park Jae-gwon)(1997:33)参照。)

⁴⁵ 「名詞+가/이(ga/i)+動詞+名詞」と「名詞+가/이(ga/i)+動詞」の両方のことである。

⁴⁶ 「名詞+가+動詞+名詞」と「名詞+가+動詞」の両方のことである。

쓰다(書く)	1	1.39%
이어지다(繋がる)	1	1.39%
입다(着る)	1	1.39%
자라다(育つ)	1	1.39%
죽다(死ぬ)	1	1.39%
타다(乗る)	1	1.39%
피다(咲く)	1	1.39%
合計	72	100%

「N₁의N₂」の翻訳(J→K)に使われた動詞の種類は「N₁의N₂」の翻訳(K→J)に使われた動詞の種類より多いことが見受けられる。このタイプの中で「N₁의N₂」の翻訳(J→K)と「N₁의N₂」の翻訳(K→J)に意味的に対応する動詞が見られた。それは、「하다(する)」「する」、「있다(ある/いる)」「ある」、「죽다(死ぬ)」「死ぬ」である。「하다(する)」は使用率が27.78%、「する」は使用率が20.83%である。この意味的に対応する動詞は「N₁의N₂」の翻訳(K→J)より、「N₁의N₂」の翻訳(J→K)の方の使用率が高い。「있다(ある/いる)」は使用率が6.94%、「ある」は使用率が4.17%である。この意味的に対応する動詞も「N₁의N₂」の翻訳(K→J)より、「N₁의N₂」の翻訳(J→K)の方の使用率が高い。「죽다(死ぬ)」は使用率が1.39%、「死ぬ」は使用率が4.17%である。この意味的に対応する動詞は「N₁의N₂」の翻訳(J→K)より、「N₁의N₂」の翻訳(K→J)の方の使用率が高い。

一方、「N₁의N₂」の「名詞+가/이+動詞(+名詞)」動詞化タイプと「N₁의N₂」の「名詞+가+動詞(+名詞)」動詞化タイプのN₂に関して次の<表19>ような用例が見られた。

<表19> 「N₁의N₂」と「N₁의N₂」のN₂が動的な意味の用例

	動詞	「N ₁ 의N ₂ 」	ページ	名詞+가/이+動詞	ページ	文学作品
1	하다(する)	絵里子の妊娠	58	에리코가 임신하면서 (elikoga imsinhamyeonseo)	63	空中庭園
2	죽다(死ぬ)	エッチちゃんの死	154	에쓰코가 죽을 때 (esseukoga jugeul ttae)	170	空中庭園
	動詞	「N ₁ 의N ₂ 」	ページ	名詞+가+動詞	ページ	文学作品
1	言う	엄마의 고집 (eommaui gojib)	236	母が言い張る	219	세상에서
2	生む	아이의 탄생 (aiui tansaeng)	211	子どもが生まれたこと	217	무소의 뿔처럼
3	ごねる	어머니의 투정 (eomeoniui tujeong)	160	母がごねても	185	등대지기
4	死ぬ	아내의 죽음 (anaeui jugeum)	171	妻が死ぬ	159	세상에서
5	する	혜완의 침묵 (hyewanui chimmug)	153	へ완が沈黙している	158	무소의 뿔처럼
6	する	어머니의 입원 (eomeoniui ibwon)	195	母が入院した	181	세상에서
7	する	아내의 분노 (anaeui bunno)	232	妻が激怒している	215	세상에서
8	する	임꺽정의 출현 (imkkeogjeongui chulhyeon)	38	林巨正が出現した	46	아랑은 왜
9	ちくる	오금복의 고자질 (ogeumbogui gojajil)	250	オ・クムボクがちくった	225	아홉살인생

10	告げる	난희의 고자질 (nanhuiui gojajil)	111	ナニが告げ口して	127	등대지기
11	亡くなる	할머니의 죽음 (halmeoniui jugeum)	166	老人が亡くなって	150	아홉살인생
12	怒る	이길성의 성화 (igilseongui seonghwa)	219	ギルソンが怒る	254	등대지기

このタイプでは「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の原作におけるN₂が動的な意味を表す名詞が見られた。「N₁のN₂」においては「妊娠、死」が、「N₁의N₂」においては「고집(gojib、固執)」、탄생(tansaeng、誕生)、투정(tujeong、ねだること)、죽음(jugeum、死)、침묵(chimmug、沈黙)、고자질(gojajil、告口)、성화(seonghwa、いらいら)等」がそうである。

このように、N₂が動的な意味を表す名詞である用例の使用率を比較すると、「名詞+が/이+動詞(+名詞)」動詞化タイプでは全体 72 例の内 2 例で使用率は 2.77%である。「名詞+가+動詞(+名詞)」動詞化タイプでは全体 24 例の内 12 例で使用率は 50%であった。従って、これは「N₁의N₂」のN₂が動的な意味を表す場合が「N₁のN₂」のN₂が動的な意味を表す場合より可能性が高いことを示すだろう。また、この用例の中で「N₁のN₂」と「N₁의N₂」のN₂が同じ名詞が確認できた。それは「死」「죽음」である。だが、これ以外は共通する名詞は見られなかった。

このように、同じ動詞化タイプにおいて「N₁のN₂」と「N₁의N₂」に使われている名詞(N₂)が動的な意味を持つという共通した特徴が見られたが、その使用率は「N₁のN₂」の翻訳(J→K)より、「N₁의N₂」の翻訳(K→J)の方が高い。

以上、「N₁のN₂」の「名詞+가/이+動詞(+名詞)」動詞化タイプと「N₁의N₂」の「名詞+가+動詞(+名詞)」動詞化タイプを比較した結果、意味的に対応する動詞が見られた。それは、「하다(する)」「する」、「있다(ある/いる)」「ある」、「죽다(死ぬ)」「死ぬ」である。これらの使用率を比較すると「하다(する)」「する」と「있다(ある/いる)」「ある」は「N₁의N₂」の翻訳(K→J)に比べて「N₁のN₂」の翻訳(J→K)の方が高い。一方、「죽다(死ぬ)」「死ぬ」は「N₁のN₂」の翻訳(J→K)に比べて「N₁의N₂」の翻訳(K→J)の方の使用率が高い。さらに、この動詞化タイプでは「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の原作のN₂が動的な意味を持つという共通した特徴が見られた。その使用率を比較した結果、韓国語の方が日本語に比べてN₂が動的な意味を表す名詞がよく使われていることが分かった。

次は「N₁のN₂」の「名詞+의+動詞+名詞」動詞化タイプと「N₁의N₂」の「名詞+의+動詞(+名詞)」動詞化タイプを比較する。ここで使われている助詞は「의」と「の」である。〈表 20〉はこの動詞化タイプに使われた動詞をまとめたものである。

<表 20> 「名詞+의+動詞+名詞」と「名詞+の+動詞(+名詞)⁴⁷」の動詞

「N ₁ 의N ₂ 」の翻訳(J→K)			「N ₁ 의N ₂ 」の翻訳(K→J)		
動詞	使用数	使用率	動詞	使用数	使用率
하다(する)	2	50%	言う	14	56%
웃다(笑う)	1	25%	行く	2	8%
벗다(脱ぐ)	1	25%	犯す	1	4%
合計	4	100%	書く	1	4%
			下す	1	4%
			する	1	4%
			働く	1	4%
			話す	1	4%
			ふるまう	1	4%
			目配せ	1	4%
			別れる	1	4%
			合計	25	100%

この動詞化タイプでは、「N₁의N₂」の翻訳(K→J)に使われた動詞の種類が「N₁의N₂」の翻訳(J→K)に使われた動詞より多様である。このタイプの中で「N₁의N₂」の翻訳(J→K)と「N₁의N₂」の翻訳(K→J)に意味的に対応する動詞が見られた。それは「하다(する)」「する」である。「하다(する)」は「N₁의N₂」の翻訳(J→K)における使用率が50%、「する」は「N₁의N₂」の翻訳(K→J)における使用率が4%である。この意味的に対応する動詞は「N₁의N₂」の翻訳(K→J)より「N₁의N₂」の翻訳(J→K)の方の使用率が高い。

上記の動詞化タイプでは、共通の特徴が見られる部分があったが、この「名詞+의+動詞+名詞」と「名詞+の+動詞(+名詞)」では共通点が見られない。では、「N₁의N₂」と「N₁의N₂」の動詞化の具体例を見てみる。

<表 21> 「名詞+의+動詞+名詞」動詞化タイプの用例

	動詞	「N ₁ 의N ₂ 」	ページ	名詞+의+動詞+名詞	ページ	文学作品
1	벗다(脱ぐ)	自分の裸身	45	자신의 벌거벗은 몸 (jasinui beolgeobeoseun mom)	57	色彩を持たない
2	웃다(笑う)	修吉の笑顔	211	슈키치의 웃는 얼굴 (syukichiui usneun eolgul)	209	ラストソング
3	하다(する)	現実の雑事	78	현실의 잡다한 일들 (hyeonsilui jabdahan ildeul)	98	色彩を持たない
4	하다(する)	事件の詳細	26	사건의 상세한 부분 (sageonui sangsehan bubun)	34	謎解き

<表 21>のように「N₁의N₂」の「名詞+의+動詞+名詞」動詞化タイプでは「N₁의N₂」のN₂の「裸身」「笑顔」「雑事」「詳細」の意味を詳細に言葉を表現して翻訳されている。この名詞(N₂)は「나신(nasin)」「소안(soan)」「잡사(jabsa)」「상세(sangse)」のように意味的に対応する漢語が韓国語にもあるが、漢語のまま使われることはめったにない。

⁴⁷ 「名詞+の+動詞+名詞」と「名詞+の+動詞」の両方のことである。

そのため、言葉を分かりやすい形に翻訳していると思われる。このような用例は「N₁의 N₂」の「名詞+の+動詞(+名詞)」動詞化タイプでは見られなかった。

〈表 22〉「名詞+の+動詞(+名詞)」動詞化タイプの用例(N₂が「言語」)

	動詞	「N ₁ 의 N ₂ 」	ページ	名詞+の+動詞(+名詞)	ページ	文学作品
1	言う	그녀의 말 (geunyeoui mal)	142	彼女のいうこと	147	무소의 뿔처럼
2	言う	엄마의 말 (eommaui mal)	64	母の言うこと	57	세상에서
3	言う	의원의 말 (uiwonui mal)	227	医員の言ったこと	247	아랑은 왜
4	言う	세희의 말 (sehuiui mal)	95	セヒの言うとおりに	97	어머니
5	話す	어머니의 이야기 (eomeoniui iyagi)	241	母の話してくれる物語	247	무소의 뿔처럼

〈表 22〉は「N₁의 N₂」の「名詞+の+動詞(+名詞)」動詞化タイプでN₂が「言語(『分類語彙表』の「1.31 言語」に分類されるもの)」である場合の一部の例である。この動詞化タイプの全体 25 例の内、23 例がこのような用例であった。この助詞「の」は主格の役割をするものと見られる。

以上、「N₁의 N₂」と「N₁의 N₂」の「名詞+의+動詞+名詞」と「名詞+の+動詞(+名詞)」動詞化タイプを比較した結果、意味的に対応する動詞が見られた。それは、「하다(する)」「する」である。この使用率を比較すると「하다(する)」「する」は「N₁의 N₂」の翻訳(K→J)に比べて「N₁의 N₂」の翻訳(J→K)の方の使用率が高い。さらに、この動詞化タイプでは共通した特徴が見られなかった。そのため、各々の用例を見たところ、「N₁의 N₂」の翻訳(J→K)の場合は日本語で使われている名詞(N₂)が韓国語では意味的に対応する名詞がないと思われ、分かりやすい形に翻訳されていた。一方、「N₁의 N₂」の翻訳(K→J)の場合はいわゆる主格の「の」の役割をするものがほとんどであった。その結果、この動詞化タイプでは共通した特徴が見られなかったと思われる。

「N₁의 N₂」の翻訳(K→J)と「N₁의 N₂」の翻訳(J→K)の動詞化において対応した形式で翻訳されたと見られたが、その使われる用法は異なっていた。

次は「N₁의 N₂」の「名詞+을/를+動詞(+名詞)」動詞化タイプと「N₁의 N₂」の「名詞+을+動詞(+名詞)」動詞化タイプの比較である。日本語の助詞「を」と韓国語の「을/를」の用法は類似していて、「対格」と呼ばれるように、動詞の対象・目的を表すのが基本的な用法である⁴⁸。〈表 23〉はこの動詞化タイプに使われた動詞をまとめたものである。

⁴⁸ 朴在權(Park Jae-gwon) (1997:36) 参照。

<表 23> 「名詞+을/를+動詞(+名詞)⁴⁹」「名詞+을+動詞(+名詞)⁵⁰」の動詞

「N ₁ 의 N ₂ 」の翻訳(J→K)			「N ₁ 의 N ₂ 」の翻訳(K→J)		
動詞	使用数	使用率	動詞	使用数	使用率
하다(する)	22	30.99%	する	7	50.00%
먹다(食べる)	4	5.63%	あやす	1	7.14%
입다(着る)	3	4.23%	奪う	1	7.14%
타다(乗る)	3	4.23%	書く	1	7.14%
나오다(出る)	2	2.82%	かける	1	7.14%
들다(上げる)	2	2.82%	懲らしめる	1	7.14%
뜻하다(志す)	2	2.82%	司る	1	7.14%
보다(見る)	2	2.82%	募る	1	7.14%
가지다(手に取る)	1	1.41%	合計	14	100%
걸다(掛ける)	1	1.41%			
겸하다(兼ねる)	1	1.41%			
구하다(救う)	1	1.41%			
그리다(描く)	1	1.41%			
나가다(出る)	1	1.41%			
담다(込める)	1	1.41%			
당기다(引っ張る)	1	1.41%			
돌다(回る)	1	1.41%			
돕다(助ける)	1	1.41%			
떠나다(去る)	1	1.41%			
떼다(離す)	1	1.41%			
마치다(終わる)	1	1.41%			
받다(受ける)	1	1.41%			
벗어나다(逃れる)	1	1.41%			
살다(生きる)	1	1.41%			
시키다(させる)	1	1.41%			
신다(積む)	1	1.41%			
쓰다(かぶる)	1	1.41%			
오다(来る)	1	1.41%			
외치다(わめく)	1	1.41%			
일으키다(起こす)	1	1.41%			
저지르다(犯す)	1	1.41%			
지르다(叫ぶ)	1	1.41%			
지우다(落とす)	1	1.41%			
짓다(つける)	1	1.41%			
챙기다(取りまとめる)	1	1.41%			
쳐들다(持ち上げる)	1	1.41%			
치다(弾く)	1	1.41%			
피우다(吸う)	1	1.41%			
해내다(成し遂げる)	1	1.41%			
合計	71	100%			

「N₁의 N₂」の翻訳(J→K)に使われた動詞は「N₁의 N₂」の翻訳(K→J)に使われた動詞より種類が多様であることが見てとれる。このタイプの中で「N₁의 N₂」の翻訳(J→K)と「N₁의 N₂」の翻訳(K→J)に意味的に対応する動詞が見られた。それは「하다(する)」「する」である。「N₁의 N₂」の翻訳(J→K)と「N₁의 N₂」の翻訳(K→J)で使用率を比較する

⁴⁹ 「名詞+을/를+動詞+名詞」と「名詞+을/를+動詞」の両方のことである。

⁵⁰ 「名詞+을+動詞+名詞」と「名詞+을+動詞」の両方のことである。

と、「하다(する)」は使用率が 30.99%、「する」は使用率が 50%である。この意味的に対応する動詞は「N₁のN₂」の翻訳(J→K)より「N₁의N₂」の翻訳(K→J)の方の使用率が高い。〈表 24〉は「하다(する)」と「する」を使って翻訳した用例である。

〈表 24〉「名詞+을/를+動詞(+名詞)」「名詞+을+動詞+名詞」動詞化タイプの用例

	動詞	「N ₁ 의N ₂ 」	ページ	名詞+을/를+動詞(+名詞)	ページ	文学作品
1	하다(する)	覆面の真犯人	247	복면을 한 진범	312	謎解き
	動詞	「N ₁ 의N ₂ 」	ページ	名詞+을+動詞+名詞	ページ	文学作品
1	する	형상의 차물도 (hyeongsangui chamuldo)	201	形をしたチャムル島	232	등대지기
2	する	얼굴의 여자 (eolgului yeoja)	16	顔をした女	11	국화꽃 향기
3	する	표정의 샐러리맨 (pyojeongui saelleolimaen)	23	顔をしたサラリーマン	18	국화꽃 향기

このタイプの中で「N₁의N₂」の翻訳(K→J)に意味的に対応する動詞の「하다(する)」と「する」が使われた用例の中でN₂(体の一部等)の形という類似の用法で翻訳されているのが見られた。「N₁의N₂」の翻訳(K→J)では「하다(する)」用例の 22 例の内、1 例の使用率 4.55%であり、「N₁의N₂」の翻訳(K→J)では「하다(する)」用例の 7 例の内、3 例の使用率 42.86%であった。このように、日本語は韓国語のように原作の N₁とN₂から意味関係が把握できるものは少なく、文脈によって多様に仕分けられるのではないかと思われる。

一方、「N₁의N₂」のN₂が動的な意味の用例が次の〈表 25〉である。

〈表 25〉「N₁의N₂」のN₂が動的な意味の用例

	動詞	「N ₁ 의N ₂ 」	ページ	名詞+을+動詞	ページ	文学作品
1	あやす	아이들의 뒤치다꺼리 (aideului dwichidakkeoli)	15	チビもたちをあやしたり	16	무소의 뿔처럼
2	募る	의식의 축적 (uisigui chugjeog)	25	意識をつのらせてきた	27	무소의 뿔처럼
3	奪う	일상의 박탈 (ilsangui bagtal)	120	日常を奪われた	124	무소의 뿔처럼

「N₁의N₂」において「뒤치다꺼리(dwichidakkeoli、世話)、축적(chugjeog、蓄積)、박탈(bagtal、剥奪)」は「N₁의N₂」の原作におけるN₂が動的な意味を表す。しかしながら、「N₁의N₂」の翻訳(J→K)においてはこのようなタイプの用例は見つからなかった。

以上、「N₁의N₂」と「N₁의N₂」の「名詞+을/를+動詞(+名詞)」「動詞化タイプ」と「名詞+을+動詞+名詞」動詞化タイプを比較した結果、意味的に対応する動詞が見られた。それは、「하다(する)」「する」である。この使用率を比較すると、「하다(する)」「す

る」は「N₁のN₂」の翻訳(J→K)に比べて「N₁의N₂」の翻訳(K→J)の方が高い。さらに、「N₁의N₂」の翻訳(K→J)は原作のN₁とN₂から意味関係が把握できる可能性が「N₁のN₂」の翻訳(J→K)の場合よりは高いと思われる。つまり、日本語は文脈によって多様に仕分けられるのではないかと思われた。また、「N₁의N₂」の翻訳(K→J)の原作におけるN₂が動的な意味を表す名詞が動詞化された用例が見られたが、「N₁のN₂」の翻訳(J→K)においてはN₂が動的な意味を表す名詞は見られなかった。

次は、「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の「動詞+名詞」動詞化タイプの比較である。〈表 26〉はこの動詞化タイプに使われた動詞をまとめたものである。

〈表 26〉「動詞+名詞」の動詞

「N ₁ のN ₂ 」の翻訳(J→K)			「N ₁ 의N ₂ 」の翻訳(K→J)		
動詞	使用数	使用率	動詞	使用数	使用率
하다(する)	34	69.39%	する	5	50%
이다(ある)	2	4.08%	責める	2	20%
쉬다(休む)	2	4.08%	のがれる	1	10%
화내다(怒る)	1	2.04%	かける	1	10%
지다(負ける)	1	2.04%	恨む	1	10%
지나다(過ぎる)	1	2.04%	合計	10	100%
정하다(決める)	1	2.04%			
일어나다(起きる)	1	2.04%			
보다(見る)	1	2.04%			
망설이다(ためらう)	1	2.04%			
만나다(会う)	1	2.04%			
데우다(温める)	1	2.04%			
놓다(放す)	1	2.04%			
끝나다(終わる)	1	2.04%			
合計	49	100%			

「N₁のN₂」の翻訳(J→K)に使われた動詞は「N₁의N₂」の翻訳(K→J)に使われた動詞より種類が多様である。このタイプの中で「N₁のN₂」の翻訳(J→K)と「N₁의N₂」の翻訳(K→J)に意味的に対応する動詞が見られた。それは「하다(する)」「する」である。この動詞を「N₁のN₂」の翻訳(J→K)と「N₁의N₂」の翻訳(K→J)で使用率を比較すると、「하다(する)」は使用率が69.39%、「する」は使用率が50%である。この意味的に対応する動詞は「N₁의N₂」の翻訳(J→K)より「N₁のN₂」の翻訳(K→J)の方での使用率が高い。

ここで、「動詞+名詞」動詞化タイプにおいて「하다(する)」と「する」が使われた用例の中では次のようなものが見られた。

<表 27>動詞化タイプ「動詞+名詞」の動詞「하다/する」の用例

	動詞	「N ₁ のN ₂ 」	ページ	動詞+名詞(J→K)	ページ	文学作品
1	하다(する)	治療の甲斐	263	치료한 보람 (chilyohan bolam)	304	空中ブランコ
2	하다(する)	納得の表情	134	납득한 표정 (nabdeughan pyojeong)	169	謎解き
	動詞	「N ₁ 의N ₂ 」	ページ	動詞+名詞(K→J)	ページ	文学作品
1	する	경계의 눈빛 (gyeonggyeui nunbich)	286	警戒した目つき	312	아랑은 왜
2	する	공동의 적 (gongdongui jeog)	114	共通した敵	103	아홉살인생

ここで、意味的に対応する動詞「하다(する)」と「する」が使われて翻訳されている用例は日本語と韓国語の名詞がほぼ原語と同じ意味で翻訳され、しかも、漢語系の名詞が多く見られた。この用例は「N₁のN₂」の翻訳(J→K)では全体の49例内33例で使用率67.35%であり、「N₁의N₂」の翻訳(K→J)では全体10例の内5例で使用率50%であった。このタイプの場合、動詞化される可能性が「N₁의N₂」の翻訳(J→K)より「N₁のN₂」の翻訳(K→J)の方が高いかと思われる。

以上、「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の「動詞+名詞」動詞化タイプを比較した結果、意味的に対応する動詞が見られた。それは、「하다(する)」「する」である。この使用率を比較すると「하다(する)」「する」は「N₁의N₂」の翻訳(K→J)に比べて「N₁のN₂」の翻訳(J→K)の方での使用率が高い。さらに、この動詞化タイプでは意味的に対応する動詞「하다(する)」と「する」が使われて翻訳されている用例は、日本語と韓国語の名詞がほぼ原作と同じ意味で翻訳され、しかも、漢語系の名詞が多く見られた。この使用率を日韓で比較した結果、「N₁의N₂」の翻訳(J→K)より「N₁のN₂」の翻訳(K→J)の方が動詞化される可能性が高いかと思われた。

次は、「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の「名詞+動詞+名詞」動詞化タイプの比較である。ここで使われた動詞をまとめたのが<表 28>である。

<表 28>「名詞+動詞+名詞」の動詞

「N ₁ のN ₂ 」の翻訳(J→K)			「N ₁ 의N ₂ 」の翻訳(K→J)		
動詞	使用数	使用率	動詞	使用数	使用率
있다(ある/いる)	5	15.63%	言う	4	100%
오다(来る)	4	12.50%	合計	4	100%
이다(ある)	3	9.38%			
만나다(会う)	2	6.25%			
불다(吹く)	2	6.25%			
하다(する)	3	9.38%			
기르다(養う)	1	3.13%			

끼다(はさむ)	1	3.13%
나다(起きる)	1	3.13%
먹다(食べる)	1	3.13%
모르다(知る)	1	3.13%
보다(見る)	1	3.13%
부딪히다(ぶつかる)	1	3.13%
사다(買う)	1	3.13%
살다(生きる)	1	3.13%
이어받다(受け継ぐ)	1	3.13%
주다(あげる)	1	3.13%
짓다(作る)	1	3.13%
치다(打つ)	1	3.13%
合計	32	100%

「N₁のN₂」の翻訳(J→K)に使われた動詞は「N₁의N₂」の翻訳(K→J)に使われた動詞より種類が多様である。このタイプでは意味的に対応する動詞がなかった。

一方、「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の「名詞+動詞+名詞」動詞化タイプのN₁とN₂に関しては<表 29>のような用例が見られた。

<表 29> 「名詞+動詞+名詞」の用例

	動詞	「N ₁ のN ₂ 」	ページ	名詞+動詞+名詞	ページ	文学作品
1	하다(する)	警部の肩書	88	경부 란 직함 (gyeongbu lan jigham)	113	謎解き
2	하다(する)	西園寺の名前	128	사이온지란 이름 (saionjilan ileum)	162	謎解き
	動詞	「N ₁ 의N ₂ 」	ページ	名詞+動詞+名詞	ページ	文学作品
1	言う	필요의 갖대 (pilyoui jasdæ)	82	必要という物差し	92	등대지기
2	言う	여자의 표정 (yeojai pyojeong)	221	女といった表情	227	무소의 뿔처럼
3	言う	작은멋쟁이나비의 경우 (jageunmeosjaenginabiui gyeongu)	286	히메아카타テハという蝶	313	아랑은 왜
4	言う	희망의 거울 (huimangui geoul)	52	希望という鏡	46	아홉살인생

このタイプは「X(名詞)というY(名詞)」⁵¹という表現の用例である。「N₁のN₂」の翻訳(J→K)では全体の32例の内、2例の使用率6.25%であり、「N₁의N₂」の翻訳(K→J)では全体4例の内、4例の使用率100%であった。このタイプの「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の原作のN₁とN₂が「X(名詞)というY(名詞)」という場合、動詞化される可能性が「N₁의N₂」の翻訳(J→K)より「N₁의N₂」の翻訳(K→J)の方が高いかと思われる。

以上、「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の「名詞+動詞+名詞」動詞化タイプを比較した結果、意味的に対応する動詞はなかった。この動詞化タイプではN₁とN₂が「X(名詞)というY(名詞)」という共通の用例が見られた。この使用率を日韓で比較した結果、「N₁의N₂」の翻訳(J→K)より「N₁의N₂」の翻訳(K→J)の方が動詞化される可能性が高いと思われた。

⁵¹ 日本語記述文法研究会(2008:45)参照。

4.4 おわりに

本章では、「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の翻訳において動詞化が行われた場合を取り上げ、それを分類しつつ相互に対照した。

まず、「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の翻訳形式「動詞化」に使われている動詞を整理して量的に表した。その結果、「N₁のN₂」の翻訳(J→K)では102種の動詞が使われ、「N₁의N₂」の翻訳(K→J)では70種の動詞が使われていた。「N₁のN₂」の翻訳(J→K)の用例数が多いという理由もあるが、「N₁의N₂」の翻訳(K→J)に比べて「N₁のN₂」(J→K)の翻訳のほうが多様な動詞が使われていた。その中で、意味的に対応する動詞が使われていることが確認できた。それは、①「하다(する)」 「する」、②「있다(ある/いる)」 「ある」「いる」、③「되다(なる)」 「なる」、④「보다(見る)」 「見る」、⑤「나오다(出る)」 「出る」、⑥「끝나다(終わる)」 「終わる」、⑦「붙다(付く)」 「付く」、⑧「쓰다(書く)」 「書く」、⑨「가다(行く)」 「行く」、⑩「죽다(死ぬ)」 「死ぬ」の10種である。これらの使用率を日本語と韓国語で比較した。その結果は以下の通りである。

まず、「N₁의N₂」の翻訳(K→J)に比べて「N₁のN₂」(J→K)の翻訳の使用率が高かった動詞は①「하다(する)」 「する」、②「있다(ある/いる)」 「ある」「いる」、③「되다(なる)」 「なる」、④「보다(見る)」 「見る」、⑤「나오다(出る)」 「出る」、⑥「끝나다(終わる)」 「終わる」、⑦「붙다(付く)」 「付く」であった。逆に「N₁のN₂」の翻訳(J→K)に比べて「N₁의N₂」(K→J)の翻訳の使用率が高かった動詞⑧「쓰다(書く)」 「書く」、⑨「가다(行く)」 「行く」、⑩「죽다(死ぬ)」 「死ぬ」であった。

このように、「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の翻訳形式「動詞化」に使われている動詞には意味的に対応する動詞が見られた。だが、その使用率を比較した結果、「N₁のN₂」の翻訳(J→K)と「N₁의N₂」(K→J)の翻訳に使われる動詞の使用率には差があった。

一方、「N₁のN₂」の動詞化タイプと「N₁의N₂」の動詞化タイプをお互い比較して見ると、同じ種類の動詞化が起っている部分があることが確認できた。その多くが日本語と韓国語の類似した格助詞と動詞との組み合わせの動詞化タイプであった。

<表 30>は本研究で見られた6種の共通する動詞化タイプである。これをタイプ別に使用率を比較した。その結果、1と2は同様な使用率であった。3は韓国語の翻訳の方が日本語の翻訳に比べて高い使用率であった。一方、3とは逆に4、5、6は日本語の方が韓国語に比べて高い使用率であった。

〈表 30〉日韓の共通する動詞化タイプに使われた意味的に対応する動詞

日韓の共通する動詞化タイプ					
「N ₁ のN ₂ 」(J→K)		意味的に対応する動詞と使用率の差		「N ₁ 의N ₂ 」(K→J)	
1	名詞+에+動詞+名詞	22.40%	「있다(ある/いる)(53.66%)」>「ある/いる(22.58%)」 「하다(する)(3.66%)」<「する(9.68%)」 「붙다(付く)(1.22%)」<「付く(3.23%)」	名詞+に+動詞+名詞 名詞+に+動詞	24.03%
2	名詞+가/이+動詞+名詞	19.67%	「하다(する)(27.78%)」>「する(20.83%)」 「있다(ある/いる)(6.94%)」>「ある(4.17%)」 「죽다(死ぬ)(1.39%)」<「死ぬ(4.17%)」	名詞+が+動詞+名詞	18.60%
	名詞+가/이+動詞			名詞+が+動詞	
3	名詞+의+動詞+名詞	1.09%	「하다(する)(50%)」>「する(4%)」	名詞+の+動詞+名詞 名詞+の+動詞	20.16%
4	名詞+을/를+動詞+名詞	19.40%	「하다(する)(30.99%)」<「する(50%)」	名詞+を+動詞+名詞	10.85%
	名詞+을/를+動詞			名詞+を+動詞	
5	動詞+名詞	13.39%	「하다(する)(69.39%)」>「する(50%)」	動詞+名詞	7.75%
6	名詞+動詞+名詞	8.74%	意味的に対応する動詞なし	名詞+動詞+名詞	3.10%

1、2、4、5、6のタイプは、「N₁のN₂」の翻訳(J→K)の方が「N₁의N₂」の翻訳(K→J)より多様な動詞が使われていた。だが、3のタイプは「N₁의N₂」の翻訳(K→J)において「N₁의N₂」の翻訳(J→K)より多様な動詞が使われていた。さらに、日韓の共通する動詞化タイプに使われた動詞を各タイプごとに見た結果、日韓でお互い意味的に対応する動詞があった。それを〈表 30〉に示した。また、使用率の差を記した。日韓でお互い意味的に対応する動詞は限られていた。さらに、1～5のタイプは意味的に対応する動詞が見られたが、6のタイプは意味的に対応する動詞が見られなかった。

一方、一見同じ動詞化タイプに翻訳されたと見られたが、実際用例を見ると日本語と韓国語では用法が異なっているのが見られた。この異なるものは次の用法である。

「N₁의N₂」の翻訳(K→J)の「名詞+に+動詞(+名詞)」動詞化タイプでは、受身的表現を使い翻訳された用例が多く見られた。これは、いわば主語に準じるものとして分類されると思われる。また、「名詞+が+動詞(+名詞)」動詞化タイプも主格である。さらに、「名詞+の+動詞(+名詞)」動詞化タイプもいわゆる主格の「の」の役割をするものがほとんどであった。従って、「N₁의N₂」の翻訳(K→J)の動詞化タイプの多くは主語、またはそれに準じる名詞を用いて翻訳されると思われる。そして、「N₁의N₂」の翻訳(K→J)の動詞化タイプには原作におけるN₂が動的な意味を表す名詞が多く見られた。即ち、「N₁의N₂」(K→J)の翻訳の動詞化はある程度特徴が見られた。しかしながら、「N₁의N₂」の翻訳(J→K)の動詞化は多様で纏まった特徴が見られない。従って、「N₁의N₂」の翻訳(J→K)の動詞化タイプは文脈によって多様に仕分けられるのではないと思われる。

本章を総合考察すると韓国語の「N₁의N₂」において結びつけられるN₁とN₂の意味関係は比較的明確で、「N₁의N₂」の名詞句だけでも意味内容の把握が可能であると見られる。一方、韓国語に比べて日本語の「N₁의N₂」において結びつけられるN₁とN₂の意味関係は、文脈を見ないと把握しにくく、はっきりと明示できない傾向にあった。つまり、日本語は相対的に韓国語に比べてN₁とN₂の名詞句のみでは意味関係を把握することが困難で

あると思われる。

動詞を用いて翻訳されているというのは、原作での二つの名詞の関係を明らかにしようとする動機が働いていると判断される。しかし、どういう動詞が用いられているか、どういう名詞が用いられているかを見た場合、韓国語の方は二つの名詞の意味的關係が割とはっきりしており、それに比べて日本語は二つの名詞の意味的關係があいまいであるという結果となった。

第5章 「N₁のN₂」と「N₁의N₂」におけるN₁とN₂

5.1 はじめに

本章では、日本語と韓国語のN₁とN₂の組み合わせという側面から、「の」と「의」で結びつけられる名詞の違いを見ようと思う。そのために、「N₁のN₂」と「N₁의N₂」のN₁名詞類を大きく「人名詞」、「場所名詞」、「物名詞」に分類し、N₂を国立国語研究所(2004)『分類語彙表』に基づき分類した。N₁の名詞類を固定した理由は、N₁とN₂の両方を『分類語彙表』の「1体の類」に分類される43の項目に基づいて全て分類すると場合の数(N₁とN₂の組み合わせ)は2,304になり、これらを全て照らし合わせることは不可能であるからである。このようにN₁とN₂の組み合わせを全て確認することは困難であるため、本研究ではN₁を固定し、N₂にどのような名詞が現れるかを考察する。

「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の原作でのN₁とN₂の表れから見えた特徴が翻訳においても観察できるとすれば、それは、日本語や韓国語のN₁とN₂の表れ方である可能性が高い。これによって、N₁とN₂の結びつき易さ(結びつき難さ)を見ることができる。

また、日韓の原作において出現率が0%である項目が日韓の翻訳においても翻訳率が0%であったら、その名詞の項目はN₁との組み合わせが無い場合、翻訳されない可能性がある。一方、日韓の原作において出現率が0%である項目が日韓の翻訳においては翻訳が表れたら、その名詞の項目は日韓の言語にあるものだが、原作において現れなかった項目であると予想される。

5.2 N₁が「人名詞」の場合

本研究の「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の全てのデータの量は「N₁のN₂」が9,048例、「N₁의N₂」が6,088例であった。その中で、N₁が「人名詞」である用例数は「N₁のN₂」が2,894例、「N₁의N₂」が4,179例である。従って、全てのデータ数に対し、N₁が「人名詞」である「N₁のN₂」が31.98%、「N₁의N₂」が68.66%の出現率となる。日本語に比べて韓国語の方がN₁「人名詞」である名詞句が高い出現率で現れている。韓国語は「N₁의N₂」においてN₁が「人名詞」の可能性が高いことが分かる。

「人名詞」は国立国語研究所(2004)『分類語彙表』の「1.2 人間活動の主体」の中で「1.20 人間(人称代名詞、男女等)」「1.21 家族(父、母、妹、親戚等)」「1.22 仲間(友達等)」「1.23 人物(人の固有名詞等)」「1.24 成員(職業等)」に含まれる名詞類である。これらは類似した名詞類であり、「人名詞」としてひとくくりにできるだろう。

ただし、韓国語の人称代名詞「나, 너, 저, 우리(na, neo, jeo, uli)」に対し「내, 네, 제, 우리(nae, ne, je, uli)」は日本語に直すと「私の、あなたの、私の(敬語)、我らの」と助詞「の」を含む意味を持ち、「나의, 너의, 저의, 우리의(nau, neoui, jeoui, uliui)」とあわせ、助詞「の」の意味を持つ形式が2系列となるので、慎重を期してこれら8語はN₁「人名詞」を選抜する際、除外した。

5.2.1 原作の結果

「N₁のN₂」と「N₁의N₂」のN₁が「人名詞」であるときのN₂を国立国語研究所(2004)『分類語彙表』に基づき分類し、N₁とN₂の連結の難易度について述べる。N₁とN₂の連結には「の」や「의」によって結ばれ易い、結ばれ難いといった難易の差があると考えられる。N₁が「人名詞」であった「N₁のN₂」の2,894例と「N₁의N₂」の4,179例を対象に分析する。以下の<表31>は原作での「N₁のN₂」と「N₁의N₂」におけるN₂を国立国語研究所(2004)『分類語彙表』の「1体の類」の43項目に従い分類、算出し出現率の順に並べた結果である。

<表31>原作での「N₁のN₂」と「N₁의N₂」におけるN₂の分類(N₁が「人名詞」)

日本語				韓国語					
	1体の類	出現数	出現率		1体の類	出現数	出現率		
1	1.56身体	604	20.87%		1	1.56身体	1327	31.75%	
2	1.30心	409	14.13%		2	1.30心	749	17.92%	
3	1.31言語	254	8.78%		3	1.31言語	414	9.91%	
4	1.17空間	217	7.50%	◎	4	1.21家族	224	5.36%	
5	1.21家族	185	6.39%		5	1.13様相	146	3.49%	
6	1.13様相	151	5.22%		6	1.17空間	127	3.04%	◎
7	1.44住居	132	4.56%	◎	7	1.33生活	112	2.68%	
8	1.33生活	83	2.87%		8	1.57生命	97	2.32%	
9	1.23人物	75	2.59%	◎	9	1.34行為	87	2.08%	
10	1.32芸術	69	2.38%	◎	10	1.44住居	81	1.94%	◎
11	1.34行為	55	1.90%		11	1.36待遇	67	1.60%	
12	1.45道具	50	1.73%	◎	12	1.16時間	66	1.58%	
13	1.16時間	47	1.62%		13	1.42衣料	61	1.46%	
14	1.24成員	47	1.62%	◎	14	1.25公私	57	1.36%	
15	1.25公私	46	1.59%		15	1.15作用	42	1.01%	
16	1.42衣料	42	1.45%		16	1.35交わり	42	1.01%	
17	1.57生命	42	1.45%		17	1.26社会	35	0.84%	
18	1.19量	40	1.38%	◎	18	1.10事柄	34	0.81%	
19	1.20人間	33	1.14%		19	1.18形	34	0.81%	○
20	1.22仲間	32	1.11%		20	1.32芸術	34	0.81%	◎
21	1.46機械	32	1.11%		21	1.22仲間	33	0.79%	
22	1.36待遇	30	1.04%		22	1.20人間	28	0.67%	
23	1.26社会	29	1.00%		23	1.50自然	25	0.60%	
24	1.35交わり	25	0.86%		24	1.12存在	24	0.57%	
25	1.11類	22	0.76%	◎	25	1.46機械	24	0.57%	

26	1.12存在		16	0.55%		26	1.45道具		23	0.55%	◎
27	1.15作用		15	0.52%		27	1.19量		21	0.50%	◎
28	1.10事柄		14	0.48%		28	1.24成員		21	0.50%	◎
29	1.14力		12	0.41%		29	1.14力		20	0.48%	
30	1.40物品		12	0.41%		30	1.37経済		20	0.48%	
31	1.43食料		12	0.41%		31	1.40物品		19	0.45%	
32	1.50自然		12	0.41%		32	1.38事業		17	0.41%	
33	1.38事業		11	0.38%		33	1.11類		15	0.36%	◎
34	1.18形		8	0.28%	○	34	1.23人物		15	0.36%	◎
35	1.37経済		7	0.24%		35	1.43食料		14	0.34%	
36	1.51物質		7	0.24%		36	1.41資材		6	0.14%	
37	1.27機関		4	0.14%	◎	37	1.51物質		6	0.14%	
38	1.55動物		4	0.14%		38	1.53生物		5	0.12%	
39	1.41資材		3	0.10%		39	1.55動物		3	0.07%	
40	1.53生物		3	0.10%		40	1.27機関		1	0.02%	◎
41	1.52天地		2	0.07%	◎	41	1.47土地利用		1	0.02%	
42	1.47土地利用		1	0.03%		42	1.52天地		1	0.02%	◎
43	1.54植物		0	0.00%	○	43	1.54植物		1	0.02%	○
	合計		2,894	100%			合計		4,179	100%	

その結果、日本語ではN₂が「1.54植物」のとき、人名詞との組み合わせが見られない。一方、韓国語は43項目全てにおいて、N₁とN₂が「의」によって連結されていることが見受けられた。

ここで、原作におけるN₂を日韓で比較すると出現率の差、出現の順位の逆転といった特徴が見られた。まず、韓国語と比べて日本語の出現率が2倍以上⁵²高い項目は「◎」を、日本語と比べて韓国語の出現率が2倍以上高かった項目は「○」を<表31>に示した。韓国語と比べて日本語の出現率が2倍以上高い項目は10項目あった。その項目は「1.17空間」「1.44住居」「1.23人物」「1.32芸術」「1.45道具」「1.24成員」「1.19量」「1.11類」「1.27機関」「1.52天地」である。一方、日本語と比べて韓国語の出現率が2倍以上高かった項目は2項目あった。その項目は「1.18形」「1.54植物」である。

また、日韓で上位の項目と下位の項目が逆転⁵³している項目が見られた。<表31>で、22位より順位が上(1位~22位)だと上位、22位より順位が下(23位~43位)だと下位と設定し、日本語で上位となっている項目を濃い色で、韓国語で上位となっている項目を薄い色で表示した。まず、日本語が上位である項目は「1.23人物」「1.45道具」「1.24成員」「1.19量」「1.46機械」である。韓国語が上位である項目は「1.15作用」「1.35交わり」「1.26社会」「1.10事柄」「1.18形」である。

以上のことから日韓では「N₁のN₂」と「N₁의N₂」のN₁(人名詞)とN₂には連結の表れ

⁵² 出現率の差が丁度2倍である場合は除外している。

⁵³ 日本語においては上位に位置している項目が韓国語では下位である場合である。韓国語においても同様である。

方に差異が見られることが確認できた。

5.2.2 翻訳形式の結果

ここでは「 N_1 の N_2 」と「 N_1 의 N_2 」の N_1 が「人名詞」の場合の翻訳形式を分類し、その傾向を述べる。

以下の<表 32>は「 N_1 の N_2 」と「 N_1 의 N_2 」の翻訳形式を分類して用例の出現回数とその翻訳率を量的に示したものである。

<表 32> N_1 が「人名詞」のときの「 N_1 の N_2 」と「 N_1 의 N_2 」の翻訳形式

	「 N_1 の N_2 」の翻訳(J→K)			「 N_1 의 N_2 」の翻訳(K→J)		
	翻訳形式	回数(翻訳率)		翻訳形式	回数(翻訳率)	
1	名詞+의+名詞	1,963	67.83%	名詞+の+名詞	3,028	72.46%
2	名詞+名詞	478	16.52%	意識	419	10.03%
3	意識	159	5.49%	名詞	310	7.42%
4	名詞	105	3.63%	内容省略	186	4.45%
5	動詞	54	1.87%	文の組み替え	92	2.20%
6	名詞+인+名詞	53	1.83%	動詞	79	1.89%
7	文の組み換え	30	1.04%	名詞+の+名詞+の+名詞	11	0.26%
8	形容詞	12	0.41%	名詞+から+名詞	5	0.12%
9	その他	40	1.38%	その他	49	1.17%
	合計	2,894	100%		4,179	100%

3.5の<表 11>で本研究の全体のデータの翻訳形式を提示し、分類した翻訳形式の説明を述べているのでここではそれは繰り返さない。本節では全体のデータと比べて見られた特徴について述べる。

<表 11>と<表 32>との相違は、全体では「 N_1 の N_2 」の翻訳(J→K)において翻訳形式「名詞+名詞」が最も多く見られたが、 N_1 が「人名詞」の場合は翻訳形式「名詞+의+名詞」が最も多いということである。 N_1 が「人名詞」である場合は韓国語に翻訳すると N_1 と N_2 の間に「의」が介在される可用性が高いと推測できる。

ここで、最も多く見られた翻訳形式は「名詞+의+名詞」と「名詞+の+名詞」である。各々67.83%、72.46%で、約7割がそれにあたる。また、「 N_1 の N_2 」の翻訳形式「名詞+名詞」は「の」に対応する「의」が N_1 と N_2 の間に介在していないものである。この翻訳形式は16.52%であり、「 N_1 의 N_2 」以外への翻訳の約半数を占め、翻訳率が高い。従って、「 N_1 の N_2 」が「名詞+의+名詞」および「名詞+名詞」に翻訳されたのが84.35%となり、韓国語訳の方が日本語訳より対応する翻訳形式が多い。だが、この差はそれほど大きくない。

5.2.3 原作と翻訳の総合結果

この節では、対応する翻訳形式においても5.2.1で行ったのと同じ作業を行い、両者の結果を照らし合わせる。これにより、「の」、「의」による名詞の結合の難易はどのように表れるか、さらに、それにより日本語訳と韓国語訳それぞれにおける N_1 と N_2 の表れが原作の N_1 と N_2 の表れと類似した様相を見せるかを確認したい。

ここで、原作から見られた特徴を翻訳と照らし合わせてみる際、次のように設定して分析する。基準値⁵⁴を各翻訳形式ごとに表し、基準値を基準に基準値以上と基準値未満で見て、原作の特徴を反映して翻訳されているかを分析する。

5.2.3.1 「 N_1 の N_2 」の原作と翻訳との比較

<表 33>は<表 31>の「 N_1 の N_2 」の原作の N_2 の分類項目と<表 32>「 N_1 の N_2 」の翻訳形式とを総合したものである。ここで、 N_2 の順番は<表 31>の韓国語の原作の順位に並び替えている。

3.5で述べたように、本研究では「 N_1 の N_2 」の翻訳形式の「名詞+의+名詞」と「名詞+名詞」は対応して翻訳されたものとして扱う。<表 33>は N_1 が「人名詞」の場合、「 N_1 の N_2 」の翻訳形式の「名詞+의+名詞」と「名詞+名詞」の合計を翻訳率の高い順に示したものである。翻訳形式「名詞+(의)+名詞」の N_2 の全体の用例数2,241の基準値は1,120で、翻訳率は86.94%である。

⁵⁴ 本研究での基準値とは、用例数を翻訳率が高い項目から数えた場合と翻訳率が低い項目から数えて中間のことである。

<表 33> N₁が「人名詞」のときの「N₁のN₂」の翻訳におけるN₂の分布

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	合計	百分率									
1体の類	名詞+名詞	名詞+名詞	意訳	名詞	動詞	名詞+名詞	文の組み替え	形容詞	その他											
1 1.56身体	489	81.09%	33	20	1		4		15	603	100%									
2 1.30心	327	80.13%	27	20	6		10	4	3	408	100%									
3 1.31言語	189	64.29%	35	15	10		4	1	1	294	100%									
4 1.2家族	125	67.57%	34	18.38%	12		2	1.08%	2	14.29%	185	100%								
5 1.13様相	91	79.13%	3	2.61%	6		2	0.54%	3	2.61%	115	100%								
6 1.17空間	65	29.41%	120	54.30%	12		2	0.90%	3	1.36%	221	100%								
7 1.33生活	57	69.51%	9	10.98%	6		1	1.22%	2	2.44%	82	100%								
8 1.57生命	32	76.19%	3	7.14%	3				2	4.76%	42	100%								
9 1.34行巻	38	69.09%	9	16.36%	3		1	1.82%	2	3.64%	55	100%								
10 1.44住居	84	63.64%	31	23.48%	14				2	3.64%	132	100%								
11 1.36時間	16	53.33%	5	16.67%	3		5	16.67%	1	3.33%	42	100%								
12 1.16時間	9	21.43%	20	47.62%	6		5	11.90%			42	100%								
13 1.42衣料	33	80.49%	6	14.63%	1		1	2.44%			41	100%								
14 1.25公私	19	41.30%	23	50.00%	3						46	100%								
15 1.15作用	11	73.33%	3	20.00%			1	6.67%			15	100%								
16 1.35交わり	14	56.00%	8	32.00%			1	4.00%	2	7.69%	25	100%								
17 1.26社会	16	55.17%	6	20.69%	3						29	100%								
18 1.10事柄	5	35.71%	4	28.57%							14	100%								
19 1.18形	35	79.55%	6	8.57%	2		1	2.27%			44	100%								
20 1.32芸術	63	90.00%	6	8.57%							70	100%								
21 1.22中間	16	50.00%	11	34.38%	4						32	100%								
22 1.20人間	4	12.50%	11	34.38%	3		3	9.38%			32	100%								
23 1.50自然	11	78.57%	3	21.43%							14	100%								
24 1.12存在	14	87.50%			1			6.25%			16	100%								
25 1.46機械	30	93.75%									32	100%								
26 1.45道具	39	78.00%	6	12.00%	2			4.00%			50	100%								
27 1.19量	34	85.00%	5	12.50%					2	2.50%	40	100%								
28 1.24成員	29	61.70%	10	21.28%			1	2.13%		2.26%	47	100%								
29 1.14力	8	66.67%	2	16.67%	2						12	100%								
30 1.37陸路	3	37.50%	2	25.00%	2						8	100%								
31 1.40物品	9	75.00%	2	16.67%	1						12	100%								
32 1.38事業	5	45.45%	3	27.27%	2			18.18%	1	9.09%	11	100%								
33 1.11類	19	86.36%	2	9.09%	1						22	100%								
34 1.23人物	1	2.86%	22	62.86%					1	2.86%	35	100%								
35 1.43食料	9	75.00%			3			8.57%		2.86%	12	100%								
36 1.41資材	1	25.00%			1			25.00%			4	100%								
37 1.51物質	5	41.67%	1	14.29%							7	100%								
38 1.53生物	1	25.00%	2	50.00%							4	100%								
39 1.55動物	4	100%									4	100%								
40 1.27機関	1	25.00%	2	50.00%							4	100%								
41 1.47土地利用	1	100%									1	100%								
42 1.52土地	2	100%									2	100%								
43 1.54植物											0	0%								
合計	1,964	67.86%	277	9.57%	159	5.49%	105	3.63%	54	1.87%	53	1.83%	30	1.04%	12	0.41%	40	1.38%	2,894	100%

<表 34>N₁が「人名詞」の翻訳形式「名詞+(의)⁵⁵+名詞」の翻訳率

名詞+(의)+名詞			
	1体の類		翻訳率
1	1.47土地利用		100%
2	1.50自然		100%
3	1.52天地	◎	100%
4	1.55動物		100%
5	1.32芸術	◎	98.57%
6	1.19量	◎	97.50%
7	1.11類	◎	95.45%
8	1.42衣料		95.12%
9	1.46機械		93.75%
10	1.15作用		93.33%
11	1.40物品		91.67%
12	1.25公私		91.30%
13	1.45道具	◎	90.00%
14	1.35交わり		88.00%
15	1.56身体		87.89%
16	1.12存在		87.50%
17	1.44住居	◎	87.12%
18	1.30心		86.77%
19	1.21家族		85.95%
20	1.34行為		85.45%
21	1.22仲間		84.38%
22	1.17空間	◎	83.71%
23	1.14力		83.34%
24	1.57生命		83.33%
25	1.24成員	◎	82.98%
26	1.13様相		81.74%
27	1.33生活		80.49%
28	1.18形	○	79.55%
29	1.31言語		76.19%
30	1.26社会		75.86%
31	1.27機関	◎	75.00%
32	1.43食料		75.00%
33	1.53生物		75.00%
34	1.38事業		72.72%
35	1.36待遇		70.00%
36	1.16時間		69.05%
37	1.23人物	◎	65.72%
38	1.10事柄		64.28%
39	1.37経済		62.50%
40	1.51物質		55.96%
41	1.20人間		46.88%
42	1.41資材		25.00%
43	1.54植物	○	0%
	合計		77.44%

<表 31>から明らかになった日韓の原作の出現率の差が2倍以上であった項目を<表 34>の翻訳形式「名詞+(의)+名詞」に「◎と○」⁵⁶を付けて記した。韓国語原作で2倍以上出現率が高かった2項目の「1.18形」「1.54植物」はどちらも基準値未満であった。逆に日本語原作で2倍以上出現率が高かった(即ち、韓国語原作で出現率が1/2以下)項目である10項目の内、「1.17空間」「1.24成員」「1.27機関」「1.23人物」は基準値未満であるが、残りの6項目は基準値以上であった。「N₁のN₂」の翻訳(翻訳先の言語は韓国語)において低い翻訳率であると予想されたものの、4項目のみが基準値未満であった。

次は、日韓原作のN₂の出現率の順位が逆転した項目があった。これを<表 34>に色を付けて示した。日本語原作の順位が上位であったのは濃い色で、韓国語原作の順位が上位であったのは薄い色で見分けを付けた。韓国語の順位が上位である5項目は翻訳率も高いと予想されるが、その中で「1.15作用」「1.35交わり」は基準値以上という結果であった。逆に日本語の順位が上位である5項目(即ち、韓国語原作では順位が下位)の内、「1.24成員」「1.23人物」は基準値未満であるが、残りの3項目は基準値以上であった。

⁵⁵ 翻訳形式「名詞+의+名詞」と「名詞+名詞」の合計。

⁵⁶ ◎は原作において日本語が韓国語に比べて出現率が2倍以上高かった項目を○は韓国語が日本語に比べて出現率が2倍以上高かった項目である。

5.2.3.2 「N₁의 N₂」の原作と翻訳との比較

〈表 35〉は〈表 31〉の「N₁의 N₂」の原作のN₂の分類項目と〈表 32〉の「N₁의 N₂」の翻訳形式とを総合したものである。ここで、N₂の順番は〈表 31〉の日本語の原作の順位に並び替えている。翻訳形式「名詞+の+名詞」を分析しやすくするため、翻訳率の高い順に並び替えたのが〈表 36〉である。翻訳形式「名詞+の+名詞」のN₂の全体の用例数 3,028 の基準値は 1,514 で、翻訳率は 73.67%である。

〈表 35〉N₁が「人名詞」のときの「N₁의 N₂」の翻訳におけるN₂の分布

1体の類	N ₂ の分布																	
	1 名詞+の+名詞	2 意訳	3 名詞	4 内容省略	5 文の組み替え	6 動詞	7 名詞+の+ 名詞	8 名詞+か ら+名詞	9 その他									
1.1.56身体	1,022	77.02%	95	7.16%	109	8.21%	71	5.35%	26	1.96%	11	0.83%	3	0.23%	1,327	100%		
2.1.30心	515	68.76%	92	12.28%	63	8.41%	24	3.20%	32	4.27%	11	1.47%	3	0.40%	749	100%		
3.1.31言語	267	64.34%	54	13.01%	19	4.58%	22	5.30%	10	2.41%	31	7.47%	5	1.20%	415	100%		
4.1.17空間	100	78.74%	12	9.45%	7	5.51%	7	5.51%	5	2.23%	3	1.34%	1	0.79%	127	100%		
5.1.21家産	165	73.66%	26	11.61%	17	7.59%	7	3.13%	3	1.08%	2	1.40%	3	2.10%	143	100%		
6.1.13総相	109	76.22%	9	6.29%	13	9.99%	3	2.10%	3	2.10%	2	1.40%	1	0.70%	81	100%		
7.1.44住居	62	76.54%	9	11.11%	4	4.94%	4	4.94%	1	1.23%	1	1.23%	1	1.23%	110	100%		
8.1.33生活	83	75.45%	14	12.73%	4	3.64%	6	5.45%	1	0.91%	2	1.82%	1	0.91%	14	100%		
9.1.23人物	9	64.29%	2	14.29%	2	14.29%	1	7.14%	1	7.14%	1	7.14%	1	7.14%	34	100%		
10.1.32芸術	18	52.94%	3	8.82%	3	8.82%	1	2.94%	1	2.94%	3	3.37%	1	1.12%	89	100%		
11.1.34行爲	61	68.54%	13	14.61%	8	8.99%	1	1.12%	1	1.12%	1	1.12%	1	1.12%	23	100%		
12.1.45道具	19	82.61%	3	13.04%	4	6.09%	5	7.58%	4	6.09%	1	1.52%	1	1.52%	66	100%		
13.1.10時間	48	72.73%	3	4.55%	4	6.09%	1	1.36%	1	1.36%	1	1.36%	1	1.36%	21	100%		
14.1.24成員	19	90.48%	9	23.68%	5	13.16%	4	10.53%	1	2.63%	1	2.63%	2	5.26%	38	100%		
15.1.25公私	18	47.37%	4	6.56%	5	8.20%	4	6.56%	1	1.03%	1	1.03%	1	1.03%	61	100%		
16.1.42衣料	47	77.05%	4	4.12%	4	4.12%	6	6.19%	1	1.03%	4	4.12%	1	1.03%	97	100%		
17.1.57生命	76	78.35%	2	9.52%	4	19.05%	3	14.29%	1	3.57%	1	3.57%	1	3.57%	28	100%		
18.1.19量	12	57.14%	2	9.52%	1	4.76%	1	4.76%	1	4.76%	1	4.76%	1	4.76%	33	100%		
19.1.20人間	22	78.57%	4	14.29%	1	3.57%	1	3.57%	1	3.57%	1	3.57%	1	3.57%	24	100%		
20.1.22仲間	29	87.88%	2	6.06%	2	6.06%	1	3.03%	1	3.03%	1	3.03%	1	3.03%	67	100%		
21.1.46機軸	19	79.17%	2	8.33%	2	8.33%	1	4.17%	1	4.17%	1	4.17%	1	4.17%	24	100%		
22.1.36巻冊	45	67.16%	5	7.46%	2	2.99%	2	2.99%	9	13.43%	1	1.85%	4	5.97%	54	100%		
23.1.26社会	41	75.39%	5	9.26%	1	1.85%	5	9.26%	1	1.85%	1	1.85%	1	1.85%	42	100%		
24.1.35交わり	27	64.29%	9	21.43%	2	4.76%	1	6.7%	3	7.14%	1	6.7%	1	6.7%	15	100%		
25.1.11類	12	80.00%	1	6.67%	1	6.67%	1	6.67%	1	6.67%	1	6.67%	1	6.67%	24	100%		
26.1.12存在	14	58.33%	4	16.67%	2	8.33%	1	4.17%	1	4.17%	1	4.17%	1	4.17%	42	100%		
27.1.15作用	25	59.52%	6	14.29%	4	9.52%	1	2.38%	3	7.14%	3	7.14%	1	2.38%	34	100%		
28.1.10事例	22	64.71%	10	29.41%	2	2.94%	1	2.94%	3	15.00%	1	1.85%	20	100%	20	100%		
29.1.14力	14	70.00%	1	5.00%	2	10.53%	2	10.53%	1	5.00%	1	5.00%	1	5.00%	19	100%		
30.1.40物品	14	73.68%	1	5.26%	2	10.53%	2	10.53%	1	5.00%	1	5.00%	1	5.00%	25	100%		
31.1.43食料	13	92.86%	1	7.14%	1	4.00%	1	4.00%	1	4.00%	1	4.00%	1	4.00%	14	100%		
32.1.50自然	18	72.00%	4	16.00%	1	4.00%	1	4.00%	1	4.00%	1	4.00%	1	4.00%	25	100%		
33.1.38事業	12	70.59%	2	11.76%	3	17.65%	1	4.00%	1	4.00%	1	4.00%	1	4.00%	17	100%		
34.1.18形	21	56.76%	5	13.51%	9	24.32%	1	2.63%	2	5.41%	3	7.89%	2	5.41%	37	100%		
35.1.37経済	14	70.00%	2	10.00%	1	5.00%	1	5.00%	1	5.00%	1	5.00%	1	5.00%	20	100%		
36.1.51物質	4	66.67%	1	16.67%	1	16.67%	1	16.67%	1	16.67%	1	16.67%	1	16.67%	6	100%		
37.1.27機関	1	100%	1	33.33%	1	33.33%	1	33.33%	1	33.33%	1	33.33%	1	33.33%	3	100%		
38.1.53動物	4	66.67%	1	16.67%	1	16.67%	0	0.00%	1	16.67%	1	16.67%	1	16.67%	6	100%		
39.1.41資料	5	100%	1	100%	1	100%	1	100%	1	100%	1	100%	1	100%	5	100%		
40.1.52天地	1	100%	1	100%	1	100%	1	100%	1	100%	1	100%	1	100%	1	100%		
41.1.47土地利用	1	100%	1	100%	1	100%	1	100%	1	100%	1	100%	1	100%	1	100%		
42.1.47土地利用	1	100%	1	100%	1	100%	1	100%	1	100%	1	100%	1	100%	1	100%		
43.1.54植物	1	100%	1	100%	1	100%	1	100%	1	100%	1	100%	1	100%	1	100%		
49.合計	3,028	72.47%	419	10.03%	309	7.40%	136	4.45%	92	2.20%	79	1.89%	11	0.28%	49	1.17%	4,178	100%

<表 36>N₁が「人名詞」の翻訳形式「名詞+の+名詞」の翻訳率

名詞+の+名詞			
	1体の類		翻訳率
1	1.27機関	◎	100%
2	1.47土地利用		100%
3	1.53生物		100%
4	1.43食料		92.86%
5	1.24成員	◎	90.48%
6	1.22仲間		87.88%
7	1.45道具	◎	82.61%
8	1.11類	◎	80.00%
9	1.46機械		79.17%
10	1.17空間	◎	78.74%
11	1.57生命		78.35%
12	1.42衣料		77.05%
13	1.56身体		77.02%
14	1.44住居	◎	76.54%
15	1.13様相		76.22%
16	1.26社会		75.93%
17	1.20人間		75.86%
18	1.33生活		75.45%
19	1.40物品		73.68%
20	1.21家族		73.66%
21	1.16時間		72.73%
22	1.50自然		72.00%
23	1.38事業		70.59%
24	1.14力		70.00%
25	1.37経済		70.00%
26	1.30心		68.76%
27	1.34行為		68.54%
28	1.36待遇		67.16%
29	1.41資材		66.67%
30	1.51物質		66.67%
31	1.10事柄		64.71%
32	1.31言語		64.34%
33	1.35交わり		64.29%
34	1.23人物	◎	64.29%
35	1.15作用		59.52%
36	1.12存在		58.33%
37	1.19量	◎	57.14%
38	1.18形	○	56.76%
39	1.32芸術	◎	52.94%
40	1.25公私		47.37%
41	1.55動物		33.33%
42	1.52天地	◎	0%
43	1.54植物	○	0%
	合計		72.46%

日本語の原作では、N₂が「1.54 植物」のとき、人名詞との組み合わせが見られなかった。<表 36>でも、N₂が「1.54 植物」のとき、人名詞との組み合わせが見られない。即ち、日本語では「の」によって、「人名詞」と「1.54 植物」が連結されない傾向にあると思われる。『分類語彙表』の「1.54 植物」には「植物、木本、草本、隠花植物、枝・葉・花・実等」の名詞が分類されている。この項目において韓国語の原作では「人名詞」と「1.54 植物」が連結された用例が見られた。

(1) 「人名詞+(의)+1.54 植物」

a. jubanggwa bunlidoen yuhan gyegeubui sigtagi anila geudeului maneuldo kkago gamja kkeobjildo beosgimyeonseo saneun iyagideuleul haessdeon geosida.

(무소의 뿔 p. 245)

b. 厨房と分離された有閑階級の食卓とちがい、ヘワンたちはニンニクをむきジャガイモの皮をむきながらおしゃべりをするのである。(サイの角 p. 252)

(1)は翻訳形式「意識」に分類した用例である。韓国語の原作では「geudeului maneul (彼らのニンニク)」と「N₁의N₂」であるが、日本語訳では「N₁のN₂」になっていない。なぜこのように翻訳されているかは把握が困難だが、「maneul」に意味的に対応する「ニンニク」があるにもかかわらず、対応し翻訳されて

ていない。これは日本語の名詞の連結に見られないことが理由で対応する翻訳形式に翻訳されていない訳ではなさそうだ。

原作において日韓の出現率が2倍以上差が見られた項目を「◎、○」で〈表 36〉に記した。この日本語の出現率が2倍以上高かった10項目の内、「1.27 機関」「1.24 成員」「1.45 道具」「1.11 類」「1.17 空間」「1.44 住居」は基準値以上であることが確認できた。だが、「1.23 人物」「1.19 量」「1.32 芸術」「1.52 天地」は基準値未満であった。逆に、韓国語の出現率が2倍以上高かった項目(○)(即ち、日本語原作で出現率が韓国語の1/2以下)の「1.18 形」「1.54 植物」は基準値未満であった。

次は日韓の原作においてN₂の出現率の順位が逆転している項目を〈表 36〉に色を付けて表記した。日本語の順位が上位であった5項目は翻訳率も高いと予想される。その中で「1.24 成員」「1.45 道具」「1.46 機械」は基準値以上であることが見受けられた。だが、「1.23 人物」「1.19 量」は基準値未満であった。一方、韓国語の順位が上位(即ち、日本語原作では順位が下位)である5項目の内、「1.10 事柄」「1.35 交わり」「1.15 作用」「1.18 形」は基準値未満であることが確認できたが、「1.26 社会」は基準値以上であった。

5.2.4 まとめ

「N₁のN₂」と「N₁의N₂」におけるN₁が「人名詞」の場合、N₂を国立国語研究所(2004)『分類語彙表』に基づき43の項目に名詞類を分類し、日本語と韓国語を対照した。

まず、原作での「N₁のN₂」と「N₁의N₂」のN₁とN₂表れではいくつかの特徴が見られた。日本語ではN₂が「1.54 植物」のとき、人名詞との組み合わせが見られない。一方、韓国語は43項目全てにおいて、N₁とN₂が「의」によって連結されていることが見受けられた。また、日本語と韓国語の各項目ごとに出現率を比較した結果、出現率が2倍以上差が見られた項目があった。韓国語に比べて日本語の出現率が2倍以上高い項目は10項目「1.17 空間」「1.44 住居」「1.23 人物」「1.32 芸術」「1.45 道具」「1.24 成員」「1.19 量」「1.11 類」「1.27 機関」「1.52 天地」であった。日本語に比べて韓国語の出現率が2倍以上高い項目は2項目「1.18 形」「1.54 植物」であった。そして、日本語と韓国語で出現率が上位の項目と下位の項目が逆転している項目が見られた。日本語が上位である5項目は「1.23 人物」「1.45 道具」「1.24 成員」「1.19 量」「1.46 機械」で、韓国語が上位である5項目は「1.15 作用」「1.35 交わり」「1.26 社会」「1.10 事柄」「1.18 形」である。この出現率が2倍以上差が見られた項目と出現率が上位の項目はそれぞれ「名詞+(의)+名詞」、「名詞+の+名詞」に翻訳され易いと予想される。

次に、「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の翻訳では、「N₁のN₂」の翻訳(J→K)は「名詞+의+名詞」および「名詞+名詞」への翻訳が84.35%、「N₁의N₂」の翻訳(K→J)は「名詞+の+名詞」への翻訳が72.46%であった。従って、日本語の方が韓国語に比べて対応して翻訳された翻訳形式が多く現れていた。だが、この差はそれほど大きい差ではない。

また、「 N_1 の N_2 」と「 N_1 의 N_2 」の原作と翻訳を総合し、原作で見られた特徴を翻訳と照らし合わせて検証を行った。原作で日本語の N_2 が「1.54 植物」は0%の出現率であったので、翻訳形式「名詞+の+名詞」(K→J)の翻訳率を確認した。すると、「1.54 植物」の翻訳率も0%であることが見受けられた。一方、韓国語の原作では「1.54 植物」があり、その用例を見てもやはり日本語では「の」によって、「人名詞」と「1.54 植物」が連結されていない。「の」と「의」により結びつけられる名詞に差が生じるのではないかと予想してこのような分析を行った。「1.54 植物」の用例である(1)の「maneu1」に意味的に対応する「ニンニク」があるにもかかわらず、対応し翻訳されていなかった。どのような理由で「の」によって、「人名詞」と「1.54 植物」が連結されなかったかの把握は難しいが、これが「の」と「의」により結びつけられる名詞の相違によるものではないと見られる。

原作と翻訳での N_1 と N_2 の表れの結果、 N_1 が「人名詞」のときの N_2 との結びつき易さ、結びつき難さを確認することができた。その項目は以下の通りである。

まず、韓国語の場合である。韓国語原作で2倍以上高かった2項目の内、 N_1 が「人名詞」と結びつき易いと見られる項目はなかった。韓国語原作で出現率が1/2以下の10項目の内、「1.17 空間」「1.24 成員」「1.27 機関」「1.23 人物」は N_1 が「人名詞」と結びつき難いと見られる。韓国語原作では順位が上位の5項目の内、「1.15 作用」「1.35 交わり」は N_1 が「人名詞」と結びつき易いと見られる。韓国語原作では順位が下位の5項目の内、「1.24 成員」「1.23 人物」は N_1 が「人名詞」と結びつき難いと見られる。

次は、日本語の場合である。日本語原作で2倍以上高かった10項目の内、「1.27 機関」「1.24 成員」「1.45 道具」「1.11 類」「1.17 空間」「1.44 住居」は N_1 が「人名詞」と結びつき易いと見られる。日本語原作で出現率が1/2以下の2項目の内、「1.18 形」「1.54 植物」は N_1 が「人名詞」と結びつき難いと見られる。日本語原作では順位が上位の5項目の内、「1.24 成員」「1.45 道具」「1.46 機械」は N_1 が「人名詞」と結びつき易いと見られる。日本語原作では順位が下位の5項目の内、「1.10 事柄」「1.35 交わり」「1.15 作用」「1.18 形」は N_1 が「人名詞」と結びつき難いと見られる。

従って、韓国語で「人名詞」と結びつき易いと考えられるものは、「1.15 作用」「1.35 交わり」である。韓国語で「人名詞」と結びつき難いと考えられるものは、「1.17 空間」「1.23 人物」「1.24 成員」「1.27 機関」である。日本語で「人名詞」と結びつき易いと考えられるものは、「1.11 類」「1.17 空間」「1.27 機関」「1.24 成員」「1.44 住居」「1.45 道具」「1.46 機械」である。日本語で「人名詞」と結びつき難いと考えられるものは、「1.10 事柄」「1.15 作用」「1.18 形」「1.35 交わり」「1.54 植物」である。

N_1 が「人名詞」のときの N_2 の表れを見て、本節において予想されたことを以下の表にまとめた。

<表 37>N₁が「人名詞」の予想と一致した割合

N ₁ が「人名詞」					
原作でのN ₂ 表れ	「N ₁ のN ₂ 」の翻訳 (J→K) 「名詞+(으) + 名詞」		原作でのN ₂ 表れ	「N ₁ 의N ₂ 」の翻訳 (K→J) 「名詞+의 + 名詞」	
韓国語原作で2倍以上	2項目の内、0項目基準値以上	0%	日本語原作で2倍以上	10項目の内、6項目基準値以上	60%
韓国語原作で出現率が1/2以下	10項目の内、4項目基準値未満	40%	日本語原作で出現率が1/2以下	2項目の内、2項目基準値未満	100%
韓国語原作では順位が上位	5項目の内、2項目は基準値以上	40%	日本語原作では順位が上位	5項目の内、3項目基準値以上	60%
韓国語原作では順位が下位	5項目の内、2項目基準値未満	40%	日本語原作では順位が下位	5項目の内、4項目基準値未満	80%
平均		30%	平均		75%
全体の平均					52.5%

韓国語原作と「N₁のN₂」の翻訳(J→K)を照らし合わせた結果、予想と一致した割合は韓国語原作で2倍以上の項目では0%、韓国語原作で出現率が1/2以下の項目では40%、日本語に比べて韓国語の順位が上位の項目では40%で、下位の項目では40%であった。全体8項目の内、この4項目を除く4項目は予想と一致した割合が50%以上であった。特に、日本語原作で出現率が1/2以下の項目では予想と一致した割合が100%であった。

「N₁のN₂」の翻訳(J→K)の平均は30%で、「N₁의N₂」の翻訳(K→J)の平均は75%である。N₁が「人名詞」のときの予想と一致した割合の平均は52.5%であった。

5.3 N₁が「場所名詞」の場合

本研究の「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の全てのデータの量は「N₁のN₂」が9,048例、「N₁의N₂」が6,088例である。その中で、N₁が「場所名詞」である用例数は「N₁のN₂」が944例、「N₁의N₂」が229例である。従って、全てのデータ数に対し、「N₁のN₂」が10.43%、「N₁의N₂」が3.76%の出現率となる。N₁が「場所名詞」の場合は日本語の「N₁のN₂」の方が韓国語の「N₁의N₂」よりN₁に「場所名詞」が現れる可能性が高いことが分かる。

「場所名詞」は国立国語研究所(2004)『分類語彙表』の「人間活動の主体」の中で「1.25 公私(家、故郷、固有地名等)」「1.26 社会(学校、店等)」「1.27 機関(警察署、郵便局等)」と「生産物および用具」の中で「1.44 住居(マンション、アパート等)」「1.47 土地利用(庭、公園等)」と「自然物および自然現象」の中で「1.52 天地(山、島等)」に含まれる名詞類である。これらは類似した名詞類であり、「場所名詞」としてひとくくりにできるだろう。

5.3.1 原作の結果

「N₁のN₂」と「N₁의N₂」のN₁が「場所名詞」であるときのN₂を国立国語研究所(2004)『分類語彙表』に基づき分類し、N₁とN₂の連結の難易について述べる。N₁が「場所名詞」であった「N₁のN₂」の944例と「N₁의N₂」の229例を対象に分析する。以下の<表 38>は原作での「N₁のN₂」と「N₁의N₂」におけるN₂を国立国語研究所(2004)『分類語彙表』の「1体の類」の43項目に従い分類、算出し、出現率が高い順に並べた結果である。

<表 38>原作での「N₁のN₂」と「N₁의N₂」におけるN₂の分類(N₁が「場所名詞」)

日本語					韓国語					
	1体の類		出現数	出現率		1体の類		出現数	出現率	
1	1.17空間		296	31.36%	◎	1	1.44住居	31	13.54%	
2	1.44住居		125	13.24%		2	1.24成員	22	9.61%	
3	1.26社会		91	9.64%	◎	3	1.25公私	17	7.42%	○
4	1.24成員		54	5.72%		4	1.50自然	14	6.11%	○
5	1.20人間		42	4.45%		5	1.17空間	11	4.80%	◎
6	1.25公私		35	3.71%	○	6	1.33生活	11	4.80%	○
7	1.31言語		23	2.44%		7	1.52天地	11	4.80%	○
8	1.47土地利用		20	2.12%		8	1.30心	10	4.37%	○
9	1.30心		19	2.01%	○	9	1.20人間	9	3.93%	
10	1.45道具		19	2.01%		10	1.16時間	8	3.49%	○
11	1.23人物		18	1.91%		11	1.22仲間	8	3.49%	○
12	1.52天地		18	1.91%	○	12	1.23人物	8	3.49%	
13	1.18形		17	1.80%	◎	13	1.47土地利用	7	3.06%	
14	1.38事業		17	1.80%	◎	14	1.10事柄	6	2.62%	○
15	1.21家族		15	1.59%		15	1.26社会	6	2.62%	◎
16	1.33生活		15	1.59%	○	16	1.31言語	6	2.62%	
17	1.22仲間		13	1.38%	○	17	1.45道具	6	2.62%	
18	1.16時間		12	1.27%	○	18	1.51物質	6	2.62%	○
19	1.46機械		12	1.27%		19	1.13様相	5	2.18%	○
20	1.50自然		11	1.17%	○	20	1.32芸術	4	1.75%	○
21	1.51物質		9	0.95%	○	21	1.46機械	3	1.31%	
22	1.35交わり		7	0.74%	◎	22	1.54植物	3	1.31%	
23	1.54植物		7	0.74%		23	1.15作用	2	0.87%	○
24	1.37経済		6	0.64%		24	1.18形	2	0.87%	◎
25	1.27機関		5	0.53%		25	1.21家族	2	0.87%	
26	1.32芸術		5	0.53%	○	26	1.36待遇	2	0.87%	
27	1.34行為		5	0.53%		27	1.37経済	2	0.87%	
28	1.36待遇		5	0.53%		28	1.38事業	2	0.87%	◎
29	1.43食料		5	0.53%	◎	29	1.19量	1	0.44%	○
30	1.13様相		3	0.32%	○	30	1.27機関	1	0.44%	
31	1.10事柄		2	0.21%	○	31	1.34行為	1	0.44%	
32	1.11類		2	0.21%	◎	32	1.41資材	1	0.44%	○
33	1.40物品		2	0.21%		33	1.53生物	1	0.44%	○
34	1.41資材		2	0.21%	○	34	1.11類	0	0.00%	◎
35	1.55動物		2	0.21%	◎	35	1.12存在	0	0.00%	◎
36	1.12存在		1	0.11%	◎	36	1.14力	0	0.00%	

37	1.15作用		1	0.11%	○	37	1.35交わり		0	0.00%	◎
38	1.19量		1	0.11%	○	38	1.40物品		0	0.00%	
39	1.42衣料		1	0.11%	◎	39	1.42衣料		0	0.00%	◎
40	1.56身体		1	0.11%	◎	40	1.43食料		0	0.00%	◎
41	1.14力		0	0.00%		41	1.55動物		0	0.00%	◎
42	1.53生物		0	0.00%	○	42	1.56身体		0	0.00%	◎
43	1.57生命		0	0.00%		43	1.57生命		0	0.00%	
	合計		944	100%			合計		229	100%	

その結果、日本語ではN₂が「1.14 力」「1.53 生物」「1.57 生命」のとき、場所名詞との組み合わせが見られない。一方、韓国語ではN₂が「1.11 類」「1.12 存在」「1.14 力」「1.35 交わり」「1.40 物品」「1.42 衣料」「1.43 食料」「1.55 動物」「1.56 身体」「1.57 生命」のとき、場所名詞との組み合わせが見られない。日韓で比較すると、N₂が「1.14 力」「1.57 生命」のときは両言語共に場所名詞との組み合わせが見られないことが分かった。

N₂を日韓で比較すると出現率、出現の順位の逆転といった特徴が見られた。まず、日韓の原作の各項目ごとに出現率を比較した結果、2倍以上差がある項目があった。韓国語と比べて日本語の出現率が2倍以上高い項目は12項目あった。その項目は「1.17 空間」「1.26 社会」「1.18 形」「1.38 事業」「1.35 交わり」「1.43 食料」「1.11 類」「1.40 物品」「1.55 動物」「1.12 存在」「1.42 衣料」「1.56 身体」である。また、日本語と比べて韓国語の出現率が2倍以上高かった項目は15項目あった。その項目は「1.25 公私」「1.50 自然」「1.33 生活」「1.52 天地」「1.30 心」「1.16 時間」「1.22 仲間」「1.10 事柄」「1.51 物質」「1.13 様相」「1.32 芸術」「1.15 作用」「1.19 量」「1.41 資材」「1.53 生物」である。

また、日韓で上位の項目と下位の項目が逆転している項目が見られた。日本語が上位である項目は「1.18 形」「1.38 事業」「1.21 家族」「1.35 交わり」である。韓国語が上位である項目は「1.10 事柄」「1.13 様相」「1.32 芸術」「1.54 植物」である。

以上のことから日韓では「N₁のN₂」と「N₁의N₂」のN₁(場所名詞)とN₂には連結の表れ方に差異が見られることが確認できた。

5.3.2 翻訳形式の結果

ここでは「N₁のN₂」と「N₁의N₂」のN₁が「場所名詞」の場合の翻訳形式を分類し、その傾向を述べる。

以下の<表 39>は「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の翻訳形式を分類して用例の出現回数とその翻訳率を量的に示したものである。

<表 39>N₁が「場所名詞」のときの「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の翻訳形式

	「N ₁ のN ₂ 」の翻訳(J→K)			「N ₁ 의N ₂ 」の翻訳(K→J)		
	翻訳形式	回数(翻訳率)		翻訳形式	回数(翻訳率)	
1	名詞+의+名詞	209	22.14%	名詞+の+名詞	185	80.79%
2	名詞+名詞	553	58.58%	意識	17	7.42%
3	名詞	58	6.14%	名詞	14	6.11%
4	意識	52	5.51%	内容省略	7	3.06%
5	動詞	34	3.60%	文の組み替え	1	0.44%
6	文の組み換え	9	0.95%	動詞	1	0.44%
7	その他	29	3.07%	その他	4	1.75%
	合計	944	100%	合計	229	100%

3.5の<表 11>で本研究の全体のデータの翻訳形式を提示し、分類した翻訳形式の説明を述べているのでここではそれは繰り返さない。

N₁が「場所名詞」の場合の「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の翻訳形式と全体のデータとの相違点は特に見当たらない。5.2のN₁が「人名詞」の場合と比べると、N₁が「人名詞」の場合は「N₁のN₂」の翻訳(J→K)はN₁とN₂の間に「의」が介在された翻訳形式(「名詞+의+名詞」)が多く確認できたが、N₁が「場所名詞」の場合はN₁とN₂の間が「∅(zero)」の翻訳形式(「名詞+名詞」)が最も多く見られた。

「N₁のN₂」は翻訳形式「名詞+의+名詞」および「名詞+名詞」に翻訳されたのが80.72%で、「N₁의N₂」は翻訳形式「名詞+の+名詞」が80.79%である。対応する翻訳形式がほぼ同じ翻訳率を見せている。

5.3.3 原作と翻訳の総合結果

この節では、対応する翻訳形式にも5.3.1で行ったのと同じ作業を行い、両者の結果を照らし合わせる。これにより、「の」、「의」による名詞の結合の難易はどのように表れるか、さらに、それにより日本語訳と韓国語訳それぞれにおけるN₁とN₂の表れが原作のN₁とN₂の表れと類似した現象を見せるかを確認したい。

5.3.3.1 「N₁のN₂」の原作と翻訳との比較

<表 40>は<表 38>の「N₁のN₂」の原作のN₂の分類項目と<表 39>の「N₁のN₂」の翻訳形式との総合したものである。ここで、N₂の順番は<表 38>の韓国語の原作の順位に並び替えている。また、「N₁のN₂」の翻訳形式「名詞+의+名詞」と「名詞+名詞」を合わせて、翻訳率が高い順に整理しなおしたのが<表 41>である。<表 41>での翻訳形式「名詞+(의)+名詞」のN₂の全体の用例数762の基準値は381で、翻訳率は84.23%である。

〈表 40〉N₁が「場所名詞」のときの「N₁のN₂」の翻訳におけるN₂の分布

	1		2		3		4		5		6		7		合計	百分率	
	1体の類	名詞十の十名詞	名詞十名詞	名詞	意訳	動詞	文の組み替え	その他	合計	百分率							
1	1.44住居	34	27.20%	66	52.80%	10	8.00%	6	4.80%	2	3.70%	1	0.80%	8	6.40%	125	100%
2	1.24成員	17	31.48%	28	51.85%	5	9.26%	1	1.85%					1	1.85%	54	100%
3	1.25公私	13	37.14%	14	40.00%	3	8.57%	3	8.57%					2	5.71%	35	100%
4	1.50自然	1	9.09%	5	45.45%	3	27.27%	2	18.18%					10	3.38%	296	100%
5	1.17空間	9	3.04%	243	82.00%	20	6.76%	11	3.72%	1	0.34%	2	0.68%	2	13.33%	15	100%
6	1.33生活	2	13.33%	8	53.33%					1	6.67%					18	100%
7	1.52天地	13	72.22%	5	27.78%											19	100%
8	1.30心	5	26.32%	12	63.16%	1	5.26%	1	5.26%							39	100%
9	1.20人間	7	17.95%	25	64.10%	1	2.56%	5	12.82%			1	2.56%			12	100%
10	1.16時間	7	58.33%	3	25.00%	1	8.33%							1	8.33%	13	100%
11	1.22仲間			10	76.92%	1	7.69%	1	7.69%					1	7.69%	21	100%
12	1.23人物	16	76.19%	2	9.52%	2	10.00%	2	9.52%	1	4.76%					20	100%
13	1.47土地利用	4	20.00%	14	70.00%	2	10.00%							1	50.00%	2	100%
14	1.10事例			1	50.00%									1	1.10%	91	100%
15	1.26社会	32	35.16%	32	35.16%	5	5.49%	5	5.49%	14	15.38%	2	2.20%	1	1.10%	23	100%
16	1.31言語	5	21.74%	15	65.22%			1	4.35%	2	8.70%					19	100%
17	1.45道具	2	10.53%	13	68.42%	1	5.26%			3	15.79%					9	100%
18	1.51物質	5	55.56%	2	22.22%			2	22.22%							3	100%
19	1.13機相	2	66.67%	1	33.33%											5	100%
20	1.32基礎	4	80.00%	1	20.00%									1	8.33%	12	100%
21	1.46機械	4	33.33%	7	58.33%					1	14.29%					7	100%
22	1.54植物	6	85.71%	1	100%											1	100%
23	1.15作用			12	70.59%			1	5.88%							17	100%
24	1.18形	4	23.53%	3	20.00%	3	20.00%	3	20.00%	4	26.67%					15	100%
25	1.21家族	2	13.33%	1	20.00%			2	40.00%	1	20.00%					5	100%
26	1.36待機	1	16.67%	4	66.67%	1	16.67%	1	16.67%							6	100%
27	1.37経済	1	23.53%	9	52.94%	1	5.88%	2	11.76%	1	5.88%					17	100%
28	1.38事業	4	23.53%	9	52.94%	1	5.88%	2	11.76%	1	5.88%					17	100%
29	1.19量			1	100%											1	100%
30	1.27機関	3	60.00%	2	40.00%					1	20.00%					5	100%
31	1.34行為			4	80.00%											5	100%
32	1.41資材	1	50.00%					1	50.00%							2	100%
33	1.53生物															0	0%
34	1.11類	1	50.00%	1	50.00%											2	100%
35	1.12存在									1	100%					1	100%
36	1.14力															0	0%
37	1.35交わり			5	71.43%	1	14.29%							1	14.29%	7	100%
38	1.40物品	1	50.00%							1	50.00%					2	100%
39	1.42衣料	1	100%													1	100%
40	1.43食料	1	20.00%	1	20.00%			2	40.00%			1	20.00%			5	100%
41	1.55動物			2	100%											2	100%
42	1.56身体	1	100%													1	100%
43	1.57生命															0	0%
	合計	209	22.14%	553	58.58%	58	6.14%	52	5.51%	34	3.60%	9	0.95%	29	3.07%	944	100%

<表 41>N₁が「場所名詞」の翻訳形式「名詞+(의)+名詞」の翻訳率

名詞+(의)+名詞			
	1体の類		翻訳率
1	1.11類	◎	100%
2	1.13様相	○	100%
3	1.15作用	○	100%
4	1.19量	○	100%
5	1.27機関		100%
6	1.32芸術	○	100%
7	1.42衣料	◎	100%
8	1.52天地	○	100%
9	1.55動物	◎	100%
10	1.56身体	◎	100%
11	1.18形	◎	94.12%
12	1.46機械		91.66%
13	1.47土地利用		90.00%
14	1.30心	○	89.48%
15	1.31言語		86.96%
16	1.23人物		85.71%
17	1.54植物		85.71%
18	1.17空間	◎	85.13%
19	1.37経済		83.34%
20	1.16時間	○	83.33%
21	1.24成員		83.33%
22	1.20人間		82.05%
23	1.34行為		80.00%
24	1.44住居		80.00%
25	1.45道具		78.95%
26	1.51物質	○	77.78%
27	1.25公私	○	77.14%
28	1.22仲間	○	76.92%
29	1.38事業	◎	76.47%
30	1.35交わり	◎	71.43%
31	1.26社会	◎	70.32%
32	1.33生活	○	66.66%
33	1.50自然	○	54.54%
34	1.10事柄	○	50.00%
35	1.40物品		50.00%
36	1.41資材	○	50.00%
37	1.36待遇		40.00%
38	1.43食料	◎	40.00%
39	1.21家族		33.33%
40	1.12存在	◎	0%
41	1.14力		0%
42	1.53生物	○	0%
43	1.57生命		0%
	合計		80.72%

韓国語の原作では、N₂が「1.11 類」「1.12 存在」「1.14 力」「1.35 交わり」「1.40 物品」「1.42 衣料」「1.43 食料」「1.55 動物」「1.56 身体」「1.57 生命」のとき、場所名詞との組み合わせが見られなかった。<表 41>の翻訳では、N₂が「1.12 存在」「1.14 力」「1.57 生命」のとき、場所名詞との組み合わせが見られない。即ち、韓国語では「의」によって、「場所名詞」と「1.12 存在」「1.14 力」「1.57 生命」が連結されない傾向にあると思われる。『分類語彙表』の「1.12 存在」には「存在、出没、発生・復活、成立、保存、消滅、除去等」の名詞が分類されている。「1.14 力」には「力、弾力・動力・圧力、物力・権力・体力、勢い等」の名詞が分類されている。「1.57 生命」には「生命、生、死、生理、障害・けが、病気・体調等」の名詞が分類されている。これらの項目の中で日本語の原作では「場所名詞」と「1.12 存在」が連結された用例が見られた。

(2)「場所名詞+の+1.12 存在」

a. でも、それだと屋敷の維持が困難だから、親戚である沢村家の人たちが一緒に住むようになったってわけ。(謎解きは p.128)

b. hajiman ilaeseoya jeotaegeul yujihagi
gonlanhanikka, chincheogin sawamulaga
salamdeuli gati salge doen geoji.

(수수께끼 p.162)

(2)は翻訳形式「動詞化」に分類した用例である。日本語の原作では「屋敷の維持」と「N₁

のN₂」であるが、韓国語訳では「N₁의N₂」になっていない。「維持」は第4章の「動詞化」での一つの特徴として見られた、動的な意味を持つ名詞である。また、「維持」に意味

的に対応する「yuji」があるにもかかわらず、対応し翻訳されていない。これは韓国語の名詞の連結に見られないことで対応し翻訳されていない訳ではなさそうだ。

一方、N₂が「1.11 類」「1.42 衣料」「1.55 動物」「1.56 身体」「1.35 交わり」「1.40 物品」「1.43 食料」においては翻訳が現れた。これらの項目にはどのような用例があるか見てみる。

(3) 「場所名詞+(의)+1.11 類」

- a. それぞれに進む学校のレベルを一段階落として。(色彩を持たない p. 24)
- b. jegaggi gal su issneun haggyo sujuneul han dangye tteoleotteulyeo gamyeonseo. (색채가 없는 p. 33)

(4) 「場所名詞+(의)+1.42 衣料」

- a. 弁当屋の前掛けを外しながら、ビニール袋の包みをぶら下げたゲンが「ごめんごめん！」と駆け込んできた。(ラストソング p. 133)
- b. dosilag gageui apchimaleul beoseumyeo binilbongji kkuleomileul sone deun genit twieo deuleowassda. (ラスト송 p. 133)

(5) 「場所名詞+(의)+1.55 動物」

- a. 昔は刃物を抜いた相手にも立ち向かう『渋谷のイノシシ』って呼ばれてたじゃない」和美が味吟汁をスプーンですくいながら言った。(空中ブランコ p. 61)
- b. yesnalen kal deulgo deombineun nomgwado dangdanghi majseodeon ' sibuya mesdwaeji ' ga gajeumiga sudgalageulo doenjangugeul tteumyeo malhaessda. (공중그네 p. 11)

(6) 「場所名詞+(의)+1.56 身体」

- a. わたしたちは薔薇園の死体を発見しただけなのだよ。(謎解き p. 94)
- b. ulineun jangmiwonui sicheleul balgyeonhan geosppunio. (수수께끼 p. 120)

(7) 「場所名詞+(의)+1.35 交わり」

- a. 地方のコンサートが終わると、修吉はプロモーターたちを接待するため夜の街へ繰り出す。(ラストソング p. 217)
- b. jibang konseoteuga kkeutnamyeon, syukichineun peulomoteodeuleul jeobdaehagi wihae bangeolilo nagassgo, kajeuyawa naneun hotello dolawa jagsae jjochgyeossda. (ラスト송 p. 215)

(8) 「場所名詞+(의)+1.40 物品」

a. 彼女の忘れものはベランダの洗濯物。(謎解き p. 32)

b. yosimoto hitomiga ijeun geoseun belandau ppallaeyeossseubnida. (수수께끼 p. 43)

(9) 「場所名詞+(의)+1.43 食料」

a. 見たことのない店のアイスクリームだ。(空中庭園 p. 160)

b. han beondo bon jeogi eobsneun gageui aiseukeulmieosssa. (공중정원 p. 177)

(2)から(9)の用例を見ると、「N₁のN₂」の翻訳(J→K)では「의」(もしくは「zero」)によって、「場所名詞」と「1.11 類」「1.42 衣料」「1.55 動物」「1.56 身体」「1.35 交わり」「1.40 物品」「1.43 食料」が連結されている。韓国語の原作ではN₁が「場所名詞」のときのN₂に現れていなかったが、それは名詞の連結の問題ではなく、資料の中で現れていなかったのであろう。

日韓の原作の出現率差が2倍以上であった項目を<表 41>の翻訳形式「名詞+(의)+名詞」に「◎(日本語が韓国語に比べて2倍以上出現率が高い)」と「○(韓国語が日本語に比べて2倍以上出現率が高い)」を付けて記した。韓国語原作で2倍以上出現率が高かった15項目の内、「1.13 様相」「1.15 作用」「1.19 量」「1.32 芸術」「1.52 天地」「1.30 心」は基準値以上であることが確認できた。しかし、「1.16 時間」「1.51 物質」「1.25 公私」「1.22 仲間」「1.33 生活」「1.50 自然」「1.10 事柄」「1.41 資材」「1.53 生物」は基準値未満であった。一方、日本語原作で2倍以上出現率が高かった(即ち、韓国語原作で出現率が1/2以下)翻訳率が低いと予想される。その12項目の内、「1.38 事業」「1.35 交わり」「1.26 社会」「1.40 物品」「1.43 食料」「1.12 存在」は基準値未満であった。だが、「1.11 類」「1.42 衣料」「1.55 動物」「1.56 身体」「1.18 形」「1.17 空間」は基準値以上であった。

次は、日韓原作のN₂の出現率の順位が逆転した特徴を見てみる⁵⁷。韓国語の順位が上位である4項目は翻訳率も高いと予想され、「1.13 様相」「1.32 芸術」「1.54 植物」は基準値以上であることが確認できた。だが、「1.10 事柄」は基準値未満であった。一方、日本語の順位が上位である4項目(即ち、韓国語原作では順位が下位)の内、「1.38 事業」「1.35 交わり」「1.21 家族」は基準値未満であるが、「1.18 形」は基準値以上であった。

5.3.3.2 「N₁의N₂」の原作と翻訳との比較

<表 42>は<表 38>の「N₁의N₂」の原作のN₂の分類項目と<表 39>「N₁의N₂」の翻訳形式との総合したものである。ここで、N₂の順番は<表 38>の日本語の原作の順位に並び替

⁵⁷ 日本語の順位が上位であったのは濃い色で、韓国語の順位が上位であったのは薄い色で見分けを付けている。

えている。また、「N₁のN₂」の翻訳形式「名詞+の+名詞」の翻訳率の高い順に並び替えて示したのが<表 43>である。翻訳形式「名詞+の+名詞」のN₂の全体の用例数 185 の基準値は 92 で、翻訳率は 88.91%である。

<表 42>N₁が「場所名詞」のときの「N₁のN₂」の翻訳におけるN₂の分布

	1	2	3	4	5	6	7	合計	百分率								
1体の類	名詞+の+名詞	意訳	名詞	内容省略	文の組み替え	動詞	その他										
1	1.17空間	10	90.91%					11	100%								
2	1.44住居	28	90.32%			1		31	100%								
3	1.26社会	5	83.33%					6	100%								
4	1.24成員	20	90.91%				1	22	100%								
5	1.20人間	1	20.00%					5	100%								
6	1.25公私	16	94.12%					17	100%								
7	1.31言語	5	83.33%					6	100%								
8	1.47土地利用	7	100%					7	100%								
9	1.30心	7	70.00%				1	10	100%								
10	1.45道具	5	83.33%					6	100%								
11	1.23人物	11	91.67%					12	100%								
12	1.52天地	7	63.64%					11	100%								
13	1.18形	2	100%					2	100%								
14	1.38事業	1	50.00%					2	100%								
15	1.21家族	1	50.00%					2	100%								
16	1.33生活	7	70.00%					10	100%								
17	1.22仲間	3	37.50%				1	8	100%								
18	1.16時間	7	87.50%					8	100%								
19	1.46機械	2	66.67%					3	100%								
20	1.50自然	11	78.57%					14	100%								
21	1.51物質	4	66.67%					6	100%								
22	1.35交わり							0	0%								
23	1.54植物	1	50.00%					2	100%								
24	1.37継存	2	100%					2	100%								
25	1.27機関	1	100%					1	100%								
26	1.32芸術	3	75.00%					4	100%								
27	1.34行為	1	50.00%				1	2	100%								
28	1.36伊勢	2	100%					2	100%								
29	1.43食料							0	0%								
30	1.13様相	5	100%					5	100%								
31	1.10事例	6	100%					6	100%								
32	1.11類							0	0%								
33	1.40物品							0	0%								
34	1.41資材	1	100%					1	100%								
35	1.55動物							0	0%								
36	1.12存在							0	0%								
37	1.15作用	1	50.00%					2	100%								
38	1.19量	1	100%					1	100%								
39	1.42衣料							0	0%								
40	1.56身体							0	0%								
41	1.14力							0	0%								
42	1.53生物							1	100%								
43	1.57生命							0	0%								
合計		185	80.79%	17	7.42%	14	6.11%	7	3.06%	1	0.44%	1	0.44%	4	1.75%	229	100%

<表 43>N₁が「場所名詞」の翻訳形式「名詞+の+名詞」の翻訳率

名詞+の+名詞			
	1体の類		翻訳率
1	1.47土地利用		100%
2	1.10事柄	○	100%
3	1.13様相	○	100%
4	1.18形	◎	100%
5	1.36待遇		100%
6	1.37経済		100%
7	1.19量	○	100%
8	1.27機関		100%
9	1.41資材	○	100%
10	1.25公私	○	94.12%
11	1.23人物		91.67%
12	1.24成員		90.91%
13	1.17空間	◎	90.91%
14	1.44住居		90.32%
15	1.16時間	○	87.50%
16	1.26社会	◎	83.33%
17	1.31言語		83.33%
18	1.45道具		83.33%
19	1.50自然	○	78.57%
20	1.32芸術	○	75.00%
21	1.33生活	○	70.00%
22	1.30心	○	70.00%
23	1.51物質	○	66.67%
24	1.46機械		66.67%
25	1.52天地	○	63.64%
26	1.54植物	○	50.00%
27	1.15作用	○	50.00%
28	1.21家族	○	50.00%
29	1.38事業	◎	50.00%
30	1.34行為		50.00%
31	1.20人間		20.00%
32	1.11類	◎	0%
33	1.12存在	◎	0%
34	1.14力		0%
35	1.22仲間	○	0%
36	1.35交わり	◎	0%
37	1.40物品		0%
38	1.42衣料	◎	0%
39	1.43食料	◎	0%
40	1.53生物	○	0%
41	1.55動物	◎	0%
42	1.56身体	◎	0%
43	1.57生命		0%
	合計		80.79%

日本語の原作では、N₂が「1.14 力」「1.53 生物」「1.57 生命」のとき、場所名詞との組み合わせが見られなかった。<表 43>の翻訳では、N₂が「1.14 力」「1.53 生物」「1.57 生命」のとき、場所名詞との組み合わせが見られない。即ち、日本語では「の」によって、「場所名詞」と「1.14 力」「1.53 生物」「1.57 生命」が連結されない傾向にあると思われる。『分類語彙表』の「1.14 力」には「力、弾力・動力・圧力、物力・権力・体力、勢い等」の名詞が分類されている。「1.53 生物」には「生物、性、雌雄、宇宙人等」の名詞が分類されている。「1.57 生命」には「生命、生、死、生理、障害・けが、病気・体調等」の名詞が分類されている。これらの項目の中で韓国語の原作では「場所名詞」と「1.53 生物」が連結された用例が見られた。

(10) 「場所名詞+(의)+1.53 生物」

a. deoguna i nalaui byeongpyega jagi jigeobeseo pyeongsaengilaneun jangin uisigi eobsneun geosilago hodeulgabeul tteolji anhasseonga.

(어머니 p. 28)

b. 当時はこの終身雇用制にどっぷり浸かったままブロ意識を持たずにいることが、韓国社会最大の病弊だと言われていた。(母 p. 26)

(10)は翻訳形式「意識」に分類した用例である。

「病弊」は『分類語彙表』では「1.53 生物」に分類されていた。韓国語の原作では「nalaui byeongpye (国の病弊)」と「N₁의N₂」であるが、日本語訳では「N₁のN₂」になっていない。なぜこのように翻訳されているかは把握が困難だが、「byeongpye」に意味的に対応する「病弊」があるにもかかわらず、対応し翻訳されていない。これは日本語の名詞の連結に見られないことで対

応する翻訳形式になっていない訳ではなさそうだ。

日韓の原作で見られた特徴から、まず、日韓で出現率が2倍以上差が見られた項目を「◎、○」で<表 43>に記した。その結果、日本語の出現率が韓国語に比べて2倍以上高かった項目(◎)の12項目の内、「1.18 形」「1.17 空間」「1.26 社会」は基準値以上であることが確認できた。だが、「1.38 事業」「1.11 類」「1.12 存在」「1.35 交わり」「1.40 物品」「1.42 衣料」「1.43 食料」「1.55 動物」「1.56 身体」は基準値未満であった。逆に、韓国語の出現率が日本語に比べて2倍以上高かった項目(○)(即ち、日本語原作で出現率が韓国語の1/2以下)の15項目の中で「1.16 時間」「1.50 自然」「1.32 芸術」「1.33 生活」「1.30 心」「1.51 物質」「1.52 天地」「1.15 作用」「1.22 仲間」「1.53 生物」は基準値未満であることが確認できた。だが、「1.10 事柄」「1.13 様相」「1.19 量」「1.41 資材」「1.25 公私」は基準値以上であった。

次は日韓の原作においてN₂の出現率の順位が逆転している項目を<表 43>に色を付けて表記した。日本語の順位が上位であった4項目(濃い色)は翻訳率も高いと予想される。その中で「1.18 形」は基準値以上であることが確認できた。だが、「1.21 家族」「1.38 事業」「1.35 交わり」は基準値未満であった。一方、韓国語の順位が上位(即ち、日本語原作では順位が下位)である4項目の内、「1.32 芸術」「1.54 植物」は基準値未満であるが、「1.10 事柄」「1.13 様相」は基準値以上であった。

5.3.4 まとめ

「N₁のN₂」と「N₁의N₂」におけるN₁が「場所名詞」の場合、N₂を国立国語研究所(2004)『分類語彙表』に基づき43の項目に名詞類を分類し、日本語と韓国語を対照した。

まず、原作での「N₁のN₂」と「N₁의N₂」のN₁とN₂表れではいくつかの特徴が見られた。日本語ではN₂が「1.14 力」「1.53 生物」「1.57 生命」のとき、場所名詞との組み合わせが見られない。韓国語ではN₂が「1.11 類」「1.12 存在」「1.14 力」「1.35 交わり」「1.40 物品」「1.42 衣料」「1.43 食料」「1.55 動物」「1.56 身体」「1.57 生命」のとき、場所名詞との組み合わせが見られない。日韓で比較すると、N₂が「1.14 力」「1.57 生命」のときは両言語共に場所名詞との組み合わせが見られない。日本語も韓国語も「の」と「의」によって、「場所名詞」と「1.14 力」「1.57 生命」が連結されない傾向にあると推察される。

日本語と韓国語の各項目ごとに出現率を比較した結果、出現率が2倍以上差が見られた項目があった。韓国語に比べて日本語の出現率が2倍以上高い項目は12項目、「1.17 空間」「1.26 社会」「1.18 形」「1.38 事業」「1.35 交わり」「1.43 食料」「1.11 類」「1.40 物品」「1.55 動物」「1.12 存在」「1.42 衣料」「1.56 身体」であった。日本語に比べて韓国語の出現率が2倍以上高い項目は15項目、「1.25 公私」「1.50 自然」「1.33 生活」「1.52 天地」「1.30 心」「1.16 時間」「1.22 仲間」「1.10 事柄」「1.51 物質」「1.13 様相」「1.32 芸術」「1.15 作用」

「1.19 量」「1.41 資材」「1.53 生物」であった。そして、日本語と韓国語で出現率が上位の項目と下位の項目が逆転している項目が見られた。日本語が上位である4項目は「1.18 形」「1.38 事業」「1.21 家族」「1.35 交わり」で、韓国語が上位である4項目は「1.10 事柄」「1.13 様相」「1.32 芸術」「1.54 植物」である。

次に、「 N_1 の N_2 」と「 N_1 의 N_2 」の翻訳では、「 N_1 の N_2 」の翻訳(J→K)は「名詞+의+名詞」および「名詞+名詞」への翻訳が80.72%、「 N_1 의 N_2 」の翻訳(K→J)は「名詞+の+名詞」への翻訳が80.79%であった。従って、日本語も韓国語も翻訳率はほぼ変わらない。

また、「 N_1 の N_2 」と「 N_1 의 N_2 」の原作と翻訳を総合し、原作で見られた特徴を翻訳と照らし合わせて検証を行った。原作で韓国語の N_2 が「1.11 類」「1.12 存在」「1.14 力」「1.35 交わり」「1.40 物品」「1.42 衣料」「1.43 食料」「1.55 動物」「1.56 身体」「1.57 生命」は0%の出現率であったので、翻訳形式「名詞+(의)+名詞」(J→K)の翻訳率を確認した。すると、「1.12 存在」「1.14 力」「1.57 生命」の翻訳率も0%であることが見受けられた。一方、日本語の原作では「1.57 生命」があり、その用例を見てもやはり韓国語では「의(もしくはzero)」によって、「場所名詞」と「1.57 生命」が連結されていない。原作で日本語の N_2 が「1.14 力」「1.53 生物」「1.57 生命」は0%の出現率であったので、翻訳形式「名詞+の+名詞」(K→J)の翻訳率を確認した。すると、「1.14 力」「1.53 生物」「1.57 生命」の翻訳率も0%であることが見受けられた。一方、韓国語の原作では「1.53 生物」があり、その用例を見てもやはり日本語では「の」によって、「場所名詞」と「1.53 生物」が連結されていない。「の」と「의」により結びつけられる名詞に差が生じるのではないかと予想してこのような分析を行った。翻訳形式「名詞+(의)+名詞」(J→K)の N_2 が「1.57 生命」の用例である(2)の「維持」に意味的に対応する「yuji」があるにもかかわらず、対応し翻訳されていなかった。翻訳形式「名詞+の+名詞」(K→J)の N_2 が「1.53 生物」の用例である(10)の「byeongpye」に意味的に対応する「病弊」があるにもかかわらず、対応し翻訳されていなかった。どのような理由で「의(もしくはzero)」によって、「場所名詞」と「1.57 生命」が連結されなかったか、また、「の」によって、「場所名詞」と「1.53 生物」が連結されなかったかの把握は難しいが、これが「の」と「의」により結びつけられる名詞の相違によるものではないと見られる。これから、用例が確認できた項目を除くと、日本語においては「場所名詞」と「1.14 力」「1.57 生命」が連結されない傾向にあり、韓国語においては「場所名詞」と「1.12 存在」「1.14 力」が連結されない傾向にあると思われる。これらの項目は、おそらく「場所名詞」と連結する可能性は低いと示唆される。

原作と翻訳での N_1 と N_2 の表れの結果、 N_1 が「場所名詞」のときの N_2 との結びつき易さ、結びつき難さを確認することができた。その項目は以下の通りである。

まず、韓国語の場合である。韓国語原作で2倍以上高かった15項目の内、「1.13 様相」「1.15 作用」「1.19 量」「1.32 芸術」「1.52 天地」「1.30 心」は N_1 が「場所名詞」と結

びつき易いと見られる。韓国語原作で出現率が1/2以下の12項目の内、「1.38 事業」「1.35 交わり」「1.26 社会」「1.40 物品」「1.43 食料」「1.12 存在」はN₁が「場所名詞」と結びつき難いと見られる。韓国語原作では順位が上位の4項目の内、「1.13 様相」「1.32 芸術」「1.54 植物」はN₁が「場所名詞」と結びつき易いと見られる。韓国語原作では順位が下位の4項目の内、「1.38 事業」「1.35 交わり」「1.21 家族」はN₁が「場所名詞」と結びつき難いと見られる。

次は、日本語の場合である。日本語原作で2倍以上高かった12項目の内、「1.18 形」「1.17 空間」「1.26 社会」はN₁が「場所名詞」と結びつき易いと見られる。日本語原作で出現率が1/2以下の15項目の内、「1.16 時間」「1.50 自然」「1.32 芸術」「1.33 生活」「1.30 心」「1.51 物質」「1.52 天地」「1.15 作用」「1.22 仲間」「1.53 生物」はN₁が「場所名詞」と結びつき難いと見られる。日本語原作では順位が上位の4項目の内、「1.18 形」はN₁が「場所名詞」と結びつき易いと見られる。日本語原作では順位が下位の4項目の内、「1.32 芸術」「1.54 植物」はN₁が「場所名詞」と結びつき難いと見られる。

従って、韓国語で「場所名詞」と結びつき易いと考えられるものは、「1.13 様相」「1.15 作用」「1.19 量」「1.30 心」「1.32 芸術」「1.52 天地」「1.54 植物」である。韓国語で「場所名詞」と結びつき難いと考えられるものは、「1.12 存在」「1.13 様相」「1.26 社会」「1.32 芸術」「1.35 交わり」「1.38 事業」「1.40 物品」「1.43 食料」「1.54 植物」である。日本語で「場所名詞」と結びつき易いと考えられるものは、「1.13 様相」「1.17 空間」「1.18 形」「1.26 社会」「1.32 芸術」「1.54 植物」である。日本語で「場所名詞」と結びつき難いと考えられるものは、「1.15 作用」「1.16 時間」「1.22 仲間」「1.30 心」「1.32 芸術」「1.33 生活」「1.50 自然」「1.51 物質」「1.52 天地」「1.53 生物」である。

N₁が「場所名詞」のときのN₂の表れを見て、本節において予想されたことを以下の表にまとめた。

<表 44>N₁が「場所名詞」の予想と一致した割合

N ₁ が「場所名詞」					
原作でのN ₂ 表れ	「N ₁ のN ₂ 」の翻訳 (J→K) 「名詞+(의)+名詞」		原作でのN ₂ 表れ	「N ₁ 의N ₂ 」の翻訳 (K→J) 「名詞+의+名詞」	
韓国語原作で2倍以上	15項目の内、6項目基準値以上	40%	日本語原作で2倍以上	12項目の内、3項目基準値以上	25%
韓国語原作で出現率が1/2以下	12項目の内、6項目基準値未満	50%	日本語原作で出現率が1/2以下	15項目の内、10項目基準値未満	66.66%
韓国語原作では順位が上位	4項目の内、3項目基準値以上	75%	日本語原作では順位が上位	4項目の内、1項目基準値以上	25%
韓国語原作では順位が下位	4項目の内、3項目基準値未満	75%	日本語原作では順位が下位	4項目の内、2項目基準値未満	50%
平均		60%	平均		41.67%
全体の平均					
50.84%					

韓国語原作と「N₁のN₂」の翻訳(J→K)を照らし合わせた結果、予想と一致した割合は韓国語原作で2倍以上出現率が高かった項目で40%、日本語原作で2倍以上出現率が高かった項目で25%、日本語原作で上位の項目で25%であった。全体8項目の内、この3項目を除く5項目は予想と一致した割合が50%以上であった。特に、韓国語原作では順位が上位の項目、韓国語原作では順位が下位の項目においては75%の高い割合であった。

「N₁のN₂」の翻訳の平均は60%で、「N₁의N₂」の翻訳の平均は41.67%である。N₁が「場所名詞」のときの予想と一致した割合の平均は50.84%であった。

5.4 N₁が「物名詞」の場合

本研究の「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の全てのデータの量は「N₁のN₂」が9,048例、「N₁의N₂」が6,088例であった。その中で、N₁が「物名詞」である用例数は「N₁のN₂」が672例、「N₁의N₂」が57例である。従って、全てのデータ数に対し、「N₁のN₂」が7.43%、「N₁의N₂」が0.94%の出現率となる。N₁が「物名詞」の場合は日本語の「N₁のN₂」の方が韓国語の「N₁의N₂」よりN₁に「物名詞」が現れる可能性が高いことが分かる。

「物名詞」は国立国語研究所(2004)『分類語彙表』の「生産物および用具」の中の「1.40 物品(物、荷物等)」「1.42 衣料(上着、靴等)」「1.45 道具(人形、おもちゃ等)」「1.46 機械(車、携帯等)」に含まれる名詞類である。これらは類似した名詞類であり、「物名詞」としてひとくくりにできるだろう。

5.4.1 原作の結果

「N₁のN₂」と「N₁의N₂」のN₁が「場所名詞」であるときのN₂を国立国語研究所(2004)『分類語彙表』に基づき分類し、N₁とN₂の連結の難易について述べる。N₁が「場所名詞」であった「N₁のN₂」の672例と「N₁의N₂」の57例を対象に分析する。以下の<表45>は原作での「N₁のN₂」と「N₁의N₂」におけるN₂を国立国語研究所(2004)『分類語彙表』の「1体の類」の43項目に従い分類、算出し、出現率が高い順に並べた結果である。

<表45>原作での「N₁のN₂」と「N₁의N₂」におけるN₂の分類(N₁が「物名詞」)

日本語					韓国語					
	1体の類		出現数	出現率		1体の類		出現数	出現率	
1	1.17空間		322	47.92%	◎	1	1.17空間	9	15.79%	◎
2	1.50自然		61	9.08%		2	1.50自然	9	15.79%	
3	1.42衣料		51	7.59%		3	1.46機械	7	12.28%	○
4	1.41資材		44	6.55%		4	1.41資材	6	10.53%	
5	1.45道具		29	4.32%		5	1.42衣料	4	7.02%	
6	1.46機械		24	3.57%	○	6	1.45道具	4	7.02%	

7	1.24 成員		12	1.79%		7	1.19 量		3	5.26%	○
8	1.44 住居		12	1.79%	○	8	1.44 住居		3	5.26%	○
9	1.13 様相		10	1.49%	◎	9	1.15 作用		2	3.51%	○
10	1.23 人物	■	10	1.49%	◎	10	1.16 時間		2	3.51%	○
11	1.20 人間		9	1.34%	◎	11	1.18 形	■	2	3.51%	○
12	1.38 事業		9	1.34%		12	1.14 力	■	1	1.75%	○
13	1.51 物質	■	8	1.19%	◎	13	1.24 成員		1	1.75%	
14	1.31 言語		6	0.89%		14	1.31 言語		1	1.75%	
15	1.32 芸術	■	6	0.89%	◎	15	1.38 事業		1	1.75%	
16	1.15 作用		5	0.74%	○	16	1.40 物品	■	1	1.75%	○
17	1.26 社会	■	5	0.74%	◎	17	1.43 食料		1	1.75%	○
18	1.43 食料		5	0.74%	○	18	1.10 事柄	■	0	0.00%	
19	1.54 植物	■	5	0.74%	◎	19	1.11 類	■	0	0.00%	◎
20	1.16 時間		4	0.60%	○	20	1.12 存在	■	0	0.00%	
21	1.19 量		4	0.60%	○	21	1.13 様相		0	0.00%	◎
22	1.33 生活	■	4	0.60%	◎	22	1.20 人間		0	0.00%	◎
23	1.56 身体		4	0.60%	◎	23	1.21 家族		0	0.00%	◎
24	1.11 類	■	3	0.45%	◎	24	1.22 仲間		0	0.00%	◎
25	1.22 仲間		3	0.45%	◎	25	1.23 人物	■	0	0.00%	◎
26	1.30 心		3	0.45%	◎	26	1.25 公私		0	0.00%	
27	1.14 力	■	2	0.30%	○	27	1.26 社会	■	0	0.00%	◎
28	1.18 形	■	2	0.30%	○	28	1.27 機関		0	0.00%	◎
29	1.37 経済		2	0.30%	◎	29	1.30 心		0	0.00%	◎
30	1.40 物品	■	2	0.30%	○	30	1.32 芸術	■	0	0.00%	◎
31	1.21 家族		1	0.15%	◎	31	1.33 生活	■	0	0.00%	◎
32	1.27 機関		1	0.15%	◎	32	1.34 行為		0	0.00%	◎
33	1.34 行為		1	0.15%	◎	33	1.35 交わり		0	0.00%	
34	1.47 土地利用		1	0.15%	◎	34	1.36 待遇		0	0.00%	
35	1.52 天地		1	0.15%	◎	35	1.37 経済		0	0.00%	◎
36	1.57 生命		1	0.15%	◎	36	1.47 土地利用		0	0.00%	◎
37	1.10 事柄	■	0	0.00%		37	1.51 物質	■	0	0.00%	◎
38	1.12 存在	■	0	0.00%		38	1.52 天地		0	0.00%	◎
39	1.25 公私		0	0.00%		39	1.53 生物		0	0.00%	
40	1.35 交わり		0	0.00%		40	1.54 植物	■	0	0.00%	◎
41	1.36 待遇		0	0.00%		41	1.55 動物		0	0.00%	
42	1.53 生物		0	0.00%		42	1.56 身体		0	0.00%	◎
43	1.55 動物		0	0.00%		43	1.57 生命		0	0.00%	◎
	合計		672	100%		合計		57	100%		

その結果、日本語ではN₂が「1.10 事柄」「1.12 存在」「1.25 公私」「1.35 交わり」「1.36 待遇」「1.53 生物」「1.55 動物」のとき、物名詞との組み合わせが見られない。一方、韓国語ではN₂が「1.10 事柄」「1.11 類」「1.12 存在」「1.13 様相」「1.20 人間」「1.21 家族」「1.22 仲間」「1.23 人物」「1.25 公私」「1.26 社会」「1.27 機関」「1.30 心」「1.32 芸術」「1.33 生活」「1.34 行為」「1.35 交わり」「1.36 待遇」「1.37 経済」「1.47 土地利用」「1.51 物質」「1.52 天地」「1.53 生物」「1.54 植物」「1.55 動物」「1.56 身体」「1.57 生命」のとき、物名詞との組み合わせが見られない。日韓で比較すると、N₂が「1.10 事柄」「1.12 存在」「1.25 公

私」「1.35 交わり」「1.36 待遇」「1.53 生物」「1.55 動物」のときは両言語共に物名詞との組み合わせが見られないことが分かった。

原作におけるN₂を日韓で比較すると出現率、出現の順位の逆転といった特徴が見られた。まず、日韓の原作の各項目ごとに出現率を比較した結果、2倍以上差がある項目があった。韓国語と比べて日本語の出現率が2倍以上高い項目は20項目あった。その項目は「1.17 空間」「1.13 様相」「1.23 人物」「1.20 人間」「1.51 物質」「1.32 芸術」「1.26 社会」「1.54 植物」「1.33 生活」「1.56 身体」「1.11 類」「1.22 仲間」「1.30 心」「1.37 経済」「1.21 家族」「1.27 機関」「1.34 行為」「1.47 土地利用」「1.52 天地」「1.57 生命」である。また、日本語と比べて韓国語の出現率が2倍以上高かった項目は9項目あった。その項目は「1.46 機械」「1.44 住居」「1.15 作用」「1.43 食料」「1.16 時間」「1.19 量」「1.14 力」「1.18 形」「1.40 物品」である。

また、日韓で上位の項目と下位の項目が逆転している項目が見られた。まず、日本語が上位である6項目は「1.23 人物」「1.51 物質」「1.32 芸術」「1.26 社会」「1.54 植物」「1.33 生活」である。韓国語が上位である6項目は「1.18 形」「1.14 力」「1.40 物品」「1.10 事柄」「1.11 類」「1.12 存在」である。

5.4.2 翻訳形式の結果

ここでは「N₁のN₂」と「N₁의N₂」のN₁が「物名詞」の場合の翻訳形式を分類し、その傾向を述べる。

以下の<表 46>は「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の翻訳形式を分類して用例の出現回数とその翻訳率を量的に示したものである。

<表 46>N₁が「物名詞」のときの「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の翻訳形式

	「N ₁ のN ₂ 」の翻訳(J→K)		「N ₁ 의N ₂ 」の翻訳(K→J)	
	翻訳形式	回数(翻訳率)	翻訳形式	回数(翻訳率)
1	名詞+의+名詞	88 13.10%	名詞+の+名詞	41 71.93%
2	名詞+名詞	444 66.07%	意識	8 14.04%
3	名詞	61 9.08%	名詞	3 5.26%
4	動詞	24 3.57%	内容省略	2 3.51%
5	意識	22 3.27%	文の組み替え	2 3.51%
6	文の組み換え	5 0.74%	その他	1 1.75%
7	その他	28 4.17%	合計	57 100%
	合計	672 100%		

N₁が「物名詞」の場合の「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の翻訳形式と3.5の本研究の全体のデータとの相違点は特に見当たらない。ここで、上記の5.2のN₁が「人名詞」の場合と5.3のN₁が「場所名詞」の場合と比べる。すると、N₁が「人名詞」の場合は「N₁のN₂」

の翻訳(J→K)はN₁とN₂の間に「의」が介在した翻訳形式(「名詞+의+名詞」)が多く確認できたが、本節のN₁が「物名詞」の場合はN₁が「場所名詞」の場合と同じく、N₁とN₂の間が「∅(zero)」の翻訳形式(「名詞+名詞」)が最も多く見られた。

「N₁のN₂」は「名詞+의+名詞」および「名詞+名詞」に翻訳されたのが79.17%で、「N₁의N₂」は「名詞+の+名詞」に翻訳されたのが71.93%である。N₁が「物名詞」のとき、「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の対応する形式への翻訳は少し差があるようにも見えるが、大きな差ではない。

5.4.3 原作と翻訳の総合結果

この節では、対応する翻訳形式にも5.4.1で行ったのと同じ作業を行い、両者の結果を照らし合わせる。これにより、「の」、「의」による名詞の結合の難易はどのように表れるか、さらに、それにより日本語訳と韓国語訳それぞれにおけるN₁とN₂の表れが原作のN₁とN₂の表れと類似した現象を見せるかを確認したい。

5.4.3.1 「N₁のN₂」の原作と翻訳との比較

〈表47〉は〈表45〉の「N₁のN₂」の原作のN₂の分類項目と〈表46〉「N₁のN₂」の翻訳形式とを総合したものである。ここで、N₂の順番は〈表45〉の韓国語の原作の順位に並び替えている。また、「N₁のN₂」の翻訳形式「名詞+의+名詞」と「名詞+名詞」を合わせて翻訳率が高い順に整理しなおしたのが〈表48〉である。翻訳形式「名詞+(의)+名詞」のN₂の全体の用例数532の基準値は266で、翻訳率は83.02%である。

<表 47> N₁が「物名詞」のときの「N₁のN₂」の翻訳におけるN₂の分布

1体の類	1	2	3	4	5	6	7	合計	百分率								
	名詞+の+名詞	名詞+名詞	名詞	動詞	意味	文の組み替え	その他										
1	1.17空間	13	4.04%														
2	1.50自然	18	29.51%														
3	1.46機械	4	16.67%														
4	1.41資材	9	20.45%														
5	1.42衣料	3	5.88%														
6	1.45道具	7	24.14%														
7	1.19量	1	25.00%														
8	1.44住居	1	8.33%														
9	1.15作用																
10	1.16時間	2	50.00%														
11	1.18形	1	50.00%														
12	1.14力	2	100%														
13	1.24成員	1	8.33%														
14	1.31言語	3	50.00%														
15	1.38事業	3	33.33%														
16	1.40物品	2	100%														
17	1.43食料	3	60.00%														
18	1.10事柄																
19	1.11類	1	33.33%														
20	1.12存在																
21	1.13接相	6	60.00%														
22	1.20人間																
23	1.21家族																
24	1.22仲間	1	33.33%														
25	1.23人物	7	46.67%														
26	1.25公私																
27	1.26社会	5	100%														
28	1.27機関																
29	1.30心	1	33.33%														
30	1.32芸術	1	16.67%														
31	1.33生活	1	25.00%														
32	1.34行為																
33	1.35交わり	1	100%														
34	1.36待遇																
35	1.37経済	2	100%														
36	1.47土地利用	1	100%														
37	1.51物質	2	25.00%														
38	1.52天地	3	37.50%														
39	1.53生物																
40	1.54植物	4	80.00%														
41	1.55動物																
42	1.56身体	1	25.00%														
43	1.57生命	1	100%														
	合計	88	13.10%	444	66.07%	61	9.08%	24	3.57%	22	3.27%	5	0.74%	28	4.17%	672	100%

<表 48>N₁が「物名詞」の翻訳形式「名詞+(으) +名詞」の翻訳率

名詞+(으) +名詞			
	1体の類		翻訳率
1	1.11類	◎	100%
2	1.14力	○	100%
3	1.18形	○	100%
4	1.26社会	◎	100%
5	1.27機関	◎	100%
6	1.31言語		100%
7	1.34行為	◎	100%
8	1.37経済	◎	100%
9	1.40物品	○	100%
10	1.47土地利用	◎	100%
11	1.57生命	◎	100%
12	1.42衣料		90.19%
13	1.13様相	◎	90.00%
14	1.17空間	◎	86.03%
15	1.54植物	◎	80.00%
16	1.45道具		75.86%
17	1.50自然		75.41%
18	1.16時間	○	75.00%
19	1.24成員		75.00%
20	1.44住居	○	75.00%
21	1.46機械	○	70.84%
22	1.41資材		68.18%
23	1.32芸術	◎	66.67%
24	1.22仲間	◎	66.66%
25	1.51物質	◎	62.50%
26	1.15作用	○	60.00%
27	1.43食料	○	60.00%
28	1.23人物	◎	53.34%
29	1.33生活	◎	50.00%
30	1.19量	○	49.00%
31	1.30心	◎	33.33%
32	1.38事業		33.33%
33	1.56身体	◎	25.00%
34	1.10事柄		0%
35	1.12存在		0%
36	1.20人間	◎	0%
37	1.21家族	◎	0%
38	1.25公私		0%
39	1.35交わり		0%
40	1.36待遇		0%
41	1.52天地	◎	0%
42	1.53生物		0%
43	1.55動物		0%
	合計		79.17%

韓国語の原作では、N₂が「1.10 事柄」「1.11 類」「1.12 存在」「1.13 様相」「1.20 人間」「1.21 家族」「1.22 仲間」「1.23 人物」「1.25 公私」「1.26 社会」「1.27 機関」「1.30 心」「1.32 芸術」「1.33 生活」「1.34 行為」「1.35 交わり」「1.36 待遇」「1.37 経済」「1.47 土地利用」「1.51 物質」「1.52 天地」「1.53 生物」「1.54 植物」「1.55 動物」「1.56 身体」「1.57 生命」のとき、物名詞との組み合わせが見られなかった。<表 48>の翻訳の結果、N₂が「1.10 事柄」「1.12 存在」「1.20 人間」「1.21 家族」「1.25 公私」「1.35 交わり」「1.36 待遇」「1.52 天地」「1.53 生物」「1.55 動物」のとき、物名詞との組み合わせが見られない。即ち、韓国語では「으」によって、「物名詞」と「1.10 事柄」「1.12 存在」「1.20 人間」「1.21 家族」「1.25 公私」「1.35 交わり」「1.36 待遇」「1.52 天地」「1.53 生物」「1.55 動物」が連結されない傾向にあると思われる。『分類語彙表』の「1.10 事柄」には「事柄、こそあど・他、真偽・是非、本体・代理」の名詞が分類されている。「1.12 存在」には「存在、出没、発生・復活、成立」の名詞が分類されている。「1.20 人間」には「人間、われ・なれ・かれ、自他、神仏・精霊、男女、老少」の名詞が分類されている。「1.21 家族」には「家族、夫婦、親・先祖、子・子孫、兄弟、親戚」の名詞が分類されている。「1.25 公私」には「公私、家、郷里、国、都会・田舎、政治的区画、固有地名」の名詞が分類されている。「1.35 交わり」には「交わり、集会、出欠、応接・送迎、仲介、約束等」の名詞が分類されている。「1.36 待遇」には「支配・政治、国務、公式・公平、刑、捕縛・釈放、運営、人事、教育・養成等」の名詞が分類されている。「1.52 天地」には「宇宙・空、天体、天象、地、山野、川・湖、

海・島、地相、地帯、景」の名詞が分類されている。「1.53 生物」には「生物」の名詞が分類されている。「1.55 動物」には「動物、哺乳類、鳥類、爬虫類・両生類、魚類、昆虫」の名詞が分類されている。これらの項目の中で日本語の原作では「物名詞」と「1.20 人間」「1.21 家族」「1.52 天地」が連結された用例が見られた。

(11) 「物名詞+の+1.20 人間」

- a. スタッフジャンパーの男が修吉を見つけて駆けてきた。(ラストソング p. 274)
b. seutaepu jeompeoleul ibeun namjaga syukichileul balgyeonhago geubhi dallyeowassda. (라스트송 p. 271)

(12) 「物名詞+の+1.21 家族」

- a. 警部は重々しく領くと、車椅子の老婦人に質問した。(謎解き p. 103)
b. gyeongbuneun mugeobge gogaeleul kkeudeogigoneun hwolcheeoui juinin nobubuege jilmunhaessda. (수수께끼 p. 131)

(13) 「物名詞+の+1.52 天地」

- a. 後ろには、おもちゃの山がある。(津軽食堂 p. 48)
b. dwieneun jangnangami sancheoleom ssahyeo issda. (쓰가루식당 p. 51)

(11)は翻訳形式「動詞化」に分類した用例である。日本語の原作では「ジャンパーの男」と「N₁のN₂」であるが、韓国語訳では「N₁의N₂」になっていない。「男」に意味的に対応する「namja」があるにもかかわらず、対応し翻訳されていない。(12)は翻訳形式「意識」に分類した用例である。日本語の原作では「車椅子の老婦人」と「N₁のN₂」であるが、韓国語訳では「N₁의N₂」になっていない。「老婦人」に意味的に対応する「nobubu」があるにもかかわらず、対応し翻訳されていない。(13)は翻訳形式「意識」に分類した用例である。日本語の原作では「おもちゃの山」と「N₁のN₂」であるが、韓国語訳では「N₁의N₂」になっていない。「山」に意味的に対応する「san」があるにもかかわらず、対応し翻訳されていない。(11)から(13)を見ると、韓国語の名詞の連結に見られないことで対応し翻訳されていない訳ではなさそうだ。

一方、N₂が「1.11 類」「1.13 様相」「1.22 仲間」「1.23 人物」「1.26 社会」「1.27 機関」「1.30 心」「1.32 芸術」「1.33 生活」「1.34 行為」「1.37 経済」「1.47 土地利用」「1.51 物質」「1.54 植物」「1.56 身体」「1.57 生命」においては翻訳が現れた。これらの項目にはどのような用例があるか見てみる。

(14) 「物名詞+(의)+1.11 類」

a. 高い位置でリリースされ、落ちるタイミングで撞木をつかむのが空中ブランコの基本だ。
(空中ブランコ p. 8)

b. choegojeomeseo liteonhamyeo tteoleojineun taiminge dangmogeul jabneun ge
gongjunggeuneui gibbonida. (공중그네 p. 70)

(15) 「物名詞+(의)+1.13 様相」

a. ギターのチューニングもマイクの調子も OK だが…(中略)(ラストソング p. 80)

b. gitau tyuning sangtaedo maikeu sangtaedo namulal de eobsda. (ラスト송 p. 81)

(16) 「物名詞+(의)+1.22 仲間」

a. 携帯の持ち主は寝くさっているのか、呼び出し音はなかなか鳴りやまない。

(空中庭園 p. 196)

b. hyudaejeonhwa juini peojyeo jago issneunji belsolineun jomcheoleom geuchiji
anhassda.

(공중정원 p. 217)

(17) 「物名詞+(의)+1.23 人物」

a. ベースのゲンが欠けているのだ。(ラストソング p. 130)

b. beiseuui geni ppajyeo isseosda. (ラスト송 p. 130)

(18) 「物名詞+(의)+1.26 社会」

a. 電車の駅から動物園に来る途中、ぼくたちは人ごみを避けて細い裏道を通ってきた。

(世界の中心 p. 90)

b. jeoncha yeogeseo dongmulwoneulo oneun dojunge ulineun inpaleul pihae jobeun
dwisgileul jinawassda. (세상의 중심 p. 89)

(19) 「物名詞+(의)+1.27 機関」

a. コウちゃんは、しばらく空中ブランコのチームから外す。(空中ブランコ p. 38)

b. gojjangeun handongan gongjunggeune timeseo ppajyeo. (공중그네 p. 104)

(20) 「物名詞+(의)+1.30 心」

a. その後は外食で好きな店や洋服の好みや読んでいる漫画へと延々、話は続いた。(津軽食
堂 p. 181)

b. geu daeumeneun oesighal ttaemyeon jal ganeun eumsigjeomgwa paesyeron chwihyang, jal ilgneun manhwakkaji, yaegiga kkeuti eobseosda. (쓰가루 p. 182)

(21) 「物名詞 + (의) + 1.32 芸術」

a. 空中ブランコの演技が終わったところで、公平はタオルを拳に巻きつけた。(空中ブランコ p. 10)

b. gongjunggeune yeongiga modu kkeutnaja, goheineun sugeoneulo jumeogeul gamssasda. (공중그네 p. 72)

(22) 「物名詞 + (의) + 1.33 生活」

a. いくら麗子が現職刑事でも 拳銃の不法所持は挟み消せない。(謎解き p. 247)

b. amuli leikoga hyeonjig hyeongsalado gwonchongui bulbeob sojineun mumahal su eobsda. (수수께끼 p. 311)

(23) 「物名詞 + (의) + 1.34 行為」

a. ギターの腕は分かっているはず。(ラストソング p. 142)

b. gita somssiya imi algo isseul teo. (ラスト송 p. 141)

(24) 「物名詞 + (의) + 1.37 経済」

a. 通帳の残高を眺めては、レストランでも開こうかと空想する毎日だ。(空中ブランコ p. 205)

b. tongjang janaegeul hwaginhameyo, yeonil leseutolangilado haebolokka haneun gongsangman handa. (공중그네 p. 236)

(25) 「物名詞 + (의) + 1.47 土地利用」

a. 頭上の案内標示を見て、七海ちゃんが乗ると言っていた 電車のホームを探す。(津軽食堂 p. 74)

b. meoli wiui annae pyojipaneul bogo na namiga tandago haessdeon jeoncheolui peullaespomeul chajassda. (쓰가루 p. 76)

(26) 「物名詞 + (의) + 1.51 物質」

a. 七海は 風船の破片を必死で集めて、パズルみたいに繋ぎ合わせようとした。(津軽食堂 p. 86)

b. nanamineun pungseon papyeoneul pilsajeogeulo moaseo peojeulcheoleom yeongyeolhaeboassda. (쓰가루 p. 87)

(27) 「物名詞 + (의) + 1.54 植物」

a. バルーンのりんごを入れた紙袋にカタログを押し込んで、エレベータに乗った。(津軽食堂 p. 83)

b. pungseon sagwaga deuleo issneun jongibongtue katallogeuleul mileo neohgo elli beiteoe ollassda. (쓰가루 p. 84)

(28) 「物名詞 + (의) + 1.56 身体」

a. ぼくも立ち上がり、ズボンの尻をはたく。(空中庭園 p. 254)

b. nado ileoseoseo baji eongdeongileul tugtug teoleosssa. (공중정원 p. 280)

(29) 「物名詞 + (의) + 1.57 生命」

a. 注射の痛みも忘れていた。(空中ブランコ p. 173)

b. jusa tongjeungdo salajyeosssa. (공중그네 p. 200)

(14)から(29)の用例を見ると、「N₁のN₂」の翻訳(J→K)では「의」(もしくは「zero」)によって、「物名詞」と「1.11 類」「1.13 様相」「1.22 仲間」「1.23 人物」「1.26 社会」「1.27 機関」「1.30 心」「1.32 芸術」「1.33 生活」「1.34 行為」「1.37 経済」「1.47 土地利用」「1.51 物質」「1.54 植物」「1.56 身体」「1.57 生命」が連結されている。韓国語の原作ではN₁が「物名詞」のときのN₂に現れていなかったが、それは連結する名詞の問題ではなく、資料の中で現れていなかったということであろう。

日韓の原作の出現率がの差が2倍以上であった項目を<表 48>の翻訳形式「名詞 + 의 + 名詞」に「◎(日本語が韓国語に比べて2倍以上出現率が高い)」と○「(韓国語が日本語に比べて2倍以上出現率が高い)」を付けて記した。韓国語原作で2倍以上出現率が高かった9項目の内、「1.14 力」「1.18 形」「1.40 物品」は基準値以上であることが確認できた。しかし、「1.16 時間」「1.44 住居」「1.46 機械」「1.15 作用」「1.43 食料」「1.19 量」は基準値未満であった。一方、日本語原作で2倍以上出現率が高かった項目は翻訳率が低いと予想される(即ち、韓国語原作で出現率が1/2以下)。その20項目の内、「1.54 植物」「1.32 芸術」「1.22 仲間」「1.51 物質」「1.23 人物」「1.33 生活」「1.30 心」「1.56 身体」「1.20 人間」「1.21 家族」「1.52 天地」は基準値未満であることが確認できた。だが、「1.11 類」「1.26 社会」「1.27 機関」「1.34 行為」「1.37 経済」「1.47 土地利用」「1.57 生命」「1.13 様相」「1.17 空間」「1.54 植物」は基準値以上であった。

次は、日韓原作のN₂の出現率の順位が逆転した特徴を見てみる。韓国語の順位が上位である6項目「1.11 類」「1.14 力」「1.18 形」「1.40 物品」「1.10 事柄」「1.12 存在」は翻訳率も高いと予想され、その中で「1.11 類」「1.14 力」「1.18 形」「1.40 物品」は基準値以上であることが確認できた。だが、「1.10 事柄」「1.12 存在」は基準値未満であった。一方、日本語の順位が上位である6項目(即ち、韓国語原作では順位が下位)「1.26 社会」「1.54 植物」「1.32 芸術」「1.51 物質」「1.23 人物」「1.33 生活」の内、「1.54 植物」「1.32 芸術」「1.51 物質」「1.23 人物」「1.33 生活」は基準値未満であることが確認できた。だが、「1.26 社会」は基準値以上であった。

5.4.3.2 「N₁의 N₂」の原作と翻訳との比較

〈表 49〉は〈表 45〉の「N₁의 N₂」の原作のN₂の分類項目と〈表 46〉「N₁의 N₂」の翻訳形式との総合したものである。ここで、N₂の順番は〈表 45〉の日本語の原作の順位に並び替えている。また、「N₁의 N₂」の翻訳形式「名詞+の+名詞」の翻訳率の高い順に並び替えて表したのが〈表 50〉である。翻訳形式「名詞+の+名詞」のN₂の全体の用例数 41 の基準値は 21 で、翻訳率は 76.39%である。

<表 49> N₁が「物名詞」のときの「N₁のN₂」の翻訳におけるN₂の分布

1体の類	1		2		3		4		5		6		合計	百分率	
	名詞十の十名詞		意訳		名詞		内容省略		文の組み替え		その他				
1	1.17空間	7	77.78%	1	11.11%						1	11.11%	9	100%	
2	1.50自然	3	33.33%	3	33.33%	1	11.11%	1	11.11%	1	11.11%		9	100%	
3	1.42衣料	2	50.00%			2	50.00%						4	100%	
4	1.41資材	4	66.67%	1	16.67%			1	16.67%				6	100%	
5	1.45道具	3	75.00%	1	25.00%								4	100%	
6	1.46機械	7	100%										7	100%	
7	1.24成長	1	100%										1	100%	
8	1.44住居	2	66.67%							1	33.33%		3	100%	
9	1.13機相												0	0%	
10	1.23人物												0	0%	
11	1.20人間												0	0%	
12	1.38事業	1	100%										1	100%	
13	1.51物質												0	0%	
14	1.31言語	1	100%										1	100%	
15	1.32芸術												0	0%	
16	1.15作用	2	100%										2	100%	
17	1.26社会												0	0%	
18	1.43食料	1	100%										1	100%	
19	1.54植物												0	0%	
20	1.16時間	1	50.00%	1	50.00%								2	100%	
21	1.19量	3	100%										3	100%	
22	1.33生活												0	0%	
23	1.56身体												0	0%	
24	1.11類												0	0%	
25	1.22仲間												0	0%	
26	1.30心												0	0%	
27	1.14力	1	100%										1	100%	
28	1.18形	1	50.00%	1	50.00%								2	100%	
29	1.37経済												0	0%	
30	1.40物品	1	100%										1	100%	
31	1.21家庭												0	0%	
32	1.27機関												0	0%	
33	1.34行参												0	0%	
34	1.47土地利用												0	0%	
35	1.52天地												0	0%	
36	1.57生命												0	0%	
37	1.10事柄												0	0%	
38	1.12存在												0	0%	
39	1.25公私												0	0%	
40	1.35交わり												0	0%	
41	1.36待遇												0	0%	
42	1.53生物												0	0%	
43	1.55動物												0	0%	
	合計	41	71.93%	8	14.04%	3	5.26%	2	3.51%	2	3.51%	1	1.75%	57	100%

<表 50>N₁が「物名詞」の翻訳形式「名詞+の+名詞」の翻訳率

名詞+の+名詞			翻訳率
1体の類			
1	1.14力	○	100%
2	1.15作用	○	100%
3	1.19量	○	100%
4	1.24成員		100%
5	1.31言語		100%
6	1.38事業		100%
7	1.40物品	○	100%
8	1.43食料	○	100%
9	1.46機械	○	100%
10	1.17空間	◎	77.78%
11	1.45道具		75.00%
12	1.41資材		66.67%
13	1.44住居	○	66.67%
14	1.42衣料		50.00%
15	1.16時間	○	50.00%
16	1.18形	○	50.00%
17	1.50自然		33.33%
18	1.10事柄		0%
19	1.11類	◎	0%
20	1.12存在		0%
21	1.13様相	◎	0%
22	1.20人間	◎	0%
23	1.21家族	◎	0%
24	1.22仲間	◎	0%
25	1.23人物	◎	0%
26	1.25公私		0%
27	1.26社会	◎	0%
28	1.27機関	◎	0%
29	1.30心	◎	0%
30	1.32芸術	◎	0%
31	1.33生活	◎	0%
32	1.34行為	◎	0%
33	1.35交わり		0%
34	1.36待遇		0%
35	1.37経済	◎	0%
36	1.47土地利用	◎	0%
37	1.51物質	◎	0%
38	1.52天地	◎	0%
39	1.53生物		0%
40	1.54植物	◎	0%
41	1.55動物		0%
42	1.56身体	◎	0%
43	1.57生命	◎	0%
	合計		71.93%

日本語の原作の結果、N₂が「1.10 事柄」「1.12 存在」「1.25 公私」「1.35 交わり」「1.36 待遇」「1.53 生物」「1.55 動物」のとき、物名詞との組み合わせが見られなかった。<表 50>の翻訳の結果、N₂が「1.10 事柄」「1.12 存在」「1.25 公私」「1.35 交わり」「1.36 待遇」「1.53 生物」「1.55 動物」のとき、物名詞との組み合わせが見られない。即ち、日本語では「の」によって、「物名詞」と「1.10 事柄」「1.12 存在」「1.25 公私」「1.35 交わり」「1.36 待遇」「1.53 生物」「1.55 動物」が連結されない傾向にあると思われる。『分類語彙表』の「1.10 事柄」には「事柄、こそあど・他、真偽・是非、本体・代理」の名詞が分類されている。「1.12 存在」には「存在、出没、発生・復活、成立」の名詞が分類されている。「1.35 交わり」には「交わり、集会、出欠、応接・送迎、仲介、約束等」の名詞が分類されている。「1.36 待遇」には「支配・政治、国務、公式・公平、刑、捕縛・釈放、運営、人事、教育・養成等」の名詞が分類されている。「1.53 生物」には「生物」の名詞が分類されている。「1.55 動物」には「動物、哺乳類、鳥類、爬虫類・両生類、魚類、昆虫」の名詞が分類されている。これらの項目は韓国語の原作でも用例が見られなかった。

日本語の出現率が韓国語に比べて2倍以上高かった項目(◎)の20項目の内、「1.17 空間」は基準値以上であることが確認できた。だが、「1.11 類」「1.13 様相」「1.20 人間」「1.21 家族」「1.22 仲間」「1.23 人物」「1.26 社会」「1.27 機関」「1.30 心」「1.32 芸術」「1.33 生活」「1.34 行為」「1.37 経済」「1.47 土地利用」「1.51 物質」

「1.52 天地」「1.54 植物」「1.56 身体」「1.57 生命」は基準値未満であった。逆に、韓国語の出現率が日本語に比べて2倍以上高かった項目(○)(即ち、日本語原作で出現率が韓

国語の 1/2 以下)の 9 項目の中で「1.44 住居」「1.16 時間」「1.18 形」は基準値未満であることが確認できた。だが、「1.14 力」「1.15 作用」「1.19 量」「1.40 物品」「1.43 食料」「1.46 機械」は基準値以上であった。

次は日韓の原作において N_2 の出現率の順位が逆転している項目を<表 50>に色を付けて表記した。日本語の順位が上位であった 6 項目(濃い色)は翻訳率も高いと予想される。この 6 項目「1.23 人物」「1.26 社会」「1.32 芸術」「1.33 生活」「1.51 物質」「1.54 植物」は全て基準値未満であったので予想とは異なっていた。一方、韓国語の順位が上位(即ち、日本語原作では順位が下位)である 6 項目「1.14 力」「1.40 物品」「1.18 形」「1.10 事柄」「1.11 類」「1.12 存在」の内、「1.18 形」「1.10 事柄」「1.11 類」「1.12 存在」は基準値未満であるが、「1.14 力」「1.40 物品」は基準値以上であった。

5.4.4 まとめ

「 N_1 の N_2 」と「 N_1 의 N_2 」における N_1 が「物名詞」の場合、 N_2 を国立国語研究所(2004)『分類語彙表』に基づき 43 の項目に名詞類を分類し、日本語と韓国語を対照した。

まず、原作での「 N_1 の N_2 」と「 N_1 의 N_2 」の N_1 と N_2 表れではいくつかの特徴が見られた。日本語では N_2 が「1.10 事柄」「1.12 存在」「1.25 公私」「1.35 交わり」「1.36 待遇」「1.53 生物」「1.55 動物」のとき、物名詞との組み合わせが見られない。韓国語では N_2 が「1.10 事柄」「1.11 類」「1.12 存在」「1.13 様相」「1.20 人間」「1.21 家族」「1.22 仲間」「1.23 人物」「1.25 公私」「1.26 社会」「1.27 機関」「1.30 心」「1.32 芸術」「1.33 生活」「1.34 行為」「1.35 交わり」「1.36 待遇」「1.37 経済」「1.47 土地利用」「1.51 物質」「1.52 天地」「1.53 生物」「1.54 植物」「1.55 動物」「1.56 身体」「1.57 生命」のとき、物名詞との組み合わせが見られない。日韓で比較すると、 N_2 が「1.10 事柄」「1.12 存在」「1.25 公私」「1.35 交わり」「1.36 待遇」「1.53 生物」「1.55 動物」のときは両言語共に物名詞との組み合わせが見られないことが分かった。日本語も韓国語も「の」と「의」によって、「物名詞」と「1.10 事柄」「1.12 存在」「1.25 公私」「1.35 交わり」「1.36 待遇」「1.53 生物」「1.55 動物」が連結されない傾向にあると推察される。

日本語と韓国語の各項目ごとに出現率を比較した結果、出現率が 2 倍以上差が見られた項目があった。韓国語に比べて日本語の出現率が 2 倍以上高い項目は 20 項目、「1.17 空間」「1.13 様相」「1.23 人物」「1.20 人間」「1.51 物質」「1.32 芸術」「1.26 社会」「1.54 植物」「1.33 生活」「1.56 身体」「1.11 類」「1.22 仲間」「1.30 心」「1.37 経済」「1.21 家族」「1.27 機関」「1.34 行為」「1.47 土地利用」「1.52 天地」「1.57 生命」であった。日本語に比べて韓国語の出現率が 2 倍以上高い項目は 9 項目、「1.46 機械」「1.44 住居」「1.15 作用」「1.43 食料」「1.16 時間」「1.19 量」「1.14 力」「1.18 形」「1.40 物品」であった。そして、日本語と韓国語で出現率が上位の項目と下位の項目が逆転している項目が見られた。日本語が

上位である6項目は「1.23 人物」「1.51 物質」「1.32 芸術」「1.26 社会」「1.54 植物」「1.33 生活」で、韓国語が上位である6項目は「1.18 形」「1.14 力」「1.40 物品」「1.10 事柄」「1.11 類」「1.12 存在」である。この出現率が2倍以上差が見られた項目と日本語と韓国語で出現率が上位の項目はそれぞれ「名詞+(의)+名詞」、「名詞+の+名詞」に翻訳されやすいと予想される。

次に「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の翻訳では「N₁のN₂」の翻訳(J→K)は「名詞+의+名詞」および「名詞+名詞」への翻訳が79.17%、「N₁의N₂」の翻訳(K→J)は「名詞+の+名詞」への翻訳が71.93%であった。従って、日本語も韓国語も対応する形式への翻訳率はあまり変わらない。

また、「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の原作と翻訳を総合し、原作で見られた特徴を翻訳と照らし合わせて検証を行った。原作で韓国語のN₂が「1.10 事柄」「1.11 類」「1.12 存在」「1.13 様相」「1.20 人間」「1.21 家族」「1.22 仲間」「1.23 人物」「1.25 公私」「1.26 社会」「1.27 機関」「1.30 心」「1.32 芸術」「1.33 生活」「1.34 行為」「1.35 交わり」「1.36 待遇」「1.37 経済」「1.47 土地利用」「1.51 物質」「1.52 天地」「1.53 生物」「1.54 植物」「1.55 動物」「1.56 身体」「1.57 生命」は0%の出現率であったので、翻訳形式「名詞+(의)+名詞」(J→K)の翻訳率を確認した。すると、「1.10 事柄」「1.12 存在」「1.20 人間」「1.21 家族」「1.25 公私」「1.35 交わり」「1.36 待遇」「1.52 天地」「1.53 生物」「1.55 動物」の翻訳率も0%であることが見受けられた。一方、日本語の原作では「1.20 人間」「1.21 家族」「1.52 天地」があり、その用例を見てもやはり日本語では「의(もしくは zero)」によって、「物名詞」と「1.20 人間」「1.21 家族」「1.52 天地」が連結されていない。原作で日本語のN₂が「1.10 事柄」「1.12 存在」「1.25 公私」「1.35 交わり」「1.36 待遇」「1.53 生物」「1.55 動物」は0%の出現率であったので、翻訳形式「名詞+の+名詞」(K→J)の翻訳率を確認した。すると、「1.10 事柄」「1.12 存在」「1.25 公私」「1.35 交わり」「1.36 待遇」「1.53 生物」「1.55 動物」は全て翻訳率が0%であることが見受けられた。「の」と「의」により結びつけられる名詞に差が生じるのではないかと予想してこのような分析を行った。翻訳形式「名詞+(의)+名詞」(J→K)のN₂が「1.20 人間」「1.21 家族」「1.52 天地」の用例である(11)(12)(13)の「男」「老婦人」「山」に意味的に対応する「namja」「nobubu」「san」があるにもかかわらず、対応し翻訳されていなかった。どのような理由で「의(もしくは zero)」によって、「物名詞」と「1.20 人間」「1.21 家族」「1.52 天地」が連結されなかったか把握は難しいが、これが日本語と韓国語の連結する名詞の相違によるものではないと見られる。これから、用例が確認できた項目を除くと、日本語においては「物名詞」と「1.10 事柄」「1.12 存在」「1.25 公私」「1.35 交わり」「1.36 待遇」「1.53 生物」「1.55 動物」が連結されない傾向にあり、韓国語においては「物名詞」と「1.10 事柄」「1.12 存在」「1.25 公私」「1.35 交わり」「1.36 待遇」「1.53 生物」「1.55 動物」が連結されない傾向にあると思われる。

る。これらの項目は、おそらく「物名詞」と連結する可能性は低いと示唆される。

原作と翻訳での N_1 と N_2 の表れの結果、 N_1 が「物名詞」のときの N_2 との結びつき易さ、結びつき難さを確認することができた。その項目は以下の通りである。

まず、韓国語の場合である。韓国語原作で2倍以上高かった9項目の内、「1.14 力」「1.18 形」「1.40 物品」は N_1 が「物名詞」と結びつき易いと見られる。韓国語原作で出現率が1/2以下の20項目の内、「1.54 植物」「1.32 芸術」「1.22 仲間」「1.51 物質」「1.23 人物」「1.33 生活」「1.30 心」「1.56 身体」「1.20 人間」「1.21 家族」「1.52 天地」は N_1 が「物名詞」と結びつき難いと見られる。韓国語原作では順位が上位の6項目の内、「1.11 類」「1.14 力」「1.18 形」「1.40 物品」は N_1 が「物名詞」と結びつき易いと見られる。韓国語原作では順位が下位の6項目の内、「1.54 植物」「1.32 芸術」「1.51 物質」「1.23 人物」「1.33 生活」は N_1 が「物名詞」と結びつき難いと見られる。

次は、日本語の場合である。日本語原作で2倍以上高かった20項目の内、「1.17 空間」は N_1 が「物名詞」と結びつき易いと見られる。日本語原作で出現率が1/2以下の9項目の内、「1.44 住居」「1.16 時間」「1.18 形」は N_1 が「物名詞」と結びつき難いと見られる。日本語原作では順位が上位の6項目の内、 N_1 が「物名詞」と結びつき易いと見られる項目はなかった。日本語原作では順位が下位の6項目の内、「1.18 形」「1.10 事柄」「1.11 類」「1.12 存在」は N_1 が「物名詞」と結びつき難いと見られる。

従って、韓国語で「物名詞」と結びつき易いと考えられるものは、「1.11 類」「1.14 力」「1.18 形」「1.40 物品」である。韓国語で「物名詞」と結びつき難いと考えられるものは、「1.20 人間」「1.21 家族」「1.22 仲間」「1.23 人物」「1.30 心」「1.32 芸術」「1.33 生活」「1.51 物質」「1.52 天地」「1.54 植物」「1.56 身体」である。日本語で「物名詞」と結びつき易いと考えられるものは、「1.17 空間」である。日本語で「物名詞」と結びつき難いと考えられるものは、「1.10 事柄」「1.11 類」「1.12 存在」「1.16 時間」「1.18 形」「1.44 住居」である。

N_1 が「物名詞」のときの N_2 の表れを見て、本節において予想されたことを以下の表にまとめた。

<表 51>N₁が「物名詞」の予想と一致した割合

N ₁ が「物名詞」					
原作でのN ₂ 表れ	「N ₁ のN ₂ 」の翻訳 (J→K) 「名詞+(으) + 名詞」		原作でのN ₂ 表れ	「N ₁ 의N ₂ 」の翻訳 (K→J) 「名詞+의 + 名詞」	
韓国語原作で2倍以上	9項目の内、3項目基準値以上	33.33%	日本語原作で2倍以上	20項目の内、1項目基準値以上	5%
韓国語原作で出現率が1/2以下	20項目の内、11項目基準値未満	55%	日本語原作で出現率が1/2以下	9項目の内、3項目基準値未満	33.33%
韓国語原作では順位が上位	6項目の内、4項目基準値以上	66.66%	日本語原作では順位が上位	6項目の内、0項目基準値以上	0%
韓国語原作では順位が下位	6項目の内、5項目基準値未満	83.33%	日本語原作では順位が下位	6項目の内、4項目基準値未満	66.66%
平均		59.58%	平均		26.25%
全体の平均					42.92%

韓国語原作と「N₁のN₂」の翻訳(J→K)を照らし合わせた結果、予想と一致した割合は韓国語原作で2倍以上出現率が高かった項目で33.33%、日本語原作で2倍以上出現率が高かった項目で5%、日本語原作で出現率が1/2以下の項目で33.33%、韓国語に比べて日本語の順位が上位の項目で0%であった。全体8項目の内、この4項目を除く4項目は予想と一致した割合が50%以上であった。特に、韓国語原作では順位が下位の項目においては83.33%の高い割合であった。

「N₁のN₂」の翻訳の平均は59.58%で、「N₁의N₂」の翻訳の平均は26.25%である。N₁が「物名詞」のときの予想と一致した割合の平均は42.92%であった。

5.5 おわりに

以上、日本語と韓国語の「N₁のN₂」と「N₁의N₂」のN₁とN₂の結合について考察した。本章ではN₁が「人名詞」、「場所名詞」、「物名詞」の場合、N₂を国立国語研究所(2004)『分類語彙表』に基づき分類し、N₁とN₂の現れを見た。本研究の全体のデータ(3.5に提示)からN₁が「人名詞」、「場所名詞」、「物名詞」である出現率は以下の通りである。

N₁が「人名詞」の場合、「N₁のN₂」は用例数2,894例(31.98%)、「N₁의N₂」は用例数4,179例(68.66%)であった。N₁が「場所名詞」の場合、「N₁のN₂」は用例数944例(10.43%)、「N₁의N₂」は用例数229例(3.76%)であった。N₁が「物名詞」の場合、「N₁のN₂」は用例数672例(7.43%)、「N₁의N₂」は用例数57例(0.94%)であった。韓国語の場合、日本語に比べてN₁が「人名詞」の可能性が高いと言える。日本語の場合、韓国語に比べてN₁が「場所名詞」、「物名詞」の可能性が高いと思われる。このように日本語と韓国語はN₁の使

用にも差があることが分かった。

N_1 が「人名詞」、「場所名詞」、「物名詞」の場合、 N_2 に表れについての結果を以下の4通りにまとめる。

I. 日本語と韓国語の原作の比較

「 N_1 の N_2 」と「 N_1 의 N_2 」の原作において日韓の N_2 の出現率を比較した結果から明らかになった特徴は2通りである。まず、日韓の原作の各項目(43項目)ごとに出現率を比較した結果、2倍以上差がある項目があった。次に日韓の43項目の N_2 の出現率を高い順にみた結果、日韓で上位の項目と下位の項目が逆転している項目が見られた。

II. 「 N_1 の N_2 」(J→K)と「 N_1 의 N_2 」(K→J)の翻訳の比較

〈表 32〉〈表 39〉〈表 46〉で見られた「 N_1 の N_2 」が「名詞+(으)＋名詞」(J→K)に「 N_1 의 N_2 」が「名詞＋の＋名詞」(K→J)に対応して翻訳された翻訳率について N_1 が「人名詞」、「場所名詞」、「物名詞」の場合を比較する。

N_1 が「場所名詞」の場合、「 N_1 の N_2 」が「名詞+(으)＋名詞」に翻訳される(J→K)の方が「 N_1 의 N_2 」が「名詞＋の＋名詞」に翻訳される場合(K→J)に対応して翻訳された翻訳率はほぼ同様と言えるだろう。一方、 N_1 が「人名詞」と「物名詞」の場合、「 N_1 の N_2 」が「名詞+(으)＋名詞」に翻訳される(J→K)の方が「 N_1 의 N_2 」が「名詞＋の＋名詞」に翻訳される(K→J)に比べて翻訳率がやや高い。だが、この翻訳率の差はそれほど大きいわけではない。

III. 「の」と「의」により結びつけられる名詞に差が生じるかについて

日韓の N_1 が「人名詞」「場所名詞」「物名詞」と N_2 の43項目との組み合わせにおいて、原作で N_2 の43項目の内、0%の出現率だった項目が翻訳でも0%の翻訳率であるかを確認した。

N_1 が「人名詞」のときは原作で日本語の N_2 が「1.54 植物」は0%の出現率であったので、翻訳形式「名詞＋の＋名詞」(K→J)の翻訳率を確認した。すると、「1.54 植物」の翻訳率も0%であることが見受けられた。一方、韓国語の原作では「1.54 植物」があり、その用例を見てもやはり日本語では「の」によって、「人名詞」と「1.54 植物」が連結されていない。「1.54 植物」の用例である(1)の「maneu1」に意味的に対応する「ニンニク」があるにもかかわらず、対応し翻訳されていなかった。

N₁が「場所名詞」のときは原作で韓国語のN₂が「1.11 類」「1.12 存在」「1.14 力」「1.35 交わり」「1.40 物品」「1.42 衣料」「1.43 食料」「1.55 動物」「1.56 身体」「1.57 生命」は0%の出現率であったので、翻訳形式「名詞+(으)+名詞」(J→K)の翻訳率を確認した。すると、「1.12 存在」「1.14 力」「1.57 生命」の翻訳率も0%であることが見受けられた。一方、日本語の原作では「1.57 生命」があり、その用例を見てもやはり韓国語では「의(もしくは zero)」によって、「場所名詞」と「1.57 生命」が連結されていない。「1.57 生命」の用例である(2)の「維持」に意味的に対応する「yuji」があるにもかかわらず、対応し翻訳されていなかった。原作で日本語のN₂が「1.14 力」「1.53 生物」「1.57 生命」は0%の出現率であったので、翻訳形式「名詞+の+名詞」(K→J)の翻訳率を確認した。すると、「1.14 力」「1.53 生物」「1.57 生命」の翻訳率も0%であることが見受けられた。一方、韓国語の原作では「1.53 生物」があり、その用例を見てもやはり日本語では「の」によって、「場所名詞」と「1.53 生物」が連結されていない。「1.53 生物」の用例である(10)の「byeongpye」に意味的に対応する「病弊」があるにもかかわらず、対応し翻訳されていなかった。

N₁が「物名詞」のときは原作で韓国語のN₂が「1.10 事柄」「1.11 類」「1.12 存在」「1.13 様相」「1.20 人間」「1.21 家族」「1.22 仲間」「1.23 人物」「1.25 公私」「1.26 社会」「1.27 機関」「1.30 心」「1.32 芸術」「1.33 生活」「1.34 行為」「1.35 交わり」「1.36 待遇」「1.37 経済」「1.47 土地利用」「1.51 物質」「1.52 天地」「1.53 生物」「1.54 植物」「1.55 動物」「1.56 身体」「1.57 生命」は0%の出現率であったので、翻訳形式「名詞+(으)+名詞」(J→K)の翻訳率を確認した。すると、「1.10 事柄」「1.12 存在」「1.20 人間」「1.21 家族」「1.25 公私」「1.35 交わり」「1.36 待遇」「1.52 天地」「1.53 生物」「1.55 動物」の翻訳率も0%であることが見受けられた。一方、日本語の原作では「1.20 人間」「1.21 家族」「1.52 天地」があり、その用例を見てもやはり日本語では「의(もしくは zero)」によって、「物名詞」と「1.20 人間」「1.21 家族」「1.52 天地」が連結されていない。「1.20 人間」「1.21 家族」「1.52 天地」の用例である(11)(12)(13)の「男」「老婦人」「山」に意味的に対応する「namja」「nobubu」「san」があるにもかかわらず、対応し翻訳されていなかった。原作で日本語のN₂が「1.10 事柄」「1.12 存在」「1.25 公私」「1.35 交わり」「1.36 待遇」「1.53 生物」「1.55 動物」は0%の出現率であったので、翻訳形式「名詞+の+名詞」(K→J)の翻訳率を確認した。すると、「1.10 事柄」「1.12 存在」「1.25 公私」「1.35 交わり」「1.36 待遇」「1.53 生物」「1.55 動物」は全て翻訳率が0%であることが見受けられた。

以上から用例が確認できた項目を除くとN₁が「場所名詞」のとき、日本語においては「場所名詞」と「1.14 力」「1.57 生命」が連結されない傾向にあり、韓国語においては「場所名詞」と「1.12 存在」「1.14 力」が連結されない傾向にあると思われる。これらの項目は、おそらく「場所名詞」と連結する可能性は低いと示唆される。また、N₁が「物名詞」のとき、日本語においては「物名詞」と「1.10 事柄」「1.12 存在」「1.25 公私」「1.35 交わり」

「1.36 待遇」「1.53 生物」「1.55 動物」が連結されない傾向にあり、韓国語においては「物名詞」と「1.10 事柄」「1.12 存在」「1.25 公私」「1.35 交わり」「1.36 待遇」「1.53 生物」「1.55 動物」が連結されない傾向にあると思われる。これらの項目は、おそらく「物名詞」と連結する可能性は低いと示唆される。

以上のことから、「の」と「의」により結びつけられる名詞に差が生じるのではないかと予想して分析を行ったが、本研究の資料から見受けられなかった項目はいくつかあり、おそらく N_1 と N_2 が連結する可能性は低いと示唆される。一方、日韓の原作では出現率が0%であった項目の中で、相手言語には現れていた項目があるものを確認した結果、意味的に対応する名詞があるにもかかわらず、対応し翻訳されないことが分かった。その理由を把握することは難しい。そこで、「の」と「의」によって、 N_1 と N_2 がどのような意味的な繋がり結びつけられるか、また、それによって、差が生じるかを次の第6章で考察することにする。

IV. 「 N_1 の N_2 」と「 N_1 의 N_2 」の原作と翻訳の総合

「 N_1 の N_2 」と「 N_1 의 N_2 」の原作における日韓の出現率が2倍以上差がある項目と、日韓で上位の項目と下位の項目が逆転している項目を「 N_1 の N_2 」と「 N_1 의 N_2 」の翻訳と照らし合わせてみた。

原作と翻訳での N_1 と N_2 の表れの結果、 N_1 が「人名詞」、「場所名詞」、「物名詞」と N_2 との結びつき易さ、結びつき難さを確認することができた。その項目は以下の通りである。

N_1 が「人名詞」のときの N_1 と N_2 の難易度は、韓国語で「人名詞」と結びつき易いと考えられるものは、「1.15 作用」「1.35 交わり」である。韓国語で「人名詞」と結びつき難いと考えられるものは、「1.17 空間」「1.23 人物」「1.24 成員」「1.27 機関」である。日本語で「人名詞」と結びつき易いと考えられるものは、「1.11 類」「1.17 空間」「1.27 機関」「1.24 成員」「1.44 住居」「1.45 道具」「1.46 機械」である。日本語で「人名詞」と結びつき難いと考えられるものは、「1.10 事柄」「1.15 作用」「1.18 形」「1.35 交わり」「1.54 植物」である。

N_1 が「場所名詞」のときの N_1 と N_2 の難易度は、韓国語で「場所名詞」と結びつき易いと考えられるものは、「1.13 様相」「1.15 作用」「1.19 量」「1.30 心」「1.32 芸術」「1.52 天地」「1.54 植物」である。韓国語で「場所名詞」と結びつき難いと考えられるものは、「1.12 存在」「1.13 様相」「1.26 社会」「1.32 芸術」「1.35 交わり」「1.38 事業」「1.40 物品」「1.43 食料」「1.54 植物」である。日本語で「場所名詞」と結びつき易いと考えられるものは、「1.13 様相」「1.17 空間」「1.18 形」「1.26 社会」「1.32 芸術」「1.54 植物」である。日本語で「場所名詞」と結びつき難いと考えられるものは、「1.15 作用」「1.16

時間」「1.22 仲間」「1.30 心」「1.32 芸術」「1.33 生活」「1.50 自然」「1.51 物質」「1.52 天地」「1.53 生物」である。

N_1 が「物名詞」のときの N_1 と N_2 の難易度は、韓国語で「物名詞」と結びつき易いと考えられるものは、「1.11 類」「1.14 力」「1.18 形」「1.40 物品」である。韓国語で「物名詞」と結びつき難いと考えられるものは、「1.20 人間」「1.21 家族」「1.22 仲間」「1.23 人物」「1.30 心」「1.32 芸術」「1.33 生活」「1.51 物質」「1.52 天地」「1.54 植物」「1.56 身体」である。日本語で「物名詞」と結びつき易いと考えられるものは、「1.17 空間」である。日本語で「物名詞」と結びつき難いと考えられるものは、「1.10 事柄」「1.11 類」「1.12 存在」「1.16 時間」「1.18 形」「1.44 住居」である。

さらに、 N_1 が「人名詞」、「場所名詞」、「物名詞」の「 N_1 の N_2 」の翻訳(J→K)における「名詞+(으)+名詞」と「 N_1 의 N_2 」の翻訳(K→J)における「名詞+の+名詞」の予想と一致した割合を<表 52>に示した。

<表 52>予想と一致した割合

N_1 が「人名詞」		N_1 が「場所名詞」		N_1 が「物名詞」	
韓国語原語と「 N_1 の N_2 」の翻訳(J→K)での「名詞+(으)+名詞」	日本語原語と「 N_1 의 N_2 」の翻訳(K→J)での「名詞+の+名詞」	韓国語原語と「 N_1 の N_2 」の翻訳(J→K)での「名詞+(으)+名詞」	日本語原語と「 N_1 의 N_2 」の翻訳(K→J)での「名詞+の+名詞」	韓国語原語と「 N_1 の N_2 」の翻訳(J→K)での「名詞+(으)+名詞」	日本語原語と「 N_1 의 N_2 」の翻訳(K→J)での「名詞+の+名詞」
30%	75%	60%	41.67%	59.58%	26.25%

N_1 が「人名詞」の場合、韓国語原作と「 N_1 の N_2 」の翻訳(J→K)を照らし合わせた結果は30%であった。 N_1 が「場所名詞」の場合、日本語原語と「 N_1 의 N_2 」の翻訳(K→J)を照らし合わせた結果は41.67%であった。 N_1 が「物名詞」の場合、日本語原語と「 N_1 의 N_2 」の翻訳(K→J)を照らし合わせた結果は26.25%であった。これらを除くと予想と一致した平均が50%以上であることが分かった。

その中で、特に、 N_1 が「人名詞」の場合、日本語原語と「 N_1 의 N_2 」の翻訳(K→J)を照らし合わせた結果は75%という、高い割合で、予想に近い結果であった。

以上、ⅢとⅣから N_1 と N_2 の表れで結ばれ難いと見られる項目が重なっている項目があった。それは、韓国語の N_1 が「場所名詞」のとき、 N_2 が「1.12 存在」である。また、日本語の N_1 が「物名詞」のとき、 N_2 が「1.10 事柄」「1.12 存在」である。これらの項目は、おそらく N_1 と連結する可能性が低いと示唆される。

第6章 N₁とN₂の意味関係

6.1 はじめに

日本語と韓国語の「N₁のN₂」と「N₁의N₂」が対応する用例⁵⁸と「N₁のN₂」と「N₁의N₂」が対応しない用例のN₁とN₂の意味関係に注目し、用例を比較して検討を行う。

ここでは、実際にN₁とN₂にどのような意味関係が見られるか、N₂の各項目ごとに検討していくことから始める。

「N₁のN₂」が「名詞+의+名詞」および「名詞+名詞」に翻訳されていない部分について、N₁とN₂の意味関係に直接起因と思われる場合を分析し、「N₁のN₂」が「名詞+의+名詞」および「名詞+名詞」に翻訳された用例と比較を行う。逆も同じく「N₁의N₂」が「名詞+の+名詞」に翻訳されていない部分について、N₁とN₂の意味関係に直接起因と思われる場合を分析し、「N₁의N₂」が「名詞+の+名詞」に翻訳された用例と比較を行う。

6.2 N₁が「人名詞」の場合

本節ではN₁が「人名詞」の場合、「N₁のN₂」と「N₁의N₂」のN₁とN₂の意味関係を分析する。

6.2.1 「N₁のN₂」の意味関係

「N₁のN₂」が「名詞+의+名詞」および「名詞+名詞」に翻訳された用例の一部を<表 53>にまとめた。この<表 53>はN₂の日本語原作(<表 31>)での出現率の順である。

<表 53>翻訳形式「名詞+의+名詞」と「名詞+名詞」の用例(N₁が「人名詞」)

	1体の類	名詞+의+名詞	名詞+名詞
1	1.56身体	「公平の肩、goheiu <i>ui</i> eokkae」 「達郎の耳、dasseulou <i>ui</i> gwi」 「伊良部の顔、ilabu <i>ui</i> eolgul」	「キャッチャーの腕、kaecheo pal」 「自分の目、jagi nun」 「親分の顔、oyabung eolgul」
2	1.30心	「人の気持ち、salamu <i>ui</i> maeum」 「彼らの心、geudeul <i>ui</i> maeum」 「年寄りの願い、neulgeuni <i>ui</i> balam」	「自分の意志、jagi ui <i>ji</i> 」 「人の心、salam maeum」 「アキの夢、aki kkum」

⁵⁸ 「N₁のN₂」と「N₁의N₂」が対応する用例とは「N₁のN₂」は翻訳形式「名詞+의+名詞」と「名詞+名詞」に翻訳された用例で、「N₁의N₂」は翻訳形式「名詞+の+名詞」に翻訳された用例のことである。「N₁のN₂」と「N₁의N₂」が対応しない用例はこれ以外の翻訳のことである。

3	1.31言語	「伊良部の言葉、ilabuui mal」 「修吉の話、syukichiui iyagi」 「河原健作の証言、gawahala gensakuui jeungeon」	「警官の話、gyeongchalgwang mal」 「ピアニストの話、pianiseuteu iyagi」 「自分の言葉遣い、jagi maltu」
4	1.17空間	「修吉の横、syukichiui yeop」 「黛香苗の後、mayujeumi ganaeui dwi」	「誠司のうしろ、seiji dwi」 「親分の前、oyabung ap」 「伊良部の方、ilabu jjog」
5	1.21家族	「長男の妻、jangnamui buin」 「宝生清太郎の娘、hosyo seitaloui ttal」 「修吉の母親、syukichiui eomeoni」	「院長の息子、wonjang adeul」 「野村教授の娘、nomula gyosu ttal」 「幹夫さんのお父さん、mikio ssi abeoji」
6	1.13様相	「インタビューの恰好、inteobyueoui moseub」 「職員の様子、jigwonui moseub」	「同級生たちの風貌、donggeubsaengdeul oemo」 「お母さんの具合、eomeonim sangtae」
7	1.44住居	「達郎の研究室、dasseuloui yeongsil」 「修吉の部屋、syukichiui bang」 「一矢のマンション、kajeuyauui maensyeon」	「祖母の部屋、halmeoni bang」 「アキの部屋、aki bang」 「警察の倉庫、gyeongchal changgo」
8	1.33生活	「団員の生活、danwondeuloui saenghwal」 「誠司の人生、seijiui insaeng」 「達郎の趣味、dasseuloui chwimi」	「親父の仕事、abeoji il」 「あなたの趣味、dangsin chwimi」 「父親の法事、abeoji jesa」
9	1.23人物	「萩原朔太郎の朔太郎、hagiwala sakutaloui sakuta」	「息子の灰田、adeul haida」 「執事の影山、jibsa gageyama」
10	1.32芸術	「女の小説、yeojaui soseol」 「若者たちの音楽、jeolmeunideuloui eumag」 「八住修吉の歌、yaseumi syukichiui nolae」	「自分の著作、jagi jagpum」 「星山さんの小説、hosiyama ssi soseol」 「マユミちゃんのイラスト、mayumijjang illeoseuteu」
11	1.34行為	「男の暴力、namjauui poglyeog」 「犯人の行動、beominui haengdong」	「やくざの追い込み、yakuja hyeobbag」 「あんたの仕業、dangsin jis」
12	1.45道具	「つくるの名刺、sseukuloui myeongham」 「一矢のギター、kajeuyauui gita」 「忍者の刀、musauui geom」	「やくざの看板、yakuja ganpan」 「シウちゃんたちのレコード、syukichine eumban」
13	1.16時間	「自分の過去、jasinui gwageo」 「アキの誕生日、akiui saengil」	「朔ちゃんの誕生日、sakujjang saengil」 「大学生のとき、daehagsaeng ttae」
14	1.24成員	「一矢のファンたち、kajeuyauui paendeul」 「麗子の上司、leikoui sangsa」 「絹江の秘書、ginueui biseo」	「コウちゃんの主治医、gojjang juchiui」 「麗奈さんの読者、leina ssi dogja」 「男の上司、namja sangsa」
15	1.25公私	「修吉の故郷、syukichiui gohyang」 「シペリウスの生家、sibelliuseuui saengga」 「アキの家、akiui jib」	「祖父の家、halabeoji jib」
16	1.42衣料	「義父のカツラ、janganui gabal」 「修吉たちのジャケット、syukichideuloui jaekis」 「犯人の靴、beominui sinbal」	「教授のズラ、gyosu gabal」 「男物の靴、namja sinbal」 「自分のグラブ、jagi geulleobeu」
17	1.57生命	「人の死、salamui jugeum」 「自らの命、jasinui mogsum」 「彼女の病気、geunyeoui byeong」	「自分の症状、jagi jeungsang」 「自分の病気、jagi byeong」
18	1.19量	「伊良部の体重、ilabuui mommuge」 「夫婦の距離、bubuui geoli」 「ウェイターたちの年、weiteodeuloui nai」	「自分の価値、jagi gachi」 「自分のペース、jagi peiseu」
19	1.20人間	「灰田の分身、haidauui bunsin」	「ガイドの男、gaideu namja」 「黒人の少年たち、heugin sonyeon」 「ワラビー族の人々、wollabijog salamdeul」
20	1.22仲間	「被害者の恋人、pihaejauui aein」 「有里の友人、yuliuui chingu」 「大木くんの彼女、ookjuui yeojachingu」	「自分の友だち、jagi chingu」 「女の客、yeoja sonnim」 「高校生の恋人、godeunghagsaeng aein」
21	1.46機械	「内田のワゴン、uchidauui waegon」 「修吉の車、syukichiui cha」 「麗子の携帯、leikoui hyudaejeonhwa」	該当なし
22	1.36待遇	「伊良部の勧め、ilabuui gwonyu」 「丹羽の命令、nibauui myeonglyeong」 「修吉の誘い、syukichiui yogu」	「理事の推薦、isajang chucheon」 「医師の派遣、uisa payeon」 「子供の教育、jasig gyooyug」
23	1.26社会	「修吉の事務所、syukichiui samusil」 「彼女の店、geunyeoui gage」 「被害者の勤め先、pihaejauui geunmuji」	「伊良部の病院、ilabu byeongwon」 「拓ちゃんの幼稚園、dakujjang yuchiwon」
24	1.35交わり	「麗子の協力、leikoui hyeoblyeog」 「警察の訪問、gyeongchalui bangmun」 「修吉たちの宴会、syukichideuloui yeonhoe」	「ブラームスの演奏会、beulamsu yeonjuhoe」 「若手監督たちのインタビュー、jeolmeun gamdogdeul inteobyu」
25	1.11類	「祖父のコネクション、halabeojiui inmaeg」 「彼らの関係、geudeuloui gwangye」 「田代裕也のアリバイ、yuyauui allibai」	「星山さんのパターン、hosiyama ssi paeteon」 「恋人の関係、yeonin gwangye」

26	1.12存在	「自分の存在、jasinui jonjae」 「娘婿の存在、sawui jonjae」 「容疑者の登場、yonguijau deungjang」	「女性の存在、yeoseongdeului jonjae」
27	1.15作用	「家族の崩壊、gajogui bunggoe」 「犯人の逃走、beominui doju」	「ゲストの飛行、geseuteu bihaeng」 「ケンボーの代わり、kenbo daesin」
28	1.10事柄	「自分の事情、jasinui sajeong」 「彼の真価、geuui jinga」 「彼女の身代わり、geunyeoui daeyeog」	「自分のこと、bonin munje」 「若者たちの間、jeolmeunideul sai」
29	1.14力	「修吉の力、syukichiui him」 「一矢の実力、kajeuyau sillyeong」 「麗子の迫力、leikoui baglyeog」	「学生の体力、hagsaeng chelyeog」 「自分の力、jagi him」
30	1.40物品	「修吉の荷物、syukichiui jim」 「犯人のもの、beominui geos」 「被害者の遺品、pihaejau yupum」	「修吉のもの、syukichi geos」
31	1.43食料	「圭一の煙草、geiichiui dambae」 「つくるのハイボール、sseukuluui haibol」 「ゲンの弁当、genui dosilag」	該当なし
32	1.50自然	「男の体臭、namjau chechwi」 「アキの匂い、akiui naemsae」	「朔ちゃんの匂い、sakujiang naemsae」
33	1.38事業	「店員たちの掃除、jeomwondeului cheongso」 「駅員たちの業務、yeogmuwondeului eobmu」	「坊主の雑巾がけ、jung geollejil」
34	1.18形	「父親の影、buchinui geulimja」 「沙羅のかたち、salau hyeongsang」	該当なし
35	1.37経済	「若者たちのプレゼント、jeolmeunideului seonmul」 「祖父の資産、halabeojiui jaesan」	「兄の分、hyeong mogs」 「息子の分、adeul mogs」
36	1.51物質	「若者のぬくもり、jeolmeuniui ongi」 「修吉の雷、syukichiui byeolag」 「アキの灰、akiui jae」	該当なし
37	1.27機関	「アキのクラス、akiui haggeub」	「修吉たちのバンド、syukichine baendeu」
38	1.55動物	「被害者の猫、pihaejau goyangi」 「恭子さんの猫、gyoko ssiui goyangi」 「彼女の鳥、geunyeoui sae」	該当なし
39	1.41資材	「圭一のライター、geiichiui laiteo」	該当なし
40	1.53生物	「己れの性、jasinui seong」	「主人公の男女、juingong namnyeo」
41	1.52天地	「人の海、salamui bada」	該当なし
42	1.47土地利用	「アキのお墓、akiui mudeom」	該当なし
43	1.54植物	該当なし	該当なし

以上、「N₁のN₂」が対応して翻訳されたと見られる用例を挙げた。N₂の多くの分類項目について、N₁とN₂の間に「의」と「0(zero)」の両方のタイプが見られる。しかしながら、N₂が同じ項目であってもN₁とN₂の翻訳において、翻訳形式「名詞+의+名詞」と「名詞+名詞」以外に翻訳された用例も見える。〈表 54〉にその用例を挙げて詳細に説明を加えて、特徴を見ていく。

〈表 54〉「N₁のN₂」が対応している用例および対応していない用例(N₁が「人名詞」)

「N ₁ のN ₂ 」の意味関係			
	1体の類	対応する	対応しない
1	1.30心	「人の気持ち→salamui maeum」 「人の心→salam maeum」	「保護者の心境→bohojaga doen simjeong」 「犯人のめぼし→beomine daehan danseo」
2	1.31言語	「伊良部の言葉、修吉の話→ilabuui mal、syukichiui iyagi」 「警官の話、ピアニストの話→gyeongchalgun mal、pianiseuteu iyagi」	「オッサンの会話→noinne gateun soli」
3	1.16時間	「アキの誕生日→akiui saengil」 「朔ちゃんの誕生日→sakujiang saengil」	「北野先生の日→kitano seonsaengnimi oneun nal」

4	1.46機械	「内田のワゴン→ <u>uchidaui</u> waegeon」 「修吉の車→ <u>syukichiui</u> cha」 「麗子の携帯→ <u>leikoui</u> hyudaejeonhwa」	「シュウちゃんの飛行機→ <u>syuga tan bihaenggi</u> 」
5	1.22仲間	「被害者の恋人、有里の友人→ <u>pihaejai</u> aein, <u>yuliu</u> chingu」 「高校生の恋人→ <u>godeunghagsaeng</u> aein」	「週の相手→ <u>syuwa majbuteo ssaul seonsu</u> 」
6	1.26社会	「修吉の事務所、彼女の店、被害者の勤め先→ <u>syukichiui</u> samusil, <u>geunyeoui</u> gage、 <u>pihaejai</u> geunmuji」 「伊良部の病院、拓ちゃんの幼稚園→ <u>ilabu byeongwon</u> , <u>dakujjang yuchiwon</u> 」	「母の治療院→ <u>eommaga ilhaneun chilyowon</u> 」
7	1.43食料	「圭一の煙草、つくるのハイボール、 母の弁当→ <u>geiichiui</u> dambae、 <u>sseukuluui</u> haibol, <u>eommaui</u> dosilag」	「七海のフレンチトースト→ <u>nanamiga</u> <u>mandeuleojuneun peulenchitoseuteu</u> 」
8	1.27機関	「アキのクラス→ <u>akiui</u> haggeub」 「修吉たちのバンド→ <u>syukichine</u> baendeu」	「公平のサーカス団 → <u>goheiga soghan seokeoseudan</u> 」

(1) N₂が「1.30心」の場合。

(1-1)

a. ずいぶん進歩してきたようでも、人の気持ちというものは、心の奥底ではあまり変わらないのかもしれないな。(世界の中心 p. 54)

b. daedanhan jinboleul haeon geos gatado salamui maeumilago haneun geon maeum gipeun goseseoneun geudaji byeonhaji anhneunjido moleugessda. (세상의 중심 p. 55)

(1-2)

a. 田園の風景が人の心に喚起する憂鬱。(色彩を持たない p. 119)

b. jeonwon punggyeongi salam maeume bulleoileukineun uul. (색채가 없는 p. 144)

(1-1)と(1-2)は「人の気持ち→salamui maeum」「人の心→salam maeum」は「主体(N₁)その主体の精神的な思い(N₂)」の意味関係である。

(1-3)

a. ほとんど保護者の心境だった。(空中ブランコ p. 55)

b. heubsa bohojaga doen simjeongieosda. (공중그네 p. 124)

(1-4)

a. そして犯人のめぼしもつかないまま、警察の捜査は尻すぼみに終わってしまった。(色彩を持たない p. 304)

b. beomine daehan danseodo jabji moshan chae gyeongchal susaneun heomanghage jonggyeoldoego malassda. (색채가 없는 p. 359)

だが、(1-3)の「保護者の心境→bohojaga doen simjeong」ではN₁はN₂の所有者と思えるが、単にそう言うことだけでなく、「心境(N₂)」は「保護者(N₁)」の持つ特有の心境

である。N₁はN₂の特色を示していると言える。

また、(1-4)の「犯人のめぼし→beomine daehan danseo」は「対象(N₁) 犯人がだれかのめぼし(N₂)」と解釈され、「N₁についてのN₂」と考えられる。「犯人(N₁)」は「めぼし(N₂)」の主体ではない。

(2) N₂が「1. 31 言語」の場合。

(2-1)

a. 伊良部の言葉を思い出した。(空中ブランコ p. 79)

b. ilabuui mali tteollassda. (공중그네 p. 31)

(2-2)

a. 身に覚えのある無名バンドたちは寺園部長を複雑な思いで振り返りながら、じっと修吉の話を聞いている。(ラストソング p. 46)

b. gyeongheomi issneun mumyeong baendeudeuleun telajono bujangeul bogjabhan simjeongeulo dolabomyeo, jamjako syukichiui iyagileul deudgo issda. (ラスト송 p. 51)

(2-3)

a. その警官の話によると、瓶に入れられていた指は、子供のものではなかったそうです。(色彩を持たない p. 212)

b. gyeongchalghan male ttaleumyeon, byeong e deun songalageun eolinai geosi anieosdago hadeolagoyo. (색채가 없는 p. 251)

(2-4)

a. 六本の指を持つピアニストの話によりますと、余分な指はかえって邪魔になるのだそうです。(色彩を持たない p. 215)

b. songalagi yeoseos gaein pianiseuteu iyagileul deuleo boni yeobunui songalagi ohilyeo banghaega doendago habnida. (색채가 없는 p. 255)

(2-1)と(2-2)の「伊良部の言葉、修吉の話→ilabuui mal, syukichiui iyagi」、(2-3)と(2-4)「警官の話、ピアニストの話→gyeongchalghan mal, pianiseuteu iyagi」は「発話者(N₁) その発話(N₂)」の意味関係である。

(2-5)

a. まるっきりオッサンの会話だ。(空中ブランコ p. 32)

b. jeomjeom noinne gateun solileul handa. (공중그네 p. 97)

だが、(2-5)「オッサンの会話→noinne gateun soli」のタイプは「主体(N₁) 生産物(N₂)」と思えるが、N₁の「オッサン」はN₂の「会話」を特徴付けている。その意味で上記の「1.30心」の「保護者の心境」と同じである。

(3) N₂が「1.16時間」の場合。

(3-1)

a. アキの誕生日は十二月十七日だろう。(世界の中心 p.174)

b. akiui saengileun 12wol 17ilijanha. (세상의 중심 p.173)

(3-2)

a. 朔ちゃんの誕生日は十二月二十四日ね。(世界の中心 p.174)

b. sakujjang saengileun 12wol 24iligo. (세상의 중심 p.173)

(3-1)と(3-2)の「アキの誕生日→akiui saengil」「朔ちゃんの誕生日→sakujjang saengil」は「N₂は主体(N₁)が生まれた時間」である。

(3-3)

a. 今日って北野先生の日? (空中庭園 p138.)

b. oneul gitano seonsaengnimi oneun naliya?(공중정원 p.154)

だが、(3-3)の「北野先生の日→gitano seonsaengnimi oneun nal(北野先生が来る日)」は「日(N₂)」は「主体(N₁)が来る、訪れる時間」と解釈できる。

日本語では「北野先生の日」の前後の文を見れば、家庭教師である「北野先生(N₁)」が来る「日(N₂)」と分かるが、韓国語では文を見てもこの解釈はできない。韓国語では「X(ui)nal」はXの誕生日とかXを記念する日という意味で使われ、その他には使えない。即ち、韓国語は日本語に比べて「Xの日」を意味する範囲が狭いと思われる。

(4) N₂が「1.46機械」の場合。

(4-1)

a. 駐車場に内田のワゴンが停まっていて、春樹が乗り込んだ。(空中ブランコ p.26)

b. juchajange uchidaui waageoni seo isseossda. (공중그네 p.90)

(4-2)

a. 一矢は修吉の車に飛び乗って走り出した。(ラストソング p.265)

b. kajeuyaneun syukichiui chalo ttwieodeuleo jiljuhagi sijaghaessda.

(라스트송 p. 262)

(4-3)

a. そのときちょうど麗子の携帯が着メロを奏でた。(謎解きはディナーのあとで p. 48)

b. geuttae machim leikoui hyudaejeonhwaga mellodileul yeonjuhagi
sijaghaessda. (수수께끼 p. 61)

(4-1)と(4-2)と(4-3)の「内田のワゴン、修吉の車、麗子の携帯→uchidaui waegeon、syukichiui cha、leikoui hyudaejeonhwa」は「所有者(N₁) 所有物(N₂)」にあたる意味関係である。

(4-4)

a. シュウちゃんの飛行機は、そろそろ福岡空港の滑走路に降り立つ頃ですか。(ラストソング p. 297)

b. syuga tan bihaenggineun seulseul hukuoka gonghang hwaljuloe naelyeoseol
mulyeobilkayo. (라스트송 p. 294)

だが、(4-4)の「シュウちゃんの飛行機→syuga tan bihaenggi」は「シュウちゃんの飛行機」は動作主(N₁)が乗る乗り物(N₂)と解釈できる。この用例と「N₁의 N₂」が「名詞+の+名詞」に翻訳された用例と比較すると「内田のワゴン」、「修吉の車」も「動作主(N₁) 乗り物(N₂)」の意味関係である。しかし、「内田のワゴン」、「修吉の車」だと「所有者(N₁) 所有物(N₂)」と解釈できるが、「シュウちゃんの飛行機」は「所有者(N₁) 所有物(N₂)」ではない。そのため、同じ「動作主(N₁) 乗り物(N₂)」の意味関係であっても、N₂の「乗り物」が個人が乗れる物か、多数が乗れる物かによって、N₁とN₂の意味関係に差が生じると思われる。「シュウちゃんの飛行機」は「所有主(N₁) 所有物(N₂)」という意味関係と見られないだろう。

(5) N₂が「1.22 仲間」の場合。

(5-1)

a. 被害者の恋人なら容疑者としてうってつけだな(謎解きはディナーのあとで p. 17)

b. pihaejaui aeinilamyeon yonguijaloneun anseongmajchumigun. (수수께끼 p. 23)

(5-2)

a. わたしは有里の友人で、しかも現職の刑事ですよ(謎解きはディナーのあとで p. 153)

b. jeoneun yuliu chingugo. gedaga hyeonjig hyeongsaibnida. (수수께끼 p. 193)

(5-3)

a. アキには、高校生の恋人がいるという噂だった。(世界の中心 p. 20)

b. akiegeneun godeunghagsaeng yeonini issdaneun somuni dolassda. (세상의 중심 p. 21)

(5-1)と(5-2)と(5-3)の「被害者の恋人、有里の友人→pihaejauui aein、yuliuui chingu」
「高校生の恋人→godeunghagsaeng yeonin」は「主体(N₁)・主体との仲間(N₂)」の意味関係である。

(5-4)

a. 周の相手を応援する人たちは周が負ければいいと願ってるわけだし、派手な倒れ方を期待している人だっているはずだ。(リトルバイリトル p. 40)

b. syuwa majbuteo ssaul seonsuleul eungwonhaneun salamdeuleun syuga jigileul balal geosigo, geu jungeneun han bange nagatteoleojigileul gidaehaneun salamdo isseul geosida. (리틀바이리틀 p. 44)

だが、(5-4)の「周の相手→syuwa majbuteo ssaul seonsu(周と立ち向かって戦う選手)」は「周(N₁)」と「相手(N₂)」では「主体(N₁)・主体との仲間(N₂)」と見られるが、対応した用例の「被害者の恋人、有里の友人、高校生の恋人→pihaejauui aein、yuliuui chingu、godeunghagsaeng yeonin」と比較すると「被害者、有里、高校生(N₁)」と「恋人、友人(N₂)」はお互い面識がある仲間である。だが、「周(N₁)」と「相手(N₂)」の間は面識がなく関連付けが難しい。

(6) N₂が「1.26 社会」の場合。

(6-1)

a. 金は全て修吉の事務所がもつ。(ラストソング p. 240)

b. biyongeun jeonbu syukichiui samusili jilmeojinda. (ラスト송 p. 238)

(6-2)

a. 彼女の店に俊夫を連れて行ってやったのも僕で、まあ二人を結びつけた張本人なんですね。(謎解きはディナーのあとで p. 100)

b. geu yeojau gagee dosioleul deligo gan geosdo jeobnida. malhajameon du salameul ieojun jangboninijyo. (수수께끼 p. 128)

(6-3)

- a. 被害者の勤め先は、どこだった？(謎解きはディナーのあとで p. 174)
b. pihaejaui geunmujineun eodiyeossji?(수수께끼 p. 219)

(6-4)

- a. またしても伊良部の病院に足が向いてしまった。(空中ブランコ p. 96)
b. jagido moleuge ilabu byeongwoneulo balgili hyanghaessda. (공중그네 p. 52)

(6-5)

- a. 拓ちゃんの幼稚園は決めたの?(空中ブランコ p. 125)
b. dakujjang yuchiwoneun gyeoljeonghaessni?(공중그네 p. 145)

(6-1)と(6-2)と(6-3)と(6-4)と(6-5)の「修吉の事務所、彼女の店、被害者の勤め先、伊良部の病院、拓ちゃんの幼稚園→syukichiui samusil、yeojaui gagee、pihaejauui geunmuji、ilabu byeongwon、dakujjang yuchiwon」は「主体(N₁) 所属団体(N₂)」または「所有者(N₁) 所有物(N₂)」の意味関係である。

(6-6)

- a. 母の治療院には年配のお客さんが多いと聞いていたので、意外に思ってたずねた。(リトルバイリトル p. 25)
b. eommaga ilhaneun chilyowoneneun yeonbaeui sonnimi manhaneun yaegileul deuleun teola, tteusbakkida sipeo muleosda. (리틀바이리틀 p. 28)

だが、(6-6)の「母の治療院→eommaga ilhaneun chilyowon(母が仕事する治療院)」も「主体(N₁) 所属団体(N₂)」の意味関係と思える。しかし、韓国語の翻訳では「母(N₁)」が「治療院(N₂)」を所有するのではなく働いていることを示すために、そのように明示的に翻訳してあるのであろう。

(7) N₂が「1.43 食料」の場合。

(7-1)

- a. 修二は圭一の煙草に火を点けてやると、ついでといわんばかりに自分の煙草にも火を点けた。(謎解きはディナーのあとで p. 58)
b. syujineun geiichiui dambaeae buleul butyeojudeoni, geuleoneun gime jasinui dambaeedo buleul butyeosssa. (수수께끼 p. 73)

(7-2)

- a. つくるのハイボールはまだ半分残っていた。(色彩を持たない p. 36)
b. sseukului haiboleun ajig banjjeum namassda. (색채가 없는 p. 48)

(7-3)

- a. 少し冷めていたが、母のお弁当はよく出来ていた。(リトルバイリトル p. 117)
b. jogeum sigeossjiman, eommaui dosilageun kkwaе geuleolssahaessda.
(리틀바이리틀 p. 120)

(7-1)と(7-2)と(7-3)の「圭一の煙草、つくるのハイボール、母のお弁当→geiichiui dambae、sseukului haibol、eommaui dosilag」は「所有者(N₁) 所有物(N₂)」にあたる意味関係である。

(7-4)

- a. 明日の朝、また七海のフレンチトースト食べたい。(津軽食堂 p. 145)
b. nanamiga mandeuleojuneun peulenchitoseuteu, naeil achime tto meoggo sipda.
(쓰가루 p. 146)

だが、(7-4)の「七海のフレンチトースト→nanamiga mandeuleojuneun peulenchitoseuteu」のフレンチトースト(N₂)は動作主である七海(N₁)により生産された物と捉えられる。即ち、この「七海のフレンチトースト」のN₁とN₂の意味関係は「生産者(N₁) 生産物(N₂)」と解釈できる。「母の弁当」も同じく「生産者(N₁) 生産物(N₂)」とも解釈できるが、「母の弁当」は「所有者(N₁) 所有物(N₂)」の意味関係の解釈も可能である。「七海のフレンチトースト」は「所有者(N₁) 所有物(N₂)」とはこの名詞句のみでは解釈できないことにより、差が起こりうると見られる。

(8) N₂が「1.27 機関」の場合。

(8-1)

- a. 中学三年生のクリスマスに、アキのクラス担任だった女の先生が亡くなった。(世界の中心 p. 28)
b. junghaggyo sam hagnyeon keuliseumaseu jeueume akiui haggeub damimideon yeoja seonsaengnimi dolagasyeossda. (세상의 중심 p. 29)

(8-2)

- a. 博多で修吉たちのバンドを拾った女プロデューサー。(ラストソング p. 136)

b. hakataeseo syukichine baendeuleul geodun yeoseong peulodyuseo.

(라스트송 p. 136)

(8-1)と(8-2)の「アキのクラス→akiui haggeub」「修吉たちのバンド→syukichine baendeu」は「主体(N₁) 所属団体(N₂)」の意味関係である。

(8-3)

a. 公平のサーカス団では略してそう呼んでいた。(空中ブランコ p. 17)

b. goheiga soghan seokeoseudaneseoneun jungyeoseo geuleohge buleunda.

(공중그네 p. 80)

だが、(8-3)の「公平のサーカス団→goheiga soghan seokeoseudan」も「主体(N₁) 所属団体(N₂)」の意味関係と思えるが、「名詞+의+名詞」に翻訳されていない。「N₁のN₂」が「名詞+의+名詞」「名詞+名詞」に翻訳された用例と比較すると、「アキのクラス、修吉たちのバンド」ではN₂におけるN₁の役割(学生であるとか担任の教師、或いはどんな楽器を担当しているか)が想定できる。しかし、「サーカス団」では「公平(N₁)」が「サーカス団(N₂)」において果たす役割が想定しにくい。

6.2.2 「N₁의N₂」の意味関係

「N₁의N₂」が「名詞+の+名詞」に翻訳されていない用例について、N₁とN₂の意味関係に直接起因すると思われる用例を分析し、「N₁의N₂」が「名詞+の+名詞」に翻訳された用例と比較を行う。

「N₁의N₂」が「名詞+の+名詞」に翻訳された用例を一部<表 55>にまとめた。この<表 55>はN₂の韓国語原作の出現率の順(<表 31>)である。

<表 55>翻訳形式「名詞+の+名詞」の用例

	1体の類	名詞+の+名詞
1	1.56身体	「eomma <u>ui</u> mog、母の首」 「geunyeo <u>ui</u> meolikalag、彼女の髪」 「hyeong <u>ui</u> eokkae、兄の肩」
2	1.30心	「yeojau <u>ui</u> maeum、女の気持ち」 「hyewan <u>ui</u> saenggag、ヘワンの思い」 「bumo <u>ui</u> gaseum、父母の心」
3	1.31言語	「abeoji <u>ui</u> mal、父の言葉」 「jeonglan <u>ui</u> yaegi、ジョンランの話」
4	1.21家族	「seungu <u>ui</u> abeoji、スンウの父」 「yeojau <u>ui</u> nampyeon、女の夫」

5	1. 13様相	「seunggui jangjeom、スンウの長所」 「geuui moseub、彼の姿」 「abeojiui seonggyeog、父の性格」
6	1. 17空間	「geuui ap、彼の前」 「yeongseogui gyeot、ヨンソクの傍ら」
7	1. 33生活	「jasinui insaeng、自分の人生」 「dangsinui il、あなたの仕事」 「geudeului saenghwal、二人の生活」
8	1. 57生命	「yesuui tansaeng、イエスの誕生」 「salamui mogsum、人の命」 「togulhalmaeui jugeum、洞窟ばあさんの死」
9	1. 34行為	「ulimiui taedo、ウリムの態度」
10	1. 44住居	「yeongseonui apateu、ヨンソンのアパート」 「bagui apateu、バクのマンション」
11	1. 36待遇	「seonghoui joeon、ソンホのアドバイス」 「abeojiui galeuchim、父さんの教え」
12	1. 16時間	「adeului janglae、息子の未来」 「jasinui gwageo、自分の過去」
13	1. 42衣料	「hyewanui os、ヘワンの服」 「abeojiui wisos、父の上着」
14	1. 25公私	「hyewanui jib、ヘワンの家」 「jasinui yeongto、自分の領土」
15	1. 15作用	「geuui umjigim、彼の動き」
16	1. 35交わり	「eomeoniui huisaeng、母親の犠牲」 「ulimiui gyeolseog、ウリムの欠席」
17	1. 26社会	「jang bagsaui byeongwon、張博士の病院」 「hyewanui haggyo、ヘワンの大学」
18	1. 10事柄	「hasangsauui gyeongu、ハ軍曹のケース」 「yeongseonui il、ヨンソンのこと」
19	1. 18形	「yeongseonui sillues、ヨンソンのシルエット」 「seunggui pojeu、スンウのポーズ」
20	1. 32芸術	「seunggui nolae、スンウの歌」 「yeojauui sajin、女の写真」
21	1. 22仲間	「abeojiui chingu、父さんの友だち」 「nampyeonui chingu、夫の友人」
22	1. 20人間	「seunggui yeoja、スンウの女」
23	1. 50自然	「yeongjuui chechwi、ヨンジュの体臭」 「inganui soli、人間の音」
24	1. 12存在	「geuui jonjae、彼の存在」 「anaeui jonjae、妻の存在」
25	1. 46機械	「seunggui haendeupon、スンウの携帯電話」 「yeongseogui seungyongcha、ヨンソクの車」
26	1. 45道具	「namui pyeonji、ひとの手紙」 「seonuui gabang、ソヌのカバン」 「eommaui bomulchanggo、母の宝物」
27	1. 19量	「abeojiui cheon、父の体温」 「hyewanui muge、ヘワンの体重」
28	1. 24成員	「geunyeoui seonsaengnim、彼女の先生」 「yeongjuui huyedeul、ヨンジュの後輩たち」

29	1. 14力	「abeojiui chelyeog、父さんの体力」 「nampyeonui him、夫の力」
30	1. 37経済	「dongsangdeului hagbi、妹たちの学費」 「abeojiui wolgeub、夫の給料」
31	1. 40物品	「eommaui jim、母の荷物」 「hasangsauui mulgeon、ハ軍曹の持ち物」
32	1. 38事業	「abeojiui saeob、父の事業」
33	1. 11類	「yeongseogui gwangye、ヨンソクの関係」 「halmeoniui ye、祖父母の例」
34	1. 23人物	「seungu ssiui miju、スンウさんのミジュ」
35	1. 43食料	「joesudeului bab、囚人たちの飯」 「geuui keopi、彼のコーヒー」
36	1. 41資材	「halmeoniui mongdungi、祖母の棒」 「eomeoniui mae、母さんの鞭」
37	1. 51物質	「sigag jangaejauui peullaseutig baguni、 視覚障害者のプラスチック箱」
38	1. 53生物	「jasinui yujeonja、自分の遺伝子」 「mijuui sepo、ミジュの細胞」
39	1. 55動物	「yeojongdeului jongma、女奴隷たちの裸馬」
40	1. 27機関	「byeongsauui budae、兵士の部隊」
41	1. 47土地利用	「yunjeongogui mudeom、チ貞玉の墓」
42	1. 52天地	該当なし
43	1. 54植物	該当なし

以上、「N₁의N₂」が対応して翻訳されたと見られる用例を挙げた。多くのN₂の項目に対応している例が表れている。しかしながら、N₂が同じ項目であっても対応していない用例も見える。詳細に説明を加えて、その特徴を見ていく。

<表 56> 「N₁의N₂」が対応している用例および対応していない用例(N₁が「人名詞」)

		「N ₁ 의N ₂ 」の意味関係	
	1体の類	対応する	対応しない
9	1. 30心	「yeojauui maeum、hyewanui saenggag →女の気持ち、ヘワンの思い」	「dangsinui geulium→あなたへの愛おいしい心」 「jasigui doli→子としての道理」
10	1. 31言語	「abeojiui mal、jeonglanui yaegi →父の言葉、ジョンランの話」	「seonbaeui jeonhwa→先輩から電話」 「mijuui paegseu→ミジュからのFAX」 「geunyeoui pyeonji→彼女からの手紙」
11	1. 13様相	「seunguui jangjeom、abeojiui seonggyeog →スンウの長所、父の性格」	「dongsangui bunwigi→妹のような気」
12	1. 16時間	「jasinui gwageo→自分の過去」 「adeului janglae→息子の未来」	「seunguui majimag eumag bangsong →スンウにとって最後の放送日」
13	1. 32芸術	「seunguui nolae→スンウの歌」 「jaggadeului soseol→作家の小説」 「yeojauui sajin→女の写真」	「hagsaengdeului geulim gaunde→集めた絵の中から」

14	1. 50自然	「yeongjuui chechwi→ヨンジュの体臭」 「inganui soli→人間の音」	「bappi umjigineun salamdeului soliga saeeo nawassda→人が忙しく動く音が漏れてきた」
15	1. 12存在	「geuui jonjae, anaui jonjae →彼の存在、妻の存在」	「appauui sosig→父からの報せ」

(9) N₂が「1. 30 心」の場合。

(9-1)

a. yeojauui maeumeun gin meolikalaggwa hamkke balame nallyeosda. (국화꽃 향기 p. 116)

b. 怖いた女の心は、長い髪と共に風に吹かれた。(菊花の香り p. 95)

(9-2)

a. hyewanui saenggagi jakku biyaghago isseosda. (무소의 뿔 p. 102)

b. ヘワンの思いはそんなことへ飛躍していた。(サイの角 p. 105)

(9-1)と(9-2)の「yeojauui maeum、hyewanui saenggag→女の気持ち、ヘワンの思い」は N₁がN₂「思う、考える」といった主体(N₁)の精神的なこと(N₂)を意味すると見られる。

(9-3)

a. naneun maeil onjeonhi dangsinui geuliummaneul gajigo salagabnida. (국화꽃 향기 p. 123)

b. 私は、毎日、あなたへの愛おいしい心だけを抱いて生きています。(菊花の香り p. 99)

(9-4)

a. jasigui dolinitpinlyunini…. (등대지기 p. 201)

b. 子としての道理だとか、道徳だとか……。 (クミョンに灯る愛 p. 233)

だが、(9-3)の「dangsinui geulium→あなたへの愛おいしい心」における「dangsin/あなた」はここでは表現されていない別の主体の精神的な思いの対象である。また、(9-4)の「jasigui doli→子としての道理」の「jasig/子」がなす義務としての「doli/道理」として捉えられる。

(10) N₂が「1. 31 言語」の場合。

(10-1)

a. jujeleul allaneuntpyongseochi anghessdaneun nanhui abeojiui malgwa
daleulbaeobseosda. (등대지기 p. 171)

b. 身の程を知れ、許さない、というナニの父親の言葉と何ら変わりはしなかった。

(クミョンに灯る愛 p. 198)

(10-2)

a. seunguneun jeonglanui iyaegibuteo hwaginhaessda. (국화꽃 향기 p. 61)

b. スノウはジョンランの話を確かめた。(菊花の香り p. 210)

(10-1)と(10-2)の「abeojiui mal、jeonglanui iyaegi→父の言葉、ジョンランの話」は「発話者(N₁) その発話(N₂)」の意味関係である。

(10-3)

a. seunguga dasi sangun pyegyoe naelyeon geoseun jucheol seonbaeui jeonhwa ttaemunieosssa. (국화꽃 향기 p. 188)

b. スノウが祥雲廃校を訪れたのは、ジユ Cholから電話があったからだ。

(菊花の香り p. 306)

(10-4)

a. seunguga peulogeulaemeul junbihago isseul ttae mijuui paegseuga dochaghaessda. (국화꽃 향기 p. 129)

b. スノウがプログラムを準備しているとミジュから FAXが送られた。(菊花の香り p. 104)

(10-5)

a. myeoch beonina geunyeoui pyeonjileul ilgeumyeo nunmuleul heullyeosseumyeonseodo. (국화꽃 향기 p. 76)

b. 何度も彼女からの手紙を読みながら涙を流したのに(菊花の香り p. 224)

だが、(10-3)の「seonbaeui jeonhwa→先輩から電話」は、N₁は発信者であるが、N₂はそのメッセージ(発話)そのものと言うより、メッセージを運ぶもの、いわば媒体である。このタイプはN₁とN₂の意味関係は「発信者(N₁) 媒体(N₂)」である。(10-4)と(10-5)の「mijuui paegseu(ミジュから FAX)」「geunyeoui pyeonji(彼女からの手紙)」も同じことが言えよう。

(11) N₂が「1. 13 様相」の場合。

(11-1)

a. eotteon malgwa haengdongeul hadeun gugimsali eobsgo eumseubhan geulimjaga neukkyeojiji anhneun geosi seunguui jangjeomieosssa. (국화꽃 향기 p. 50)

b. 常に明るく、暗い陰を感じさせないところがスンウの長所だった。(菊花の香り p. 42)
(11-2)

a. ileon sanghwangi ileonal ttaemada bulgati hwaleul naessdeon abeojiui seonggyeogeul
algie eommaneun jile ttanjeoneul piunda. (세상에서 가장 p. 188)

b. こんな事件が起こるたびに怒り狂う父の性格を知っているので、母は予防線を張ってす
っとぼけた。(この世でいちばん p. 174)
(11-3)

a. gongjungjeonhwa buseu bakkeulo geuui moseubi boyeossda. (무소의 뿔 p. 34)

b. 電話ボックスの外に彼の姿が見えた(サイの角 p. 35)

(11-1)と(11-2)の「seunguui jangjeom、abeojiui seonggyeog→スンウの長所、父の性
格」の「jangjeom、seonggyeog(N_2)」は N_1 が本来、持っている性格と見られる。また、
(11-3)「geuui moseub→彼の姿」は N_2 の「moseub」は N_1 が内包している本来の姿そのも
のを意味する。これらの N_1 と N_2 は「所有者(N_1) 被所有者(N_2)」の関係が成立するだ
ろう。

(11-4)

a. ttaee ttalaseoneun geuleon maldeuli je jasinui mimoleul jalanghaneun yuchihan
mallo deullil sudo issgejjiman mwolalkka hyewaneul eonnicheoleom daehaneun magna
dongsaengui bunwigiga baeo isseoseo hyewaneun jasindo moleuge misoleul
jieossda. (무소의 뿔 p. 160)

b. 場合によっては、こんなことを言えば自分の美貌を鼻にかけた幼稚な言い草に聞こえる
かもしれないが、ヘワンはなぜか自分の一番下の妹のような気がして、われ知らずほほえ
んだ。(サイの角 p. 165)

しかし、(11-4)の「dongsaengui bunwigi→妹のような気」の N_1 は N_2 の「所有者」では
なく、 N_2 の「bunwigi」がどのような雰囲気なのかを意味している。 N_1 は N_2 の様態を表
しているのである。

(12) N_2 が「1.16 時間」の場合。

(12-1)

a. hajiman geu daeum sanghwangeul gyeondyeo jasinui gwageo ttaemune ttodasi
ilbangjeogeulo gujeongmuleul dwijibeosseun deushan neukkimeul gajyeoya

handamyeon…(中略)(무소의 뿔 p. 163)

b. 自分の過去のために、一方的にかさぶたをはがされるような目にあわなければならないのなら…(中略)(사이의角 p. 168)

(12-2)

a. ileohge swilsaeobsi bakkwigeonman, geu galyeonhan holeomeoneun adeului janglaeleul chuhodo uisimhaji anhassda. (아홉살 인생 p. 205)

b. こんな具合に目標がころころ変わっても、哀れな老母は息子の未来を爪の先ほども疑わなかった。(9歳の人生 p. 184)

(12-1)と(12-2)の用例は「 N_2 は N_1 が存在した(する)時間」である。

「jasinui gwageo→自分の過去」は N_1 が存在した時間(N_2)を意味すると考えられる。また、「adeului janglae→息子の未来」は N_1 が存在する時間(N_2)と見られる。

(12-3)

a. seunguui majimag eumag bangsongi issneun nalieosssa. (국화꽃 향기 p. 79)

b. スンウにとって最後の放送日だった。(菊花の香り p. 225)

だが、(12-3)の「seunguui majimag eumag bangsong→スンウにとって最後の放送日」は N_1 の立場から N_2 の状況が起こる時間に対して「~にとって」と捉えられる。

(13) N_2 が「1. 32 芸術」の項目は N_1 と N_2 の意味関係が色々な解釈が可能である。即ち、文脈を見て判断する必要がある。

(13-1)

a. mijuneun nuneul gamgo seunguui nolaeleul deuleosssa. (국화꽃 향기 p. 81)

b. ミジユは臉を閉じてスンウの歌を聴いた。(菊花の香り p. 64)

(13-2)

a. yojeum jeolmeun jaggadeului soseoleneun mujeoljehan seongi pilyo isangeulo gwadahage deungjanghaneun geosi munjeya. (아랑은 왜 p. 107)

b. 最近の若い作家の小説には、無節操な性がやたらに登場するので困ったものだ。(アラン p. 119)

(13-3)

a. gin meolileul neuleotteulin yeojaii sajini myeoch peiji sillyeo isseosssa. (무소의 뿔 p. 205)

b. 長い髪をたらしした女の写真が何ページかにわたって出ている。(サイの角 p. 210)

(13-1)の「seungu^{ui} nolae→スノウの歌」は文脈上「seungu」が歌う歌を意味する。この場合、「動作主(N₁) 産出物(N₂)」と解釈できる。また、(13-2)の「jaggadeul^{ui} soseol→作家の小説」も「動作主(N₁) 産出物(N₂)」と考えられる。(13-3)の「yeojauⁱ sajin→女の写真」はN₁が写された写真(N₂)を意味する。N₁はN₂の生産を行った動作主ではないが、N₂は産出物である。これらの「N₁의 N₂」は「名詞+の+名詞」に翻訳されている。

(13-3)

a. i bulseongsilhan wolgeubgigyeneun hagsaengdeul^{ui} geulim gaunde joheun geulimeul seonbyeolhae jechulhaneun choesohanui seonguimajeodo eobseossda. (아홉살 인생 p. 144)

b. この不誠実な給料マシンには、集めた絵の中からうまく措けているものを選び出すという最低限の誠意すらなかった。(9歳の人生 p. 131)

だが、(13-3)の「hagsaengdeul^{ui} geulim gaunde→集めた絵の中から」は、N₂はその中にN₁が描かれていない。N₁がN₂を描いたものでもない。N₁がN₂の生産者でない点は、上の「yeojauⁱ sajin」の場合と同じだが、N₂にN₁が描かれていないという点がそれと異なっている。

(14) N₂が「1.50 自然」の場合。

(14-1)

a. gwangdaebeoseosui jeubeul masigo mangjauⁱ yeonghoneul buleuneun indieon yeongmaecheoleom hongonhan hwangagui sangtaelo ppajyeodeulmyeo eoneusae mom gakkai dagaon yeongju^{ui} chechwiwa ongileul neukkinda. (아랑은 왜 p. 147)

b. ベニテングダケの汁を飲んで死者の靈魂を招くというインディアンの靈媒師のように、一種の幻覚状態に陥って、いつの間にか傍らにヨンジュの体臭と体温を感じる。

(アラン p. 160)

(14-2)

a. ingan^{ui} soliga dahji anhneun goseseo maeuleul ilueo salgo issneun (국화꽃 향기 p. 106)

b. 人間の音が届かない場所で、群れを成して暮らしている(菊花の香り p. 241)

(14-1)と(14-2)の「yeongjuui chechwi→ヨンジュの体臭」は「主体(N₁) 生産物(N₂)」
または「所有(N₁) 被所有(N₂)」を意味している。

(14-3)

a. susulsil aneseo bappi umjigineun salamdeului soliga saeeo nawassda.

(국화꽃 향기 p. 17)

b. 手術室の中から人が忙しく動く音が漏れてきた。(菊花の香り p. 13)

しかし、(14-3)の「bappi umjigineun salamdeului soliga saeeo nawassda. →人が忙しく動く音が漏れてきた。」も「主体(N₁) 生産物(N₂)」の意味関係と思われるが、対応しない。(14-2)の「inganui soliga dahji anhneun goseseo maeuleul ilueo salgo issneun →人間の音が届かない場所で、群れを成して暮らしている」は「主体(N₁) 生産物(N₂)」であり、対応して翻訳されている。(14-3)の「bappi umjigineun salamdeului soliga saeeo nawassda.」では主体(N₁)が出す音(N₂)がどんなものか、それが人間のどの部分から出ているのか特定が難しい。一方、(14-2)の「inganui soliga dahji anhneun goseseo maeuleul ilueo salgo issneun」はN₂の「soli」は主体(N₁)が出す「生活音」と解釈できる。この差異により、翻訳に差が生じたと思われる。

(15) N₂が「1.12 存在」の場合。

(15-1)

a. geuui jonjaega mimihal ttae geuneun jayulobge yeogijeogileul doladanimyeo tammungwa jeunggeo sujibeul handa. (아랑은 왜 p. 164)

b. 彼の存在が目につかないうちは、彼は自由に歩き回って聞き込みをし証拠を収集する。
(アランは何故 p. 178)

(15-2)

a. yeongseogui gyeoten eonjena anaeui jonjaega geulimjacheoleom ttalabuteo issdaneun sasileul imi algo issji anheunga? (세상에서 가장 p. 105)

b. ヨンソクの傍らに、いつでも妻の存在が影のようにつきまとっているということは、とくに承知しているではないか。(世界で一番 p. 96)

(15-1)と(15-2)の「geuui jonjae、anaeui jonjae→彼の存在、妻の存在」は「主体(N₁) その存在(N₂)」の意味関係と捉えられる。

(15-3)

a. geuleona geuleon appaui sosigeul deudgido jeone eunsuneun jeongdeuleosseon jibeseo jjochgyeonago malassda. (어머니 p.12)

b. しかし、父からの報せは届かないまま、ウンスたちは住み慣れた家から追い出されてしまった。(母 p.12)

だが、(15-3)の「appaui sosig→父からの報せ」は「発信者(N₁) 発信物(N₂)」または「生産者(N₁) 生産物(N₂)」と思われる。「父の報せ」だと父(本人)からの報せなのかそれとも第3者からの(父に関する)報せなのか発信源がわからない。つまり、「appa(N₁)」が出した情報なのか特定が難しい。

6.2.3 「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の意味関係の考察

以上、「N₁のN₂」と「N₁의N₂」が対応して翻訳されなかった用例と対応して翻訳された用例を比較してN₁とN₂の意味関係を考察した。6.2.1と6.2.2で見受けられたことを以下の<表 57>と<表 58>にまとめた。

<表 57> 「N₁のN₂」(J→K)の意味関係(N₁が「人名詞」)

「N ₁ のN ₂ 」の意味関係			
	1体の類	対応する	対応しない
1	1. 30心	主体(N ₁)－その主体の精神的な思い(N ₂)	N ₂ はN ₁ の持つ特有の心境 対象(N ₁)－犯人がだれかのめぼし(N ₂)
2	1. 31言語	発話者(N ₁)－その発話(N ₂)	N ₁ はN ₂ を特徴付けている(会話)
3	1. 16時間	N ₂ は主体(N ₁)が生まれた時間	N ₂ はN ₁ が来る、訪れる時間
4	1. 46機械	所有者(N ₁)－所有物(N ₂)	N ₂ は乗り物
5	1. 22仲間	主体(N ₁)－主体との面識がある仲間(N ₂)	N ₂ はN ₁ と面識がない相手
6	1. 26社会	主体(N ₁)－所属団体(N ₂)または所有者(N ₁) －所有物(N ₂)	N ₁ がN ₂ で働いていることを示す
7	1. 43食料	所有者(N ₁)－所有物(N ₂)	N ₁ がN ₂ を生産する
8	1. 27機関	主体(N ₁)－所属団体(N ₂)	N ₁ がN ₂ において果たす役割が考えにくい

<表 58> 「N₁의N₂」(K→J)の意味関係(N₁が「人名詞」)

「N ₁ 의N ₂ 」の意味関係			
	1体の類	対応する	対応しない
9	1. 30心	主体(N ₁)－その精神的な思い(N ₂)	N ₁ が精神的思い(N ₂)の対象
10	1. 31言語	発話者(N ₁)－その発話(N ₂)	N ₂ が媒体
11	1. 13様相	所有者(N ₁)－被所有者(N ₂)	N ₁ がN ₂ の様態(분위기(雰囲気))
12	1. 16時間	N ₂ はN ₁ が存在した(する)時間	N ₂ はN ₁ にとっての時間的順序
13	1. 32芸術	動作主(N ₁)－産出物(N ₂)	N ₂ がN ₁ の産出物でも所有物でもない。また、N ₁ がN ₂ に描かれていない
14	1. 50自然	主体(N ₁)－生産物(N ₂)または所有(N ₁)－被所有(N ₂)	N ₂ はN ₁ の生産物だが特定が難しい
15	1. 12存在	主体(N ₁)－その存在(N ₂)	N ₂ がN ₁ の出した情報なのか特定が難しい

上記の結果から、対応しない形式に翻訳されているものについて、日韓で類似した意味関係が見られた。それは「 N_1 の N_2 」($J \rightarrow K$)の意味関係の(1)の「 N_1 が N_2 の特徴付け(心境)」「対象(N_1)—犯人がだれかのめぼし(N_2)」そして、(2)の「 N_1 が N_2 の特徴付け(会話)」と「 N_1 의 N_2 」($K \rightarrow J$)の意味関係の(11)の「 N_1 が N_2 の様態(bunwigi(雰囲気))」は N_1 と N_2 の意味関係が類似しているように思える。また、(6)は「主体(N_1)—所属団体(N_2)」または「所有者(N_1)—所有物(N_2)」の意味関係であれば対応して翻訳されるが、この意味関係でなければ、「名詞+의+名詞」または「名詞+名詞」に翻訳されない。ただし(8)を見ると「主体(N_1)—所属団体(N_2)」の意味関係でも、 N_1 が N_2 において果たす役割が想定しにくいと「名詞+의+名詞」または「名詞+名詞」に翻訳されない。また、(4)と(7)は類似している。これらは日本語の原作が「所有者(N_1)—所有物(N_2)」の意味関係であれば「名詞+의+名詞」または「名詞+名詞」として翻訳されるが、 N_2 が N_1 による生産されたものでないと「名詞+의+名詞」または「名詞+名詞」に翻訳されないと考えられる。

(9)は主体の精神的な思いと解釈でき、「名詞+の+名詞」として翻訳される。だが、別の主体の精神的な思いの対象だと対応し翻訳されないと考えられる。(10)の「媒体(N_2)」はその主体から発せられたものであれば「名詞+の+名詞」として翻訳される。ところが、主体から発せられたものでなければ、対応し翻訳されないと思われる。(12)では N_1 (eunsu)がやる最後の放送(N_2)では対応して翻訳されない。おおまかに見ると N_1 というのは何か作った人か、何か行為をしたであったら「名詞+の+名詞」に翻訳できる。それがどのようなものかは関係なく、中身がどのようなものかそこだけでわからなくても良いと思われる。韓国語の原作においては行為者のほうが優先され、どうゆう行為なのかということは余り日本語ほど優先されないと思える。(13)の「nolae(歌)、soseol(小説)、sajin(写真)(N_2)」のように N_1 によって生産されたものであれば、「名詞+の+名詞」に翻訳できる。対応しない用例では、絵(N_2)は N_1 によって産出されたものでもなく、描かれたものでもないので「名詞+の+名詞」に翻訳されないと思われる。(14)では N_2 が「1.50 自然」であるが、ここでも「人(N_1)」が出している音なので N_1 が作った音(生産物)として解釈できる。従って、「名詞+の+名詞」に翻訳できる。対応しない用例では、どんな音か特定できないので文脈から見てその様相を表して翻訳されている。(15)は(10)と同じようなことが言えるだろう。

以上を総合考察すると「 N_1 の N_2 」の N_1 と N_2 との意味関係が「所有者(N_1)—所有物(N_2)」であれば「名詞+의+名詞」または「名詞+名詞」に翻訳されるが、この意味関係以外では対応せず翻訳される傾向にあった。「 N_1 의 N_2 」の N_1 と N_2 との意味関係が「主体(N_1)—主体から発せられた生産物(N_2)」であれば「名詞+の+名詞」に翻訳されるが、この意味関係以外では対応せず翻訳される傾向にあった。即ち、日本語の場合、比較的前後

の脈絡から解釈されていると思えるが、これを韓国語に翻訳するときは狭い範囲で成立しなければ「의」や「zero」では翻訳されず、その他に翻訳されると考えられる。逆に韓国語の原文の場合N₁とN₂が文脈上どのように解釈されるかよりはそれがその主体から発せられたものであれば「の」で翻訳できる。ところが、そうではなくちゃんとN₂が作られたものでないと「の」では翻訳されず、その他に翻訳されると推測できる。

6.3 N₁が「場所名詞」の場合

本節ではN₁が「場所名詞」の場合、「N₁のN₂」と「N₁의N₂」のN₁とN₂の意味関係を分析する。

6.3.1 「N₁のN₂」の意味関係

「N₁のN₂」が「名詞+의+名詞」および「名詞+名詞」に翻訳された用例の一部を<表 59>にまとめた。この<表 59>はN₂の日本語原作(<表 38>)での出現率の順である。

<表 59>翻訳形式「名詞+의+名詞」と「名詞+名詞」の用例(N₁が「場所名詞」)

	I体の類	名詞+의+名詞	名詞+名詞
1	1.17空間	「薔薇園の真ん中, jangmiwonui hanbogpan」 「海の底, badaui badag」 「道路の端, doloui kkeut」	「ステージのそで, mudae yeop」 「店の前, gage ap」 「ロビーの真ん中, lobi hangaunde」
2	1.44住居	「旅館の男風呂, yeogwanui namtang」 「マンションの廊下, apateuui bogdo」 「駅の洗面所, yeogui hwajangsil」	「病院の廊下, byeongwon bogdo」 「研究室のドア, yeongsil mun」 「ホテルの玄関, hotel hyeongwan」
3	1.26社会	「新宿のレストラン, sinjukuui leseutolang」 「北欧の教会, bugyuleobui gyohoe」	「駅の改札, yeog gaechalgu」 「弘前駅のバスターミナル, hilosaki yeog beoseuteomineol」
4	1.24成員	「警備会社の社員, gyeongbihoesauui sawon」 「音楽喫茶のマスター, eumagdabangui maseuteo」 「家の家政婦, jibui gajeongbu」	「小学校の教師, chodeunghaggyo gyosa」 「高校の先輩, godeunghaggyo seonbae」 「中華料理屋の料理長, jungghwayolijeom jubangjang」
5	1.20人間	「クラブの女, keulleobui yeoja」 「秋田の若者たち, akitaui jeolmeunideul」	「東京の人間, dokyosalam」 「バーの女, suljib yeoja」
6	1.25公私	「東北の漁村, dohokuui eochon」 「名古屋の実家, nagoyauui jib」 「日本の街, ilbonui dosi」	「名古屋の実家, nagoya jib」 「故郷の新潟, gohyang nigata」 「ヘルシンキの街, helsingki geoli」
7	1.31言語	「東北の情報, dohokuui jeongbo」 「東京の新聞, dokyoui sinmun」	「東京の悪口, dokyoeomdam」 「ホテルの名前, hotel ileum」
8	1.47土地利用	「博多駅のホーム, hakata yeogui peullaespom」 「宝生邸の庭, hosyo jeotaegui jeongwon」	「病院の中庭, byeongwon jeongwon」 「駅のホーム, yeog peullaespom」
9	1.30心	「レストランの選択, leseutolangui seontaeg」 「海の表情, badaui pyojeong」	「東京の夢, dokyoui kkum」 「工科大学の物理学科, gongdae mullihaggwa」
10	1.45道具	「グラウンドの遊具, undongjangui undonggigu」 「アパートの鍵, yeonlibjutaegui yeolsoe」	「スーパーの買い物袋, syupeomakes bongtu」 「店の看板, gage ganpan」
11	1.23人物	「名古屋の関山さん, nagoyauui sekiyama seonsu」 「ステージの修吉, mudaui syukichi」	「猪野事務所の猪野誠司, ino samuso ino seiji」 「シカゴのギャング, sikago gaeng」
12	1.52天地	「都会の夜景, dosimui yagyeong」 「鳥取の海, dostoliui bada」	「田園の風景, jeonwon punggyeong」 「山の頂, san jeongsang」
13	1.18形	「駅の形状, yeogui hyeongsang」 「国立駅の南口, gunitachi yeogui namjjog chulgu」	「店の入り口, gage ibgu」 「病室の入口, byeongsil ibgu」
14	1.38事業	「伊良部総合病院の神経科, ilabu jonghabbyeongwonui singyeonggwa」 「薔薇園の手入れ, jangmiwonui sonjil」	「伊良部総合病院の神経科, ilabu jonghabbyeongwon singyeongjeongsingwa」 「博多のライブ, hakata laibeu」
15	1.21家族	「ギリシャの未亡人, geuliseuui mimangin」 「食堂の長男, sigdangui jangnam」	「牛乳屋のせがれ, yu gage adeul」 「お家の人, jiban bundeul」

16	1. 33生活	「洋食屋さんのランチ、leseutolangui leonchi」	「売店の仕事、maejeom il」 「レコード会社の移籍、lekodeusa ijeog」
17	1. 22仲間	該当なし	「果物屋の主人、gwaillgagae juin」 「学校の友だち、haggyo chingu」
18	1. 16時間	「博多の夏、hakataui yeoleum」 「鳥取の夜、tostoliui bam」	「フィンランドの夏、pinlandeu yeoleum」 「大森食堂の開店日、sigdang gaeobil」
19	1. 46機械	「倉庫街の公衆電話、changgo geoliui gongjungjeonhwa」 「遊園地の観覧車、yuwonjiui gwanlamcha」	「会社の車、hoesa cha」 「図書館のコンピュータ、doseogwan keompyuteo」
20	1. 50自然	「ステージの閃光、mudaeui seomgwang」	「スタジオの陰、seutyudio geuneul」 「トイレの明かり、hwajangsil bulbich」
21	1. 51物質	「キャンパスの嵐、kaempeoseuui pogpung」 「廊下の空気、bogdoui gonggi」	「東京の上空、dokyoo sanggong」 「弘前の空気、hilosaki gonggi」
22	1. 35交わり	該当なし	「地方のコンサート、jibang konseoteu」 「ホテルの予約、hotel yeyag」
23	1. 54植物	「城山のアジサイ、siloyamaui sugug」 「裏山の植物、dwissanui sigmuldeul」	該当なし
24	1. 37経済	「事務所の経理、samusilui gyeongli」	「不動産屋の手数料、budongsan susulyo」 「病院の経費、byeongwon gyeongbi」
25	1. 27機関	「仮設舞台のバンド、gaseolmudaeui baendeu」 「本社の秘書課、bonsaui biseogwa」	「大学の事務局、daehag gyomugwa」 「アメリカの軍隊、migug gundae」
26	1. 32芸術	「浜辺の歌、badasgaui nolae」	「日本の陶芸、ilbon doye」
27	1. 34行為	該当なし	「学校の成績、haggyo seongjeog」 「農家の出身、nongga chulsin」
28	1. 36待遇	「国立署の管轄、gunitachi gyeongchalseoui gwanhal」	「店の手伝い、gage il」
29	1. 43食料	「店のアイスクリーム、gageui aiseukeulim」	「食堂の蕎麦、sigdang memilgugsu」
30	1. 13様相	「寝室の様子、chimsilui sangtae」 「家の構造、jibui gujo」	「店の様子、gage bunwigi」
31	1. 10事柄	該当なし	「歩道橋の文字改ざん事件、yuggyo ijeongpyo gaejosageon」
32	1. 11類	「街のシンボル、maeului sangjing」	「学校のレベル、haggyo sujun」
33	1. 40物品	「ベランダの洗濯物、belandau ppallae」	該当なし
34	1. 41資材	「部屋のボタン、bangui beoteun」	該当なし
35	1. 55動物	該当なし	「渋谷のイノシシ、sibuya mesdwaegi」 「東北の馬、dohoku jibang mal」
36	1. 12存在	該当なし	該当なし
37	1. 15作用	該当なし	「学校の帰り、hagyo gil」
38	1. 19量	該当なし	「オフィスの電話番号、samusil beonho」
39	1. 42衣料	「弁当屋の前掛け、dosilag gageui apchima」	該当なし
40	1. 56身体	「薔薇園の死体、jangmiwonui siche」	該当なし
41	1. 14力	該当なし	該当なし
42	1. 53生物	該当なし	該当なし
43	1. 57生命	該当なし	該当なし

以上、「N₁のN₂」が対応して翻訳されたと見られる用例を挙げた。N₂の多くの分類項目について、N₁とN₂の間に「의」と「∅(zero)」の両方のタイプが見られる。しかしながら、N₂が同じ項目であってもN₁とN₂の翻訳において、翻訳形式「名詞+의+名詞」と「名詞+名詞」以外に翻訳された用例も見える。〈表 60〉にその用例を挙げて詳細に説明を加えて、特徴を見ていく。

<表 60> 「N₁のN₂」が対応している用例および対応していない用例(N₁が「場所名詞」)

「N ₁ のN ₂ 」の意味関係			
	1体の類	対応する	対応しない
16	1.24成員	「警備会社の社員、家の家政婦 → <u>gyeongbihoesau</u> i sawon、 <u>jibui</u> gajeongbu 「小学校の教師、高校の先輩 → <u>chodeunghaggyo</u> gyosa、 <u>godeunghaggyo</u> seonbae」	「東京の学生さん→ <u>dokyoeseo</u> on daehagsaeng」
17	1.33生活	「売店の仕事、ライブハウスの仕事 → <u>maejeom</u> il、 <u>laibeuhauseu</u> il」	「秋田の仕事 → <u>naeil</u> bamedo <u>akitaeseo</u> iljeong」
18	1.43食料	「店のアイスクリーム、食堂の蕎麦 → <u>gageui</u> aiseukeulim、 <u>sigdang</u> <u>memilgugsu</u> 」	「東京の蕎麦→ <u>dokyoeseo</u> meogneun <u>gugsu</u> 」

(16) N₂が「1.24 成員」の場合。

(16-1)

a. なんていうことはない、それまでにやったアルバイトとかかわらない仕事だったが、それでも警備会社の社員になることはできた。(空中庭園 p. 59)

b. algo bomyeon geuttae kkaji hadeon aleubaiteuwa byeolban daleul ge eobsneun ilieossjiman geulaedo gyeongbihoesaui sawoneulo chwijighal su isseossda.

(공중정원 p. 64)

(16-2)

a. 死んでいるのは若林辰夫、六十二歳。第一発見者はこの家の家政婦でした。(謎解きはディナーのあとで p. 51)

b. jugeun salameun wakabayasi dassseo. yugsibise. cheos balgyeonjaneun i jibui gajeongbuyeossseubnida. (수수께끼 p. 65)

(16-3)

a. たしか小学校の教師か何かをやっている男だった(世界の中心 p. 37)

b. chodeunghaggyo gyosainji mwonjileul hago issneun namjayeossda.

(세상의 중심 p. 38)

(16-4)

a. こんなところで高校の先輩に逢うなんて(津軽食堂 p. 53)

b. ileon deseo godeunghaggyo seonbaeleul mannadani. (쓰가루 식당 p. 56)

(16-1)と(16-2)と(16-3)と(16-4)の「警備会社の社員、gyeongbihoesaui sawon」

「家の家政婦、jibui gajeongbu」「小学校の教師、chodeunghaggyo gyosa」「高校の先輩、godeunghaggyo seonbae」は「団体(N₁) その団体の一員(N₂)」「場所(N₁) そこに属する人(N₂)」の意味関係と思われる。

(16-5)

a. まわりの人々はその無口で風変わりな「東京の学生さん」に対して親切だったし、出される食事は簡素ではあるが、地元でとれる新鮮な食材を用いた美味なものだった。(色彩を持たない p. 74)

b. jubyeon salamdeuleun gwamughago mwonga teugihan ‘dokyoeseo on daehagsaeng’ ege chinjeolhaessgo, naoneun sigsado gansohagineun hajiman jiyeogui sinseonhan sigjaelyolo mandeuleo masisseossda.

(색채가 없는 p. 92)

(16-5)の「東京の学生さん→dokyoeseo on daehagsaeng」も「場所(N₁) そこに属する人(N₂)」と捉えられる。だが、「警備会社、家、小学校、高校(N₁)」と「東京(N₁)」の意味する場所の範囲は異なる。「警備会社、家、小学校、高校(N₁)」はN₂に属する場所が限定されるが、「東京(N₁)」はN₂がどこに属するか特定しにくい。また、「学生さん(N₂)」は今「東京(N₁)」にいない。

(17) N₂が「1.33 生活」の場合。

(17-1)

a. 彼らは場内整理や売店の仕事をしながら(空中ブランコ p. 19)

b. geudeuleun jangnae jeonglijeongdonina maejeom ileul hamyeonseo(공중그네 p. 83)

(17-2)

a. ライブハウスの仕事が終わって、私たちは近所の酒場でささやかな祝杯をあげた。(ラストソング p. 183)

b. laibeu hauseu ili kkeutnago, ulineun geuncheo suljibeseo jocholhage chugbaeleul deuleosssa. (ラスト송 p. 183)

(17-1)と(17-2)の「売店の仕事、maejeom il」「ライブハウスの仕事、laibeu hauseu il」は「仕事場(N₁) そこでの仕事(N₂)」の意味関係である。

(17-3)

a. 秋田の仕事は明日の夜もあるので、二晩同じ場所に落ち着ける。(ラストソング p. 154)

b. naeil bamedo akitaeseo iljeongi jabhyeo issgi ttaemune iteul bameul gateun sugsoe meomunda. (ラスト송 p. 153)

だが、(17-3)の「秋田の仕事→naeil bamedo akitaeseo iljeong」も「仕事場(N₁) そこでの仕事(N₂)」とも解釈できると思えるが、「売店、ライブハウス(N₁)」に比べて「秋田(N₁)」は意味する範囲が広い。そのため、「秋田(N₁)」は場所を特定しにくい。

(18) N₂が「1.43 食料」の場合。

(18-1)

a. 見たことのない店のアイスクリームだ。(空中庭園 p. 160)

b. han beondo bon jeogi eobsneun gageui aiseukeulimieosssa. (공중정원 p. 177)

(18-2)

a. やっぱりこの食堂の蕎麦喰うとホッとするな(津軽食堂 p. 205)

b. yeogsi i sigdang memilgugsuleul meogeumyeon maeumi pyeonan haejindan maliya. (쓰가루 식당 p. 204)

(18-1)と(18-2)の「店のアイスクリーム、gageui aiseukeulim」「食堂の蕎麦、sigdang memilgugsu」は「場所(N₁) そこで作られる食べ物(N₂)」の意味関係である。

(18-3)

a. 東京の蕎麦とはまるで別物だけど、やっぱり美味しい。(津軽食堂 p. 186)

b. dokyoeseo meogneun gugsuwaneun wanjeonhi daleujimantpyeogsi masissda. (쓰가루 식당 p. 186)

だが、(18-3)の「東京の蕎麦→dokyoeseo meogneun gugsu(東京で食べる蕎麦)」は蕎麦(N₂)を食べる場所(N₁)と捉えられる。また、「食堂の蕎麦」と比較すると「食堂(N₁)」と「東京(N₁)」では意味する範囲が異なる。「食堂(N₁)」は「蕎麦(N₂)」を食べる場所と限定されるが、「東京(N₁)」は「蕎麦(N₂)」を食べる場所を特定しにくい。

6.3.2 「N₁의 N₂」の意味関係

「N₁의 N₂」が「名詞+の+名詞」に翻訳されていない用例について、N₁とN₂の意味関係に直接起因すると思われる用例を分析し、「N₁의 N₂」が「名詞+の+名詞」に翻訳された用例と比較を行う。

「N₁의 N₂」が「名詞+の+名詞」に翻訳された用例を一部<表 61>にまとめた。この<表 61>はN₂の韓国語原作の出現率の順(<表 38>)である。

<表 61> 翻訳形式「名詞+の+名詞」の用例(N₁が「場所名詞」)

	1体の類	名詞+の+名詞
1	1.44住居	「dosi <u>ui</u> geonmul、町の建物」 「geosil <u>ui</u> byeogji、居間の壁紙」 「suljib <u>ui</u> byeog、飲み屋の壁」
2	1.24成員	「seoul <u>ui</u> heo dagteo、ソウルのホ先生」 「chulpansau <u>ui</u> yeojigwon、出版社の職員」 「daehagu <u>ui</u> jeonimgangsa、大学の専任講師」
3	1.25公私	「buggeugu <u>ui</u> seomnala、極北の島国」 「namdou <u>ui</u> hanggudosi、南道地域の港町」
4	1.50自然	「haebyeonga <u>ui</u> eodum、海辺の闇」 「jeosuji <u>ui</u> jeogmag、貯水池の静寂」
5	1.17空間	「ogu <u>ui</u> kkeuteumeoli、獄の端」 「gumyeongdou <u>ui</u> mulmit、クミョン島の水底」 「yugji <u>ui</u> kkeut、陸地の果て」
6	1.33生活	「gwana <u>ui</u> il、官の仕事」 「goeul <u>ui</u> sallimsali、郡の暮らし」
7	1.52天地	「jeonjaengteou <u>ui</u> gwanggyeong、戦場の光景」 「nala <u>ui</u> haebyeon、国の海辺」
8	1.30心	「dongneu <u>ui</u> gyuchig、町のおきて」 「sandongneu <u>ui</u> cheolchig、町の鉄則」
9	1.20人間	「jigu <u>ui</u> yeoin、地球の女性」
10	1.16時間	「migugu <u>ui</u> doglibginyeomil、アメリカ合衆国の独立記念日」 「cheollobyeon <u>ui</u> noeul、線路わきのたそがれ」
11	1.22仲間	「apateu <u>ui</u> juin、マンションの主」 「migugu <u>ui</u> chingu、アメリカの友人」
12	1.23人物	「yeonbyeon <u>ui</u> joseonjog、近辺の朝鮮族」 「daehanmingugu <u>ui</u> gugmin、大韓民国の国民」
13	1.47土地利用	「susanjeu <u>ui</u> jebang、守山堤の堤防」 「gwangjang <u>ui</u> binteo、広場の空き地」
14	1.10事柄	「goeul <u>ui</u> sajeong、郡の事情」 「goeul <u>ui</u> siljeong、郡の実情」
15	1.26社会	「hangu <u>ui</u> yeogwanbang、港の宿」 「pyeongyang <u>ui</u> daehag、平壤の大学」
16	1.31言語	「chulpansau <u>ui</u> beonyeog、出版社の翻訳」 「seoyangu <u>ui</u> mindam、西洋の民話」
17	1.45道具	「peullaespom <u>ui</u> sseulegitong、プラットホームのゴミ箱」 「bangu <u>ui</u> jamulsoe、部屋の鍵」
18	1.51物質	「yogtang <u>ui</u> jeunggi、風呂の蒸気」 「gyegogu <u>ui</u> bawi、溪谷の岩」
19	1.13様相	「geoli <u>ui</u> bunwigi、街の雰囲気」
20	1.32芸術	「nala <u>ui</u> minsog eumag、国の民俗音楽」 「kapeu <u>ui</u> eumag、喫茶店の音楽」
21	1.46機械	「geosil <u>ui</u> hyeonggwangdeung、居間の蛍光灯」 「gumyeongdou <u>ui</u> jeonhwa、クミョン島の電話」
22	1.54植物	「san <u>ui</u> namudeul、山の木々」
23	1.15作用	「deungdaeu <u>ui</u> gineung、灯台の機能」
24	1.18形	「gwana <u>ui</u> ibgu、官街の入り口」 「sup <u>ui</u> ibgu、森の入口」
25	1.21家族	「ilbon <u>ui</u> oppa、日本の兄」
26	1.36待遇	「byeongwon <u>ui</u> insa、病院の人事」 「nala <u>ui</u> jeongchi、国の政治」
27	1.37経済	「goeul <u>ui</u> jaemul、郡の財産」
28	1.38事業	「deungtabu <u>ui</u> cheongso、灯塔の掃除」
29	1.19量	「deungdaeu <u>ui</u> gachi、灯台の価値」
30	1.27機関	「goeul <u>ui</u> gwana、各郡の官庁」
31	1.34行為	「deungdaeu <u>ui</u> wisin、灯台の威信」
32	1.41資材	「hoesau <u>ui</u> jajae、会社の資材」

33	1. 53生物	該当なし
34	1. 11類	該当なし
35	1. 12存在	該当なし
36	1. 14力	該当なし
37	1. 35交わり	該当なし
38	1. 40物品	該当なし
39	1. 42衣料	該当なし
40	1. 43食料	該当なし
41	1. 55動物	該当なし
42	1. 56身体	該当なし
43	1. 57生命	該当なし

以上、「N₁의 N₂」が対応して翻訳されたと見られる用例を挙げた。多くのN₂の項目に対応している例が表れている。しかしながら、N₂が同じ項目であってもN₁とN₂の翻訳において、N₁とN₂が現れなかった用例も見える。詳細に説明を加えて、その特徴を見ていく。

<表 62> 「N₁의 N₂」が対応している用例および対応していない用例(N₁が「場所名詞」)

「N ₁ 의 N ₂ 」の意味関係			
	1体の類	対応する	対応しない
19	1. 33生活	「goeul _{ui} sallimsali→郡の暮らし」	「seoul _{ui} salm→ソウルでの生活」

(19) N₂が「1. 33 生活」の場合。

(19-1)

a. goeul_{ui} sallimsalileul chaegimjigo issda. (아랑은 왜 p. 154)

b. 郡の暮らし向きに責任を負っている。(アラン p. 167)

(19-1)の「goeul_{ui} sallimsali→郡の暮らし」は「場所(N₁) その暮らし、生活(N₂)」の意味関係である。

(19-2)

a. seoul_{ui} salmeun oettanseomeul ttagghi tteollil mankeum hangahaji anheul tenikka. (등대지기 p. 165)

b. ソウルでの生活は離れ小島を思い出すほど暇ではないのだから。(クミョンに灯る愛 p. 191)

だが、(19-2)の「seoul_{ui} salm→ソウルでの生活」も「場所(N₁) その暮らし、生活(N₂)」の意味関係と思える。「goeul(郡)(N₁)」と「seoul(ソウル)(N₁)」を見ると意味する範囲が異なる。「goeul_{ui} sallimsali」は文の前後の内容から「goeul(郡)(N₁)」の住民の

暮らしぶりで農業を主とする生活であると想定できる。だが、「seoul^{ui} salm」は「seoul(ソウル)(N₁)」での生活がどんなものか想定しにくい。

6.3.3 「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の意味関係の考察

以上、「N₁のN₂」と「N₁의N₂」が対応して翻訳されなかった用例と対応して翻訳された用例を比較してN₁とN₂の意味関係を考察した。6.3.1と6.3.2で見受けられたことを以下の<表 63>と<表 64>にまとめた。

<表 63> 「N₁のN₂」(J→K)の意味関係(N₁が「場所名詞」)

「N ₁ のN ₂ 」の意味関係			
	1体の類	対応する	対応しない
16	1.24成員	団体(N ₁)-その団体の一員(N ₂)または、 場所(N ₁)-そこに属する人(N ₂)	N ₁ ではN ₂ がどこに属するか特定しにくい
17	1.33生活	仕事場(N ₁)-そこでの仕事(N ₂)	N ₁ は場所を特定しにくい
18	1.43食料	場所(N ₁)-そこで作られる食べ物(N ₂)	N ₁ ではどこでN ₂ を食べるかを特定しにくい

<表 64> 「N₁의N₂」(K→J)の意味関係(N₁が「場所名詞」)

「N ₁ 의N ₂ 」の意味関係			
	1体の類	対応する	対応しない
19	1.33生活	場所(N ₁)-その暮らし、生活(N ₂)	N ₁ での生活は想定しにくい

上記の結果から、「N₁のN₂」(J→K)の意味関係と「N₁의N₂」(K→J)の意味関係は類似していると見られた。(16)(17)(18)も(19)もN₂がN₁の範囲内で起こることが推察できると対応し翻訳されると見られる。即ち、日本語も韓国語も「特定ができるN₁(場所)の範囲内で起こるN₂」だと対応して翻訳される。しかしながら、日本語も韓国語も「特定しにくいN₁(場所)の範囲内で起こるN₂」だと対応せず翻訳されることと思われる。

従って、N₁が「場所名詞」の場合の「N₁のN₂」と「N₁의N₂」のN₁とN₂の意味関係はN₁が特定可能な範囲であれば対応し翻訳され、N₁が特定しにくい範囲だと対応せずに翻訳されると考えられる。

6.4 N₁が「物名詞」の場合

本節ではN₁が「物名詞」の場合、「N₁のN₂」と「N₁의N₂」のN₁とN₂の意味関係を分析する。

6.4.1 「N₁のN₂」の意味関係

「N₁のN₂」が「名詞+의+名詞」および「名詞+名詞」に翻訳された用例の一部を<表 65>にまとめた。この<表 65>はN₂の日本語原作での出現率の順(<表 45>)である。

<表 65>翻訳形式「名詞+의+名詞」と「名詞+名詞」の用例(N₁が「物名詞」)

	1体の類	名詞+의+名詞	名詞+名詞
1	1.17空間	「ボトルの先端、byeongui kkeutbubun」 「ブローチの中心、beulochiui jungsim」 「香炉の後ろ、hyangloui dwijjog」	「テーブルの上、teibeul wi」 「カツラの上、galal wi」 「車の中、cha an」
2	1.50自然	「ランタンの熱、laempeui yeol」 「懐中電灯の光、sonjeondeungui bich」 「ボイラーの音、boilleoui soli」	「懐中電灯の光、sonjeondeung bich」 「洗剤の匂い、seje naemsae」 「電話のベル、jeonhwa belsoli」
3	1.42衣料	「シャツの袖、syeocheuui somae」 「スーツの上着、yangbogui geotos」	「ジャンパーの袖、jeompeo somae」 「コートポケット、koteu jumeoni」 「スカートの裾、chima jalag」
4	1.41資材	「腕時計の針、sonmogsigyeui baneul」 「船の碇、baeui dach」 「車のチェーン、jadongchaui chein」	「食器棚のガラス、siggijinyeoljang yuli」 「ギターのストラップ、gita seuteulaeb」 「眼鏡のフレーム、angyeong peuleim」
5	1.45道具	「ヘッドホンのジャック、hedeuponui jaeg」 「ジッポーのオイルライター、jipouui oil laiteo」 「剣の柄、geomui jalu」	「ヘッドホンのジャック、hedeupon jaeg」 「机の抽斗、chaegsang seolab」 「机の引き出し、chaegsang seolab」
6	1.46機械	「車のエンジン、jadongchaui enjin」 「ラジオのイヤホン、ladiouui ieopon」	「インターホンの受話器、intepoon suhwagi」 「カメラのレンズ、kamela lenjeu」 「エアコンディショナーのリモコン、eeokeon limokeon」
7	1.24成員	「漁船の漁師、eoseonui eobu」	「ラジオのディレクター、bangsonggug peulodyuseo」 「タクシーの運転手、taegsi unjeonsa」
8	1.44住居	「飛行機の窓、bihaenggiui chang」	「列車の窓、yeolcha chang」 「テーブルの椅子、teibeul uija」 「冷蔵庫の扉、naengjanggo mun」
9	1.13様相	「ジャガーのシルエット、jaegyueoui sillues」 「ジャガーの姿、jaegyueoui moseub」	「マイクの調子、maikeu sangtae」 「ピアノの状態、piano sangtae」
10	1.23人物	「ペースのゲン、beiseuui gen」 「車椅子の文代、hwibcheeoui humiyo」	「風船のお兄さん、pungseon oppa」
11	1.20人間	該当なし	該当なし
12	1.38事業	該当なし	「注射器の針、jusagi baneul」
13	1.51物質	「窓ガラスの破片、yulichangui papyeon」 「風船の残骸、pungseonui janhae」	「煙草の吸いながら、dambae kongcho」
14	1.31言語	「テレビの動物番組、tellebijeonui dongmul bangsong」	「カツラのコマーシャル、galal gwanggo」 「テレビのニュース、tellebijeon nyuseu」
15	1.32芸術	「額縁の絵、aegjauui geulim」	「空中ブランコの演技、gongjunggeune yeongi」 「風船の曲芸、pungseon gogye」
16	1.15作用	該当なし	「球の軌道、gong gwedo」 「バスの振動、beoseu jindong」
17	1.26社会	該当なし	「馬車の停車場、macha jeongchajang」 「電車の駅、jeoncha yeog」
18	1.43食料	「紙コップのコーラ、jongikeobui kolla」 「灰皿の煙草、jaetteoliui dambae」	該当なし
19	1.54植物	該当なし	「バルーンのりんご、pungseon sagwa」
20	1.16時間	「オイルライターの場合、oil laiteoui gyeongu」	「電車の時間、yeolcha sigan」
21	1.19量	「車の速度、chaui sogdo」	「テレビのチャンネル、tibi chaeneol」
22	1.33生活	「拳銃の不法所持、gwonchongui bulbeob soji」	「空中ブランコのキャッチ、gongjunggeune kaechi」
23	1.56身体	該当なし	「ズボンの尻、baji eongdeongi」
24	1.11類	「空中ブランコの基本、gongjunggeuneui gibon」	「パソコンの電源、keomp्यूteo jeonwon」
25	1.22仲間	「学生服の群れ、gyobog chalimui muli」	「携帯の持ち主、hyudaejeonhwa juin」
26	1.30心	該当なし	「洋服の好み、paesyeron chwhiyang」
27	1.14力	「目覚ましの力、jamyeongjongui him」 「バルーンの強度、pungseonui gangdo」	該当なし
28	1.18形	「ボトルの形、byeongui hyeongtae」	「鏡の破片、geoul jogag」
29	1.37経済	該当なし	「通帳の残高、tongjang janaeg」 「ナプキンの代金、saenglidae gabs」
30	1.40物品	該当なし	「飛行機のチケット、bihaenggi tikes」

31	1.21家族	該当なし	該当なし
32	1.27機関	該当なし	「空中ブランコのチーム、gongjunggeune tim」
33	1.34行為	該当なし	「ギターの腕、gita somssi」
34	1.47土地利用	「電車のホーム、jeoncheolui peullaespom」	該当なし
35	1.52天地	該当なし	該当なし
36	1.57生命	該当なし	「注射の痛み、jusa tongjeung」
37	1.10事柄	該当なし	該当なし
38	1.12存在	該当なし	該当なし
39	1.25公私	該当なし	該当なし
40	1.35交わり	該当なし	該当なし
41	1.36待遇	該当なし	該当なし
42	1.53生物	該当なし	該当なし
43	1.55動物	該当なし	該当なし

以上、「N₁のN₂」が対応して翻訳されたと見られる用例を挙げた。N₂の多くの分類項目について、N₁とN₂の間に「의」と「∅(zero)」の両方のタイプが見られる。しかしながら、N₂が同じ項目であってもN₁とN₂の翻訳において、翻訳形式「名詞+의+名詞」と「名詞+名詞」以外に翻訳された用例も見える。〈表 66〉にその用例を挙げて詳細に説明を加えて、特徴を見ていく。

〈表 66〉「N₁のN₂」が対応している用例および対応していない用例(N₁が「物名詞」)

「N ₁ のN ₂ 」の意味関係			
用例	1体の類	対応する	対応しない
20	1.50自然	「ランタンの熱、懐中電灯の光 →laempeuui yeol、sonjeondeungui bich」 「洗剤の匂い、電話のベル →seje naemsae、jeonhwa belsoli」	「スーツの黒→geomjeong yangbog」

(20) N₂が「1.50 自然」の場合。

(20-1)

- a. 部屋のなかにはランタンの熱がこもっていた。(世界の中心 p. 127)
b. banganeneun laempeuui yeoli gadeughaessda. (세상의 중심 p. 127)

(20-2)

- a. 懐中電灯の光が、突き当たりの壁をぼんやり照らしだしていた。(世界の中心 p. 128)
b. sonjeondeungui bichi bogdo kkeutui byeogeul eolyeompusi bichunda. (세상의 중심 p. 128)

(20-3)

- a. 顔に押し当てると、洗剤の匂いとともに、懐しい匂いがした。(世界の中心 p. 166)
b. eolgule gajyeoda daeni seje naemsaewa hamkke huimihage geunyeoui naemsaega nassda. (세상의 중심 p. 166)

(20-4)

a. どこかで電話のベルが鳴り出す。(空中庭園 p. 196)

b. eodingaeseo jeonhwa belsoliga ullyeossda. (공중정원 p. 217)

(20-1)と(20-2)と(20-3)と(20-4)の「ランタンの熱、laempeuui yeoli」「懐中電灯の光、sonjeondeungui bich」「洗剤の匂い、seje naemsae」「電話のベル、jeonhwa belsoligi」は「生産源(N₁)・生産物(N₂)」の意味関係である。

(20-5)

a. スーツの黒とネクタイの銀。彼女の嫌いなセンスだった。(ラストソング p. 226)

b. geomjeong yangboggwa silbeo negtai. geunyeoga silheohaneun paesyeon gamgagieossda. (라스트송 p. 223)

だが、(20-5)の「スーツの黒→geomjeong yangbog」は対応し翻訳されたN₁とN₂の意味関係の「生産源(N₁)・生産物(N₂)」とは異なる。「スーツ(N₁)」が持った性質、特色である「黒(N₂)」と捉えられる。

6.4.2 「N₁의N₂」の意味関係

上記のN₁が「人名詞」と「場所名詞」の場合は「N₁의N₂」が「名詞+の+名詞」に翻訳されていない用例について、N₁とN₂の意味関係に直接起因すると思われる用例を分析し、「N₁의N₂」が「名詞+の+名詞」に翻訳された用例と比較を行ったが、N₁が「物名詞」の場合は「N₁의N₂」が「名詞+の+名詞」に翻訳されていない用例について、N₁とN₂の意味関係に直接起因すると思われる用例が見つからなかった。

「N₁의N₂」が「名詞+の+名詞」に翻訳された用例を一部<表 67>にまとめた。この<表 67>はN₂の韓国語原作の出現率の順(<表 45>)である。

<表 67>翻訳形式「名詞+の+名詞」の用例(N₁が「物名詞」)

	1体の類	名詞+の+名詞	出現数
1	1.17空間	「baeu <u>i</u> alae、船の下」 「chasjan <u>ui</u> dwijjog、カップの外側」 「sucheob <u>ui</u> dwismotung、手帳のうしろ」	9
2	1.50自然	「gyobogu <u>i</u> saegkkal、制服の色」 「dambaeu <u>i</u> naemsae、タバコのおい」	9
3	1.46機械	「deunglongu <u>i</u> haechi、灯ろうのハッチ」 「eoseonu <u>i</u> baesjeon、漁船の船べり」	7
4	1.41資材	「sogosu <u>i</u> leiseu、下着のレース」 「moggeoliu <u>i</u> guseul、ネックレスのガラス玉」	6

5	1. 42衣料	「waisyeocheuui somae、ワイシャツの袖」 「apchimaui jumeoni、前掛けのポケット」	4
6	1. 45道具	「byeongui magae、ビンのふた」 「haendeuponui ttukkeong、携帯電話のふた」	4
7	1. 19量	「sucheobui natjang、手帳のページ」 「bugui jupasu、太鼓の周波数」	3
8	1. 44住居	「deungtabui yulichang、灯塔の窓ガラス」 「yuloseutauui jibung、ユーロスターの屋根」	3
9	1. 15作用	「baljeongiui dongjag、発電機の動作」 「deungmyeonggiui jagdong、极光器の作動」	2
10	1. 16時間	「sseulegitongui ibjang、ゴミ箱の立場」	2
11	1. 18形	「hwabyeongui janhae、花びんのかげら」	2
12	1. 14力	「hwilcheeoui wilyeog、車椅子の威力」	1
13	1. 24成員	「jebogui gyeongchal、制服の警官」	1
14	1. 31言語	「eoseonui iyagi、漁船の話」	1
15	1. 38事業	「baljeongiui suli、発電機の修理」	1
16	1. 40物品	「baeui janhae、船の残骸」	1
17	1. 43食料	「gamasotui doenjanggug、大釜のテンジャングク (韓国の味噌)」	1
18	1. 10事柄	該当なし	0
19	1. 11類	該当なし	0
20	1. 12存在	該当なし	0
21	1. 13様相	該当なし	0
22	1. 20人間	該当なし	0
23	1. 21家族	該当なし	0
24	1. 22仲間	該当なし	0
25	1. 23人物	該当なし	0
26	1. 25公私	該当なし	0
27	1. 26社会	該当なし	0
28	1. 27機関	該当なし	0
29	1. 30心	該当なし	0
30	1. 32芸術	該当なし	0
31	1. 33生活	該当なし	0
32	1. 34行為	該当なし	0
33	1. 35交わり	該当なし	0
34	1. 36待遇	該当なし	0
35	1. 37経済	該当なし	0
36	1. 47土地利用	該当なし	0
37	1. 51物質	該当なし	0
38	1. 52天地	該当なし	0
39	1. 53生物	該当なし	0
40	1. 54植物	該当なし	0
41	1. 55動物	該当なし	0
42	1. 56身体	該当なし	0
43	1. 57生命	該当なし	0

以上、「N₁의N₂」が対応して翻訳されたと見られる用例を挙げた。多くのN₂の項目に対応している例が表れている。

6.4.3 「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の意味関係の考察

以上、「N₁のN₂」と「N₁의N₂」が対応して翻訳されなかった用例と対応して翻訳された用例を比較してN₁とN₂の意味関係を考察した。しかしながら、「N₁의N₂」(K→J)では「名詞+の+名詞」に翻訳されていない部分について、N₁とN₂の意味関係に直接起因す

と思われる場合の用例が見られなかった。そのため、6.4.1で見受けられたものを以下の<表 68>にまとめた。

<表 68> 「N₁のN₂」(J→K)の意味関係(N₁が「物名詞」)

「N ₁ のN ₂ 」の意味関係			
用例	1体の類	対応する	対応しない
20	1.50自然	生産源(N ₁)-生産物(N ₂)	N ₁ が持った性質、特色であるN ₂

(20)の場合、「N₁が生産する物(N₂)」と解釈できると対応して翻訳される。しかし、「N₁が持った性質、特色である(N₂)」だと対応して翻訳されない。つまり、N₂はN₁によって生産されたものであれば「N₁のN₂」は「名詞+(의)+名詞」に翻訳されるが、この意味関係でない場合は「その他」に翻訳されると思われる。

以上を総合考察すると「N₁のN₂」のN₁とN₂との意味関係が「生産源(N₁)・生産物(N₂)」であれば「名詞+의+名詞」または「名詞+名詞」に翻訳されるが、この意味関係以外では対応せず翻訳される傾向にあった。

本節では「N₁의N₂」(K→J)の意味関係においてN₁とN₂に直接起因する用例が見つからなかったので日韓の比較ができなかった。

6.5 おわりに

以上、日本語と韓国語の「N₁のN₂」と「N₁의N₂」が対応する用例と「N₁のN₂」と「N₁의N₂」が対応しない用例のN₁とN₂の意味関係を見た。N₁が「人名詞」、「場所名詞」、「物名詞」の場合を総合して表したのが<表 69>と<表 70>である。

<表 69> 「N₁のN₂」の意味関係が対応している用例および対応していない用例の総合

「N ₁ のN ₂ 」の意味関係			
1体の類	対応する	対応しない	
N ₁ が「人名詞」			
1.30心	主体(N ₁)-その主体の精神的な思い(N ₂)	N ₁ はN ₂ を特徴付けている(心境) 対象(N ₁)-犯人がだれかのめぼし(N ₂)	
1.31言語	発話者(N ₁)-その発話(N ₂)	N ₁ はN ₂ を特徴付けている(会話)	
1.16時間	N ₂ は主体(N ₁)が生まれた時間	N ₂ はN ₁ が来る、訪れる時間	
1.46機械	所有者(N ₁)-所有物(N ₂)	N ₂ は乗り物	
1.22仲間	主体(N ₁)-主体との面識がある仲間(N ₂)	N ₂ はN ₁ と面識がない相手	
1.26社会	主体(N ₁)-所属団体(N ₂)または所有者(N ₁)-所有物(N ₂)	N ₁ がN ₂ で働いていることを示す	
1.43食料	所有者(N ₁)-所有物(N ₂)	N ₁ がN ₂ を生産する	
1.27機関	主体(N ₁)-所属団体(N ₂)	N ₁ がN ₂ において果たす役割が考えにくい	

N ₁ が「場所名詞」		
1. 24 成員	団体(N ₁)－その団体の一員(N ₂)または、 場所(N ₁)－そこに属する人(N ₂)	N ₁ はN ₂ がどこに属するか特定しにくい
1. 33 生活	仕事場(N ₁)－そこでの仕事(N ₂)	N ₁ は場所を特定しにくい
1. 43 食料	場所(N ₁)－そこで作られる食べ物(N ₂)	N ₁ はN ₂ を食べる場所と特定しにくい
N ₁ が「物名詞」		
1. 50 自然	生産源(N ₁)－生産物(N ₂)	N ₁ が持った性質、特色であるN ₂

〈表 70〉「N₁의 N₂」の意味関係が対応している用例および対応していない用例の総合

「N ₁ 의 N ₂ 」の意味関係		
1体の類	対応する	対応しない
N ₁ が「人名詞」		
1. 30 心	主体(N ₁)－精神的な思い(N ₂)	N ₁ が精神的思いの対象
1. 31 言語	発話者(N ₁)－その発話(N ₂)	N ₂ が媒体
1. 13 様相	所有者(N ₁)－被所有者(N ₂)	N ₁ がN ₂ の様態(분위기(雰囲気))
1. 16 時間	N ₂ はN ₁ が存在した(する)時間	N ₁ にとっての時間的順序
1. 32 芸術	動作主(N ₁)－産出物(N ₂)	N ₁ がN ₂ に描かれていない
1. 50 自然	主体(N ₁)－生産物(N ₂)または所有(N ₁)－ 被所有(N ₂)	N ₂ はN ₁ の生産物だが特定が難しい
1. 12 存在	主体(N ₁)－その存在(N ₂)	N ₁ が出した情報なのか特定が難しい
N ₁ が「場所名詞」		
1. 33 生活	場所(N ₁)－その暮らし、生活(N ₂)	N ₁ での生活は想定しにくい
N ₁ が「物名詞」		
	該当例なし	

N₁が「人名詞」の場合、「N₁のN₂」のN₁とN₂との意味関係が「所有者(N₁)-所有物(N₂)」であれば「名詞+의+名詞」または「名詞+名詞」に翻訳されるが、この意味関係以外では対応せず翻訳される傾向にあった。「N₁의 N₂」のN₁とN₂との意味関係が「主体(N₁)-主体から発せられた生産物(N₂)」であれば「名詞+の+名詞」に翻訳されるが、この意味関係以外では対応せず翻訳される傾向にあった。即ち、日本語の場合、比較的前後の脈絡から解釈されていると思えるが、これを韓国語に翻訳するときは狭い範囲で成立しなければ「의」や「zero」では翻訳されず、その他に翻訳されると考えられる。逆に韓国語の原文の場合N₁とN₂が文脈上どのように解釈されるかよりはそれがその主体から発せられたものであれば「の」で翻訳できる。ところが、そうではなくちゃんとN₂が作られたものでないと「の」では翻訳されず、その他に翻訳されると推測できる。N₁が「場所名詞」の場合、「N₁のN₂」と「N₁의 N₂」のN₁とN₂の意味関係はN₁が特定可能な範囲であれば、対応し翻訳され、N₁が特定しにくい範囲だと対応せず翻訳されると考えられる。N₁が「物名詞」の場合、「N₁のN₂」のN₁とN₂との意味関係が「生産源(N₁)・生産物(N₂)」、「所属団体(N₁)・主体(N₂)」であれば「名詞+의+名詞」または「名詞+名詞」に翻訳されるが、この意味関係以外では対応せず翻訳される傾向にあった。本研究のデータでは

「N₁의 N₂」の「名詞+の+名詞」への翻訳がN₁とN₂の意味に直接左右されると思われる用例が見つからなかったので日韓の比較ができなかった。

以上、N₁とN₂の意味関係に直接起因して「N₁のN₂」と「N₁의 N₂」が対応せず翻訳された用例と対応し翻訳された用例を比較し、その特徴をまとめた。その中で、N₁が「場所名詞」の場合は「N₁のN₂」と「N₁의 N₂」のN₁とN₂の意味関係はN₁が特定可能な範囲であれば対応し翻訳され、N₁が特定しにくい範囲だと対応せず翻訳されるという共通の特徴が見られた。それ以外には「N₁のN₂」と「N₁의 N₂」のN₁とN₂の意味関係において共通点は見られなかった。

このように特徴をいくつか挙げる事ができた。だが、これらの特徴以外にも「N₁のN₂」と「N₁의 N₂」が対応せず翻訳される何らかの要因があると思える。それは今後の課題としたい。

第7章 「の」と「의」が2回以上現れる形式

7.1 はじめに

〈表 71〉原作での日韓のデータ結果

	日本語		韓国語	
	数	割合	数	割合
全体の「の」「의」	9,825	100%	6,121	100%
「の」「의」1回	9,048	92.09%	6,088	99.46%
「の」「의」2回	726	7.39%	33	0.54%
「の」「의」3回	48	0.49%	0	0%
「の」「의」4回	3	0.03%	0	0%

〈表 71〉は本研究のデータから全ての「の」と「의」の合計と「の」と「의」が1回から4回まで現れた用例をカウントしたものである。まず、日本語の全体の「の」の数は9,825例であり、「の」が1回は9,048例、2回現れる形式⁵⁹は726例、3回現れる形式は48例、4回現れる形式は3例見つかった。次に、韓国語の全体の「의」の数は6,121例であり、「의」が1回は6,088例、2回現れる形式は33例、見つかった。3回と4回の現れは見られなかった。このように本研究のデータからは「の」に比べて「의」は現れにくいことが分かる。そして、日本語と韓国語の全体の「の」と「의」を100%と設定し、「の」と「의」が1回介在から4回介在はどのぐらいの割合を示すかを見た。日本語の場合、「の」が1回介在は92.09%、2回介在は7.39%、3回介在0.49%、4回介在0.03%であった。韓国語の場合、「의」が1回介在は99.46%、2回介在は0.54%、3回と4回は0%であった。本研究のデータは日韓各々8冊ずつの文学作品から用例を収集しているが、「の」と「의」の出現には差が見られた。「の」と「의」が2回以上現れる形式は日本語の方が韓国語に比べて多く用いられると考えられる。

本章⁶⁰では、上記のデータを基に「の」と「의」が2回以上現れる形式はどのような名詞類により連結しているかの傾向の分析を行いたい。この名詞類の分類は国立国語研究所(2004)『分類語彙表』に従った。原作の「の」と「의」が2回以上現れる形式により連結される名詞類は日本語と韓国語でも共通なものが見られるか、または違うかを探りたい。また、「の」と「의」が2回以上現れる形式の翻訳形式はどのように現れるかを検討する。そして、「の」と「의」が2回以上現れる形式により連結した名詞の組み合わせについて探

⁵⁹ 「の」と「의」の2回現れる形式とは「N₁+N₂+N₃」のように名詞が3つ連結する形式である。また、「の」の3回、4回現れる形式は「N₁+N₂+N₃+N₄」、「N₁+N₂+N₃+N₄+N₅」のように名詞が4つ、5つ連結する形式である。

⁶⁰ 第6章は林仙雅(2014b)の研究を基にデータを加算し、補完したものである。

るために「の」と「의」が2回以上現れる形式のデータの N_1 を「人名詞」、「場所名詞」、「物名詞」に固定し、 N_2 と N_3 もしくはそれ以上連結する名詞について考察する。

7.2 原作での「の」と「의」が2回以上現れる形式の対照

原作のデータを日韓で比較するため、「の」と「의」が2回以上現れる形式により連結した名詞を国立国語研究所(2004)『分類語彙表』に基づき分類した結果、以下の<表 72>のように「の」と「의」が2回現れる形式で共通した名詞類の結合が見られた。

<表 72>日韓原作の共通した形式(「の」、「의」が2回現れる形式)

	共通した形式	韓国語	日本語
1	1. 16 時間+1. 20 人間+1. 30 心	1	2
2	1. 17 空間+1. 23 人物+1. 56 身体	1	1
3	1. 21 家族+1. 56 身体+1. 17 空間	1	2
4	1. 23 人物+1. 56 身体+1. 15 作用	1	1
	合計	4	6

<表 72>の結果、共通の結合は4種が見られた。その用例は以下の通りである。これらの用例を山梨(2004)が挙げた2種の所有表現の「連鎖的所有表現」と「入れ子式所有表現」が見られるかを検証しながら分析を行う。

「1. 16 時間+1. 20 人間+1. 30 心」⁶¹

(1)おまけにわしは当時の若者たちの例にもれず、自分の命をお国のために捧げるつもりだった。(世界の中心 p. 35)

(2)平仮名ばかりで、大きくなったら何になりたいかって、将来の自分の夢を書いたやつ(世界の中心 p. 125)

(3)yeonhau namjau salangeun geuli deumun ildo anijiman, geulaedo gogaeleul

(年下の男性の愛)

gyausgeolige haneunbubuni isseosda. (국화꽃 향기 p. 69)

(1) (2) (3)は N_1 の時間にいる人名詞 N_2 が中心語 N_3 を修飾する用例である。これらの用

⁶¹ 「の」と「의」が2回現れる形式は3つの名詞が連結している。この3つの名詞の連結を $N_1+N_2+N_3$ とし、国立国語研究所(2004)『分類語彙表』に基づいた分類名をあてて表した。以下も同様である。

例は $[N_1N_2] \rightarrow N_3$ のように表現できると思われる。これらは山梨(2004)が挙げた2種のタイプのいずれにも分類されないと思われる。

「1.17 空間+1.23 人物+1.56 身体」

(4) 運転席の影山の顔は、後部座席からはよく見えないが、声の調子は真剣そのものだ。(謎解き p. 239)

(5) hyewanui gin sumsoliga kkeutnal mulyeob siteu mitui yeongseonui momttungiga jamsi
kkumteuldaeneunge boyeossda. (下のヨンソンの体)

(무소의 뿔 p. 50)

(4) (5)は視点が N_1 の位置から N_2 に移る。そして、 N_3 は N_2 の部分を表していることが分かる。これらの用例は N_1 と N_2 の関係は山梨(2004)の言う「連鎖的所有表現」で N_2 と N_3 の関係は「入れ子式所有表現」と見られ、両者の結合タイプと思われる。

「1.21 家族+1.56 身体+1.17 空間」

(6) もう一人は今かみさんの腹の中に入っていて、着実に大きくなりつつある。

(色彩 p. 157)

(7) 右側からパパがのぞきこみ、左側からちっちゃいマナがのぞきこみ、ママの腕のなか、バスの振動をかすかに感じながらぼくはたしかに今と同じこの黄色い月を見ていた。

(空中庭園 p. 296)

(8) beoseue tan hyewaneul ollyeoda bomyeonseo imi 10nyeondo deo ibeoseo hyewanui
nuneneun eomeoniui momui ilbucheoleom neukkyeojin geu seuweteoleul ibgoseo

(母の体の一部)

eomeonineun malhaessda. (무소의 뿔 p. 291)

(6) (7) (8)は N_1 が全体を表す名詞で N_2 が N_1 の部分に含まれ、また、 N_3 は N_2 の部分になる形式である。「eomeoni(母)」「かみさん」は全体で「mom(体)」「腹」は「eomeoni」「かみさん」の身体の一部で部分を表している。「ilbu(一部)」「中」は「mom」「腹」の一部としての空間を表していると言えるだろう。これらの用例は視点が全体からその部分、またその部分の一部と縮小していく傾向が見られるものである。これは「入れ子式所有表現」に含まれる項目と言えるだろう。

「1.23 人物+1.56 身体+1.15 作用」

(9) yeojaga eobseumyeon seungudo ttal jumido himdeulgo bulhaenghal geolago

saenggaghan mijuui gaseumui sangcheo gataseo seunguneun gaseumi apeuge jeolyeo
wassda. (ミジュの胸の傷)

(국화꽃 p. 190)

(10)しかし人違いだともわかって、つくるの心臓の鼓動はなかなか収まらなかった。(色彩
p. 234)

(9)(10)は「1.16 時間+1.20 人間+1.30 心」と同じく N_1 と N_2 が N_3 を修飾するタイプと考えられる。「mijuui gaseum(ミジュの胸)」が「sangcheo(傷)」を修飾、「つくるの心臓」が「鼓動」を修飾する形式である。また、「gaseum(胸)」「心臓」は「miju」「つくる」の身体の一部を表す名詞で部分と言える。この N_1 と N_2 は「入れ子式所有表現」と言えるだろう。また、「sangcheo(傷)」「鼓動」は「 N_1 と N_2 」の作用を表し、 N_2 と N_3 の関係は山梨(2004)の2種のタイプには分類されない項目と考えられる。

日本語と韓国語の「の」と「의」が2回現れる形式での共通した形式の用例を分析および山梨(2004)の2種のタイプの「連鎖的所有表現」と「入れ子式所有表現」のいずれかに分類できるかを検証した。その結果、4タイプの傾向が見られた。まず、山梨(2004)の2種のタイプどちらも当てはまらないもの、「連鎖的所有表現」に分類されるもの、「入れ子式所有表現」分類されるもの、「連鎖的所有表現」と「入れ子式所有表現」が両方見られたものに分けられることが分かった。しかし、山梨(2004)の分類だけでは当てはまらないものも見られたので、これ以上の分析はできない。この2種のタイプだけでは「の」と「의」が2回現れる構造を説明しきれないと思われる。そのため、これ以上の分析が必要と思われる。

7.3 「の」と「의」が2回以上現れる形式の対照

この節では日本語と韓国語の「の」と「의」が2回以上現れる形式の翻訳形式について考察する。日本語と韓国語の原作のデータである「の」と「의」が2回現れる形式の翻訳形式を量的に表したのが<表 73>である。

<表 73>日韓の対訳本での「の」と「의」2回現れる形式の翻訳形式

	「N ₁ のN ₂ のN ₃ 」の翻訳(J→K)			「N ₁ 의N ₂ 의N ₃ 」の翻訳(K→J)		
	翻訳形式(J→K)	回数(出現率)		翻訳形式	回数(出現率)	
1	名詞+의+名詞+의+名詞	12	1.65%	名詞+の+名詞+の+名詞	14	42.42%
2	名詞+의+名詞+名詞	174	23.97%			
3	名詞+名詞+名詞	140	19.28%			
4	名詞+名詞+의+名詞	106	14.60%			
5	その他	294	40.50%	その他	19	57.58%
	合計	726	100%	合計	33	100%

「の」と「의」が2回現れる形式は名詞が「N₁+N₂+N₃」と3つ繋がることになる。だが、翻訳を見ると3つの名詞が並列に翻訳されない用例が見られた。それらを「その他」に分類した。「N₁のN₂のN₃」の翻訳では294例、40.50%が「その他」に含まれる。また、「N₁의N₂의N₃」の翻訳では19例、57.58%が「その他」に分類される。

「N₁のN₂のN₃」の翻訳では「名詞+의+名詞+의+名詞」、「N₁의N₂의N₃」の翻訳では「名詞+の+名詞+の+名詞」が見られ、用例の回数と出現率を見ると「名詞+의+名詞+의+名詞」翻訳形式は全体726例の内12例、1.65%で、「名詞+の+名詞+の+名詞」翻訳形式は全体33例の内14例、42.42%である。この翻訳形式はお互い対応して翻訳された形式と言えるだろう。だが、出現率を比較すると1.65%と42.42%で差が見られた。従って、「의」の2回現れる形式が日本語翻訳(K→J)でも「の」の2回現れる形式となる方が「の」が2回現れる形式を韓国語「의」が現れる形式に翻訳するよりその可能性が高いと思われる。しかしながら、「の」と「의」が2回現れる形式は名詞が「N₁+N₂+N₃」と3つ繋がるが、「N₁のN₂のN₃」の翻訳では3つの名詞が現れたものの、「의」が省略された用例が見られた。何らかの要因により「의」が省略されているが、3つの名詞そのまま用いて翻訳されている用例は名詞間の意味関係においては差異がなく翻訳されたものと考えられる。これらの翻訳形式⁶²の翻訳率を合算すると59.50%である。

次は「の」が3回現れる形式の翻訳形式を<表 74>にまとめたものである。

<表 74>「の」3回が現れる形式の翻訳形式

	「N ₁ のN ₂ のN ₃ のN ₄ 」の翻訳(J→K)		
	翻訳形式	回数(出現率)	
1	名詞+名詞+의+名詞+의+名詞	1	2.08%
2	名詞+名詞+의+名詞+名詞	7	14.58%
3	名詞+의+名詞+名詞+名詞	5	10.42%
4	名詞+名詞+名詞+名詞	3	6.25%
5	名詞+名詞+名詞+의+名詞	2	4.17%
6	その他	30	62.50%
	合計	48	166%

⁶² <表73>2、3、4の翻訳形式のことである。

韓国語原作では「의」が3回以上現れた用例は見つからなかったので、日本語の「の」が3回現れる形式の翻訳形式を考察する。「の」が3回現れる形式は名詞が「N₁+N₂+N₃+N₄」と4つ繋がることになるが、翻訳形式を見ると「의」を用いるかどうかにかかわらず、その4つの名詞各々に対し、対応する韓国語を用いて翻訳されている用例が計18例37.50%であったのに対し、そうでないものは(「その他」に分類)は30例、62.50%であった。「の」が3回現れる形式では4つの名詞がそのままでは韓国語に翻訳されない傾向にあると考えられる。また、「N₁のN₂のN₃」では「名詞+의+名詞+의+名詞」と対応して翻訳された用例が見られたが、「N₁のN₂のN₃のN₄」では「名詞+의+名詞+의+名詞+의+名詞」は見つからなかった。

次は、「の」が4回現れる形式の翻訳形式である。それを<表75>に表した。

<表75> 「の」4回現れる形式の翻訳形式

「N ₁ のN ₂ のN ₃ のN ₄ のN ₅ 」の翻訳(J→K)			
翻訳形式		回数(出現率)	
1	名詞+名詞+名詞+名詞+名詞	1	33%
2	その他	2	67%
合計		3	100%

「の」が4回現れる形式は名詞が「N₁+N₂+N₃+N₄+N₅」と5つ繋がることになるが、翻訳形式を見ると5つの名詞で翻訳されない用例が見られた。それは「その他」と分類している。「その他」の翻訳率は67%である。「の」が4回現れる形式でも「の」が3回現れる形式と同じく名詞と名詞の間に「의」が全て介在した「名詞+의+名詞+의+名詞+의+名詞+의+名詞」は見つからなかった。「N₁+N₂+N₃+N₄+N₅」の5つの名詞を用いて翻訳された形式は1例あった。

以上で「の」と「의」が2回、3回、4回現れる形式がどのように翻訳されているかを見た。「の」と「의」の数が多くなるにつれ、翻訳される可能性は低くなる傾向が見られた。即ち、「の」と「의」が2回、3回、4回現れる形式は数が増えるほど翻訳されにくいことと思われる。

7.4 N₁が「人名詞」の場合

本節ではN₁が「人名詞」の場合、「の」と「의」が2回以上現れる形式を分析する。まず、「N₁のN₂のN₃」(「の」が2回現れる形式)と「N₁의N₂의N₃」(「의」が2回現れる形式)の全てのデータの量は「N₁のN₂のN₃」が726例、「N₁의N₂의N₃」が33例であ

った。その中から N_1 が「人名詞」である用例数は「 N_1 の N_2 の N_3 」が293例、「 N_1 의 N_2 의 N_3 」が13例である。従って、全てのデータ数に対し、「 N_1 の N_2 の N_3 」が40.35%、「 N_1 의 N_2 의 N_3 」が39.39%の出現率となる。また、「 N_1 の N_2 の N_3 の N_4 」（「の」が3回現れる形式）の全てのデータの量は48例である。その中で、 N_1 が「人名詞」である用例数は17例であった。従って、全てのデータ数に対し、「 N_1 の N_2 の N_3 の N_4 」が35.41%の出現率となる。一方、韓国語は該当例が見られなかった。さらに、「 N_1 の N_2 の N_3 の N_4 の N_5 」（「の」が4回現れる形式）の全てのデータの量は3例である。その中で、 N_1 が「人名詞」である用例数は1例であった。従って、全てのデータ数に対し、「 N_1 の N_2 の N_3 の N_4 の N_5 」が33.33%の出現率となる。一方、韓国語は該当例が見られなかった。

まず、日韓の「の」と「의」が2回現れる構造を比較する。 N_1 は「人名詞」と固定し、 N_2 と N_3 の組み合わせを表したのが<表76>である。

〈表 76〉「の」と「의」が2回現れる形式における「N₁+N₂+N₃」の組み合わせ(N₁は「人名詞」)

日本語					韓国語										
N1	N2	N3	回数	N1	N2	N3	回数	N1	N2	N3	回数				
人名詞	1. 10事柄	1. 1.11類	1	人名詞	1. 30心	72. 1.11類	3	人名詞	1. 15作用	1. 1.50自然	1				
		2. 1.30心	1			73. 1.12存在	2			2. 1.16時間	2. 1.30心	1			
		3. 1.24成員	1			74. 1.17空間	12		3. 1.19量	3. 1.37経済	1				
		4. 1.31言語	1			75. 1.19量	1		4. 1.21家族	4. 1.43食料	1				
	5. 1.16時間	5. 1.33生活	1		76. 1.21家族	1	5. 1.30心		5. 1.21家族	1	6. 1.33生活	5. 1.21家族	1		
		6. 1.50自然	1		77. 1.26社会	1			6. 1.56身体	6. 1.56身体		1	6. 1.33生活	6. 1.33生活	1
		7. 1.11類	1		78. 1.30心	4			7. 1.17空間	7. 1.17空間		1	7. 1.36待遇	7. 1.30心	1
		8. 1.13様相	1		79. 1.31言語	3			8. 1.19量	8. 1.19量		1	8. 1.46機械	8. 1.41資材	1
		9. 1.15作用	1		80. 1.34行為	1			9. 1.30心	9. 1.30心		1	9. 1.56身体	9. 1.15作用	1
		10. 1.19量	1		81. 1.40物品	1			10. 1.44住居	10. 1.44住居		1	10. 1.57生命	10. 1.17空間	1
		11. 1.20人間	1		82. 1.44住居	1			11. 1.20人間	11. 1.20人間		1		10. 1.12存在	1
		12. 1.21家族	1		83. 1.50自然	1			12. 1.21家族	12. 1.21家族		1			
		13. 1.22仲間	1		84. 1.51物質	1			13. 1.22仲間	13. 1.22仲間		1			
		14. 1.30心	1		85. 1.10事柄	1			14. 1.30心	14. 1.30心		1			
		15. 1.31言語	3		86. 1.15作用	1	15. 1.31言語		15. 1.31言語	3					
		16. 1.32芸術	1		87. 1.17空間	4	17. 1.31言語		16. 1.32芸術	1					
		17. 1.33生活	1		88. 1.30心	1			17. 1.33生活	17. 1.33生活	1				
		18. 1.34行為	2		89. 1.10事柄	1			18. 1.34行為	18. 1.34行為	2				
	19. 1.52天地	1	90. 1.13様相		2	18. 1.32芸術		19. 1.52天地	1						
	20. 1.14力	1	91. 1.21家族		1		20. 1.14力	20. 1.14力	1						
	21. 1.17空間	1	92. 1.32芸術		1		21. 1.17空間	21. 1.17空間	1						
	22. 1.21家族	1	93. 1.13様相		1		19. 1.33生活	22. 1.21家族	1						
	23. 1.23人物	1	94. 1.16時間		5	23. 1.23人物		23. 1.23人物	1						
	24. 1.31言語	1	95. 1.17空間		1	24. 1.31言語		24. 1.31言語	1						
	25. 1.44住居	2	96. 1.30心		1	25. 1.44住居		25. 1.44住居	2						
	26. 1.45道具	1	97. 1.31言語		1	26. 1.45道具		26. 1.45道具	1						
	27. 1.50自然	1	98. 1.45道具		1	27. 1.50自然		27. 1.50自然	1						
	28. 1.52天地	1	99. 1.56身体		1	28. 1.52天地		28. 1.52天地	1						
	29. 1.56身体	1	100. 1.12存在		1	20. 1.34行為	29. 1.56身体	1							
	30. 1.15作用	1	101. 1.15作用		1		30. 1.15作用	30. 1.15作用	1						
	31. 1.17空間	1	102. 1.23人物		1		31. 1.17空間	31. 1.17空間	1						
	32. 1.21家族	1	103. 1.16時間		1		21. 1.35交わり	32. 1.21家族	1						
	33. 1.56身体	3	104. 1.19量		1	33. 1.56身体		33. 1.56身体	3						
	34. 1.21家族	1	105. 1.31言語		1	34. 1.21家族		34. 1.21家族	1						
	8. 1.20人間	35. 1.30心	1		106. 1.17空間	2	22. 1.36待遇	35. 1.30心	1						
		36. 1.31言語	1		107. 1.19量	1		36. 1.31言語	36. 1.31言語	1					
		37. 1.10事柄	1		108. 1.17空間	1		37. 1.10事柄	37. 1.10事柄	1					
		38. 1.13様相	1		109. 1.42衣料	1		38. 1.13様相	38. 1.13様相	1					
	9. 1.21家族	39. 1.20人間	1		110. 1.41資材	1	24. 1.40物品	39. 1.20人間	1						
		40. 1.30心	2		111. 1.10事柄	2		40. 1.30心	40. 1.30心	2					
		41. 1.31言語	2		112. 1.17空間	4		41. 1.31言語	41. 1.31言語	2					
		42. 1.43食料	1		113. 1.31言語	1		42. 1.43食料	42. 1.43食料	1					
		43. 1.44住居	1		114. 1.42衣料	1		43. 1.44住居	43. 1.44住居	1					
		44. 1.47土地利用	1		115. 1.56身体	2		44. 1.47土地利用	44. 1.47土地利用	1					
		45. 1.17空間	1		116. 1.50自然	1		45. 1.17空間	45. 1.17空間	1					
		46. 1.31言語	3		117. 1.10事柄	1		46. 1.31言語	46. 1.31言語	3					
	10. 1.22仲間	47. 1.46機械	1		118. 1.17空間	15	27. 1.43食料	47. 1.46機械	1						
		48. 1.17空間	1		119. 1.18形	1		48. 1.17空間	48. 1.17空間	1					
		49. 1.24成員	1		120. 1.19量	2		49. 1.24成員	49. 1.24成員	1					
		50. 1.56身体	1		121. 1.26社会	2		50. 1.56身体	50. 1.56身体	1					
	12. 1.24成員	51. 1.23人物	1		122. 1.31言語	1	28. 1.44住居	51. 1.23人物	1						
		52. 1.27機関	1		123. 1.41資材	5		52. 1.27機関	52. 1.27機関	1					
		53. 1.31言語	1		124. 1.42衣料	1		53. 1.31言語	53. 1.31言語	1					
		54. 1.42衣料	1		125. 1.44住居	20		54. 1.42衣料	54. 1.42衣料	1					
		55. 1.56身体	1		126. 1.46機械	1		55. 1.56身体	55. 1.56身体	1					
		56. 1.17空間	6		127. 1.17空間	2		56. 1.17空間	56. 1.17空間	6					
		57. 1.19量	2		128. 1.30心	1		57. 1.19量	57. 1.19量	2					
		58. 1.20人間	1		129. 1.31言語	1		58. 1.20人間	58. 1.20人間	1					
		59. 1.21家族	1		130. 1.41資材	1		59. 1.21家族	59. 1.21家族	1					
		60. 1.26社会	1		131. 1.17空間	1		60. 1.26社会	60. 1.26社会	1					
		61. 1.30心	1		132. 1.19量	1		61. 1.30心	61. 1.30心	1					
	13. 1.25公私	62. 1.44住居	4		133. 1.50自然	1	30. 1.46機械	62. 1.44住居	4						
		63. 1.46機械	1		134. 1.17空間	1		63. 1.46機械	63. 1.46機械	1					
		64. 1.47土地利用	2		135. 1.42衣料	1		64. 1.47土地利用	64. 1.47土地利用	2					
		65. 1.17空間	5		136. 1.15作用	1		65. 1.17空間	65. 1.17空間	5					
		66. 1.19量	1		137. 1.17空間	40		66. 1.19量	66. 1.19量	1					
		67. 1.22仲間	1		138. 1.18形	1		67. 1.22仲間	67. 1.22仲間	1					
		68. 1.24成員	2		139. 1.19量	3		68. 1.24成員	68. 1.24成員	2					
		69. 1.31言語	1		140. 1.30心	1		69. 1.31言語	69. 1.31言語	1					
	14. 1.26社会	70. 1.40物品	1		141. 1.33生活	1	32. 1.56身体	70. 1.40物品	1						
		71. 1.24成員	3		142. 1.42衣料	1		71. 1.24成員	71. 1.24成員	3					
			143. 1.50自然	1											
			144. 1.56身体	5											
			145. 1.57生命	3											
			146. 1.31言語	1											
			293												

日本語の場合、3つの名詞の組み合わせは146通り、韓国語の場合、3つの名詞の組み合わせは18通りが見られた。この3つの名詞の組み合わせの多様性を日本語と韓国語で比較するため、N₂とN₃に現れる名詞類を観察する。

日本語と韓国語のN₂とN₃に現れる名詞類をそれぞれ比較すると、以下のようになる。

<表 77>日韓のN₂とN₃の比較(N₁が「人名詞」)

N ₂		N ₃	
日本語	韓国語	日本語	韓国語
1.10事柄		1.10事柄	1.10事柄
1.11類		1.11類	
1.13様相		1.12存在	1.12存在
1.15作用	1.15作用	1.13様相	
1.16時間	1.16時間	1.14力	
1.17空間		1.15作用	1.15作用
1.19量	1.19量	1.16時間	
1.20人間		1.17空間	1.17空間
1.21家族	1.21家族	1.18形	
1.22仲間		1.19量	1.19量
1.23人物		1.20人間	
1.24成員		1.21家族	1.21家族
1.25公私		1.22仲間	
1.26社会		1.23人物	
1.27機関		1.24成員	
1.30心	1.30心	1.26社会	
1.31言語		1.27機関	
1.32芸術		1.30心	1.30心
1.33生活		1.31言語	
1.34行為		1.32芸術	
1.35交わり		1.33生活	1.33生活
1.36待遇	1.36待遇	1.34行為	
1.38事業			1.37経済
1.40物品		1.40物品	1.40物質
1.41資材		1.41資材	1.41資材
1.42衣料		1.42衣料	
1.43食料		1.43食料	1.43食料
1.44住居		1.44住居	1.44住居
1.45道具		1.45道具	
1.46機械	1.46機械	1.46機械	
1.50自然		1.47土地利用	
1.56身体	1.56身体	1.50自然	1.50自然
1.57生命	1.57生命	1.51物質	
		1.52天地	
		1.56身体	1.56身体
		1.57生命	

韓国語N₃に「1.37 経済」が現れ、日本語には現れていないが、この1項目を除くと、ほぼ韓国語に現れるN₂とN₃は日本語に現れていることが確認できた。これは日本語の方が3つの名詞の連結において多様な組み合わせがあり、「の」が現れる形式が「의」が現れる形式より数が多く見られたことが原因であると考えられる。

次に、日本語においてN₂とN₃を比較し、N₂とN₃の差異について考察する。また、韓国語も同じく考察する。N₂またはN₃のみに現れた名詞を表にすると以下のようなになる。

<表 78>日韓のN₂またはN₃のみに現れていた名詞類の比較(N₁が「人名詞」)

日本語	N ₂	1.25公私	1.35交わり	1.36待遇	1.38事業						
	N ₃	1.12存在	1.14力	1.18形	1.47土地利用	1.51物質	1.52天地				
韓国語	N ₂	1.16時間	1.21家族	1.36待遇	1.46機械	1.57生命					
	N ₃	1.10事柄	1.12存在	1.17空間	1.33生活	1.37経済	1.40物質	1.41資材	1.43食料	1.44住居	1.50自然

日本語のN₂とN₃を比較すると、N₂に現れている「1.25 公私」「1.35 交わり」「1.36 待遇」「1.38 事業」はN₃には現れていない。そして、N₃に現れている「1.12 存在」「1.14 力」「1.18 形」「1.47 土地利用」「1.51 物質」「1.52 天地」はN₂には現れていない。韓国語のN₂とN₃を比較するとN₂に現れている「1.16 時間」「1.21 家族」「1.36 待遇」「1.46 機械」「1.57 生命」はN₃には現れていない。また、N₃に現れている「1.10 事柄」「1.12 存在」「1.17 空間」「1.33 生活」「1.37 経済」「1.40 物質」「1.41 資材」「1.43 食料」「1.44 住居」「1.50 自然」はN₂には現れていない。

日韓で比較するとN₂に現れた名詞類で「1.36 待遇」は共通するがそれ以外は異なる。N₃については「1.12 存在」は共通であるがそれ以外は異なっている。

以上から日韓の「の」と「의」が2回現れる形式において韓国語のN₂とN₃はほとんど日本語にも対応するN₂、N₃が見られるものの、日本語でも韓国語でもN₂またはN₃にしか表れない名詞があり、その部分に関しては日本語と韓国語の共通点はほとんど見られないことが分かった。従って、日本語と韓国語の「の」と「의」が2回現れる形式には各々独自な名詞が連結している部分があると言える。

では、日韓の翻訳においてはどのような傾向が見られるかを考察する。まず、「の」と「의」が2回現れる形式における翻訳形式を<表 79>にまとめた⁶³。

<表 79>N₁が「人名詞」の場合、「の」と「의」が2回現れる形式の翻訳形式

	「N ₁ のN ₂ のN ₃ 」の翻訳(J→K)			「N ₁ 의N ₂ 의N ₃ 」の翻訳(K→J)		
	翻訳形式	回数(出現率)		翻訳形式	回数(出現率)	
1	名詞+의+名詞+의+名詞	5	1.71%	名詞+の+名詞+の+名詞	7	38.89%
2	名詞+의+名詞+名詞	105	35.84%	/		
3	名詞+名詞+의+名詞	28	9.56%			
4	名詞+名詞+名詞	27	9.22%			
5	その他	128	43.69%			
	合計	293	100%	その他	11	61.11%
				合計	18	100%

これらの翻訳形式の用例の一部を表したのが<表 80>である。表の左半分が「N₁のN₂のN₃」の翻訳(J→K)、右半分が「N₁의N₂의N₃」の翻訳(K→J)である。

⁶³ 翻訳全体の「の」と「의」が2回現れる形式の翻訳形式において説明を述べたので、ここでは説明を省略する。以下のN₁が「場所名詞」「物名詞」も同様である。

<表 80> 「N₁のN₂のN₃」 と 「N₁의N₂의N₃」 が対応し翻訳された形式(N₁が「人名詞」)

名詞+의+名詞+의+名詞	『分類語彙表』による分類	「名詞+の+名詞+の+名詞」	『分類語彙表』による分類
彼女のアリの有無	geunyeoui allibaiui yumu	1.20人間+1.30心+1.12存在	geuui abeojui saengmo
彼の父の生母	abeojiu cheongchunui ttang	1.21家族+1.16時間+1.52天地	彼の父の生母
彼の家庭生活の悲劇	gagayamaui illyeonui dongjag	1.23人物+1.15作用+1.33生活	geuui gajeongaenghwalui bigeug
彼の家庭生活の悲劇	1.20人間+1.33生活+1.33生活	eomeonui momui ilbu	母の体の一部
母の体の一部	1.21家族+1.56身体+1.17空間	1.23人物+1.32芸術+1.21家族	mijuui gaseumui sangcheo
ミジュの胸の傷	1.23人物+1.56身体+1.15作用	1.23人物+1.45道具+1.41資材	nobideului chulsaengui bimil
奴隷の出生の秘密	1.23人物+1.57生命+1.12存在	『分類語彙表』による分類	
名詞+의+名詞+名詞		『分類語彙表』による分類	
彼女の瞳のなか	geunyeoui nundongja an	1.20人間+1.56身体+1.17空間	
女性の頭のとっぺん	yeojau meoli kkogdaegi	1.20人間+1.56身体+1.17空間	
麗子の指の間	leikoui songalag sai	1.23人物+1.56身体+1.17空間	
リタの腕の中	litau pal an	1.23人物+1.56身体+1.17空間	
会葬者の頭の向こう	chamseogjadeului meoli neomeo	1.24成員+1.56身体+1.17空間	
つくる心臓の鼓動	sseukuluui simjang godong	1.23人物+1.56身体+1.15作用	
自分の家の離れ	jasinui jib byeolchae	1.20人間+1.25公私+1.44住居	
男女の恋愛の話	namnyeoui yeonae iyagi	1.20人間+1.30心+1.31言語	
少年の言葉の中	sonyeonui mal sog	1.20人間+1.31言語+1.17空間	
女性の部屋の鍵	yeojau jib yeolsoe	1.20人間+1.44住居+1.41資材	
娘の将来の夫	ttalui jangdae nampyeon	1.21家族+1.16時間+1.21家族	
アカの現在の状況	akaui hyeonjae sanghwang	1.23人物+1.16時間+1.13様相	
犯人の本当の目的	beominui jinja mogeog	1.24成員+1.10事柄+1.11類	
名詞+名詞+의+名詞		『分類語彙表』による分類	
自分のなかの力	jagi anui him	1.20人間+1.17空間+1.14力	
自分たちの部族の始祖	jasindeul bujogui sijo	1.20人間+1.23人物+1.24成員	
姉さんの部屋の扉	eonni bangui mun	1.21家族+1.44住居+1.44住居	
アキの両親の会話	aki bumonimui daehwa	1.23人物+1.21家族+1.31言語	
野崎さんの会社の社長さん	nojaki ssi hoesauj sajangnim	1.23人物+1.26社会+1.24成員	
キャッチャーの内田の手	kaecheo uchidau son	1.24成員+1.23人物+1.56身体	
名詞+名詞+名詞		『分類語彙表』による分類	
あいつの胃袋の中	geu nom bae sog	1.20人間+1.56身体+1.17空間	
かみさんの腹の中	manula bae sog	1.21家族+1.56身体+1.17空間	
彼女の家の電話	geunyeo jib jeonhwa	1.20人間+1.25公私+1.46機械	
友だちの家の近く	chingu jib geuncheo	1.22仲間+1.25公私+1.17空間	
新人の予備の原稿	sinindeul yeobi wongo	1.23人物+1.30心+1.31言語	

日韓が対応し翻訳された形式において「N₂」 と 「N₃」 の名詞類が共通する用例が見られた。それは「人名詞+1.56 身体+1.17 空間」と「人名詞+1.56 身体+1.15 作用」である。

まず、「人名詞+1.56 身体+1.17 空間」の日本語は「彼女の瞳のなか→geunyeoui nundongja an」「女性の頭のとっぺん→yeojau meoli kkogdaegi」「麗子の指の間→leikoui songalag sai」「リタの腕の中→litau pal an」「会葬者の頭の向こう→chamseogjadeului meoli neomeo」「あいつの胃袋の中→geu nom bae sog」「かみさんの腹の中→manula bae sog」である。

(12)

- a. 彼女の瞳のなかに迷いが見えた。(世界の中心 p. 157)
- b. geunyeoui nundongja ane mangseolimi boyeossda. (세상의 중심 p. 157)

(13)

- a. 確か、その女性の頭のとっぺんが小柄な野崎さんの耳ぐらいの高さでした。(謎解き p. 181)

b. geu yeojau meoli kkogdaegiga jageun nojaki ssiui gwi geuncheo jeongdoe
wassjyo. (수수께끼 p. 228)

(14)

a. 握り締めた麗子の指の間から滴り落ちる白ワイン。(謎解き p. 75)

b. jwigo issdeon leikoui songalag sailo heulleo tteoleojineun hwaiteu wain.
(수수께끼 p. 95)

(15)

a. リタの腕の中ではまるで赤ん坊の一矢は、レスラーの荒技ヘッドロックで部屋に引きずり込まれた。(ラストソング p. 167)

b. litau pal aneseon heubsa gasnanagina daleum eobsneun kajeuya. leseulleoui geochin
hedeulog gisule geollyeo banganeulo kkeullyeo deuleogassda.
(ラスト송 p. 168)

(16)

a. 焦りにも似た思いにかられ、居並ぶ会葬者の頭の向こうにアキの姿を捜した。(世界の中心 p. 29)

b. apjwaseoge anja issneun chamseogjadeul meoli neomeolo akiui moseubeul
chajassjiman jal boiji anhneunda. (세상의 중심 p. 30)

(17)

a. トロもユニも、全部あいつの胃袋の中。(空中ブランコ p. 113)

b. dalangeodeun jangeodeun kkanggeuli geu nom baessogeulo deuleogassdagu.
(공중그네 p. 131)

(18)

a. もう一人は今かみさんの腹の中に入っていて、着実に大きくなりつつある。(色彩 p. 157)

b. duljaaneun jigeum manula bae sogeseo muleogmuleog jal jala 9wole chulsan
yejeongiya. (색채 p. 189)

韓国語の用例は「eomeoni momui ilbu→母の体の一部」である。

(19)

a. beoseue tan hyewaneul ollyeoda bomyeonseo imi 10nyeondo deo ibeoseo hyewanui nuneneun eomeoniui momui ilbucheoleom neukkyeojin geu seuweteoleul ibgoseo eomeonineun malhaessda. (무소의 뿔 p. 291)

b. バスに乗ったヘワンを見上げながら、もう十年も着古して、ヘワンの目には母の体の一部のように感じられたそのセーターを着ていた母。(サイの角 p. 300)

また、「人名詞+1.56 身体+1.15 作用」の日本語は「つくるの心臓の鼓動→sseukuluui simjang godong」である。

(20)

a. しかし人違いだとわかって、つくるの心臓の鼓動はなかなか収まらなかった。
(色彩 p. 234)

b. geuleona jalmos bon jul alasseumyeonseodo sseukuluuui simjang godongeun jajadeulji anhasssa. (색채 p. 278)

韓国語の用例は「mijuui gaseumui sangcheo→ミジュの胸の傷」である。

(21)

a. yeojaga eobseumyeon seungudo ttal jumido himdeulgo bulhaenghal geolago saenggaghan mijuui gaseumui sangcheo gataseo seunguneun gaseumi apeuge jeolyeo wassda. (국화꽃 향기 p. 190)

b. 女がいないとスンウも娘のジユミも辛くて不幸だろうと思ったミジュの胸の傷のように思えて、スンウは胸がしみるほど痛かった。(菊花の香り p. 308)

これらの名詞類で連結された「の」と「의」が2回現れる形式は共通して日韓互いに翻訳されると思われる。日韓互いに共通して翻訳される形式の特徴としてN₂が「1.56 身体」の名詞類に分類される名詞である場合と言えるだろう。これ以外の「の」と「의」が2回現れる形式はお互い翻訳されにくいと推測される。

<表 80>からN₂とN₃にはどのような名詞類が現れるかを表すと次のようになる。

<表 81>N₂とN₃に翻訳された名詞類の項目(N₁が「人名詞」)

日本語			韓国語			
N ₂		N ₃	N ₂		N ₃	
1	1. 10事柄	1	1. 10事柄	1	1. 21家族	
2	1. 11類	2	1. 11類	2	1. 33生活	
3	1. 15作用	3	1. 12存在	3	1. 56身体	
4	1. 16時間	4	1. 13様相	4	1. 57生命	
5	1. 17空間	5	1. 14力		5	1. 33生活
6	1. 19量	6	1. 15作用			
7	1. 21家族	7	1. 16時間			
8	1. 22仲間	8	1. 17空間			
9	1. 23人物	9	1. 18形			
10	1. 24成員	10	1. 19量			
11	1. 25公私	11	1. 20人間			
12	1. 26社会	12	1. 21家族			
13	1. 27機関	13	1. 22仲間			
14	1. 30心	14	1. 24成員			
15	1. 31言語	15	1. 26社会			
16	1. 32芸術	16	1. 27機関			
17	1. 33生活	17	1. 30心			
18	1. 36待遇	18	1. 31言語			
19	1. 38事業	19	1. 32芸術			
20	1. 40物品	20	1. 33生活			
21	1. 42衣料	21	1. 40物品			
22	1. 43食料	22	1. 41資材			
23	1. 44住居	23	1. 42衣料			
24	1. 45道具	24	1. 42衣料			
25	1. 46機械	25	1. 44住居			
26	1. 50自然	26	1. 46機械			
27	1. 56身体	27	1. 47土地利用			
		28	1. 50自然			
		29	1. 51物質			
		30	1. 52天地			
		31	1. 56身体			

N₁が人名詞のとき、日本語の場合、N₂は27項目、N₃は31項目の名詞類が見られた。韓国語の場合、N₂は4項目、N₃は5項目の名詞類が見られた。国立国語研究所(2004)『分類語彙表』の「1体の類」は43項目の名詞類に分類されていて、「の」と「의」の2回現れる形式の3つの名詞の組み合わせに全ての項目が現れてもおかしくないと思えるが、この結果によると「の」と「의」の2回現れる名詞類は限定されると推測される。

次に「の」が3回現れる形式、即ち、4つの名詞が連結したものの翻訳形式を見ると、以下の<表 82>のようになる。

<表 82>N₁が「人名詞」の場合、「の」が3回現れる形式の翻訳形式

	「N ₁ のN ₂ のN ₃ のN ₄ 」の翻訳(J→K)		
	翻訳形式	回数(出現率)	
1	名詞+名詞+의+名詞+의+名詞	1	5.88%
2	名詞+의+名詞+名詞+名詞	2	11.76%
3	名詞+名詞+의+名詞+名詞	1	5.88%
4	その他	13	76.47%
	合計	17	100%

N₁が人名詞の場合、「N₁のN₂のN₃のN₄」の4つの名詞を全て用いて翻訳された翻訳形式として「名詞+名詞+의+名詞+의+名詞」「名詞+의+名詞+名詞+名詞」「名詞+名詞+의+名詞+名詞」が見られた。その用例は以下の<表 83>に表した。

<表 83> 「N₁のN₂のN₃のN₄」が対応し翻訳された形式(N₁が「人名詞」)

名詞+名詞+의+名詞+의+名詞	『分類語彙表』による分類
ぼくのなかの時間の残津 nae an <u>ui</u> sigan <u>ui</u> janjae	1. 20人間+1. 17空間+1. 16時間+1. 40物品
名詞+의+名詞+名詞+名詞	
相手の頭の回転の速度 sangdaeu <u>ui</u> dunoe hoejeon sogdo	1. 20人間+1. 56身体+1. 15作用+1. 19量
被害者のパソコンデスクの引き出しの中 pihaejau <u>ui</u> keompyuteo chaegsangseolab an	1. 23人物+1. 44住居+1. 45道具+1. 17空間
名詞+名詞+의+名詞+名詞	
あなたの高校時代の四人のお友だち ne godeunghaggyo sijeol <u>ui</u> ne chingu	1. 20人間+1. 16時間+1. 19量+1. 22仲間

「の」が3回現れる形式の4つの名詞が対応し、翻訳された形式の名詞類を見てもこれと言った特徴は見いだせない。

<表 84>N₁が「人名詞」の場合、「の」が4回現れる形式の翻訳形式

「N ₁ のN ₂ のN ₃ のN ₄ のN ₅ 」の翻訳(J→K)			
翻訳形式		回数(出現率)	
1	名詞+의+名詞+名詞+에+名詞	1	100%
合計		1	100%

<表 84>のようにN₁が人名詞の場合、「N₁のN₂のN₃のN₄」の5つの名詞が現れた用例が1例見つかったが、この用例は5つの名詞を全てに対応する韓国語の名詞を用いては翻訳されていなかった。この翻訳の用例を以下の表に示す。

<表 85> 「N₁のN₂のN₃のN₄のN₅」が対応し、翻訳された形式(N₁が「人名詞」)

名詞+의+名詞+名詞+에+名詞	『分類語彙表』による分類
彼の意識のキャビネットの未決の抽斗 geuui uisig sog seolyuhame migyeol	1. 20人間+1. 30心+1. 44住居+1. 30心+1. 44住居

「の」4回現れる形式の用例の連結した5つの名詞類を観察してもこれと言った特徴は見られない。

「の」が3回と4回現れる形式において名詞の連結には目立った特徴は見られなかった。だが、「の」の数が多くなるにつれて翻訳において連結される名詞が全て現れる可能性は低くなると見られる。

以上はN₁を人名詞に固定し、「の」と「의」が2回以上現れる形式を考察した。まず、「の」と「의」が2回現れる形式に現れた3つの名詞のN₂とN₃の組み合わせを分析した。

その結果、日本語は韓国語に比べて名詞の組み合わせが多様であることが分かった。また、日韓で N_2 と N_3 を比べたところ、韓国語は1項目を除いては日本語と一致していた。だが、日韓各々で N_2 と N_3 を比べたところ、日本語も韓国語も N_2 と N_3 が独自に現れる名詞類が観察できた。従って、日韓の3つの名詞の組み合わせには差異があると思われる。そして、「の」と「의」の翻訳においては2回現れる形式の場合、3つの名詞が現れて対応し、翻訳された用例を日韓で比較した結果、 N_2 に「1.56 身体」が位置するとお互い翻訳される特徴が見られた。「の」が3回、4回現れる形式ではこれと言った特徴は見いだせなかったが、「の」と「의」の数が多くなるにつれ、名詞が全て現れて翻訳される可能性は低くなる傾向があると思われる。

7.5 N_1 が「場所名詞」の場合

本節では N_1 が「場所名詞」の場合、「の」と「의」が2回以上現れる構造を分析する。まず、「 N_1 の N_2 の N_3 」（「の」2回現れる形式）と「 N_1 의 N_2 의 N_3 」（「의」2回現れる形式）の全てのデータの量は「 N_1 の N_2 の N_3 」が726例、「 N_1 의 N_2 의 N_3 」が33例であった。その中から N_1 が「場所名詞」である用例数は「 N_1 の N_2 の N_3 」が99例、「 N_1 의 N_2 의 N_3 」が2例である。従って、全てのデータ数に対し、「 N_1 の N_2 の N_3 」が13.63%、「 N_1 의 N_2 의 N_3 」が6.06%の出現率となる。また、「 N_1 の N_2 の N_3 の N_4 」（「の」3回現れる形式）の全てのデータの量は48例である。その中で、 N_1 が「場所名詞」である用例数は7例であった。従って、全てのデータ数に対し、「 N_1 の N_2 の N_3 の N_4 」が14.58%の出現率となる。一方、韓国語は該当例が見られなかった。これ以上の「の」と「의」が現れる形式は見られなかった。

まず、日韓の「の」と「의」が2回現れる構造を比較する。 N_1 は「場所名詞」と固定し、 N_2 と N_3 の組み合わせを表したのが<表 86>である。

<表 86> 「の」と「의」が2回現れる形式における「N₁+N₂+N₃」の組み合わせ(N₁は「場所名詞」)

日本語					韓国語				
N ₁		N ₂	N ₃	回数	N ₁		N ₂	N ₃	回数
場所名詞	1	1.13様相	1.30心	1	場所名詞	1	1.19量	1.17空間	1
		1.16時間	1.19量	1		2	1.24成員	1.32芸術	1
			1.50自然	1					
			1.52天地	1					
			1.17空間	4					
		1.17空間	1.18形	1					
			1.19量	1					
			1.24成員	1					
			1.25公私	2					
			1.26社会	4					
			1.41資材	1					
			1.44住居	4					
			1.45道具	1					
			1.47土地利用	1					
			1.50自然	1					
			1.52天地	2					
			1.18形	1.31言語	1				
				1.44住居	3				
			1.19量	1.20人間	1				
		1.21家族		1					
		1.36待遇		1					
		1.20人間	1.25公私	1					
			1.30心	1					
			1.44住居	1					
		1.21家族	1						
		1.22仲間	1.21家族	1					
			1.31言語	1					
		1.23人物	1.10事柄	1					
			1.25公私	1					
		1.24成員	1.17空間	1					
			1.21家族	1					
			1.24成員	1					
			1.31言語	1					
		1.25公私	1						
		1.26社会	1.17空間	2					
			1.21家族	3					
			1.24成員	1					
			1.33生活	1					
			1.35交わり	1					
			1.44住居	2					
			1.45道具	1					
		1.30心	1.16時間	1					
			1.26社会	1					
		1.31言語	1						
		1.32芸術	1.16時間	1					
			1.30心	1					
		1.33生活	1.13様相	1					
			1.16時間	2					
			1.31言語	1					
		1.35交わり	1						
		1.41資材	2						
		1.43食料	1						
		1.44住居	1.16時間	1					
			1.17空間	6					
			1.44住居	3					
			1.45道具	1					
			1.52天地	1					
		1.46機械	4						
		1.47土地利用	1.17空間	1					
			1.52天地	1					
			1.55動物	1					
		1.52天地	1.17空間	3					
			1.26社会	2					
			1.52天地	1					
		1.54植物	1.17空間	2					
			1.54植物	1					
				99					

日本語の場合、3つの名詞の組み合わせは66通り、韓国語の場合、3つの名詞の組み合わせは2通りが見られた。この3つの名詞の組み合わせの多様性を日本語と韓国語で比較するため、N₂とN₃に現れる名詞類を観察する。

日本語と韓国語のN₂とN₃に現れる名詞類をそれぞれ比較すると、以下のようになる。

〈表 87〉日韓のN₂とN₃の比較(N₁が「場所名詞」)

N ₂		N ₃	
日本語	韓国語	日本語	韓国語
1. 13様相		1. 10事柄	
1. 16時間		1. 11類	
1. 17空間		1. 13様相	
1. 18形		1. 16時間	
1. 19量	1. 19量	1. 17空間	1. 17空間
1. 20人間		1. 18形	
1. 21家族		1. 19量	
1. 22仲間		1. 20人間	
1. 23人物		1. 21家族	
1. 24成員	1. 24成員	1. 24成員	
1. 25公私		1. 25公私	
1. 26社会		1. 26社会	
1. 30心		1. 30心	
1. 31言語		1. 31言語	
1. 32芸術		1. 32芸術	1. 32芸術
1. 33生活		1. 33生活	
1. 35交わり		1. 35交わり	
1. 41資材		1. 36待遇	
1. 43食料		1. 41資材	
1. 44住居		1. 43食料	
1. 46機械		1. 44住居	
1. 47土地利用		1. 45道具	
1. 52天地		1. 47土地利用	
1. 54植物		1. 50自然	
		1. 52天地	
		1. 54植物	
		1. 55動物	

韓国語に現れるN₂とN₃は日本語に現れていることが確認できた。これは日本語の方が3つの名詞の連結において多様な組み合わせがあり、「の」が2回現れる形式が「의」が2回現れる形式より数が多く見られたことが原因であると考えられる。

次に、日本語においてN₂とN₃を比較し、N₂とN₃の差異について考察する。また、韓国語も同じく考察する。これを表にすると以下のようになる。

〈表 88〉日韓のN₂またはN₃のみに現れていた名詞類の比較(N₁が「場所名詞」)

日本語	N ₂	1. 22仲間	1. 23人物	1. 46機械			
	N ₃	1. 10事柄	1. 11類	1. 36待遇	1. 45道具	1. 50自然	1. 55動物
韓国語	N ₂	1. 19量	1. 24成員				
	N ₃	1. 17空間	1. 32芸術				

日本語のN₂とN₃を比較するとN₂に現れている「1. 22 仲間」「1. 23 人物」「1. 46 機械」

はN₃には現れていない。そして、N₃に現れている「1.10 事柄」「1.11 類」「1.36 待遇」「1.45 道具」「1.50 自然」「1.55 動物」はN₂には現れていない。韓国語のN₂とN₃を比較するとN₂に現れている「1.19 量」「1.24 成員」はN₃には現れていない。また、N₃に現れている「1.17 空間」「1.32 芸術」はN₂には現れていない。

日韓で比較するとN₂に現れた名詞類では共通する項目は見られなかった。N₃でも共通する項目は見られなかった。

日韓の「の」と「의」が2回現れる形式において3つの名詞の組み合わせは差異が見られ、類似した名詞の組み合わせは見られない。

以上から、日韓の「の」と「의」が2回現れる形式において韓国語のN₂とN₃は日本語にも対応するN₂、N₃が見られるものの、日本語でも韓国語でもN₂にしか表れない名詞があり、その部分に関しては日本語と韓国語の共通点はほとんど見られないことが分かった。

では、日韓の翻訳においてはどのような傾向が見られるかを考察する。まず、「の」と「의」が2回現れる形式における翻訳形式を<表 89>にまとめた。

<表 89>N₁が「場所名詞」の場合、「の」と「의」が2回現れる形式の翻訳形式

	「N ₁ のN ₂ のN ₃ 」の翻訳(J→K)			「N ₁ 의N ₂ 의N ₃ 」の翻訳(K→J)		
	翻訳形式	回数	(出現率)	翻訳形式	回数	(出現率)
1	名詞+의+名詞+의+名詞	0	0%	名詞+の+名詞+の+名詞	1	50.00%
2	名詞+의+名詞+名詞	26	26.26%	/		
3	名詞+名詞+의+名詞	15	15.15%			
4	名詞+名詞+名詞	28	28.28%			
5	その他	30	30.30%			
	合計	99	100%	その他	1	50.00%
				合計	2	100%

N₁が場所名詞の場合、「N₁のN₂のN₃」(J→K)の翻訳形式には「名詞+의+名詞+의+名詞」の例は見られなかった。「N₁의N₂의N₃」(K→J)の翻訳形式には「名詞+の+名詞+の+名詞」が見られた。「N₁のN₂のN₃」が名詞と名詞の間に全て「의」が介在して翻訳することは難しいようである。しかしながら、「N₁의N₂의N₃」は名詞と名詞の間に全て「の」が介在して翻訳される。従って、N₁が場所名詞における日本語の「の」が2回現れる形式が韓国語の「의」が2回現れる形式に翻訳される可能性は、韓国語の「의」が2回現れる形式が日本語の「の」が2回現れる形式に翻訳される可能性より低いと思われる。

これらの翻訳形式の用例の一部を表したのが<表 90>である。

<表 90> 「N₁のN₂のN₃」と「N₁의N₂의N₃」が対応し翻訳された形式(N₁が「場所名詞」)

名詞+の+名詞+名詞		『分類語彙表』による分類	「名詞+の+名詞+の+名詞」		『分類語彙表』による分類
家の蛍光灯の下	jibui hyeonggwangdeung alae	1.25公私+1.46機械+1.17空間	jigusangui daebubunui	地球上のほとんどの地域	1.52天地+1.19量+1.17空間
家庭の晩飯の席	gajeongui jeonyeog sigsa jali	1.25公私+1.43食料+1.17空間			
博多の両親の家	hakataui bumonim mit	1.25公私+1.21家族+1.25公私			
博多湾の埠頭の一角	hakata manui budu han gwitungi	1.25公私+1.26社会+1.17空間			
美家の豆腐屋の仕事	bongauui dubu gage il	1.25公私+1.26社会+1.33生活			
秋田市内のショッピング・センターの屋上	akita sinaeuui han syopingsenteo ogsang	1.25公私+1.26社会+1.17空間			
城山の木々のあいだ	siloyamaui namudeul sai	1.25公私+1.54植物+1.17空間			
自由が丘のワン・ベッドルームのマンション	jiyugaokauui wonlum apateu	1.25公私+1.44住居+1.44住居			
南青山のビルの地下	minamiaoyamaui bilding jiha	1.25公私+1.44住居+1.52天地			
九州の山中の温泉	gyusyuuui sansog oncheon	1.25公私+1.52天地+1.52天地			
藤川薬局のご主人の奥さん	hujikawa yaggugui yagsa ajeossi buin	1.26社会+1.22仲間+1.21家族			
道ばたの夏草の中	gilgauui yeoleumpul sog	1.47土地利用+1.54植物+1.17空間			
高台の海岸線の近く	dakadajui haeanseon geuncheo	1.52天地+1.17空間+1.17空間			
名詞+名詞+の+名詞		『分類語彙表』による分類			
博多の産婦人科病院の長男	hakata sanbungwa byeongwonui jangnam	1.25公私+1.26社会+1.21家族			
取り引き先の人たちの笑顔	geolaecheo salamdeului usneum eolgul	1.26社会+1.20人間+1.30心			
コンビニの店内の空気	pyeonijjeom anui gonggi	1.26社会+1.17空間+1.50自然			
店の入り口の引き戸	gage ibguui midadimun	1.26社会+1.18形+1.44住居			
企業の規格競争の餌食	gieob gan gyusyegog gyeongjaengui meogi	1.26社会+1.35交わり+1.43食料			
小屋の入口の引き戸	odumag ibguui yeodadimun	1.26社会+1.18形+1.44住居			
アパートの向かいの果物屋	yeonlibjutaeg majeunpyeonui gwailgage	1.44住居+1.17空間+1.26社会			
バルコニーの下の地面	balkoni alaeui jimyeon	1.44住居+1.17空間+1.52天地			
マンションの管理人の情報	apateu gwanliimui jeongbo	1.44住居+1.24成員+1.31言語			
広場のそばの北門	gwangjang yeopui bugmun	1.47土地利用+1.17空間+1.44住居			
校庭の隅の登り棒	gyojeong guseogui bong	1.47土地利用+1.17空間+1.41資材			
自宅の広接室のピアノ	jib eungjeobsilui piano	1.44住居+1.44住居+1.45道具			
名詞+名詞+名詞		『分類語彙表』による分類			
マクドナルドの床の上	maegdoneoldeu badag wi	1.25公私+1.17空間+1.17空間			
弘前城の跡地の公園	hilosaki seongteo gongwon	1.25公私+1.52天地+1.26社会			
通りの向こうの家	geoli majeunpyeon jib	1.25公私+1.17空間+1.25公私			
田舎の食堂の親父	sigol sigdang juin	1.25公私+1.26社会+1.21家族			
仕事場の同僚の話	jigjang donglyo iyagi	1.26社会+1.22仲間+1.31言語			
事務所の奥の机	samusil anjog chaegsang	1.26社会+1.17空間+1.44住居			
幼稚園の鉄柵の向こう	yuchiwon ulti neomeo	1.26社会+1.47土地利用+1.17空間			
店の前の通り	gage ap geoli	1.26社会+1.17空間+1.25公私			
高校の修学旅行の際	godeunghaggyo suhagyeohaeng ttae	1.26社会+1.33生活+1.16時間			
部屋の奥のカーテン	bang anjog keoteun	1.44住居+1.17空間+1.44住居			
洗面所の鏡の前	yogsil geoul ap	1.44住居+1.46機械+1.17空間			
台所のビニールタイルの上	bueok binil jangpan wi	1.44住居+1.41資材+1.17空間			
駐車場の塀のむこう	juchajang dam neomeo	1.47土地利用+1.44住居+1.17空間			

日韓が対応し翻訳された形式において「N₂」と「N₃」の名詞類が共通する用例は見られなかった。このうち「N₂」と「N₃」にはどのような名詞類が現れるかを<表 91>に示した。

<表 91> N₂とN₃に翻訳された名詞類の項目(N₁が「場所名詞」)

日本語		韓国語	
N ₂	N ₃	N ₂	N ₃
1 1.16時間	1 1.16時間	1 1.19量	1 1.17空間
2 1.17空間	2 1.17空間		
3 1.18形	3 1.18形		
4 1.19量	4 1.19量		
5 1.20人間	5 1.20人間		
6 1.21家族	6 1.21家族		
7 1.22仲間	7 1.24成員		
8 1.24成員	8 1.25公私		
9 1.25公私	9 1.26社会		
10 1.26社会	10 1.30心		
11 1.30心	11 1.31言語		
12 1.32芸術	12 1.33生活		

13	1.33生活	13	1.35交わり
14	1.35交わり	14	1.41資材
15	1.41資材	15	1.43食料
16	1.43食料	16	1.44住居
17	1.44住居	17	1.45道具
18	1.46機械	18	1.47土地利用
19	1.47土地利用	19	1.50自然
20	1.52天地	20	1.52天地
21	1.54植物		

N₁が場所名詞のとき、日本語の場合、N₂は21項目、N₃は20項目の名詞類が見られた。韓国語の場合、N₂は1項目、N₃は1項目の名詞類が見られた。国立国語研究所(2004)『分類語彙表』の「1体の類」は43項目の名詞類に分類されていて、「の」と「의」が2回現れる形式の3つの名詞の組み合わせに全ての項目が現れてもおかしくないと思えるが、〈表91〉の結果によると現れる名詞類は限定されると思われる。

次に「の」が3回現れる形式、即ち、4つの名詞が連結したものの翻訳形式を見ると、以下の〈表92〉のようになる。

〈表92〉N₁が「場所名詞」の場合、「の」が3回現れる形式の翻訳形式

「N ₁ のN ₂ のN ₃ のN ₄ 」の翻訳(J→K)			
翻訳形式		回数(出現率)	
1	名詞+名詞+의+名詞+名詞	2	28.57%
2	名詞+의+名詞+名詞+名詞	1	14.29%
3	その他	4	57.14%
合計		7	100%

N₁が「場所名詞」の場合、「N₁のN₂のN₃のN₄」の4つの名詞を全て用いて翻訳された翻訳形式には「名詞+名詞+의+名詞+名詞」「名詞+의+名詞+名詞+名詞」が見られた。これらの用例は「N₁のN₂のN₃のN₄」が対応し翻訳された用例である。その用例は以下の〈表93〉に表した。

〈表93〉「N₁のN₂のN₃のN₄」が対応し翻訳された形式(N₁が「場所名詞」)

名詞+名詞+의+名詞+名詞		『分類語彙表』による分類
アパートの向かいの果物屋の主人	yeonlibjutaeg majeunpyeonui gwailgage juin	1.44住居+1.17空間+1.26社会+1.22仲間
厨房の手前の冷蔵庫の上	jubang balo apui naengjanggo wi	1.44住居+1.17空間+1.46機械+1.17空間
名詞+의+名詞+名詞+名詞		『分類語彙表』による分類
最勝院の五重塔の下のベンチ	saisyoinui ocheung tab alae benchi	1.25公私++1.17空間+1.17空間+1.44住居

「の」が3回現れる形式の4つの名詞が対応し翻訳された形式において「名詞+名詞+의+名詞+名詞」翻訳形式ではN₂が「1.17空間」であった。これ以外はこれと言った特

徴は見いだせない。しかし、「の」の数が多くなるにつれて翻訳において連結される名詞が全て現れる可能性は低くなると見られた。一方、 N_1 が「場所名詞」の場合、「 N_1 の N_2 の N_3 の N_4 の N_5 」の5つの名詞が現れた用例は見られなかった。

以上は N_1 を場所名詞に固定し、「の」と「의」が2回以上現れる形式を考察した。まず、「の」と「의」が2回現れる形式に現れた3つの名詞の N_2 と N_3 の組み合わせを分析した。その結果、日本語は韓国語に比べて名詞の組み合わせが多様であることが分かった。また、日韓で N_2 と N_3 を比べたところ、韓国語の N_2 と N_3 は日本語の N_2 と N_3 と一致していた。だが、日韓各々 N_2 と N_3 を比べたところ、日本語も韓国語も N_2 と N_3 が独自に現れる名詞類が観察できた。従って、日韓の3つの名詞の組み合わせには差異があると思われる。そして、翻訳において「の」と「의」が2回現れる形式の場合、3つの名詞が現れて対応し、翻訳された用例を日韓で比較した結果、これと言った特徴は見られなかった。さらに、「の」が3回現れる形式でもこれと言った特徴は見いだせなかったが、「の」と「의」の数が多くなるにつれ、名詞が全て現れて翻訳される可能性は低くなる傾向にあることと思われる。

7.6 N_1 が「物名詞」の場合

本研究のデータでは N_1 が「物名詞」の場合、「의」が2回以上現れる構造は1例も見られなかった。従って、本節では N_1 が「物名詞」の場合、「の」が2回以上現れる構造のみ分析する。まず、「 N_1 の N_2 の N_3 」（「の」2回現れる形式）の全てのデータの量は「 N_1 の N_2 の N_3 」が726例であった。その中から N_1 が「物名詞」である用例数は「 N_1 の N_2 の N_3 」が64例である。従って、全てのデータ数に対し、「 N_1 の N_2 の N_3 」が8.82%の出現率となる。また、「 N_1 の N_2 の N_3 の N_4 」（「の」3回現れる形式）の全てのデータの量は48例である。その中で、 N_1 が「物名詞」である用例数は3例であった。従って、全てのデータ数に対し、「 N_1 の N_2 の N_3 の N_4 」が6.25%の出現率となる。これ以上の「の」が現れる形式は見られなかった。

まず、「の」が2回現れる形式を見る。 N_1 は「物名詞」に固定し、 N_2 と N_3 の組み合わせを表したのが<表 94>である。

〈表 94〉「の」が 2 回現れる形式における「N₁+N₂+N₃」の組み合わせ(N₁は「物名詞」)

日本語				
N ₁		N ₂	N ₃	回数
物名詞	1	1.17空間	1 1.11類	1
			2 1.15作用	1
			3 1.17空間	17
			4 1.19量	1
			5 1.20人間	2
			6 1.21家族	1
			7 1.23人物	2
			8 1.30心	1
			9 1.31言語	2
			10 1.32芸術	1
			11 1.40物品	2
			12 1.41資材	3
			13 1.42衣料	3
	2	1.18形	14 1.42衣料	1
			15 1.43食料	2
	3	1.19量	16 1.44住居	2
	4	1.20人間	17 1.44住居	1
	5	1.31言語	18 1.45道具	1
	6	1.41資材	19 1.45道具	1
	7	1.42衣料	20 1.45道具	2
			21 1.46機械	2
	8	1.43食料	22 1.46機械	1
	9	1.44住居	23 1.46機械	1
	10	1.45道具	24 1.46機械	1
			25 1.50自然	3
			26 1.51物質	1
			27 1.52天地	1
	11	1.46機械	28 1.55動物	4
			29 1.56身体	1
	12	1.50自然	30 1.56身体	1
	13	1.56身体	31 1.56身体	1
				64

3つの名詞の組み合わせは 31 通りが見られた。この 3つの名詞の組み合わせの多様性を N₂と N₃に現れる名詞類をしてみる。日本語において N₂と N₃のを比較し、N₂と N₃の出現について考察する。

〈表 95〉日本語の N₂または N₃のみに現れていた名詞類の比較(N₁が「物名詞」)

日本語	N ₂	1.18形	1.19量											
	N ₃	1.11類	1.15作用	1.21家族	1.23人物	1.30心	1.32芸術	1.40物品	1.42衣料	1.51物質	1.52天地	1.55動物	1.56身体	

日本語の N₂と N₃を比較すると N₂に現れている「1.18 形」「1.19 量」は N₃には現れていない。そして、N₃に現れている「1.11 類」「1.15 作用」「1.21 家族」「1.23 人物」「1.30 心」「1.32 芸術」「1.40 物品」「1.42 衣料」「1.51 物質」「1.52 天地」「1.55 動物」「1.56 身体」は N₂には現れていない。この結果、N₂と N₃に現れる名詞には重なるものがないことが分かった。

では、日本語の翻訳(J→K)においてはどのような傾向が見られるかを考察する。「の」

が2回現れる形式における翻訳形式を<表 96>にまとめた。

<表 96>N₁が「物名詞」の場合、「の」が2回現れる形式の翻訳形式

「N ₁ のN ₂ のN ₃ 」の翻訳(J→K)			
	翻訳形式	回数(出現率)	
1	名詞+의+名詞+의+名詞	0	0%
2	名詞+의+名詞+名詞	6	9.38%
3	名詞+名詞+의+名詞	15	23.44%
4	名詞+名詞+名詞	16	25.00%
5	その他	27	42.19%
	合計	64	100%

N₁が「物名詞」の場合、「N₁のN₂のN₃」(J→K)の翻訳形式には「名詞+의+名詞+의+名詞」の例は見られなかった。「N₁のN₂のN₃」が名詞と名詞の間に全て「의」が介在して翻訳することは難しいようである。これらの翻訳形式の用例の一部を表したのが<表 97>である。

<表 97>「N₁のN₂のN₃」が対応し翻訳された形式(N₁が「物名詞」)

名詞+의+名詞+名詞		『分類語彙表』による分類
コルク栓の頭の部分	koleukeu magaeui meoli bubun	1.45道具+1.17空間+1.17空間
スーツの尻のあたり	yangbogui eongdeongi bugeun	1.42衣料+1.56身体+1.17空間
愛車の助手席の扉	aecha jaegyueoui josuseog mun	1.46機械+1.17空間+1.44住居
名詞+名詞+의+名詞		『分類語彙表』による分類
小瓶の中の青酸カリ	byeong anui cheongsangali	1.45道具+1.17空間+1.51物質
ボトルの中のワイン	byeong anui wain	1.45道具+1.17空間+1.43食料
受話器の向こうの父	suhwagi jeopyeonui abeoji	1.46機械+1.17空間+1.21家族
冷蔵庫の中のツマミ	naengjanggo anui anjugeoli	1.46機械+1.17空間+1.43食料
眼鏡の奥の陣	angyeong alaeui nundongja	1.46機械+1.17空間+1.56身体
テーブルの上のティーカップ	teibeul wiui chasjan	1.45道具+1.17空間+1.45道具
名詞+名詞+名詞		『分類語彙表』による分類
文具のコーナーの前	mungu koneo ap	1.45道具+1.17空間+1.17空間
旅行バッグの中のもの	yeohaeng gabang sog naeyongmul	1.45道具+1.17空間+1.40物品
ボトルの口の部分	byeong judungi bubun	1.45道具+1.45道具+1.17空間
人形のカタチの瓶	inhyeong moyang byeong	1.45道具+1.18形+1.45道具
眼鏡の奥の目	angyeong neomeo nun	1.46機械+1.17空間+1.56身体
ラジオの向こうの一矢	ladio neomeo kajeuya	1.46機械+1.17空間+1.23人物

この内、「N₂」と「N₃」にはどのような名詞類が現れるかを<表 98>に示した。

<表 98>N₂とN₃に翻訳された名詞類の項目(N₁が「物名詞」)

日本語			
N ₂		N ₃	
1	1. 17空間	1	1. 11類
2	1. 18形	2	1. 17空間
3	1. 19量	3	1. 21家族
4	1. 42衣料	4	1. 23人物
5	1. 45道具	5	1. 31言語
6	1. 46機械	6	1. 40物品
7	1. 56身体	7	1. 41資材
		8	1. 42衣料
		9	1. 43食料
		10	1. 44住居
		11	1. 45道具
		12	1. 46機械
		13	1. 51物質
		14	1. 52天地
		15	1. 55動物
		16	1. 56身体

N₁が物名詞において日本語の場合、N₂は7項目、N₃は16項目の名詞類が見られた。国立国語研究所(2004)『分類語彙表』の「1体の類」は43項目の名詞類に分類されていて、「の」が2回現れる形式の3つの名詞の組み合わせに全ての項目が現れてもおかしくないと思えるが、<表 98>の結果によると現れる名詞類は限定されると思われる。

次は「の」が3回現れる形式の翻訳形式を見ると、以下の<表 99>のようになる。

<表 99>N₁が「物名詞」の場合、「の」が3回現れる形式の翻訳形式

「N ₁ のN ₂ のN ₃ のN ₄ 」の翻訳(J→K)			
翻訳形式		回数(出現率)	
1	名詞+名詞+の+名詞+名詞	1	33.33%
2	その他	2	66.67%
合計		3	100%

N₁が「物名詞」の場合、「N₁のN₂のN₃のN₄」の4つの名詞を全て用いて翻訳された翻訳形式には「名詞+名詞+の+名詞+名詞」が見られた。この用例は「N₁のN₂のN₃のN₄」が対応し翻訳された用例である。その用例を以下の<表 100>に表した。

<表 100>「N₁のN₂のN₃のN₄」が対応し翻訳された形式(N₁が「物名詞」)

名詞+名詞+の+名詞+名詞		『分類語彙表』による分類	
テーブルの上の空っぽのお皿	teibeul wiui bin jeobsi	1. 45道具+1. 17空間+1. 17空間+1. 45道具	

「の」が3回現れる形式の4つの名詞が対応し翻訳された形式においてこれと言った特

徴は見いだせない。しかし、「の」の数が多くなるにつれて翻訳において連結される名詞が全て現れる可能性は低くなると見られた。一方、 N_1 が「物名詞」の場合、「 N_1 の N_2 の N_3 の N_4 の N_5 」の5つの名詞が現れた用例は見られなかった。

以上は N_1 を「物名詞」に固定し、「の」が2回以上現れる形式を考察した。この N_1 が「物名詞」の場合、「의」の用例は見られなかったので日本語と韓国語の比較はできなかった。

「の」が2回現れる形式に現れた3つの名詞の N_2 と N_3 を比べたところ、重なるものがない。さらに、「の」が3回現れる形式でもこれと言った特徴は見いだせなかったが、「の」の数が多くなるにつれ、名詞が全て現れて翻訳される可能性は低くなく傾向にあることと思われる。

7.7 おわりに

本章では、「の」と「의」が2回以上現れる形式はどのような名詞類により連結しているかの傾向を分析した。この名詞類の分類は国立国語研究所(2004)『分類語彙表』に従い分類した。原作の「の」と「의」が2回以上現れる形式により、連結される名詞類は日韓でも共通なものが見られるか、または違うかを探った。また、「の」と「의」が2回以上現れる形式の翻訳形式はどのように現れるかを見た。その結果、原作の「の」と「의」の2回現れる形式では連結する3つの名詞類が共通のものが4種見られた。それを山梨(2004)が挙げた「連鎖的所有表現」と「入れ子式所有表現」に分類できるか検証した結果、「の」と「의」が2回以上現れる形式はこれだけでは分類しきれないと見られた。そのため、より詳細に「の」と「의」が2回以上現れる形式を分析することが望ましいと思われた。さらに、「の」と「의」が2回、3回、4回現れる形式がどのように翻訳されているかを見た。「の」と「의」が現れる数が多くなるにつれ、対応し翻訳される可能性は低くなる傾向が見られた。即ち、「の」と「의」が2回、3回、4回現れる形式は数が増えるほど翻訳されにくいと思われる。

また、 N_1 を「人名詞」、「場所名詞」、「物名詞」に固定し、再分類を行い考察した。

N_1 が「人名詞」の場合、まず、日韓共に現れた「の」と「의」が2回現れる形式の3つの名詞の連結について分析した。その結果、日韓の N_2 と N_3 に現れる名詞類を比較したところ、韓国語の N_2 と N_3 は1項目を除いては日本語の N_2 と N_3 にほとんど含まれることが確認された。だが、日本語の N_2 と N_3 に現れる名詞類を比較、また、韓国語の N_2 と N_3 に現れる名詞類を比較した結果、日韓の「の」と「의」が2回以上現れる形式による名詞の連結には独自の傾向が見られた。そして、「の」と「의」が2回現れる形式において3つの名詞の連結の翻訳において対応し翻訳された形式を見ると、 N_2 に「1.56 身体」の名

詞類が位置すると日韓共に翻訳されるという特徴が見られた。これ以外は「の」と「의」が2回以上現れる形式では翻訳することが難しいと推測される。そして、 N_2 と N_3 が翻訳された名詞類は日韓共に限定されることが見られた。「の」が3、4回現れ連結された名詞についてはこれといった特徴は見られなかった。

次に、 N_1 が「場所名詞」の場合、まず、日韓共に現れた「の」と「의」の2回現れる形式において3つの名詞の連結について分析した。その結果、日韓の N_2 と N_3 に現れる名詞類を比較したところ、韓国語の N_2 と N_3 は日本語の N_2 と N_3 に全て含まれることが確認できた。だが、日本語の N_2 と N_3 に現れる名詞類を比較、また、韓国語の N_2 と N_3 に現れる名詞類を比較した結果、日韓の「の」と「의」が2回以上現れる形式による名詞の連結には独自の傾向が見られた。そして、「の」と「의」の2回現れる形式の3つの名詞の連結の翻訳において対応し翻訳された形式を見たが、これと言った特徴は見られなかった。そして、 N_2 と N_3 が翻訳された名詞類は日韓共に限定されることが見られた。「の」の3回現れ連結された名詞についてはこれといった特徴は見られなかった。

次に、 N_1 が「物名詞」の場合、「의」が2回以上現れる形式は本研究のデータからは1例も見つからなかった。従って、 N_1 が「物名詞」の場合、「の」が2回以上現れる形式のみ分析した。まず、日本語の N_2 と N_3 に現れる名詞類を比較した結果、「の」が2回現れる形式による名詞の連結には重なるものがなかった。そして、「の」が2回現れる形式の3つの名詞の連結の翻訳において対応し翻訳された形式を見たが、これと言った特徴は見られなかった。また、 N_2 と N_3 が翻訳された名詞類は限定されることが見られた。「の」の3回現れ連結された名詞についてはこれといった特徴は見られなかった。

第6章では、「 N_1 の N_2 」と「 N_1 의 N_2 」が「名詞+(의)+名詞」と「名詞+の+名詞」に翻訳されていない部分について、 N_1 と N_2 の意味関係に直接起因すると思われる場合を分析し、「 N_1 の N_2 」と「 N_1 의 N_2 」が「名詞+(의)+名詞」と「名詞+の+名詞」に翻訳された用例と比較を行い考察した。しかしながら、「の」と「의」により連結する名詞が3つ、4つになると意味関係を把握することが困難である。このような理由で本章では「の」と「의」により連結した名詞の意味関係を分析することができなかった。

以上、全体の「の」と「의」が2回以上現れる形式を日韓で対照した。日韓其々8冊ずつ、文学作品の資料から得たデータであるが、日本語の「の」が2回以上現れる形式と韓国語の「의」が2回以上現れる形式はかなり異なっていた。

「の」と「의」が2回以上現れる形式は日本語と韓国語の各々が独自の名詞の組み合わせを持っていることが分かった。従って、対応し翻訳されることが難しいと推察される。ただし、 N_1 が「人名詞」の場合、「の」と「의」が2回現れる形式の3つの名詞の連結の翻訳において N_2 に「1.56 身体」の名詞類が位置すると日韓共に翻訳されるという特徴が見られた。

第8章 結論

本章では本研究の結論として、まず、8.1 では、各章の主要な内容をまとめる。特に、本研究で注目した「 N_1 の N_2 」と「 N_1 의 N_2 」の翻訳における「動詞化」、「 N_1 の N_2 」と「 N_1 의 N_2 」の N_1 と N_2 の表れ、意味関係、「の」と「의」が2回以上現れる形式に関して分かったことを具体的に述べる。8.2 では、本研究の総合考察を述べる。8.3 では、今後の課題について述べる。

8.1 各章のまとめ

本研究は、日本語と韓国語の文学作品を使い、原作と翻訳から得たデータを基に「 N_1 の N_2 」と「 N_1 의 N_2 」の翻訳形式を提示し、まず、「動詞化」について特徴を探り、どのような動詞が使われるか、また、どのような共通する動詞化タイプがあるか、日韓で動詞化される要因には特徴があるかを把握した。

本研究は「の」と「의」によって連結した名詞を日本語と韓国語で比較するため、共通の尺度として、国立国語研究所(2004)『分類語彙表』を用いて名詞類を分類した。そこから、日本語と韓国語の原作から見られた特徴を日本語と韓国語への翻訳と照らし合わせて現れる傾向を見た。また、「の」と「의」が2回以上現れる形式は理論上、無限に「左枝分かれ構文」の生成が可能であることが共通の特徴である。この「の」と「의」が2回以上現れる形式においても日本語と韓国語で比較するため、名詞類を分類して「の」と「의」によって連結される名詞の組み合わせについて特徴を探った。

第1章では、このような研究の背景および目的と方法について述べた。

第2章では、「の」と「의」の研究および「の」と「의」の対照研究、名詞の動詞化、「の」と「의」が2回以上現れる形式に関する先行研究を検討し、そこから見られた問題点や課題、本研究の意義について述べた。既存の「の」と「의」の対照研究では日本語から見て韓国語はどのように対応するかの研究が主流であって、本研究のように量的データから日本語と韓国語の原作における N_1 と N_2 の表れ、また、「 N_1 の N_2 」と「 N_1 의 N_2 」の翻訳、さらに原作の翻訳を総合して「の」と「의」の対照を行った研究は無いに等しい点、「 N_1 の N_2 」と「 N_1 의 N_2 」の「動詞化」においてどのような動詞が使われているか、また、動詞化タイプの特徴について見た点、さらに、「の」と「의」が2回以上現れる形式において連結された名詞の組み合わせについて考察した点等にその意義があると主張した。

第3章では、本研究で使う調査資料とデータの分類基準、本研究の名詞を分類した標本の『分類語彙表』等について述べた。3.5 では本研究で収集した全体のデータである

「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の翻訳形式について各翻訳形式ごとに説明を加えた。

第4章は、3.5の全体のデータの中で目についた動詞を用いて翻訳された「動詞化」翻訳形式に注目し、どのような場合「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の翻訳が「動詞化」として現れるか、その特徴は何かについて明らかにすることが目的である。この「動詞化」をさらに類型化し、「N₁のN₂」の「動詞化」翻訳形式の129例と「N₁의N₂」の「動詞化」翻訳形式の366例をタイプ別にまとめた。この動詞化のタイプには「の」と「의」以外の格助詞と動詞との組み合わせであることが目立った。さらに、「N₁のN₂」の翻訳(J→K)と「N₁의N₂」の翻訳(K→J)の動詞化で使われた動詞を提示した。その結果、日韓で意味的に対応する動詞が10種確認できた。だが、「N₁のN₂」の翻訳(J→K)の方が「N₁의N₂」の翻訳(K→J)に比べて用例が多いことも原因と見えるが、多様な動詞が使われていた。従って、「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の動詞化では使われた動詞の多様性に差があるように見えた。一方、動詞化を類型化した結果、「N₁のN₂」の翻訳(J→K)と「N₁의N₂」の翻訳(K→J)に共通する動詞化タイプが6種あった。これをタイプ別に「N₁のN₂」の翻訳(J→K)と「N₁의N₂」の翻訳(K→J)を比較して使われた動詞はなにか、また、特徴があるかを考察した。

まず、「名詞+에(e)+動詞+名詞」と「名詞+に+動詞(+名詞)」の動詞化タイプでは意味的に対応する動詞が3種あり、翻訳率の大小を不等号を使いそれを示せば、「있다(ある/いる)」>「ある/いる」、「하다(する)」<「(する)」、「붙다(付く)」<「付く」である。この動詞化タイプの特徴は、いわゆる場所を表す名詞が主に使われたことである。

次に、「名詞+가/이+動詞(+名詞)」と「名詞+が+動詞(+名詞)」の動詞化タイプでは意味的に対応する動詞が3種あり、翻訳率の大小を不等号を使いそれを示せば、「하다(する)」>「する」、「있다(ある/いる)」>「ある」、「죽다(死ぬ)」<「死ぬ」である。この動詞化タイプの特徴は、「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の原作のN₂が動的な意味を持つという共通したものが見られた。

次に、「名詞+의+動詞+名詞」と「名詞+の+動詞(+名詞)」の動詞化タイプでは意味的に対応する動詞が1種あり、翻訳率の大小を不等号を使いそれを示せば、「하다(する)」>「する」である。この動詞化タイプにおいては共通する特徴が見られなかった。

次に、「名詞+을/를+動詞(+名詞)」と「名詞+を+動詞(+名詞)」の動詞化タイプでは意味的に対応する動詞が1種あり、翻訳率の大小を不等号を使いそれを示せば、「하다(する)」<「する」である。この動詞化タイプの特徴は、「N₁의N₂」の原作のN₁とN₂自体で意味関係が把握できる。だが、「N₁のN₂」の翻訳(J→K)の場合は原作のN₁とN₂自体で意味関係が把握できるものは少なく、文脈によって多様に仕分けられるのでは

ないかと思われた。

次に、「動詞＋名詞」の動詞化タイプでは意味的に対応する動詞が1種あり、翻訳率の大小を不等号を使いそれを示せば、「하다(する)」>「する」である。この動詞化タイプの特徴として日本語と韓国語の名詞がほぼ原作と同じ意味で翻訳され、しかも、漢語系の名詞が多く見られた。

次に、「名詞＋動詞＋名詞」の動詞化タイプでは意味的に対応する動詞はなかった。この動詞化タイプの特徴は、「X(名詞)というY(名詞)」という表現が使われていた。

「N₁のN₂」の翻訳(J→K)と「N₁의N₂」の翻訳(K→J)に共通する動詞化タイプ別に比較した結果、意味的に対応する動詞が使われて、かつ、共通する特徴も見受けられた。だが、その翻訳率を比較すると同様ではないことが分かった。

一方、一見翻訳された形は対応しているように見えるが、実際用例を見ると日本語と韓国語では用法が異なっているものが見られた。「N₁의N₂」の翻訳(K→J)の動詞化タイプの「名詞＋に＋動詞(＋名詞)」では、受身的表現を使い、N₁がいわば主語に分類される翻訳が多く見られた。また、「名詞＋の＋動詞(＋名詞)」動詞化タイプもいわゆる主格の「の」の役割をするものがほとんどであった。従って、「N₁의N₂」の翻訳(K→J)の動詞化タイプの多くは主語を用いて翻訳されると思われる。そして、「N₁의N₂」の翻訳(K→J)の動詞化タイプには「N₁의N₂」の原作におけるN₂が動的な意味を表す名詞が多く見られた。即ち、「N₁의N₂」(K→J)の翻訳の動詞化はある程度、特徴が見られた。しかしながら、「N₁のN₂」の翻訳(J→K)の動詞化は多様で纏まった特徴が見られない。従って、「N₁のN₂」の翻訳(K→J)の動詞化タイプは文脈によって多様に仕分けられるのではないかと思われる。

第5章では、日本語と韓国語のN₁とN₂の組み合わせという側面から、「の」と「의」で結びつけられる名詞の違いを考察した。本研究の全体のデータから「N₁のN₂」と「N₁의N₂」のN₁名詞類を大きく「人名詞」、「場所名詞」、「物名詞」に分類し、N₂を国立国語研究所(2004)『分類語彙表』に基づき分類した。これに従って、原作での「N₁のN₂」と「N₁의N₂」のN₁とN₂の表れを見た。ここで、日韓の出現率を比較した結果、差が見られた。また、「N₁のN₂」と「N₁의N₂」の翻訳形式の翻訳率を出した。これから、原作と翻訳形式を照らし合わせてN₁とN₂の結ばれ易さ、結ばれ難さについて考察した。

「の」と「의」により結びつけられる名詞に差が生じるかについて考察した。その結果、N₁が「場所名詞」のとき、日本語においては「場所名詞」と「1.14 力」「1.57 生命」が連結されない傾向にあり、韓国語においては「場所名詞」と「1.12 存在」「1.14 力」が連結されない傾向にあると思われる。これらの項目は、おそらく「場所名詞」と連結する可能性は低いと示唆される。また、N₁が「物名詞」のとき、日本語においては「物名詞」と「1.10 事柄」「1.12 存在」「1.25 公私」「1.35 交わり」「1.36 待遇」「1.53 生物」「1.55 動物」が連結されない傾向にあり、韓国語においては「物名詞」と「1.10 事柄」「1.12 存在」「1.25

公私」「1.35 交わり」「1.36 待遇」「1.53 生物」「1.55 動物」が連結されない傾向にあると思われる。これらの項目は、おそらく「物名詞」と連結する可能性は低いと示唆される。

また、「 N_1 の N_2 」と「 N_1 의 N_2 」の原作と翻訳を照らし合わせた結果、 N_1 が「人名詞」のときの N_1 と N_2 の難易度は、韓国語で「人名詞」と結びつき易いと考えられるものは、「1.15 作用」「1.35 交わり」である。韓国語で「人名詞」と結びつき難いと考えられるものは、「1.17 空間」「1.23 人物」「1.24 成員」「1.27 機関」である。日本語で「人名詞」と結びつき易いと考えられるものは、「1.11 類」「1.17 空間」「1.27 機関」「1.24 成員」「1.44 住居」「1.45 道具」「1.46 機械」である。日本語で「人名詞」と結びつき難いと考えられるものは、「1.10 事柄」「1.15 作用」「1.18 形」「1.35 交わり」「1.54 植物」である。

N_1 が「場所名詞」のときの N_1 と N_2 の難易度は、韓国語で「場所名詞」と結びつき易いと考えられるものは、「1.13 様相」「1.15 作用」「1.19 量」「1.30 心」「1.32 芸術」「1.52 天地」「1.54 植物」である。韓国語で「場所名詞」と結びつき難いと考えられるものは、「1.12 存在」「1.13 様相」「1.26 社会」「1.32 芸術」「1.35 交わり」「1.38 事業」「1.40 物品」「1.43 食料」「1.54 植物」である。日本語で「場所名詞」と結びつき易いと考えられるものは、「1.13 様相」「1.17 空間」「1.18 形」「1.26 社会」「1.32 芸術」「1.54 植物」である。日本語で「場所名詞」と結びつき難いと考えられるものは、「1.15 作用」「1.16 時間」「1.22 仲間」「1.30 心」「1.32 芸術」「1.33 生活」「1.50 自然」「1.51 物質」「1.52 天地」「1.53 生物」である。

N_1 が「物名詞」のときの N_1 と N_2 の難易度は、韓国語で「物名詞」と結びつき易いと考えられるものは、「1.11 類」「1.14 力」「1.18 形」「1.40 物品」である。韓国語で「物名詞」と結びつき難いと考えられるものは、「1.20 人間」「1.21 家族」「1.22 仲間」「1.23 人物」「1.30 心」「1.32 芸術」「1.33 生活」「1.51 物質」「1.52 天地」「1.54 植物」「1.56 身体」である。日本語で「物名詞」と結びつき易いと考えられるものは、「1.17 空間」である。日本語で「物名詞」と結びつき難いと考えられるものは、「1.10 事柄」「1.11 類」「1.12 存在」「1.16 時間」「1.18 形」「1.44 住居」である。

以上の結果から、 N_1 と N_2 の表れで結ばれ難いと思われる項目が重なっていた。それは、韓国語の N_1 が「場所名詞」のとき、 N_2 が「1.12 存在」である。また、日本語の N_1 が「物名詞」のとき、 N_2 が「1.10 事柄」「1.12 存在」である。これらの項目は、おそらく N_1 と連結する可能性が低いと示唆される。

第6章では、 N_1 と N_2 の意味関係に直接起因して「 N_1 の N_2 」と「 N_1 의 N_2 」が対応せず翻訳された用例と対応し翻訳された用例を比較し、その特徴をまとめた。「 N_1 의 N_2 」の N_1 と N_2 の意味関係は「 N_1 の N_2 」の N_1 と N_2 の意味関係に比べて比較的、纏まった特徴が見られた。特に、「人名詞(N_1)+의+ N_2 」の場合 N_1 と N_2 の意味関係が「主体(N_1)-主

体から発せられた生産物(N₂)」であれば「名詞+の+名詞」に翻訳される傾向にあった。

N₁が「場所名詞」の場合は「N₁のN₂」と「N₁의N₂」のN₁とN₂の意味関係はN₁が特定可能な範囲であれば対応し翻訳され、N₁が特定しにくい範囲だと対応せず翻訳されるという共通の特徴が見られた。それ以外には、「N₁のN₂」と「N₁의N₂」のN₁とN₂の意味関係において共通点は見られなかった。一方、N₁が「人名詞」の場合、韓国語の原文の場合N₁とN₂が文脈上どのように解釈されるかよりは、主体から発せられたものであれば、「の」で翻訳できる。ところが、そうではなくちゃんとN₂が作られたものでないと対応し翻訳されず、その他に翻訳されると見られた。それに比べて日本語の場合は韓国語ほどはっきりした類型はあまり見られなかった。

第7章では、本研究のデータから、まず、日本語の「の」が2回現れる形式は726例、「の」が3回現れる形式は48例、「の」が4回現れる形式は3例見つかった。次に韓国語の「의」が2回現れる形式は33例、見つかった。「의」が3回と4回現れる形式は見られなかった。このように本研究のデータからは「の」に比べて「의」は2回以上現れにくいことが分かった。日韓其々8冊ずつの文学作品の資料から得たデータであるが、日本語の「の」が2回以上現れる形式と韓国語の「의」が2回以上現れる形式は現れる数が異なっていた。第7章も第5、6章と同じく、「の」と「의」が2回以上現れる形式のN₁名詞類を「人名詞」、「場所名詞」、「物名詞」に分類し、N₂とN₃と連結する名詞を国立国語研究所(2004)『分類語彙表』に基づき分類してどのような名詞類が連結されて「の」と「의」が2回以上現れる形式として現れているかを見た。

まず、原作での「の」と「의」が2回現れる形式で共通した名詞類の結合が見られた。その共通の結合は4種が見られた。これを山梨(2004)が挙げた2種の所有表現の「連鎖的所有表現」と「入れ子式所有表現」が見られるかを検証しながら分析した。その結果、4タイプの傾向が見られた。まず、山梨(2004)の2種のタイプどちらも当てはまらないもの、「連鎖的所有表現」に分類されるもの、「入れ子式所有表現」分類されるもの、「連鎖的所有表現」と「入れ子式所有表現」が両方見られたものに分けられることが分かった。しかし、山梨(2004)の分類だけでは当てはまらないものも見られたので、これ以上の分析はできない。さらに、「の」と「의」が2回、3回、4回現れる形式がどのように翻訳されているかを見た。「の」と「의」が現れる数が多くなるにつれ、対応し翻訳される可能性は低くなることが分かった。

また、N₁を「人名詞」、「場所名詞」、「物名詞」に固定し、再分類を行い考察した。

N₁が「人名詞」と「場所名詞」の場合、日韓共に現れた「の」と「의」の2回現れる形式の3つの名詞の連結について分析した。その結果、日韓のN₂とN₃に現れる名詞類を比較したところ、韓国語のN₂とN₃は日本語のN₂とN₃にほとんど含まれることが確認できた。だが、日本語のN₂とN₃に現れる名詞類を比較、また、韓国語のN₂とN₃に現れる名

詞類を比較した結果、日韓の「の」と「의」が2回以上現れる形式による名詞の連結には独自の傾向が見られた。N₁が「物名詞」の場合、「의」のが2回以上現れる形式は本研究のデータからは1例も見つからなかった。従って、N₁が「物名詞」の場合、「の」が2回以上現れる形式構造のみ分析した。日本語のN₂とN₃に現れる名詞類を比較した結果、「の」が2回現れる形式による名詞の連結には重なるものがなかった。また、N₁が「人名詞」、「場所名詞」、「物名詞」の場合、N₂とN₃が翻訳された名詞類は日韓共に限定されることが分かった。「の」が3、4回現れ連結された名詞についてはこれといった特徴は見られなかった。一方、N₁が「人名詞」の場合、「の」と「의」が2回現れる形式の3つの名詞の連結の翻訳において対応し翻訳された形式ではN₂に「1.56 身体」の名詞類が位置すると日韓共に翻訳されるという特徴が見られた。

8.2 本研究の総合考察

「の」と「의」は前後の名詞の種類について全ての名詞の組み合わせを検証することは不可能と見られた。本研究のデータから「N₁のN₂」と「N₁의N₂」のN₁をいわゆる「人名詞」、「場所名詞」、「物名詞」に固定し、N₂を国立国語研究所(2004)『分類語彙表』に基づき名詞類を分類した。本研究は日本語と韓国語の文学作品の原作とその翻訳を両方向で分析しているので、原作と翻訳先の言語を照らし合わせてみるのが可能であった。その結果、名詞の種類によって、N₁とN₂の連結には結ばれ易い、結ばれ難いといった難易度があることが分かった。

また、N₁が「人名詞」の場合は「N₁의N₂」が多く見られ、N₁が「場所名詞」「物名詞」の場合は「N₁のN₂」が多く見られた。これを見ると韓国語は「N₁의N₂」のN₁に使われる名詞類は日本語の「N₁のN₂」のN₁に使われる名詞類より限定されていると考えられる。それに比べて日本語の「N₁のN₂」のN₁に使われる名詞類は韓国語の「N₁의N₂」のN₁に使われる名詞類より範囲が広いと考えられる。即ち、韓国語は「人名詞(N₁)의N₂」が多く、名詞類が限定されると言えるであろう。このような傾向は「の」と「의」が2回以上現れる形式においても同じことが言えるだろう。

一方、「動詞化」で分かった「N₁의N₂」の翻訳(K→J)の動詞化タイプは主語を用いて翻訳されると思われ、原作におけるN₂が動的な意味を表す名詞が多く見られた。即ち、「N₁의N₂」(K→J)の翻訳の動詞化はある程度特徴が見られた。しかし、「N₁のN₂」の翻訳(J→K)の動詞化は多様で纏まった特徴が見られない。従って、「N₁のN₂」の翻訳(K→J)の動詞化タイプは文脈によって多様に仕分けられるのではないかと思われる。第6章において分かった、N₁とN₂の意味関係に直接起因するパターンでも「N₁의N₂」のN₁とN₂の意

味関係においていくつか纏まった類型化ができ、特徴として挙げる事ができた。それに比べて日本語の「の」は多様な用法が使われており、纏まった類型があまり見られなかった。従って、日本語の「の」は韓国語の「의」より多様な N_1 と N_2 の意味関係が可能で、「 N_1 の N_2 」の翻訳(J→K)の翻訳先の言語である韓国語では日本語に使われている用法がないか、該当の表現がないのではないかと推察される。それに比べて韓国語は「 N_1 의 N_2 」において結びつけられる N_1 と N_2 の意味関係は比較的明確で、他の文脈の影響を受けずに N_1 と N_2 の意味自体で意味内容の把握が可能であると見られる。一方、日本語の「の」は使われる範囲が広く文脈によって多様に仕分けられるのではないと思われる。

本研究は既存の研究ではほとんど行われていない日本語から見て韓国語はどのように対応するか、また、韓国語から見て日本語はどのように対応するかの両方向から見た研究であることに意義があると言える。また、「 N_1 の N_2 」と「 N_1 의 N_2 」の「動詞化」にどのような意味的に対応する動詞が使われているか、その共通の動詞化タイプから特徴を見出した点、さらに、「の」と「의」が2回以上現れる形式において連結された名詞の組み合わせについて名詞類を分類し、名詞の連結を見た点、日本語と韓国語の原作との比較、翻訳の傾向等を明らかにしたことに意義があると考えられる。

8.3 今後の課題

本研究では、文学作品から収集した資料のデータから「の」と「의」の翻訳の「動詞化」、「 N_1 の N_2 」と「 N_1 의 N_2 」の N_1 と N_2 の表れ、「の」と「의」が2回以上現れる形式に焦点を当てて日本語と韓国語の対照を行った。

「 N_1 の N_2 」と「 N_1 의 N_2 」の翻訳形式に「動詞化」という特殊な翻訳が見られた。本研究では「 N_1 의 N_2 」の翻訳(K→J)について、いくつかの特徴を述べる事ができた。しかし、「 N_1 の N_2 」の翻訳(J→K)においては纏まった類型が見られなかった。そのため、特徴を述べる事ができなかった。従って、今後、「 N_1 の N_2 」の翻訳(J→K)の「動詞化」についてもっと詳細な部分を見ていく必要があると思われる。これについては今後の課題としたい。

また、「 N_1 の N_2 」と「 N_1 의 N_2 」の N_1 が「人名詞」、「場所名詞」、「物名詞」の場合、 N_2 との表れについて考察した。しかし、データには N_1 が「人名詞」、「場所名詞」、「物名詞」以外の名詞類が存在したが本研究では考察できなかった。今後、本研究で考察できなかった名詞類も検討することが望ましいと思われる。 N_1 の名詞類と N_2 の名詞類の結びつきによって、「の」と「의」はどのような名詞類により連結される傾向にあるかを他の名詞類でも調べて「の」と「의」の機能について解明できる研究をしていく必要がある。この研究はその一部分であり、今後拡大していきたい。そして、本研究では N_1 を固定して N_2

はどのように現れるかを見たが、 N_2 の名詞類を固定して N_1 はどのように現れるかという見方もできると思われる。本研究では詳細に扱ってはいないが、 N_2 が国立国語研究所(2004)『分類語彙表』の「人間活動の主体」の中の「1.17 空間」に分類される名詞、いわゆる「位置名詞(上、下、横、後ろ等)」と見られる名詞がよく現れていた。今後、このように「 N_1 の N_2 」と「 N_1 의 N_2 」の N_2 にも焦点を当てても分析が可能ではないかと考えられる。さらに、「 N_1 の N_2 」と「 N_1 의 N_2 」が「名詞+(의)+名詞」と「名詞+の+名詞」に翻訳されていない部分について、 N_1 と N_2 の意味関係に直接起因すると思われる場合を分析し、「 N_1 の N_2 」と「 N_1 의 N_2 」が「名詞+(의)+名詞」と「名詞+の+名詞」に翻訳された用例と比較を行い、いくつかの特徴を述べた。だが、類型の用例がなかったため比較ができなかったものが見られた。これについては分析ができなかった。なぜ、「 N_1 の N_2 」と「 N_1 의 N_2 」が「名詞+(의)+名詞」と「名詞+の+名詞」に翻訳されないかについて本研究で述べた特徴以外にもなんらかの要因があると考えられるので、今後の課題としたい。

そして、「の」と「의」が2回以上現れる形式において理論上は両言語共に無限に名詞を連結することが可能であるが、実際、結びつけられる名詞の数は本研究の結果、限られると思われる。本研究のデータは日本語と韓国語で書かれた其々8冊ずつの文学作品から収集した。その中で、「의」が2回以上現れる形式は「の」が2回以上現れる形式に比べるとかなり用例の数が少なかった。今後、「의」が2回以上現れる形式のデータを加算して「の」が2回以上現れる形式との対照を行い、「の」と「의」が2回以上現れる形式によって、連結する名詞の組み合わせについて詳細に見ていく必要があると考えられる。

さらに、今後データの量を加算する作業および資料のジャンルを変えても本研究の検証を行うことが望ましいと思われる。

【参考文献】

- 李在鎬, 石川慎一郎, 砂川有里子著 (2012) 『日本語教育のためのコーパス調査入門』くろしお出版.
- 井上優 (2002) 「言語の対照研究」の役割と意義『日本語と外国語との対照研究 X 対照研究と日本語教育』国立国語研究所. くろしお出版. pp. 131-140.
- 内間直仁 (1996) 「助詞「の」と簡略化表現」『研究書』和泉書院.
- 内山潤 (2002) 「韓国人日本語学習者の格助詞の習得に関する研究」『言語科学論集』第6号, pp. 37-48.
- 大島資生 (2010) 『日本語連体修飾節構造の研究』ひつじ書房.
- 奥津敬一郎 (1964) 「「の」のいろいろ」『ゆれてる文法』口語文法国座 3. pp. 238-253. 明治書院.
- 奥津敬一郎 (1974) 『生成日本文法論』大修館書店.
- 奥津敬一郎 (1975) 「複合名詞の生成文法」『国語学』国語学会. pp. 33-48.
- 奥津敬一郎 (1978) 『「僕はウナギダ」の文法-ダとノ-』くろしお出版.
- 奥津敬一郎 (2004) 「連体修飾とは何か(特集 連体修飾とは何か)」『日本語学』23(3), pp. 6-16.
- 奥野由紀子 (2003) 「上級日本語学習者における言語転移の可能性 - 「の」の過剰使用に関する文法判断テストに基づいて - 」『日本語教育』116号, pp. 79-88.
- 影山太郎 (1993) 『文法と語形成』ひつじ書房.
- 加藤重広 (2004) 「連体修飾の語用論 (特集 連体修飾とは何か)」『日本語学』23(3), pp. 28-38.
- 神尾昭雄 (1983) 「名詞句の構造」井上和子 (編) 『日本語の基本構造』(講座現代の言語 1), 三省堂. pp. 77-126.
- 北原保雄 (1984) 『日本語文法の焦点』教育出版.
- 国広哲弥 (1967) 『構造的意味論 : 日英両語対照研究』三省堂.
- 国立国語研究所 (1951) 『現代語の助詞・助動詞-用法実例』秀英出版, pp. 155-174.
- 国立国語研究所 (1961a) 『現代雑誌九十種の用語用字』秀英出版.
- 国立国語研究所 (1961b) 『現代雑誌九十種の用語用字(2)』秀英出版.
- 国立国語研究所 (1961c) 『現代雑誌九十種の用語用字(3)』秀英出版.
- 国立国語研究所 (1981) 『日本語の文法』上・下
- 国立国語研究所 (2002) 『対照研究と日本語教育』国立国語研究所. くろしお出版.
- 国立国語研究所 (2004) 『分類語彙表』大日本図鑑.
- 小山悟 (2006) 「連体修飾構造の習得における「の」の過剰使用: 格助詞仮説と

- 準体助詞仮説』『九州大学留学生センター紀要』第15号, 九州大学. pp. 41-50.
- 鈴木一彦・林巨樹(1985)「助辞編(三)助詞・助動詞辞典」『研究資料日本語文法第7巻』
明治書院.
- 鈴木重幸(1972)『日本文法・形態論』むぎ書房.
- 鈴木康之(1987)「名詞の一名詞」というとき』『国文学解釈と鑑賞』至文堂. 52(2), pp. 6-16.
- 寺村秀雄(1980)「名詞修飾部の比較」『日英語比較講座2文法』大修館書店.
- 寺村秀夫(1982)『日本語のシンタクスと意味』くろしお出版.
- 時枝誠記(1950)『日本文法』岩波全書.
- 長友文子(1999)「の」による名詞省略について—日本人に対するアンケート調査を基に」
『日本語教育』(101), pp. 31-40.
- 西山佑司(2003)『日本語名詞句の意味論と語用論—指示的名詞句と非指示的名詞句—』
ひつじ書房.
- 西山佑司(2004)「名詞句の意味と連体修飾(特集 連体修飾とは何か)」『日本語学』23(3),
pp. 18-27.
- 日本語記述文法研究会(2008)『現代日本語文法6』くろしお出版. pp. 44-55.
- 芳賀綏(1978)『現代日本語の文法—日本文法教室・新訂版—』教育出版.
- 橋本進吉(1938)『新文典別記』富山房.
- 橋本進吉(1969)『助詞・助動詞の研究』岩波書店.
- 松村明編(1971)『日本文法大辞典』明治書院.
- 三上章(2002)『象は鼻が長い』改訂増補版. くろしお出版.
- 宮島達夫他(1977)『語彙と意味』岩波書店.
- 宮島達夫(2007)「連体修飾語「～の」の重複」『計量国語学』26(3), pp. 94-96.
- 森田良行(2007)『助詞・助動詞の辞典』東京堂出版.
- 矢野謙一(2010)「位置の名詞と属格」『朝鮮学報』217, pp. 29-70.
- 山田孝雄(1936)『日本文法学概論』宝文館出版.
- 山梨正明(2004)『ことばの認知空間』開拓社.
- 和田桂(2001)「格助詞「の」について—「AのB」における「の」の機能」
『大正大学大学院研究論集』第二十五号, 大正大学出版部. pp. 279-290.
- 강주헌(2012)「국어다운 번역을 위하여(韓国語らしい翻訳のために)」
『새국어생활』제22권. 제1호. pp. 111-121.
- 고석주(2008)『현대 한국어 조사의 계량적 연구(現代韓国語調査の計量的研究)』
보고서.
- 김광해(1981a)「{-의}의 분포에 대한 조사 연구({-ui}의 분포についての調査研究)」
『文法研究会』文法研究第5集, pp. 81-106.

- 김광해 (1981b) 「{-의}의意味({-ui}の意味)」ソウル大学大学院. 修士学位論文.
- 김민수 (1970) 「국어의 격에 대하여(國語の格について)」『국어국문학 49. 50 합본』. 국어국문학회. pp. 25-45.
- 김민수 (1971) 『국어문법론(國語の文法論)』 일조각.
- 김봉모 (1979) 「매김말의 변형 연구(冠形語の変形研究)」『동아논총』 16, 동아대학교. pp. 61-86.
- 김선효 (2011) 『한국어 관형어 연구(韓國語の冠形語研究)』 역락.
- 金善姬 (1993) 「韓國語の屬格助詞「ui」の意味機能—日本語の「の」との対照研究—」『対照研究』第3号, 筑波大学つくば言語文化フォーラム. pp. 36-49.
- 김승곤 (1969) 「冠形格助詞攷:現代語를 中心으로」『文湖』건국대학교. Vol. 5 No. 1pp. 65-75.
- 김승곤 (2007) 『관형격조사 ‘의’의 통어적 의미 분석 (冠形格助詞「의」의統語的意味分析)』 경진문화사.
- 김은아 (2005) 「현대 국어 조사 ‘의’의 생략과 중첩에 대한 연구 (現代國語助詞‘ui’の省略と重畳に対する研究)」 修士論文. 韓國外國語大學校.
- 金恩愛 (2003) 「日本語の名詞志向構造(nominal-oriented structure)と 韓國語の動詞志向構造(verbally-oriented structure)」『朝鮮學報』188. 朝鮮學會. pp. 1-83.
- 金恩愛 (2009) 「日本語の「名詞+の+名詞」は韓國語でいかに現れるか—第3の類型について—」『カルチュラル』3(1), 明治学院大学教養教育センター. pp. 161-170.
- 김인현 (1993) 「韓日兩語における助詞の對照研究—「의」と「の」의 用法と機能を中心に—」『일본어교육』pp. 137-153.
- 김인현 (1996) 「韓日兩語의 助詞의 對照研究—省略表現을 中心으로—」『日本語文學』한국일본어문학회, 第22集, pp. 5-28.
- 金河守 (2004) 「韓國語における連体修飾語「(uy)」について—名詞化による「(m)」名詞と「(ki)」名詞を中心に—」『東京家政学院筑波女子大学紀要』第8集, pp. 59-67.
- 金玄珠 (2006) 『韓國人日本語學習者の連体格助詞使用上の不確定性に関する実証的研究: 「의」의 正用と脱落による誤用の判別に関するテスト—再テスト調査に基づいて』 雄松堂出版.
- 박영순 (1985) 『韓國語統語論』集文堂.
- 朴在權 (1993) 「現代日本語の連体格助詞「의」—韓國語の「ui」との對照分析—」『日本學報』30, pp. 267-302.
- 朴在權 (1997) 『現代日本語·韓國語の格助詞の比較研究』勉誠社.
- 신은범 (1982) 『助詞「의」と「의」의對照研究—機能·対応·省略問題를

- 中心으로－』建国大学校大学院, 修士学位論文. pp. 385-512
- 吳玟定(1997)「『N1 のN2』と韓国語の「N1 의(ui) N2」一名詞と名詞の連結の際「의(ui)」の出現を中心に－』『大阪大学日本学報』16, pp. 105-120.
- 吳玄定(2000a)「連体修飾句の語順--形容詞と「の」格名詞」『国文学解釈と鑑賞』65(1), 至文堂. pp. 187-197.
- 吳玄定(2000b)「連体修飾句の語順--動詞を中心に」『計量国語学』22(5), 計量国語学会. pp. 183-200.
- 尹盛熙(2004)「韓国語の動詞性名詞表現に関する意味論的考察」『言語情報科学』東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学. pp. 233-245.
- 이한섭(2007)「韓日日韓對譯コーパスの構築」『21世紀世宗計画國語特殊資料構築』韓国国立国語院. pp. 385-512.
- 李惠正(2009)「『の』に対応する韓国語の「[ui]ui」の省略に関する考察--名詞による連体修飾を中心に」『東北大学言語学論集』(18), 東北大学言語学研究会. pp. 103-111.
- 이희자, 이종희(2010)『어미·조사사전(語尾·助詞辞典)』한국문화사.
- 林仙雅(2010)『日・韓両言語における助詞の対照研究－「の」と「의(ui)」の翻訳作品の用例を中心に－』修士論文. 広島大学大学院.
- 林仙雅(2013)「『名詞의(ui)名詞』と『名詞の名詞』翻訳の動詞化について」『日語日文学研究』vol. 87, no. 1, 韓国日語日文学会, pp. 213-232.
- 林仙雅(2014a)「『N1 의(ui) N2』と『N1 のN2』の対照研究－N1が人名詞の場合を中心に－』『日本学報』vol. 100, 韓国日本学会, pp. 253-267.
- 林仙雅(2014b)「助詞『의(ui)』と『の』の重複の対照研究」『日語日文学』vol. 63, 韓国大韓日語日文学会, pp. 41-60.
- 林八龍(1995)「日本語と韓国語における表現構造の対照考察－日本語の名詞表現と韓国語の動詞表現を中心として」『日本語の研究：宮地裕・敦子先生古稀記念論集』明治書院.
- 정희정(2000)『한국어 명사 연구(韓国語の名詞に研究)』한국문화사.
- 최경봉(1995)「국어 명사 관형구성의 의미결합 관계에 대한 고찰(国語名詞冠形構成の意味結合関係についての考察)」『국어학』Vol. 26. 국어학회. pp. 33-58.
- 崔吉時(1996)『韓国語の助詞〈의〉と日本語の助詞〈ノ〉の比較対照研究』大阪大学大学院, 博士論文.
- 최재웅, 首藤佐智子, 原田康也(2012)「관형격 구조에 대한 한-일어 대조 연구: 말뭉치 기반 '-의'와 '의'의 상대적분포(冠形格構造に対する韓国語と日本語対照研究: 코퍼스基盤'ui'와 '의'의 相對的分布)」『언어정보』고려대학교 언어정보연구소. Vol. 14. pp. 151-178.

- 최정룡 (1988) 「「의」와 「의」의 기능および対応に関する考察－韓日兩國の中間國語教科書を資料にして－」『新羅大學校論文集』신라대학교. 第22集, pp. 75-113.
- 崔鉉培 (1929) 『우리말본(國語文法)』 정음문화사, pp. 613-619.
- 洪榮珠 (2005) 「日韓の名詞連結の対照--N1の統語構造上の違いを中心に」『筑波應用言語學研究』筑波大學大学院博士課程文芸・言語研究科應用言語學コース. pp. 43-55.
- 洪榮珠 (2006a) 「日韓名詞連結の対照研究－「N1 N2」形態の結合關係と「の/의(ui)」の介在傾向について－」『筑波大學國語國文學會』Vol. 42. pp. 1-14.
- 홍영주 (2006b) 「한일명사연결의 대조연구 -N1 과 N2 의 결합관계 및 「의/의」의 개재 여부에 관하여-(韓日名詞連結の対照研究-N1 と N2 の結合關係と 「ui/의」의 介在可否について-)」『일어일문학연구』15 권. pp. 145-160.
- Noam Chomsky(1969). Aspects of the theory of syntax. M. I. T. Press(Special technical report/Massachusetts Institute of Technology. Research Laboratory of Electronics ; no. 11). 10-15.
- ボーンシュテット, ノーキ (1992) 『社会統計学 : 社会調査のためのデータ分析入門』ハーベスト社.

<辞典および資料>

- 新村出(2008) 『広辞苑』DVD-ROM版. 第六版. 岩波書店.
- 北原保雄(2002) 『明鏡國語辞典』大修館書店.
- 韓國國立國語院 『標準國語大辭書(표준국어대사전)』 <http://stdweb2.korean.go.kr>
- 民衆書林編集部(2011) 『エッセンス國語辞書(옛센스 국어사전)』民衆書林(민중서림).
- 奥田英朗 『空中ブランコ』文藝春秋.
- 이영미역 『공중그네』은행나무.
- 角田光代 『空中庭園』文藝春秋.
- 임희선역 『공중정원』양장.
- 片山 恭一 『世界の中心で、愛をさけぶ』小学館.
- 안중식역 『세상의 중심에서 사랑을 외치다』작품.
- 島本理生 『リトル・バイ・リトル』講談社.
- 김난주역 『리틀 바이 리틀』시공사.
- 野沢尚 『ラストソング』講談社.
- 신유희역 『ラスト송』소담출판사.
- 東川篤哉 『謎解きはディナーのあとで』小学館.
- 현정수역 『수수께끼 풀이는 저녁식사 후에』21세기북스.

村上春樹『色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年』文藝春秋.
 양억관역『색채가 없는 다자키 쓰쿠루와 그가 순례를 떠난 해』민음사.
 森沢明夫『津軽百年食堂』小学館.
 이수미역『쓰가루 백년 식당』샘터.
 공지영『무소의 뿔처럼 혼자서 가라』오픈하우스.
 石坂浩一訳『サイの角のようにひとりで行け』新幹社
 노희경『세상에서 가장 아름다운 이별』북로그컴퍼니.
 吉川凧訳『この世でいちばん美しい別れ』クオン.
 김영하『아랑은 왜』문학동네.
 森本由紀子訳『阿娘はなぜ』白帝社.
 김정현『어머니』자음과모음.
 蓮池薫訳『母よ ヘギョンの愛した家族』ワニブックス.
 김하인『국화꽃 향기』생각의 나무.
 宮本尚寛訳『菊花の香り』PHP 研究所.
 위기철『아홉살 인생』청년사.
 清水由希子訳『9歳の人生』河出書房新.
 조창인『등대지기』밝은세상.
 金光英実訳『クミヨンに灯る愛』小学館.
 황석영『바리데기』창비.
 青柳優子訳『パリデギー脱北少女の物語』岩波書店.

付録

「 N_1 の N_2 」と「 N_1 의 N_2 」の翻訳形式

「N₁のN₂」翻訳(J→K)の翻訳形式

	「N ₁ のN ₂ 」翻訳(J→K)の翻訳形式	ページ	日本語の原作	ページ	韓国語の翻訳	文学作品
1	名詞+名詞	111	かつての <u>同級生</u> たちの <u>風貌</u> にもそろそろ	129	옛 <u>동급생</u> 들 <u>외모</u> 에도 슬슬	空中ブランコ
		32	店を閉める、という噂は若者たちの間に電撃的に伝わった。	37	가게가 문을 닫는다는 소문은 <u>젊은이</u> 들 <u>사이에</u> 전격적으로 퍼졌다.	ラストソング
		239	わたくし、 <u>執事の仕事</u> はともかくとして推理とベースボールには自信がごさいます	303	저는 <u>집사</u> 일은 어쩔지 몰라도 추리와 야구에는 자신이 있습니다	謎解きはディナーのあとで
		24	それぞれに進む <u>学校のレベル</u> を一段階落として。	33	제각기 갈 수 있는 <u>학교 수준</u> 을 한 단계 떨어뜨려 가면서.	色彩を持たない
		178	<u>空港の係員</u> がやって来た。	178	공항 직원이 달려왔다.	世界の中心
		235	<u>幼稚園のお迎え</u> に、母ではなく見知らぬ女がきたことがあった。	261	유치원 마중을 어머니가 아닌 낯선 여자가 온 적이 있었다.	空中庭園
		162	その気になれば <u>自転車の鍵</u> なんてカサの柄で簡単に外せるから	163	마음만 있으면 <u>자전거 자물쇠</u> 쯤 우산 손잡이로도 쉽게 딸 수 있으니까	リトルバイリトル
		195	布団と畳の匂い。	195	이불과 다다미 냄새.	津軽食堂
2	名詞+의(ui)+名詞	123	<u>野村の姿</u> が目飛び込んだ。	144	<u>노무라의 모습</u> 이 한눈에 잡힌다.	空中ブランコ
		246	一矢の力が失せてゆく。	244	<u>카즈야의 힘</u> 이 빠진다.	ラストソング
		84	夫はいやな顔ひとつせず <u>彼女の散歩</u> を手伝ってくれる。	107	남편은 싫다는 내색 한 번 하지 않고 그녀의 산책을 거들어준다.	謎解きはディナーのあとで
		262	<u>北欧の夜</u> の独特の明るさは、彼の心に不思議な震えをもたらした。	310	<u>북유럽의 밤</u> 이 보여 주는 특유의 빛이 마음에 신비로운 떨림을 가져다 주었다.	色彩を持たない
		9	オーストラリアに近い <u>日本の街</u> から、日本に近いオーストラリアの街へ。	9	호주에 가까운 <u>일본의 도시</u> 에서 일본에 가까운 호주의 도시로.	世界の中心
		31	この町の飛行場であり外国であり、更生施設であり職業安定所である。	35	이 도시의 공항이며 외국이고, 갱생 시설이 고직업소개소다.	空中庭園
		146	家の前で周はうずくまってドライバーを片手に黒い <u>自転車のサドル</u> をのぞき込んでいた。	147	슈는 집 앞에서 한 손에 드라이버를 쥐고 검정 <u>자전거의 안장</u> 을 들여다보고 있었다.	リトルバイリトル
86	部屋の床を見ると、あちこちに赤い <u>風船の残骸</u> が飛び散っている。	87	방바닥 여기저기에 빨간 <u>풍선의 잔해</u> 가 널려 있다.	津軽食堂		
3	名詞	20	<u>公平の姿</u> を見つけ、全員が挨拶をした。	83	<u>고혜이</u> 가 나타나자, 단원들이 인사했다.	空中ブランコ
		99	修吉は自分の学力では三流大学が関の山だったが、親の期待にはこの際少しでも応えてやろうと思った。	101	당시 <u>성적</u> 으로 삼류 대학이 고작이었지만, 슈키치는 어머니의 기대에 조금이나마 보답하고자 마음먹었다.	ラストソング
		13	そういえば、いまにして思うと <u>彼女の様子</u> はなんだか変でしたね。	19	그러고 보니, 지금 생각하면 <u>눈치</u> 가 어쩐지 좀 이상했습니다.	謎解きはディナーのあとで
		327	この <u>土地の冬</u> はすごく長いんだ	386	여기 <u>겨울</u> 은 굉장히 길어.	色彩を持たない
		100	<u>島の施設</u> はもうほとんど出来上がっているんだ	99	<u>시설물</u> 은 대부분 완성되 었다구.	世界の中心
		14	広大な庭があり、 <u>庭の隅</u> に人ひとり住めそうな物置小屋があつて	16	아주 넓은 정원이 있고 <u>구석</u> 에는 사람 하나는 충분히 살 수 있을 크기의 창고가 있고	空中庭園
		27	眉間に冷たいものが落ちてきた気がして <u>服の袖</u> で拭った。	30	미간에 차가운 것이 떨어져 <u>소매</u> 로 닦았다.	リトルバイリトル
		75	右から左へと流れていく <u>電車の窓ガラス</u> 。	77	오른쪽에서 왼쪽으로 흘러가는 수많은 유리창들.	津軽食堂
4	意識	128	<u>誰の顔</u> も見ることができない。	149	감히 <u>고개를</u> 쳐들 수가 없다.	空中ブランコ
		246	私はずるりと一矢の下から抜け出した。	244	나는 <u>카즈야의 풀</u> 에서 스프르 빠져 나왔다.	ラストソング
		217	順を迫って説明願えますか、という <u>整部の言葉</u> に促されて、宗助は口を開いた。	274	‘순서대로 설명을 부탁드립니다’ 하는 <u>결부의 재촉</u> 에 소스케는 마침내 입을 열었다.	謎解きはディナーのあとで
		230	週末、つくるは <u>ジムのプール</u> に行く。	273	주말이면 쓰쿠루는 수영을 하러 <u>체육센터</u> 에 간다.	色彩を持たない
		185	<u>島のはずれ</u> に洞窟があるんだ	184	동굴이야. <u>섬을 벗어난 곳</u> 에 동굴이 있어.	世界の中心
		113	この <u>部屋の購入</u> が決定したとき、人生に勝ったような気がしたものだった。	124	이 집을 사기로 결정했을 때, 나는 인생에서 승리했다는 느낌까지 들었다.	空中庭園
		129	周は <u>自転車の荷台</u> に私を乗せて自分の家にむかって走り出した。	130	슈는 <u>자전거</u> 뒤에 나를 태우고 자기 집을 향해 달렸다.	リトルバイリトル
		266	さっきの姉貴と同じような台詞を口にして、 <u>割烹着の裾</u> で濡れた手をふいた。	265	아까 누나가 했던 말과 똑같은 대사를 입에 담으며 <u>소매</u> 달린 앞치마 자락에 젖은 손을 닦았다.	津軽食堂

	「N ₁ のN ₂ 」翻訳 (J→K)の翻訳形式	ページ	日本語の原作	ページ	韓国語の翻訳	文学作品
5	動詞	17	公平のサーカス団では略してそう呼んでいた。	80	코헤이가 속한 서커스단에서는 중여서 그렇게 부른다.	空中ブランコ
		211	修吉の笑顔には沢山の言葉が涉っていた。	209	슈키치의 웃는 얼굴에는 많은 말이 깃들여 있었다.	ラストソング
		11	若い女性のひとり暮らしなどだいたいこんなもので、べつに驚くには値しないが。	16	젊은 여성이 자취하는 집은 대개 이런 법이니 특별히 놀랄 일도 아니지만.	謎解きはディナーのあとで
		74	まわりの人々はその無口で風変わりな「東京の学生さん」に対して親切だったし	92	주변 사람들은 과묵하고 뭔가 특이한 '도쿄에서 온 대학생' 에게 친절했고	色彩を持たない
		185	島のはずれに洞窟があるんだ	184	동굴이야. 섬을 벗어난 곳에 동굴이 있어.	世界の中心
		41	いや都内の出版社で働いているんだけどねこの近所に某作家先生か住んでいて原稿をとりにきたんだけど	47	아니, 난 시내에 있는 출판사에 다니는데, 이 근처에 작가 한 사람이 살고 있어서 원고를 받으러 왔더니	空中庭園
		105	電話の相手は柳さんのところに通っている、比較的、私と年齢の近い女の人で何回か話をしたことがあった。	107	전화를 건 사람은 아나기 씨의 붓글씨 학원에 다니는 나와 나이가 비슷한 여자였다.	リトルバイリトル
		86	慌てて携帯の写真を見た。	87	황급히 휴대전화에 찍힌 사진을 보았다.	津軽食堂
6	複合名詞	187	カミさんの親父が急病だとかで、帰国しちまいやがった。	216	장인이 위독하다나 뭐라나 하면서 귀국해버렸다.	空中ブランコ
		220	義理の父親から遠慮がちに君づけで呼ばれた長男	279	양아버지라서 조심스럽게 '군' 을 붙여 이름을 부른다.	謎解きはディナーのあとで
		181	初夏の陽光が、部屋の床に敷かれた無地のカーペットの上に落ちていた。	216	조여름 햇살이 방바닥에 깔린 무지카펫 위로 떨어졌다.	色彩を持たない
		140	とくに子供の病気はね	140	특히 소아병은.	世界の中心
		145	マナは無言でその場を離れ、数秒後、玄関の戸が閉まる音がする。	161	마나는 말없이 나갔고, 몇 초 후에 현관문 닫히는 소리가 들렸다.	空中庭園
		159	試してみる、と言って私は石を投げていた手を軽くスカートの裾で拭った。	161	그렇게 해 볼게라고 말하고 나는 돌을 던졌던 손을 치맛자락에 쓱 닦았다.	リトルバイリトル
		86	部屋の床を見ると、あちこちに赤い風船の残骸が飛び散っている。	87	방바닥 여기저기에 빨간 풍선의 잔해가 널려 있다.	津軽食堂
7	文の組み換え	205	監督の根本は渋い顔をしていた。	235	네모토 감독은 멀떠름한 표정을 지었다.	空中ブランコ
		81	冷え冷えした修吉の目がたまらなくケンポーを不安にさせた。	83	슈키치의 차디찬 눈이 켄보를 견딜 수 없이 불안하게 만들었다.	ラストソング
		241	少なくとも、里美ちゃんの理解としてはそうだった	304	적어도 사토미는 그렇게 이해했어.	謎解きはディナーのあとで
		263	つくるは着替えて、ホテルの食堂でビュッフェ式の簡単な朝食をとった。	312	쓰쿠루는 옷을 입고 호텔 뷔페 식당에서 간단히 아침을 들었다.	色彩を持たない
		66	彼女はしばらくポケットの膨らみを見ていた。	67	그녀는 잠시 불룩해진 주머니를 보다가 하늘을 올려다보며 말했다.	世界の中心
		162	並んでバスの座席に乗るのは久しぶりだった。	180	버스를 타고 한자리에 나란히 앉아보는 것도 정말 오랜만이였다.	空中庭園
		86	すっかり満たされて眠気と戦いながら帰り道を自転車の荷台に揺られていたら、柳さんの家の前を通りかかった。	89	자전거 뒤에 올라타 졸졸된 기분으로 줄음과 싸우면서 가는데, 아나기 씨네 집 앞을 지났다.	リトルバイリトル
		282	僕は何も言わず、指圧をしたまま次の父の言葉を待った。	280	나는 아무 말 없이 어깨를 주무르며 아버지의 다음 말을 기다렸다.	津軽食堂
8	名詞+인(in)+名詞	112	現在は学部長の野村栄介が座っている。	129	현 학부장인 노무라 에이스케가 앉아 있다.	空中ブランコ
		269	ディレクターの安西が頭を抱えている。	266	디렉터인 안자이가 머리를 감싸 안고 있다.	ラストソング
		153	そして扉の前には君と執事の吉田がいた。	193	그리고 문 앞에는 자네와 집사인 요시다가 있었지.	謎解きはディナーのあとで
		220	娘の里美は中学一年生の小柄で華奢な女の子である。	277	딸인 사토미는 중학교 일학 년인 작고 가냘픈 여자아이이다.	謎解きはディナーのあとで
		177	赤ん坊の絵里子と四歳児の友也をいっしょに育てようって殊勝な決心したことだ。	197	갓난아이인 에리코랑 네 살짜리 유아를 같이 키우겠다는 기특한 결심을 한 일이다.	空中庭園
		122	責任者の男の人から叱られたことよりも、女の子の唇から流れていた真っ赤な血が忘れられずに、仕事の後も気分は重かった。	124	책임자인 남자가 만약에 크게 다치기라도 했으면 치료비를 물어 줘야 할 실수였다면서 심하게 질책했다.	リトルバイリトル
		96	まなざしで、いかにも職人という切れのある動きをするから、息子の僕ですらその姿に惚れ惚れしていたのだ。	98	마치 장인처럼 눈빛이 진지했고 몸짓 하나하나가 예리하여, 아들인 나마저 그 모습에 홀딱 반해버렸다.	津軽食堂

	「N ₁ のN ₂ 」翻訳 (J→K)の翻訳形式	ページ	日本語の原作	ページ	韓国語の翻訳	文学作品
9	名詞+의 (ui)以外の 助詞+名詞	221	キュレーターヒロインって出てきたっけ	255	혹시 큐레이터가 주인공으로 나온 거 있잖나.	空中ブランコ
		129	私は彼らが練習をしている間、音楽ライターの腕を磨く……などという時間は到底持てなかった。	129	나는 그들이 연습하는 동안, 음악 라이터로서의 실력을 연마한다……는 따위의 시간은 도저히 갖지 못했다.	ラストソング
		250	瞬間、麗子の視線は犯人の姿よりも、むしろ影山の手にしたバットに釘付けになった。	316	그 순간, 레이코의 시선은 범인의 모습보다 가게야마가 손에 들고 있던 방망이에 못 박혔다.	謎解きはディナーのあとで
		17	つくるの上司の新築視いのホームパーティーで紹介され、そこでメールアドレスを交換し、これが四度目のデートだった。	25	쓰쿠루는 상사의 집들이 파티에 갔다가 사라를 소개받고 거기서 메일 주소를 교환했다.	色彩を持たない
		19	沙羅の外見が気に入ったのと同じように、彼女の身につけている服にも好感が持てた。	26	사라의 외모가 마음에 들었던 것처럼 그녀가 몸에 걸친 옷에도 호감이 갔다.	色彩を持たない
		205	このあいたの娘の誕生日、レストランのサービスで撮ってらったというポラロイド写真まで見せた。	228	얼마 전 딸 생일날에 레스토랑에서 서비스로 찍어주었다는 사진까지 보여주었다.	空中庭園
		148	そう言われて一気に体の力が抜けた。	149	그 말에 온몸에서 힘이 쭉 빠졌다.	リトルバイリトル
		109	そして、軍隊の敬礼みたいに右手をおでこにあてると「健闘を祈ります」と冗談めかした。	111	군인이 거수경례하듯 오른손을 이마에 대더니 “건투를 바랍니다” 라고 농담까지 한다.	津軽食堂
10	内容省略	161	開けっ広げの人間の方が絶対になんじゃない?	188	꾸밈없이 소탈하게 사는 게 훨씬 편하잖아?”	空中ブランコ
		180	店から飛び出して行くマツを、修吉がカウンター氷からアイスピックを引き抜いて追いかける。	180	슈키치가 아이스ピック을 잡아 빼더니 가게를 뛰쳐나가는 마츠를 뒤쫓는다.	ラストソング
		134	ねえ、麗子さん、この素敵なた方はどなたですか?と他人の話は全然聞いていない。	169	저기. 레이코 씨, 이 멋진 분은 누구 인가요? 이것도 여전하다.	謎解きはディナーのあとで
		181	金属線の横に細い眼鏡は、彼の縦に長い卵形の顔によく似合っていた。	216	가로로 가느다란 금속테 안경은 아래위로 긴 계란형 얼굴에 잘 어울렸다.	色彩を持たない
		153	アキの病気が手ごわいのか、それとも医師の治療法が感いのか。	153	内容省略	世界の中心
		20	どこにでもある、いやどこかにはありそうな部屋が扉の向こうに広がっていた。	22	어디에나 있는, 아니 어딘가에 꼭 있을 법한 분위기의 방이 기다리고 있었다.	空中庭園
		54	まあ、あと十分ぐらいオープンの中に入れた後のことを考えれば、おいしいと思うよ	56	하지만 10분만 더 구웠으면 훨씬 더 맛있었을텐데.	リトルバイリトル
		64	僕はジョッキのなかで少しぬるくなったビールを飲み干して、店員にお代わりをお願いした。	66	나는 조금 미지근해진 맥주를 들이켜고 점원에게 한잔 더 주문했다.	津軽食堂
11	形容詞	215	子供なので、保護者のつもりでいた。	248	아이라 그저 보호자 같은 심정으로 했다.	空中ブランコ
		167	間違いはなかった。リタの腕の中ではまるで赤ん坊の一矢は、レスラーの荒技ヘッドロックで部屋に引きずり込まれた。	168	착오는 아니었다. 리타의 팔 안에선 흡사 갓난아기나 다름 없는 카즈야. 레슬러의 거친 헤드록 기술에 걸려 방안으로 끌려 들어갔다.	ラストソング
		47	芳香漂うサラサラヘアが野郎どもの邪な感情を掻き立てないようにという、極めてオトナの配慮である。	59	향기가 풍겨나는 잘랑잘랑한 미리가 남자 놈들의 쓸 데없는 감정을 불러 일으키지 않도록 하려는 극히 어른스러운 배려다.	謎解きはディナーのあとで
		5	空腹を感じると、近所のスーパーマーケットで林檎や野菜を買ってきて帰った。	10	배가 고프면 가까운 슈퍼마켓에서 사과나 채소를 사다가 깨물었다.	色彩を持たない
		231	今浦島の気分であたりを目をやると、校庭に植えられた桜が満開だった。	230	우라시마 타로우와 같은 기분이 되어 주변으로 눈길을 돌리니 교정에는 벚꽃이 활짝 피어 있었다.	世界の中心
		7	古いけれど干したばかりの布団を敷いた狭い二段ベッドは日だまりの巣箱のようだったが、彼女の帰宅であつという間に平和な夜は破られた。	7	비록 낡았지만 뽕송뽕송하게 말린 이불을 깐 좁은 이층 침대가 햇볕 좋은 곳의 새 둥지 같았는데, 그녀의 출현으로 밤의 평화가 깨지 고말았다.	リトルバイリトル

「N₁의N₂」 翻訳(K→J)の翻訳形式

	「N ₁ 의N ₂ 」 翻訳(K→J)の翻訳形式	페이지	韓国語の原作	페이지	日本語の翻訳	文学作品
1	名詞+の+名詞	15	어디서나 주위의 시선을 끌 만큼 준수한 용모를 가진 남자는	11	どこに行っても <u>周りの視線</u> を集めずほど <u>秀麗な容貌</u> をもつ男は、ひどく憔悴し、とても辛そうに見えた。	국화꽃 향기
		29	어머니의 명예를 지키겠다고 한바탕 전투까지 치르고 돌아온 아들을 나무라는 어머니가 몹시 야속했다.	26	<u>母さんの名誉</u> を守るために決闘してきた息子を叱りつけるなんて、ひどすぎる。	아홉살 인생
		325	영선의 어머니가 분홍색 한복 차림으로 막 다가오고 있었다.	336	<u>ヨンソンの母</u> がピンク色の民族服をまとって近づいてきた。	무소의 뿔
		17	따라서 아랑의 이야기도 이야기꾼들이 속한 계급과 계층에 따라 <u>별인의 신분</u> 을 달리하면서 각기 다른 판본으로 분화돼갔을 것이다.	24	したがって、阿娘の物語も聴き手の属している階層に応じて <u>犯人の身分</u> を変えながら、それぞれ異なった版本へ分化していったのであろう。	아랑은 왜
		33	졸업 후에도 <u>그의 조언</u> 과 도움으로 같은 직장에 다니게 된 것이다.	27	卒業してからも彼の <u>助言</u> や助けによって、同じ職場に通うことになったのだ。	세상에서
		190	<u>앞치마</u> 의 주머니도 제법 두툼했다.	195	<u>前掛け</u> のポケットのふくらみも予想以上だった。	어머니
		12	간밤 흠뻑린 빗방울에 더럽혀진 <u>두탑</u> 의 유리창을 닦고 있던 재우는 소리를 쫓아 고개를 돌렸다.	10	昨晚降った雨で汚れた <u>灯塔</u> の窓ガラスを拭いていたジューは、声のした方を向いた。	등대지기
		60	<u>엄마</u> 의 말에 아버지가 털썩 주저앉으며 말했다.	47	<u>母の言葉</u> に、父はべたりと座りこんで言った。	바리테기
2	意識	123	나는 매일 온전히 당신의 그리움만을 가지고 살아갑니다.	99	私は、毎日、 <u>あなたへの愛</u> おいしい心だけを抱いて生きています。	국화꽃 향기
		214	그리고 살아 있는 동안의 인생은 전적으로 자신이 감당할 <u>자신의 몫</u> 일 수밖에 없다.	192	生きているあいだの人生はすべて自分でなんとかしなければならぬ。	아홉살 인생
		10	아랑의 시체를 찾아내어 후히 장사 지내주자 그후로는 아무런 사고도 없었다고 한다.	16	<u>娘の屍</u> を捜し出して手厚く葬ってやったところ、その後は何事も起こらなくなったという。	아랑은 왜
		108	어디선가 눈에 익은 <u>여자의 손길</u> 이 느껴졌다.	99	さっき見たのと同じような <u>片付け</u> 方だ。	세상에서
		11	아빠 또한 엄마에 뒤지지 않는 <u>은수</u> 의 영웅이었다.	10	父親も母親に負けずとも劣らないくらい <u>大切な人</u> だった。	어머니
		18	게다가 융통성이라곤 손톱만치도 없는 고리타분한 성격 탓에 동료들 사이에선 은연중 <u>따돌림</u> 의 대상이 가까지 했다.	17	その上、まったく融通の利かない偏屈な性格のせいで、いつのまにか <u>同僚たち</u> の間でつまはじきにされていた。	등대지기
		102	나는 밥을 다 먹고 나서 <u>아저씨들</u> 의 술이 끝나기를 기다렸다가 한마디했다.	82	私はご飯をすっかり平らげ、 <u>二人</u> が酒を飲み終えるのを待って言った。	바리테기
3	名詞	113	하지만 그런 부류의 사람들이 있어.	91	だけど、そんな人間もいるんだ。	국화꽃 향기
		187	나는 갈수록 산동네 <u>아이들의 놀이</u> 에 시들해졌는데, 그건 아마 우렁이 일 때문에 더욱 그랬을 것이다.	168	ぼくは日増しに「山の町」での <u>遊び</u> がつまらなくなっていたのだ。	아홉살 인생
		107	영선의 친정 오빠는 그들이 당도하기 전에 먼저 <u>영선의 집</u> 을 가지고 병실을 나가 버렸다.	110	ヨンソンの兄は、ヘワンたちが病院に着く前に <u>荷物</u> を持って一足先に出てしまっていた。	무소의 뿔
		10	아랑이 실종되자마자 <u>그의 아비</u> 가 그녀의 정절을 의심했다는 것을 알 수 있다.	16	さらに娘が姿を消したと聞くや <u>父親</u> は彼女の貞節を疑った、ということがわかる。	아랑은 왜
		45	만원 전철에서 손잡이에 기대 피곤한 듯 눈을 감고 서 있던 <u>아버지의 모습</u> 이 엄마는 안쓰러워 보였던 것이다.	40	満員電車でつり革につかまり、疲れたように目を閉じて立っていた <u>父</u> が、母には痛ましく見えた。	세상에서
		53	영문 모르는 <u>마담</u> 의 얼굴에 짜증이 가득했다.	53	それまでの経過を知らない <u>マダム</u> は、苛立った調子で男をなじった。	어머니
		55	<u>형의 눈</u> 에는 등대가 저절로 돌아가는 것처럼 보이겠지.	62	<u>兄さん</u> には灯台が勝手に回ってるように見えるだろうけど、	등대지기
		265	저 아득하게 먼 <u>앞쪽에 도시의 하늘</u> 처럼 거뭇거뭇한 건물들이 보이기 시작한다.	229	あのはるか前方の <u>空</u> の下に、都市のように点々と黒い建物が見えはじめる。	바리테기

	「N ₁ 의N ₂ 」 翻訳 (K→J)의 翻訳形式	ページ	韓国語の原作	ページ	日本語の翻訳	文学作品
4	内容省略	172	그래야 내가 안심하고 너와 태아의 건강을 돌볼 수 있을 것 같으니까.	142	じゃないとあたしが安心できないの。	국화꽃 향기
		32	그러는 동안 어머니의 왼쪽 눈동자는 이미 하얗게 바래어져 있었고, 왼쪽 눈으로는 아무것도 볼 수 없게 되었다.	29	そうこうしているうちに瞳は白く脱色してしまい、左目では何も見えなくなっていました。	아홉살 인생
		284	너무 짧은 감을 먹으면 그것은 아픔의 맛으로 느껴지듯이 <u>혜완의 몸</u> 에서 힘이 쭉 빠져나가면서 떨리기 시작했다.	293	カキもあまり渋ければ食べるのが苦痛というものだ。その苦痛の晩のためにずっと力がぬけ体が震え始めた。	무소의 뿔
		178	한 잔의 술이 더 <u>그의 입</u> 으로 들어갔다.	193	もう一杯酒を流し込んだ。	아랑은 왜
		160	아내는 기계이 자신의 몸을 던져 아버지 인생의 나머지 절반을 채워주었다.	148	妻は父のために、喜んで自分を犠牲にしてきた。	세상에서
		136	그러나 머뭇거리는 <u>그의 태도</u> 로 보아 할 말은 아직 남아 있었다.	140	しかし、もじもじしているのを見ると、まだ言いたいことがありそうだった。	어머니
		16	사람들을 피해 들어온 외딴섬의 고요함도 오히려 재우를 옥죄는 <u>그리움의 울가미</u> 에 불과했다.	15	人々を避けてやってきた離れ小島の静けさも、むしろ恋しさを募らせる異に過ぎなかった。	등대지기
		131	내가 굽어보며 물으니 칠성이는 <u>만음의 말</u> 도 없이 꼬리만 천천히 저어 보였다.	106	私か屈みながら尋ねると、チルソンは尻尾だけをゆっくりと振ってみせた。	바리데기
5	動詞	49	정란은 고교 때부터 단짝 친구인 <u>미주의 권유</u> 에 의해 CDS에 가입하긴 했지만 영화 활동은 정무하고 행사 때만 간혹 나타나는 정도였다.	41	ジョンランは高校のころから親しかったミジュに誘われてCDSに加入したものの、活動はせず、行事があるときだけ顔を出していた。	국화꽃 향기
		114	풍뎡이영감은 어른이나 아이나 할 것 없이 산동네 주민에게 <u>공동의</u> 적인 셈이고, 특히 아이들은 풍뎡이영감이려면 마음껏 저주해도 좋을 대상쯤으로 생각했다.	103	コガネムシじいさんは、大人も子どももひっくるめて「山の町」に共通した敵だったし、とくに子どもたちにとっては気の済むまで呪ってもよい、格好の標的だった。	아홉살 인생
		218	여선생과 혜완과…… 맞선과 오래 전에 만난 <u>친구의 전 부인</u> 과의 연애와…….	223	女の先生とヘワンと……見合いと、昔からの友だちの別れた女房との恋愛…….	무소의 뿔
		38	조선조의 가장 유명한 도둑, <u>임궏정의 출현</u> 도 그의 치세 중이었다.	46	朝鮮王朝を通じて最も有名な盗賊、林巨正が出現したのも彼の治世だった。	아랑은 왜
		177	이튿날 아침, 아버지는 출근하자마자 <u>원장의 호출</u> 을 받았다.	164	翌朝、父は病院に着くとすぐに、院長から呼び出された。	세상에서
		181	<u>정숙의 말</u> 이 아니더라도 포장마차는 목이 좋아야 했다.	185	チョンスクに言われるまでもなく、屋台の商売は立地条件がよくなければならぬ。	어머니
		290	<u>어머니의 물음</u> 에 재우는 대뜸 악을 썼다.	335	母が聞くと、ジェウはすぐに大声を出した。	등대지기
		115	찌우 형부의 친구는 고향이 따렌이었는데 <u>연길의 싸우나</u> 에서 지배인을 하던 <u>첸</u> 이라는 사람이었다.	94	チョウさんの友だちは大連が故郷で、延吉にあるサウナの支配人をしていて、チェンという人だった。	바리데기
6	文의 組み換え	38	아녀자가 <u>지아비의 사랑</u> 을 들킨다면 이렇게 변하나이다.	189	女性というのは、夫からたつぷり愛されると、このように変わる生き物なのです。	국화꽃 향기
		78	점심시간에 교실 뒤편에서 아이들과 놀고 있는데 카랑카랑한 <u>우림의 목소리</u> 가 들렸다.	69	昼休みに、教室の後ろのほうで遊んでいると、ウリムの甲高い声が聞こえてきた。	아홉살 인생
		59	<u>혜완의 어깨</u> 가 잠시 움찔했다.	62	ヘワンはピクリと肩をすくめた。	무소의 뿔
		46	그러나 <u>지금의 우리</u> 는 아랑 이야기에 너무도 익숙한 사람들에게 이 사건을 새롭게 해석한 이야기를 보여주려고 하는게 아닌가.	54	しかし、われわれは今、阿娘の物語によく精通している人びとに、この事件の新解釈を示そうとしているのではないか。	아랑은 왜
		48	차분한 <u>윤 박사의 태도</u> 로 보아 급한 환자 때문에 부른 건 아닌 듯했다.	42	ゾ博士の落ち着いた様子からすると、急患ではないらしい。	세상에서
		68	더구나 아무곳에나 쓰러질 수도 없는 <u>수배자의 처지</u> 가 아니던가.	69	指名手配された身だから、道中倒れるにしても場所を選ばなければならなかった。	어머니
		73	얼기설기 엮어놓은 <u>나뭇가지의 지붕</u> 이 날아가버렸다.	59	雑多な木の枝を組み合わせただけの屋根は吹き飛ばされてしまった。	바리데기

	「N ₁ 의 N ₂ 」 翻訳 (K→J) の翻訳形式	페이지	韓国語の原作	페이지	日本語の翻訳	文学作品
7	名詞+の以外の助詞 +名詞	76	몇 번이나 그녀의 편지를 읽으며 눈물을 흘렸으면서도.	224	何度も彼女からの手紙を読みながら 涙を流したのに、この馬鹿！ まぬ け！	국화꽃 향기
		156	나는 동네 아이들의 싸움박질이 지 긋지긋해졌고	142	じきにぼくは、仲間たちとのケンカ 騒ぎがばからしく思えてきたし	아홉살 인생
		37	더구나 프랑스로 떠난 후 유아무 야 자신의 학업을 잠시 중단하고 그곳에서 한국 사람들의 아이를 보 아주는 일을 하고 있다는 우울한 편지를 받았을 때는 영선이 더 이 상 학업을 계속하지 못하리라는 예 감을 가졌었다.	39	さらに、フランスに留学してから、 うやむやのうちに自分は勉強をやめ て在留韓国人の子供をみるベビー シッターをしているという沈みがち な手紙をもらった時には、ヨンソン はもう勉強を続けられないだろうと いう予感がした。	무소의 뿔
		94	신관들이 묵는 객사와 유기된 사체 의 거리를 가깝게 잡아보니 고목의 위치를 객사 뒤로 잡게 되었을 것 이다.	106	赴任してきたばかりの府使が泊まる 客舎と遺棄された死体との距離をで きるだけ近くに設定しようとして、 古木の位置を客舎の裏にすることに なったのである。	아랑은 왜
		12	그러나 그런 아빠의 소식을 듣기도 전에 은수는 정들었던 집에서 쫓겨 나고 말았다.	12	しかし、父からの報せは届かないま ま、ウンスたちは住み慣れた家から 追い出されてしまった。	어머니
		201	자식의 도리니, 인륜이니...	233	子としての道理だとか、道德だとか。	등대지기
		8	名詞+名詞	38	죽 천지의 음양을 맞추어 입겠다는 뜻이지.	189
184	검은제비의 은퇴에 가장 큰 관심을 기울였던 사람은 물론 기종이었다.			166	黒ツバメ引退のニュースに、まさ きに飛びついたのは言うまでもなく キジョンだった。	아홉살 인생
39	그런 경혜는 자신이 이제껏 맺어 왔던 친구들이나 친지들의 관계에 대해 예민해 했다.			41	これをきっかけに、キョンへはこれ までの自分の友人知人関係には距離 をおくようになった。	무소의 뿔
19	우선 사건의 발생 시기를 명종 조 로 못박은 점.			26	まず、事件發生の時期を明宗代と特 定した点であり、	아랑은 왜
82	그것은 그에게 죽음의 선고였고 하 늘도 거부할 저주의 시작이었다.			83	それはゾンデにとって死刑宣告のよ うなもので、もっとも睨うべきこと だった。	어머니
23	개의 평균 수명에 견준다면 이미 황혼의 시기에 접어든 셈이다.			24	犬の平均寿命に照らし合わせてみる と、すでに黄昏時に入っている。	등대지기
277	생명의 물은 어디 있죠?			240	生命水は、どこなんですか	바리데기
9	형용詞	29	뜻밖의 말에 미주는 잠시 어리둥절 해 했으나 이내 재미있어 하면서도 빈틈없는 미소를 머금었다.	25	意外な質問にミジュは面食らった が、すぐに、面白がりながらも隙の ない微笑みを浮かべた。	국화꽃 향기
		228	적당히 반박하고 대체로 따라주는 고도의 기술이 필요한 것이다.	205	適度に反対意見を挟みつつ大勢では 賛成する、高度な技術が必要な だ。	아홉살 인생
		165	갑자기 들이닥친 혜완에게 여전히 그 미소를 띠며 어서 와, 라고 그 특유의 약간 권 듯한 저음의 목소리로 답할 지도 몰랐다.	170	急にやって来たヘワンに、彼はいつ もの微笑を浮かべて、やあ、とあの 特有の少しかすれたような低い声で あいさつをするかもしれない。	무소의 뿔
		67	절색의 여인, 두 명의 수령. 한 명 의 관노가 줄줄이 죽어나갔다.	77	美しい女人、一人の官奴、二人府使 が相次いで死んでいったのだ。	아랑은 왜

	「N ₁ 의 N ₂ 」 翻訳 (K→J)의 翻訳形式	페이지	韓国語の原作	페이지	日本語の翻訳	文学作品
10	名詞+의+名詞+의 +名詞	90	물론 <u>종로의 보신각</u> 중에도 유사한 전설이 따라다닌다.	102	<u>鐘路의 普信閣의 鐘</u> 에도 비슷한 전설이 있다.	아랑은 왜
		91	그리하여 그 시절 사람들이 에밀레종 소리를 예술지상주의자 아비에 의해 살해된 어린아이의 울음으로 받아들이고, <u>밀양의 북소리</u> 를 억울하게 죽은 한 처녀의 애원으로 들었다 해도 그렇게 무리한 생각은 아닌 것 같다.	102	そう考えれば、エミレの鐘の音を芸術至上主義者の父親によって殺害された幼な子の泣き声と受け取ったように、 <u>密陽の太鼓の音</u> を無念な思いを抱いて死んだ一人の娘の哀願の声と聞いたとしても、あながち根拠のない想像とは言えないだろう。	아랑은 왜
		114	영주는 밥 두 그릇을 깨끗하게 비워버리고 <u>찌개의 바닥</u> 을 긁었다.	127	ヨンジュはご飯を茶碗に二杯きれいに平らげ、 <u>チゲの鍋の底</u> をさらった。	아랑은 왜
		68	그때 아버지가 할머니의 방문을 닫고 거실로 나왔다.	60	そのとき、父が祖母の部屋のドアを開けてリビングに出てきた。	세상에서
		150	그런 상념에 빠져 있는 <u>엄마의 눈가</u> 에 문득 푸르스름한 <u>그늘</u> 이 내려앉았다.	139	そんな思いにふけている母の目のまわりが、青く落ちくぼんでいる。	세상에서
		265	겨우 방문 앞까지 기어온 엄마가 아버지의 바짓가랑이를 잡고 늘어지며 신음처럼 한마디 내뱉었다.	248	ようやくドアのそばまで這ってきた母が、父のズボンの裾をつかみ、へとへとになってうめくようにひとこと言った。	세상에서
		264	재우는 그 옛날 교회 중등부에서 암송했던 <u>전도서의 구절</u> 이 떠올랐다.	306	ジェウはその昔、教会の中等部で暗唱した <u>伝道の書の一節</u> を思い出した。	등대지기
		137	멀리 낯선 <u>나라의 산봉우리</u> 가 보인다.	111	見知らぬ国の山の峰が、はるかに見える。	바리데기

謝辞

本論文の執筆にあたり、多くの方々にご協力とご指導を頂きました。この場をお借りして感謝の言葉を申し上げます。

まず、論文執筆中、数々の励ましのお言葉と綿密なご指導をしてくださった指導教官である深見兼孝先生に最も深い謝意を表します。先生は、私が自信を無くしたときに勇気づけてくださったり、目標を見失ったときに指導をしてくださったり、いつも丁寧に論文を添削して頂きました。先生のサポートと啓発がなければ、この研究を完成することは不可能だったと思います。これまで厳しくも優しいご指導やご鞭撻に心より感謝いたします。

そして、様々なご指導を頂きました、副指導教官と副審査の先生方にも深謝いたします。佐藤暢治先生、黒田則博先生、多和田眞一郎先生、今田良信先生から貴重等バイスやご指導を受けることができたお陰で、本論文の執筆にあたり、大変良い参考になりました。

また、来日当初、副指導教官であった浮田三郎先生、西田正先生からは、研究の方向性や分析の方法等、多くの有益なご指導やコメントを頂きました。感謝の意を表します。

そして、経済的な面で支援して頂きました（公財）八幡記念育英奨学会に心より厚くお礼申し上げます。

ゼミ等を通じて活発な議論にお付き合い頂いて、日常においてもお世話になった李賢正さん、上野美香さん、権城さん、奥田尚甲さん、NinaArtelizさん、張雪梅さん、陳静分さん、包秀敏さん等にも励ましの言葉をいただいたり、悩みの相談を聞いてくれたりと心の支えになってくれました。感謝の気持ちと御礼を申し上げます。

これらの方々のご理解、ご協力を頂きまして、本論文を完成することができました。

留学を通じて、広島大学の理念である「学問は、最高の遊びである」ということが実感できました。これからもこの理念を心に刻み続けたいです。

韓国の実家には父の博士号が一番目につく場所に飾ってあります。それを見ながら私も最高学位を取得したいという気持ちを幼いころから思い、今日に語ります。私が留学を決めたとき、両親は反対していました。それはどれだけ大変な道なりであるかを誰よりも分かっていたからでしょう。博士論文を書き上げたときに、なぜ反対していたか、良くわかりました。しかし、実際経験してみないと分からなかったことだと思えます。

最後に、家族に心から感謝します。いつも温かい励ましを送ってくれたり、悲しみや喜びを共有してくれたり、限り無い応援をしてくれたり、勇気や力をつけてくれたお陰で、本論文を書き上げることができました。本論文を書き終えたことを最も喜んでくれた両親に感謝を込めて本書を捧げます。

2015年2月 林 仙雅